都城市文化財調査報告書　第61集

TSURU HAMI — SITE

鶴喰遺跡

（古墳時代編）

－県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2004年3月

宮崎県都城市教育委員会

遺　跡　遠　景

D地区古墳遺構全景

序　文

本書は、「横市地区県営ほ場整備事業」に伴い、受託事業として都城市教育委員会が発掘調査を実施した鶴喰遺跡（古墳時代編）の調査報告書です。

都城市では横市地区県営ほ場整備事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査が平成８年度から継続的に実施されており、国内最古級の水田跡が確認された坂元A遺跡、鎌倉時代の大規模な館跡が見つかった加治屋B遺跡など、多くの貴重な成果が報告されています。

鶴喰遺跡は平成８・９年度に調査を行い、古墳時代のカマドを伴う住居跡群や中世の建物群、中世水田跡が見つかっており、貴重な歴史情報を提供してくれました。

本書の刊行が都城市の文化財に対する理解と認識が高まるとともに、今後の学術研究の発展にわずかでも寄与できれば幸いです。

本遺跡の発掘調査に従事していただいた市民の皆様や周辺住民の皆様をはじめ、関係各機関等の方々には多大なご理解・ご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

平成16(2004)年３月

都城市教育委員会
教育長　北 村 秀 秋

例　言

1　本書は県営担い手育成基盤整備事業横市地区［横市地区ほ場整備事業］に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は都城市教育委員会が主体となり、A・B・D 区を同市文化課主事米澤英昭、C 区を同課主査（現 副主幹）矢部喜多夫が担当し、全体を同課嘱託下田代清海が補助した。

3　現場における調査は平成８年10月１日から平成９年11月30日にかけて実施した。

4　遺構実測図・土層断面図の作成は矢部・米澤・下田代が中心になって行い、阿久根敏江・吉村則子・吉村洋平・久留保・中原貞良・坂元トミ子・大盛祐子・野口虎男・浜田寛・立山君子・鴇芳明・鴇加代・原田亜紀子（山口大学:現都城市文化課嘱託職員）らの協力を得た。また遺構分布図の作成にはコンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム“SITE”を使用した。遺構の製図については、下田代・米澤で行った。

5　本書に関する遺物の実測は米澤・池谷香代子・雁野あつ子・水光弘子・奥登根子・谷口和代・伊鹿倉康子が行い、製図は米澤・下田代が行った。

6　本書に関する遺構・遺物の写真撮影は米澤・下田代が行った。又、遺構の空中写真撮影は㈱スカイサーベイに委託した。

7　使用した基準方位は磁北であり、レベルは海抜絶対高である。

8　本書の執筆・編集は米澤が行った。

9　調査・本書の執筆にあたり、柳沢一男氏（宮崎大学）、山本信夫氏（山本考古研究所）、重永卓爾氏（都城市立図書館都城市史編さん）、能登健氏（財団法人群馬県埋蔵文化財事業団）、中村直子氏（鹿児島大学）、谷口武範氏（宮崎県埋蔵文化財センター）、永山修一氏（ラ・サール学園）、矢部喜多夫氏・桒畑光博氏・横山哲英氏・下田代清海氏・原田亜紀子氏（以上、都城市教育委員会）、大盛祐子氏のご教示をいただいた。

10　本書に関する遺物・記録類（写真・図面等）は都城市教育委員会文化課が収蔵・保管している。

11　本書では、下記の略号を用いている。
ＳＡ＝竪穴住居
ＳＤ＝溝状遺構
ＳＮ＝カマド状遺構

目　次

巻頭口絵　遺跡遠景
　　竪穴住居跡群（Ｄ地区）
例言
目次
Ⅰ　序説……1
　1　調査の経緯……1
　2　調査体制……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境……2
Ⅲ　調査の記録……4
　1　調査の概要……4
　2　遺跡の層序……4
　3　調査の成果……6
Ⅳ　まとめ……92

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図……2
第２図　調査対象区域図……3
第３図　基本土層柱状図及び土層写真……4
第４図　遺構配置図……5
第５図　土層断面図……7
第６図　ＳＡ０１実測図……9
第７図　ＳＡ０１付設カマド（ＳＮ０１）実測図……10
第８図　ＳＡ０１内出土遺物実測図（１）……11
第９図　ＳＡ０１内出土遺物実測図（２）……12
第10図　ＳＡ０２・０３・０４実測図……13
第11図　ＳＡ０２・０３内出土遺物実測図……14
第12図　ＳＡ０５実測図……15
第13図　ＳＡ０６実測図……16
第14図　ＳＡ０７・０８実測図……17
第15図　ＳＮ０７実測図……18
第16図　ＳＡ０５・０６・０７・０８内出土遺物実測図……19
第17図　ＳＡ０９・１０実測図……20
第18図　ＳＡ１１実測図……21
第19図　ＳＡ１１付設カマド（ＳＮ１１）実測図……21
第20図　ＳＡ０９・１０・１１内出土遺物実測図……22
第21図　ＳＡ１２・１３・１４実測図……23
第22図　ＳＡ１５実測図……24
第23図　ＳＡ１６実測図……25
第24図　ＳＡ１２・１３・１４・１５・１６内出土遺物実測図……26
第25図　ＳＡ１７・１８実測図……27
第26図　ＳＡ１８付設カマド（ＳＮ１８）実測図……27
第27図　ＳＡ１８内出土遺物実測図……28
第28図　ＳＡ１９実測図……29

第29図　ＳＡ１９付設カマド（ＳＮ１９）実測図…… 29
第30図　ＳＡ１９内出土遺物実測図…… 30
第31図　ＳＡ２０実測図…… 31
第32図　ＳＡ２０付設カマド（ＳＮ２０）実測図…… 31
第33図　ＳＡ２０内出土遺物実測図（１）…… 32
第34図　ＳＡ２０内出土遺物実測図（２）…… 33
第35図　ＳＡ２１実測図…… 34
第36図　ＳＡ２１付設カマド（ＳＮ２１）実測図…… 34
第37図　ＳＡ２１内出土遺物実測図…… 35
第38図　ＳＡ２２・２３実測図…… 36
第39図　ＳＡ２３内出土遺物実測図…… 36
第40図　ＳＡ２２・２３付設カマド（ＳＮ２２・２３）実測図 …… 37
第41図　ＳＡ２２内出土遺物実測図…… 38
第42図　ＳＡ２４・２５実測図…… 39
第43図　ＳＡ２４付設カマド（ＳＮ２４）実測図…… 40
第44図　ＳＡ２５内出土遺物実測図…… 40
第45図　ＳＡ２４内出土遺物実測図…… 41
第46図　ＳＡ２６・２７実測図…… 42
第47図　ＳＡ２６付設カマド（ＳＮ２６）実測図…… 42
第48図　ＳＡ２８・３７実測図…… 44
第49図　ＳＡ２９・３５実測図…… 45
第50図　ＳＡ２６・２７・３５・３７内出土遺物実測図…… 46
第51図　ＳＡ３０実測図…… 47
第52図　ＳＡ３０付設カマド（ＳＮ３０）実測図…… 47
第53図　ＳＡ３１・３８実測図…… 48
第54図　ＳＡ３２実測図…… 49
第55図　ＳＡ３３・３４実測図…… 50
第56図　ＳＡ３４付設カマド（ＳＮ３４）実測図…… 51
第57図　ＳＡ３６実測図…… 52
第58図　ＳＡ３６内埋設土器（甑）実測図…… 52
第59図　ＳＡ３０・３２・３４・３６・３８内出土遺物実測図 …… 53
第60図　ＳＡ３９～４４実測図…… 54
第61図　ＳＡ３９～４４付設カマド（ＳＮ４０・４２）実測図…… 55
第62図　ＳＡ３９～４４内出土遺物実測図（１）…… 56
第63図　ＳＡ３９～４４内出土遺物実測図（２）…… 57
第64図　ＳＡ４５～４７実測図…… 58
第65図　ＳＡ４６付設カマド（ＳＮ４６）実測図…… 59
第66図　ＳＡ４５～４７内出土遺物実測図…… 60
第67図　ＳＡ４８～５１実測図…… 62
第68図　ＳＡ４８～５１内出土遺物実測図（１）…… 63
第69図　ＳＡ４９付設カマド（ＳＮ４９）実測図…… 63
第70図　ＳＡ４８～５１内出土遺物実測図（２）…… 64
第71図　ＳＡ５２・５３実測図…… 65
第72図　ＳＡ５２・５３付設カマド（ＳＮ５２・５３）実測図 …… 66
第73図　ＳＡ５２・５３内出土遺物実測図…… 67
第74図　ＳＡ５４実測図…… 68

第75図　ＳＡ５４付設カマド（ＳＮ５４）実測図…… 68
第76図　ＳＡ５５・６３実測図…… 69
第77図　ＳＡ５６・５７実測図…… 70
第78図　ＳＡ５６付設カマド（ＳＮ５６）実測図…… 71
第79図　ＳＡ５７付設カマド（ＳＮ５７）実測図…… 72
第80図　ＳＡ５４・５５・５６・５７内出土遺物実測図…… 73
第81図　ＳＡ５８実測図…… 75
第82図　ＳＡ５８付設カマド（ＳＮ５８）実測図…… 75
第83図　ＳＡ５９実測図…… 76
第84図　ＳＡ６０・６１実測図…… 77
第85図　ＳＡ６０埋設土器実測図…… 77
第86図　ＳＡ６２実測図…… 78
第87図　ＳＡ６２付設カマド（ＳＮ６２）実測図…… 78
第88図　ＳＡ６０・６２内出土遺物実測図…… 79
第89図　ＳＡ６４・６７実測図…… 80
第90図　ＳＡ６５・６６実測図…… 81
第91図　包含層内出土遺物実測図（１）…… 82
第92図　包含層内出土遺物実測図（２）…… 83
第93図　包含層内出土遺物実測図（３）…… 84

表　目　次

第１表　出土遺物観察表（１）…… 85
第２表　出土遺物観察表（２）…… 86
第３表　出土遺物観察表（３）…… 87
第４表　出土遺物観察表（４）…… 88
第５表　出土遺物観察表（５）…… 89
第６表　出土遺物観察表（６）…… 90
第７表　出土遺物観察表（７）…… 91
第８表　古墳住居データ一覧 …… 93
第９表　出土遺物対照表 …… 94

図　版　目　次

図版１…… 100
図版２…… 101
図版３…… 102
図版４…… 103
図版５…… 104
図版６…… 105
図版７…… 106
図版８…… 107
図版９…… 108
図版10…… 109

Ⅰ 序 説

1 調査の経緯

平成６年度に、宮崎県北諸県農林振興局より宮崎県文化課へ都城市横市町の平成８年度県営ほ場整備事業工事対象区域における埋蔵文化財の有無の照会がなされた。そこで、宮崎県文化課では、遺跡の状態をより具体的に把握するために、工事予定地内に２m×２mのトレンチを18ヶ所設け、試掘調査を実施した。その結果、遺物包含層が良好に残存しており、弥生～中世の遺物が多数検出された。これにもとづき、宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県土地改良連合、宮崎県文化課、都城市の間で協議した結果、破壊を受ける工事予定地北側の高台の一部7,400㎡を記録保存のための発掘調査を実施することとなり、そのうち3,100㎡を平成８年度に、4,300㎡を平成９年度に行うことで合意に至った。これにより、発掘調査を行う都城市と宮崎県北諸県農林振興局との間において、平成８年９月27日、「平成８・９年度横市地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」が、同９月30日には両者間において平成８年度発掘調査に伴う委託契約が締結された。

平成９年度においては、「平成８・９年度横市地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」をもとに、工事変更に伴う調査増加分700㎡を加え調査面積5,000㎡として変更協定を結び、同４月１日付で両者間において委託契約が取り交わされた。

現場における発掘調査は平成８年10月１日から平成９年３月25日、平成９年４月３日から11月30日まで行い、引き続き遺物の整理作業を行った。

2 調査体制

調査は都城市教育委員会が実施し、経費運用は同市教育委員会文化課が行った。調査組織は以下のとおりである。

〔調査責任者〕	都城市教育長	隈 元 幸 美	（～平成11年度）
		北 村 秀 秋	（平成14年度～）
〔調査総括〕	都城市文化課長	遠 矢 昭 夫	（～平成10年度）
		井 尻 賢 治	（平成14年度～）
〔調査事務局〕	同文化課長補佐	綿 田 秋 嗣	（～平成10年度）
		坂 元 昭 夫	（平成13年度～）
	同文化財係長	中 村 久 司	（～平成９年度）
		松 下 述 之	（平成14年度～）
〔調査員〕	同主査	矢 部 喜多夫	（平成８年度調査・平成15年度より副主幹）
	同主事	米 澤 英 昭	（平成８・９年度調査）
	同嘱託	下田代 清 海	（平成８・９年度調査）

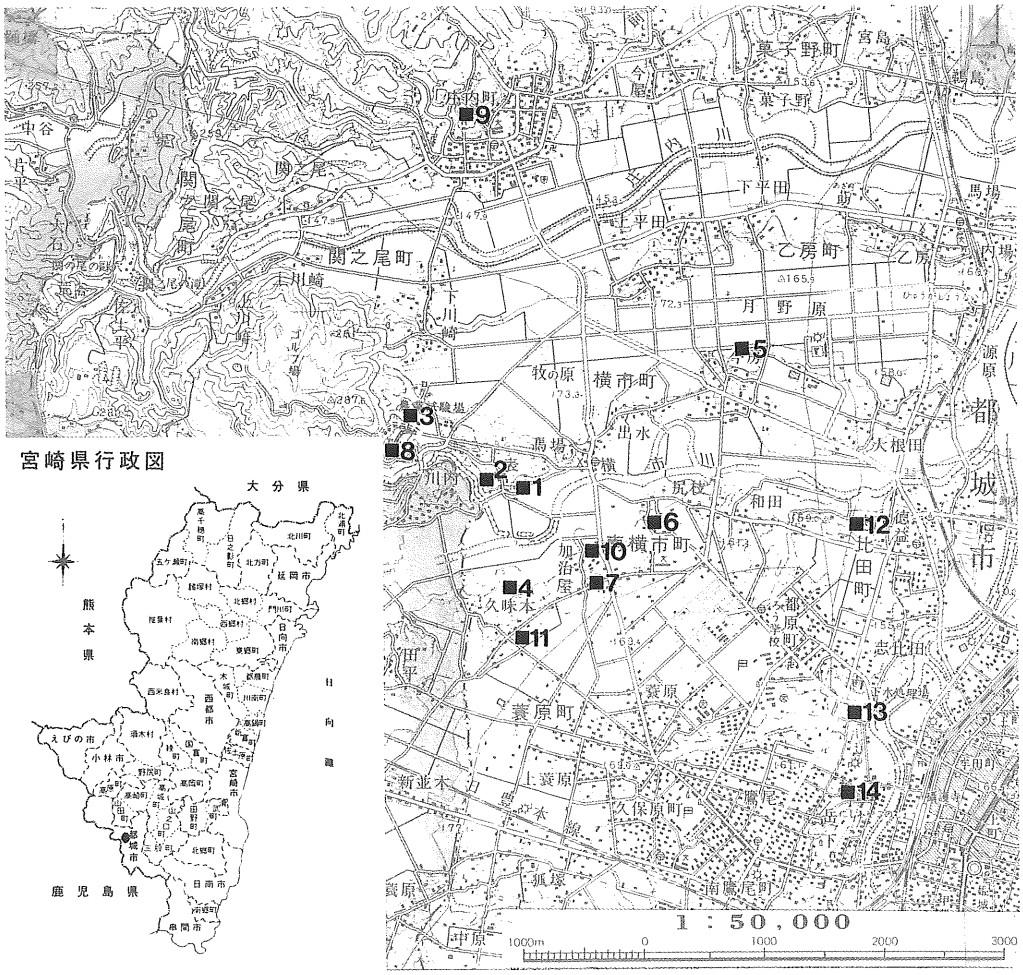
〔発掘作業員〕 久留 保　阿久根敏江　吉村 則子　坂元トミ子　山下 健一　堀 登
児玉 時春　白谷 義治　吉永美登志　吉永 サダ　新宮タケ子　岡元トシエ
山中 マリ　上宮田ミチ　来住タケ子　谷山トミ子　丸目美知子　鴇 松雄
鴇 芳明　曽原 主吉　荒ヶ田安夫　松原ヨシ子　有水 トミ　荒ヶ田エダ
今村まさ子　鴇 加代　吉村 洋平　原田亜紀子　東前 利雄　東 春雄
野口 虎男　浜田 寛　中原 貞良　立山 君子　大盛 祐子　藤田 和子

〔整理作業員〕 池谷香代子　雁野あつ子　水光 弘子　奥 登根子　谷口 和代　伊鹿倉康子

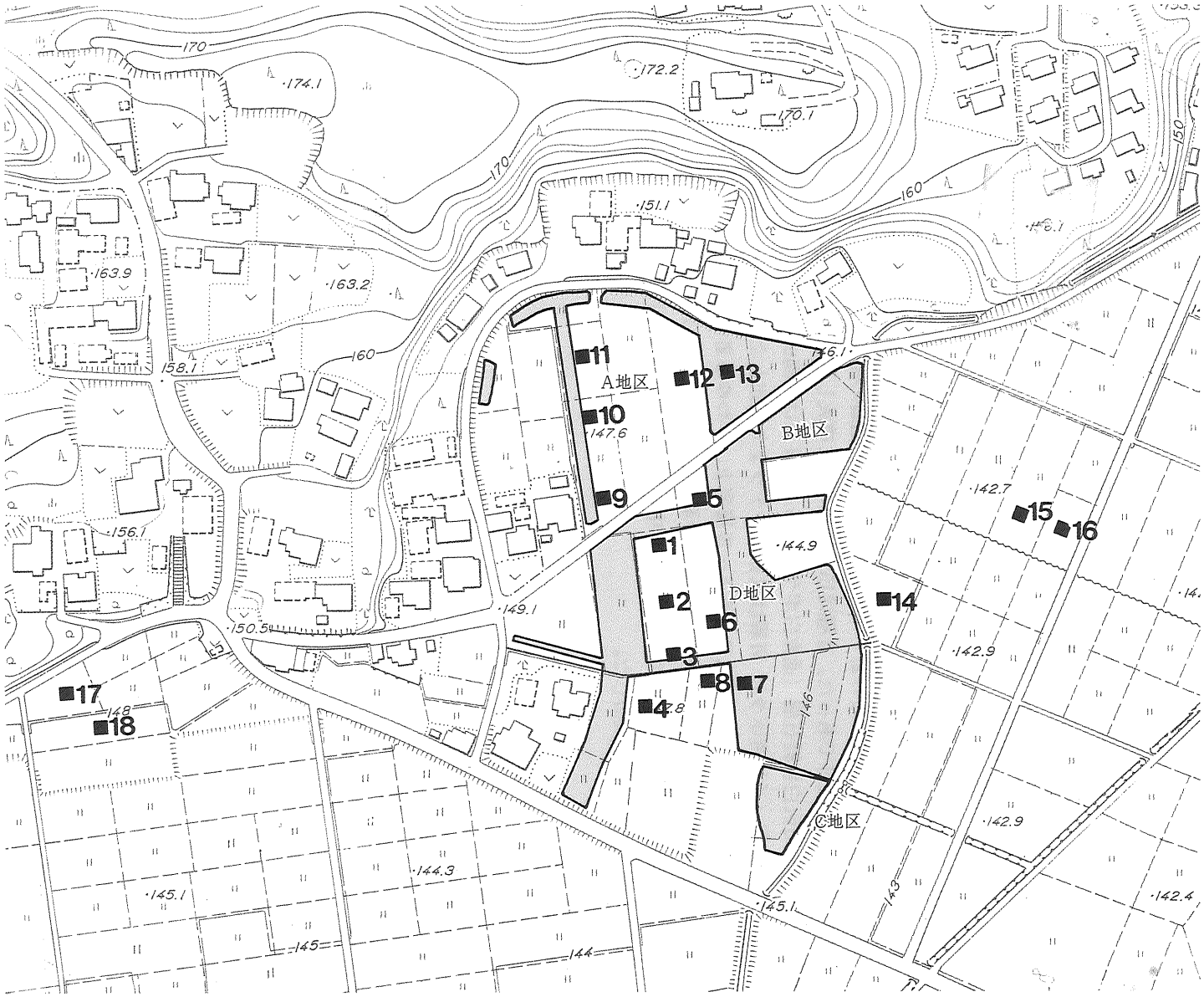
Ⅱ　遺跡の位置と環境

鶴喰遺跡は、都城市横市町字鶴喰に所在する。南を東流する大淀川の支流・横市川の左岸奥部、月野原台地南端部にあり、せり出してきた同台地が横市川の流路変動に伴い、浸食作用によって湾曲させられた河岸段丘上に位置している。ほ場整備事業に端を発するものが多いものの、横市川流域には数多くの遺跡が散在しており、当地の歴史的・地理的重要性を示唆しているようである。各々を挙げれば、上流から、古代住居跡が確認された馬渡遺跡、同じく古代の遺跡である中尾遺跡、市民広場建設に伴い調査を行った、縄文・古代の遺跡が特徴的な中尾山･馬渡遺跡、中世の城である新宮城跡、中世水田を検出した谷合地の遺跡である母智丘谷遺跡、弥生後期の集落・坂元Ｂ遺跡、縄文から近世までの水田を面的におうことができ、注目を浴びた坂元Ａ遺跡、弥生中期を主体とする集落跡や夥しい中世建物群が確認された加治屋Ａ･Ｂ遺跡、縄文晩期住居や古代建物群･水田跡を検出した肱穴遺跡、弥生中～後期の集落跡であった今房遺跡、横市川と大淀川の合流点付近に位置し、縄文・中世の遺構・遺物が数多く出土した正坂原遺跡などである。

1.鶴喰遺跡　2.新宮城跡　3.母智丘原第2遺跡　4.中尾山･馬渡遺跡　5.月野原第2遺跡
6.田谷･尻枝遺跡　7.加治屋遺跡　8.母智丘原第1遺跡　9.安永城跡　10.骨蔵器出土地
11.池原遺跡　12.正坂原遺跡　13.ニタ元遺跡　14.都城古墳



第１図　遺跡位置図



第２図　調査対象区域図

「数字は試掘トレンチ番号」

Ⅲ　調査の記録

1　調査の概要

発掘調査は削平部分・排水路敷設部分及び道路敷設部分の計8,100㎡について実施した。工事切盛の関係上第２図のようなかたちとなった。

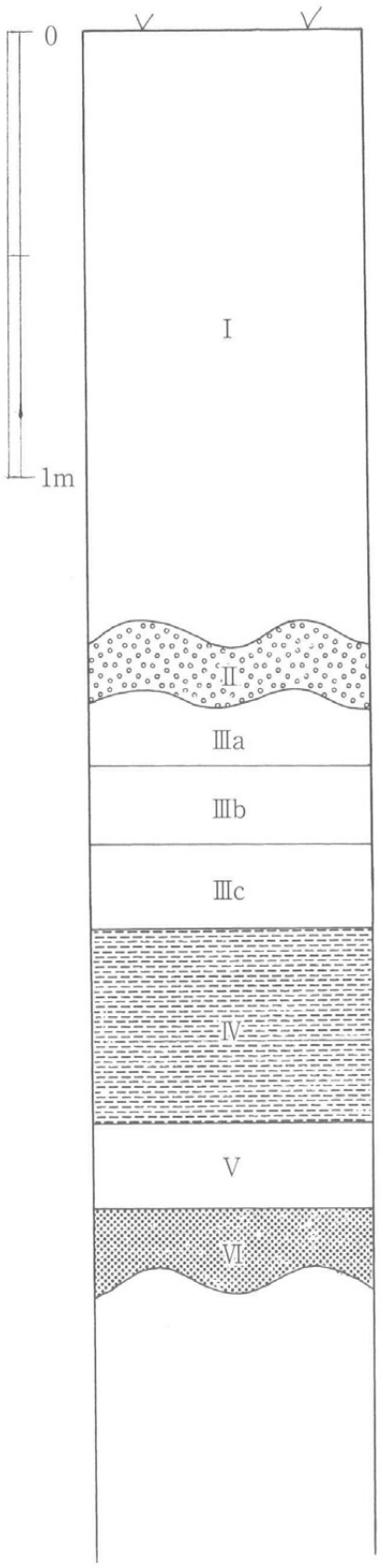
試掘調査において確認された遺物包含層は、調査区内ほぼ全域に平均10～15cmほどの堆積をみせる文明年間噴出とされる桜島起源軽石層（Ⅱ層）の直下にあるため、調査は、まずその直上まで重機による表土剥ぎを行い、以下の遺物包含層を手作業で掘り下げていき、Ⅱ層：文明軽石層直下で中世水田跡を、Ⅲａ層直下で中世建物群を、包含層下の霧島起源黄色軽石層上で古墳時代の竪穴住居跡群を検出した。

調査区は便宜上Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４区に分けた。各々から縄文～中世の遺物・遺構が確認された。

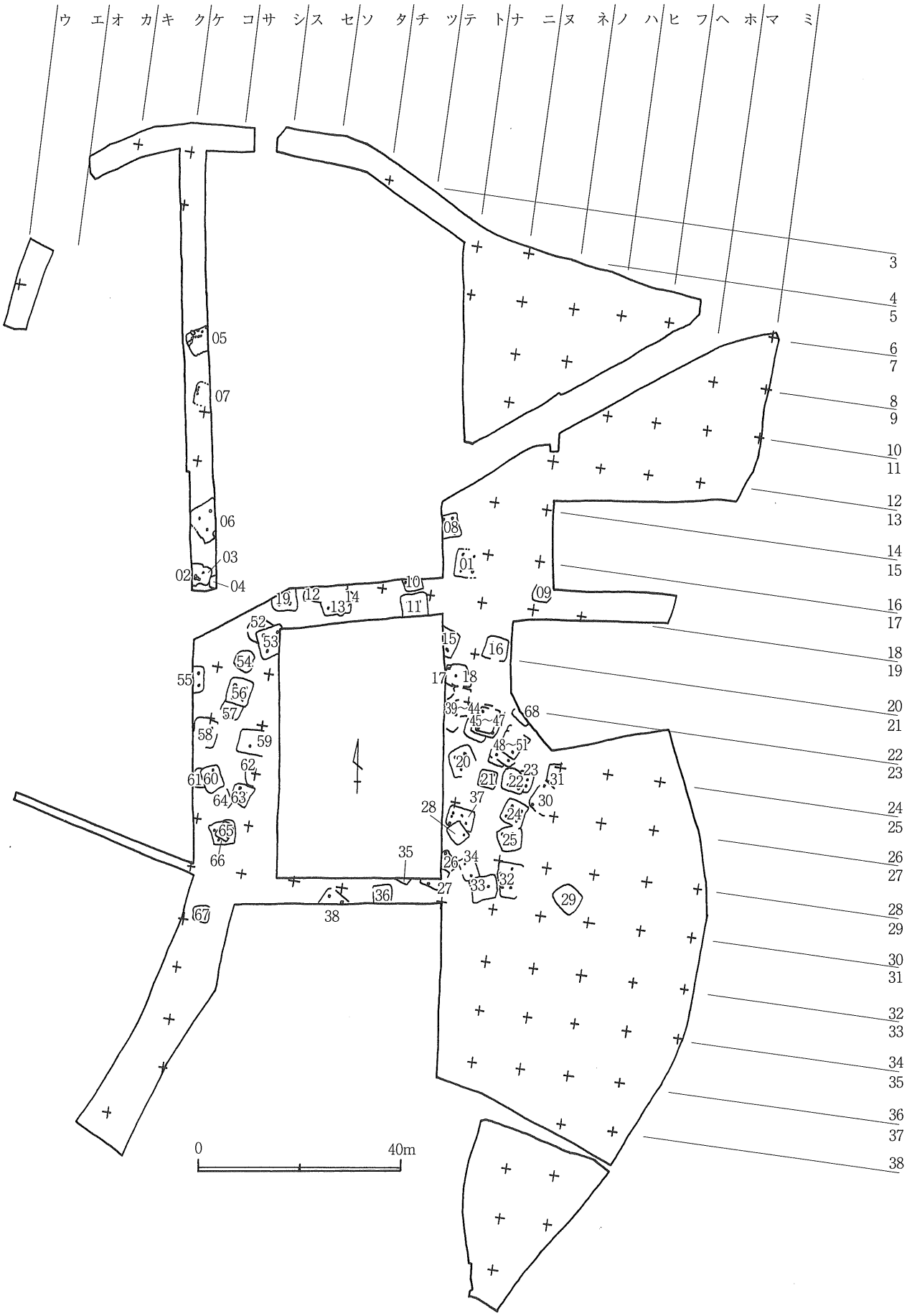
2　遺跡の層序

大正・昭和における耕地整理のため若干の撹乱がみえたが、遺跡の所在するⅡ層以下の状況は比較的良好であった。Ⅱ層は15世紀後半頃に噴火した桜島より降下したとみられる灰白色軽石層（通称白ボラ）である。Ⅳ層は霧島山系御池より噴出した火山灰（通称黄ボラ）、Ⅵ層は鬼界カルデラより噴出した火山灰（通称アカホヤ）である。当遺跡ではⅡ層直下～Ⅳ層直上、いわゆるⅢ層全般が遺物包含層である。主に縄文晩期～中近世までの遺物を確認した。また、遺構に関してはⅡ層直下より水田跡、Ⅲａ層直下より中世建物群、Ⅲｃ層直下より古墳時代の竪穴住居跡群を検出した。

Ⅰ　層：灰褐色弱粘質土層
Ⅱ　層：文明軽石層（白ボラ）
Ⅲａ層：黒褐色弱粘質土層
Ⅲｂ層：暗黒褐色粘質土層（やや硬め）
Ⅲｃ層：黒色粘質土層
Ⅳ　層：御池軽石層（黄ボラ）
Ⅴ　層：黒色粘質土層
Ⅵ　層：アカホヤ層



第３図　基本土層柱状図及び土層写真



第４図　遺構配置図

3　調査の成果

《調査の経緯》

調査は上から、中世水田跡、中世遺構群、古墳住居跡群と重複していたこともあって、中世水田、中世遺構群の調査終了後に古墳住居跡群に着手した。包含層掘り下げは重機・人力にて行い、以下、遺構検出、遺構の調査については、全て手作業で行った。

A地区は調査区の北側にあたり、面積約2,000㎡で主に道路・排水路敷設部分に相当する。ここでは試掘調査の結果にもとづき、まずⅡ層（文明降下軽石層）直上まで重機によって掘削したところ、15世紀後半に埋没したと思われる水田跡を確認した。Ⅱ層を除去し、水田跡を検出した後、以下の遺物包含層（Ⅲ層）を掘り下げた。中世面では、主に柱穴群・溝状遺構を、古墳面では、竪穴住居跡６軒、カマド状遺構を検出した。

Ｂ地区とＣ地区に挟まれたＤ地区は、約5,000㎡と本遺跡で最も調査面積が大きい。ここからは古墳の集落、中世の建物群、水田跡、畝状遺構などが見つかり、また各々に付随する遺物も数多く出土している。特に中世土師器の総数に占める割合は大きい。当地区からは中世遺構直下、Ⅲｃ層で古墳時代の遺跡を確認した。検出面は霧島山系御池起源の軽石層（Ⅳ層）上である。ここから竪穴住居跡（ＳＡ）62軒が確認され、他区で確認しているものと合わせると68軒となるが、そのうちの28軒からカマドの付設、またはその存在を示す状況が確認された。住居は１辺３～６ｍの方形プランで、カマドは北壁沿いに設けられたものが多い。住居内に壁帯溝が造られているものや、床面に張床を残しているものもある。

古墳時代の遺物はⅢｃ層から出土しているが、そのほとんどは遺構（竪穴住居跡）内であり、土師器・須恵器・鉄製品・銅製品である。

土師器はほとんどの竪穴住居跡内から出土しており、器種は甕・鉢・壷・甑・坏などである。整形状況は比較的粗雑なものが多く、接合痕が明瞭であり、なかには外器面にミガキが加えられているものもある。甕は、平底で脚台状を呈し、若干くびれ、口縁にむけて真っ直ぐに立ち上がる形状のものや、壷形に近く、口縁下でくびれ、肩部が大きく張り出すタイプがある。口縁下に突帯、絡縄突帯を１条付する。鉢形は平底で、脚台状を呈し、若干くびれ、口縁にむけて真っ直ぐに立ち上がる形状だが、甕より体部の高さがあまりなく、突帯は付されない。甑形は２タイプある。１つは単口で把手二耳をもつもの、もう１つは同じく単口であるが耳は付されておらず、底部の内器面には２つ向かい合って穴が開けられ、もしくは穿たれているものである。後者には突帯が付されているものもある。坏は身・蓋ともにミガキがみられるものが多い。

須恵器は竪穴住居跡内から土師器と共伴して出土している。器種は高坏・甕・瓶・坏・蓋などである。高坏はＳＡ11付設カマド直上から出土した。口径約11cm、器高約８cmを測り、坏部底位に２条の稜をもつ。甕は口縁部などが見つかっている。ＳＡ37からは提瓶が出土した。坏身は蓋受けが付くタイプが主体である。蓋についても身受けのないものが主流であるが、小片ながら身受けのあるものも確認している。身・蓋ともに工具によるナデ調整が主流である。

金属製品は馬鐸・耳環・鎌状鉄器などである。馬鐸がＳＡ37から出土し、青銅製で長径約15cm、弧状下底径約10cmを測る。片面（表）には珠文が施され、もう片面（裏）には文様が認められない。使用痕のみえる紐は板状である。内部に舌は遺存していなかった。耳環はＳＡ47出土土師器甕内において確認された。最大径1.8cmほどの塗金されたものである。

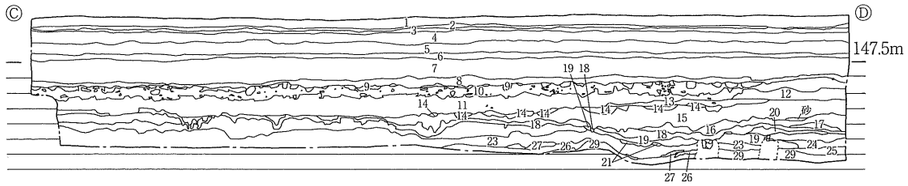
《遺構》

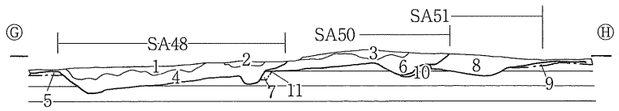
【１号竪穴住居跡（ＳＡ01：第６～９図）】

ＳＡ01はＢ地区とＤ地区との境目、ニ－16～17区に位置し、北壁沿いほぼ中央にカマドが付設されている。住居跡はＮ－Ｓ5.5m、Ｅ－W4.8mを測る方形プランである。検出面からの最深度は約70cm。北壁に設けられたカマドは西側半分のみ検出（東側は既に削平）したが、灰褐色粘質土によって長方形状に形作られていたようである。カマド内中央部には燃焼部（赤褐色砂質土）があり、その後方にかけ口で土器を支えるための面取りがなされた軽石製の支脚が立っていた。

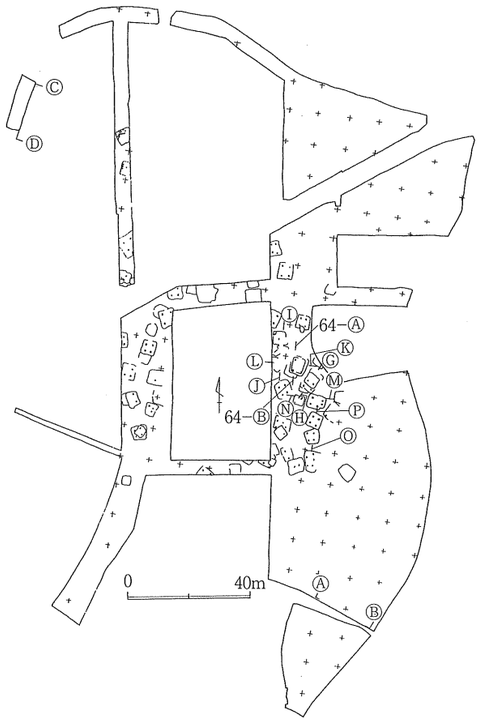
１は底部が欠損しているが、甕と思われる。突帯が１条付される。口径29.4cm。内外ともに接合痕が明瞭。外器面は工具によるナデ調整。２は甕である。口縁直下がくびれ、肩部が大きく張り出す。その肩部には突帯

1 黒褐色弱粘質土　2 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　3 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む褐色粘質土　4 オレンジパミス・白色パミス・軽石をまんべんなく含む暗褐色粘質土　5 オレンジパミス・白色パミスをわずかに含む明褐色粘質土　6 白色パミスをまんべんなく含む明褐色粘質土（硬）　7 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土（硬）　8 白色パミスを多量に含む暗赤褐色粘質土　9 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土ブロック　10 文明軽石　11 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　12 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　13 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土　14 パミス（オレンジ?）　15 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　16 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色粘質土　17 暗赤褐色粘質土　18 オレンジパミス混赤色質粘土　19 オレンジパミス混灰褐色弱粘質土　20 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　21 灰褐色粘質土混ボラ　22 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質シルト　23 灰褐色粘質土　24 赤褐色粘質土　25 砂礫（小粒）　26 灰褐色砂　27 大粒オレンジパミス混砂　28 灰色粘質土混灰色砂　29 暗灰褐色粘質土

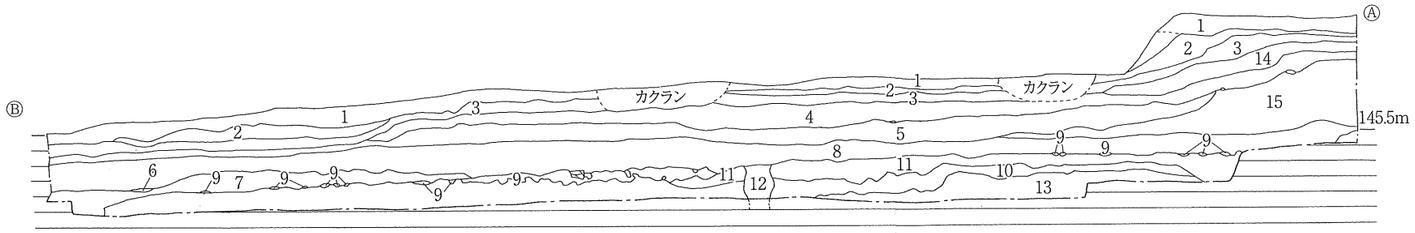




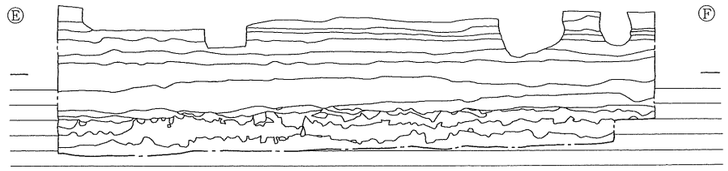
1 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土　2 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土　3 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土　4 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土　5 黒色土とオレンジパミスの混層　6 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色土　7 オレンジパミスをわずかに含む黒色粘質シルト　8 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　9 黒色土とオレンジパミスの混層　10 オレンジパミス　11 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土（硬）



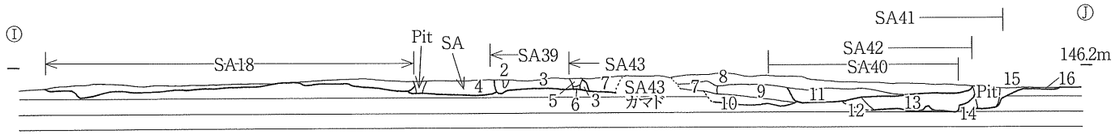
第５図　土層断面図



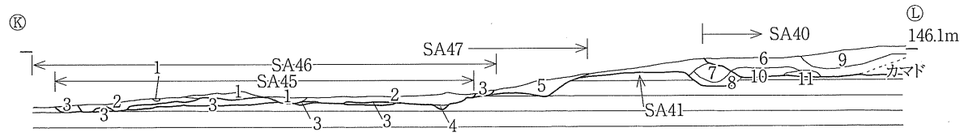
1 表土（Ⅰa）　2 灰褐色弱粘質土（Ⅰb）　3 暗褐色砂質土（Ⅰc）　4 白色パミスをわずかに含む褐色砂質土（Ⅰd）　5 白色パミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土（Ⅰe）　6 砂　7 褐色砂質土（Ⅰf）　8 白色パミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土　9 文明軽石（白ボラ：Ⅱ）　10 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土（Ⅲa）　11 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土（Ⅲb）　12 中世ピット　13 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土（Ⅲc）　14 明褐色砂質土　15 白色パミスをわずかに含む黒褐色砂質土



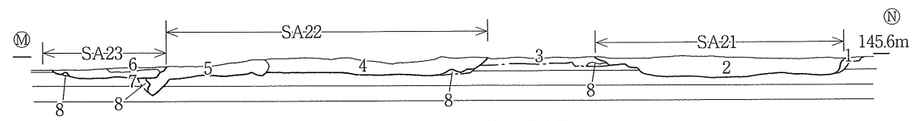
0　2m



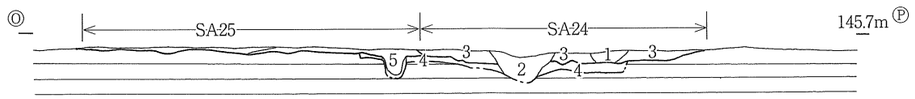
1 オレンジパミスを多量に含む黒褐色弱粘質土（SA18）　2 灰褐色砂質土　3 オレンジパミスを多量に含む暗黒褐色弱粘質土（SA39）　4 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土　5 褐色粘質土　6 灰褐色砂質土　7 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土　8 オレンジパミスを多量に含む褐色弱粘質土　9 オレンジパミスをまんべんなく含む明灰褐色砂質土　10 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土（SA41）　11 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色弱粘質土（SA40）　12 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土　13 オレンジパミスを多量に含む黒褐色砂質土（SA42）　14 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土　15 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土　16 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土



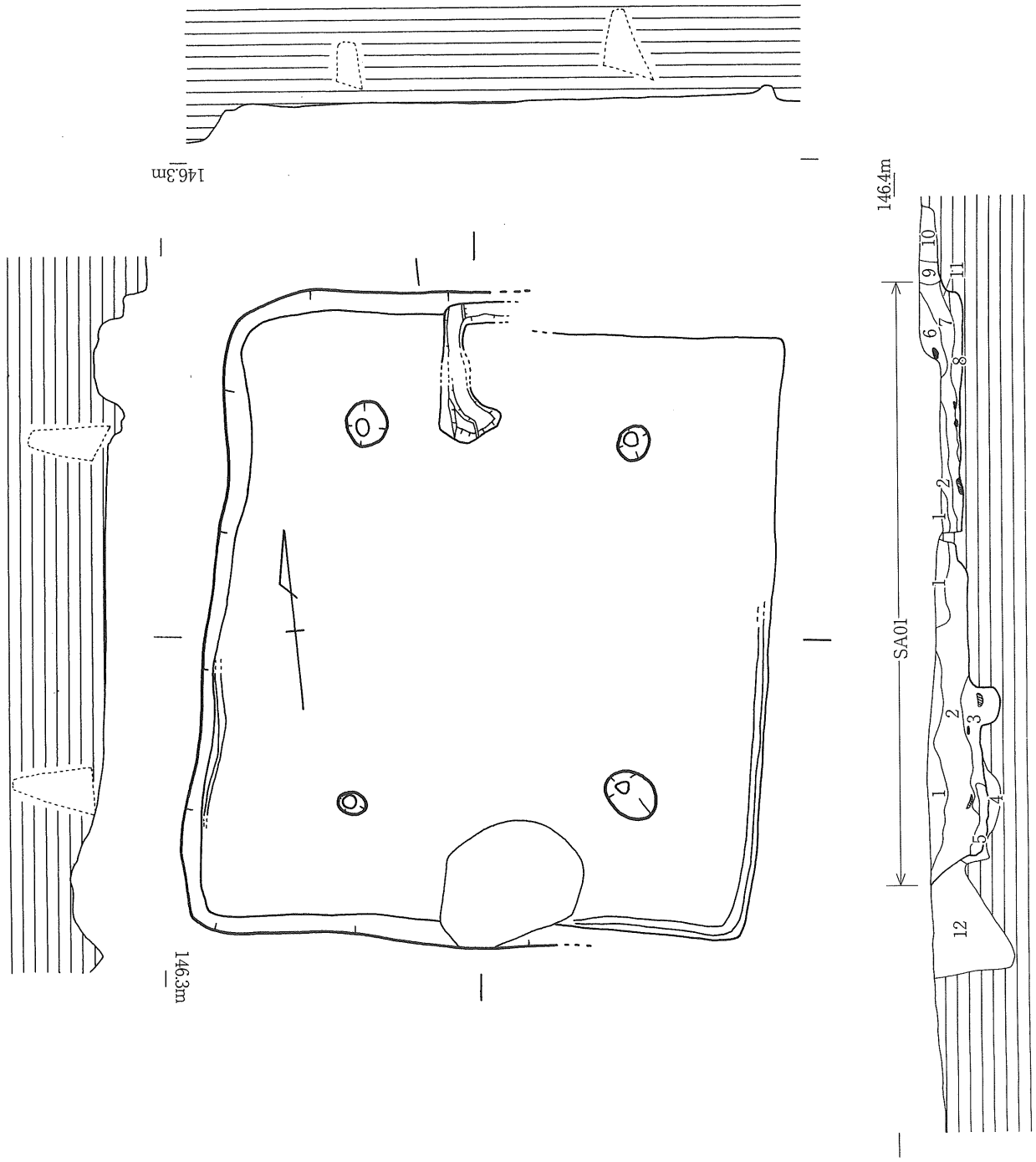
1 灰白色粘質土（SA45のカマド）　2 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土（硬：SA47）　3 オレンジパミスをわずかに含む黒色弱粘質土（SA46）　4 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土　5 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土（SA47）　6 オレンジパミスをまんべんなく含む明褐色弱粘質土（SA40）　7 オレンジパミスをまんべんなく含む明灰褐色弱粘質土　8 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土（SA41）　9 オレンジパミスをまんべんなく含む褐色粘質土　10 オレンジパミスを多量に含む暗褐色弱粘質土（SA40）　11 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色粘質土（SA40）



1 黒色土+オレンジパミス　2 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土（SA21）　3 オレンジパミスをわずかに含む黒色弱粘質土　4 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土（SA22）　5 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土　6 灰白色砂質土（SA23のカマド）　7 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　8 オレンジパミス



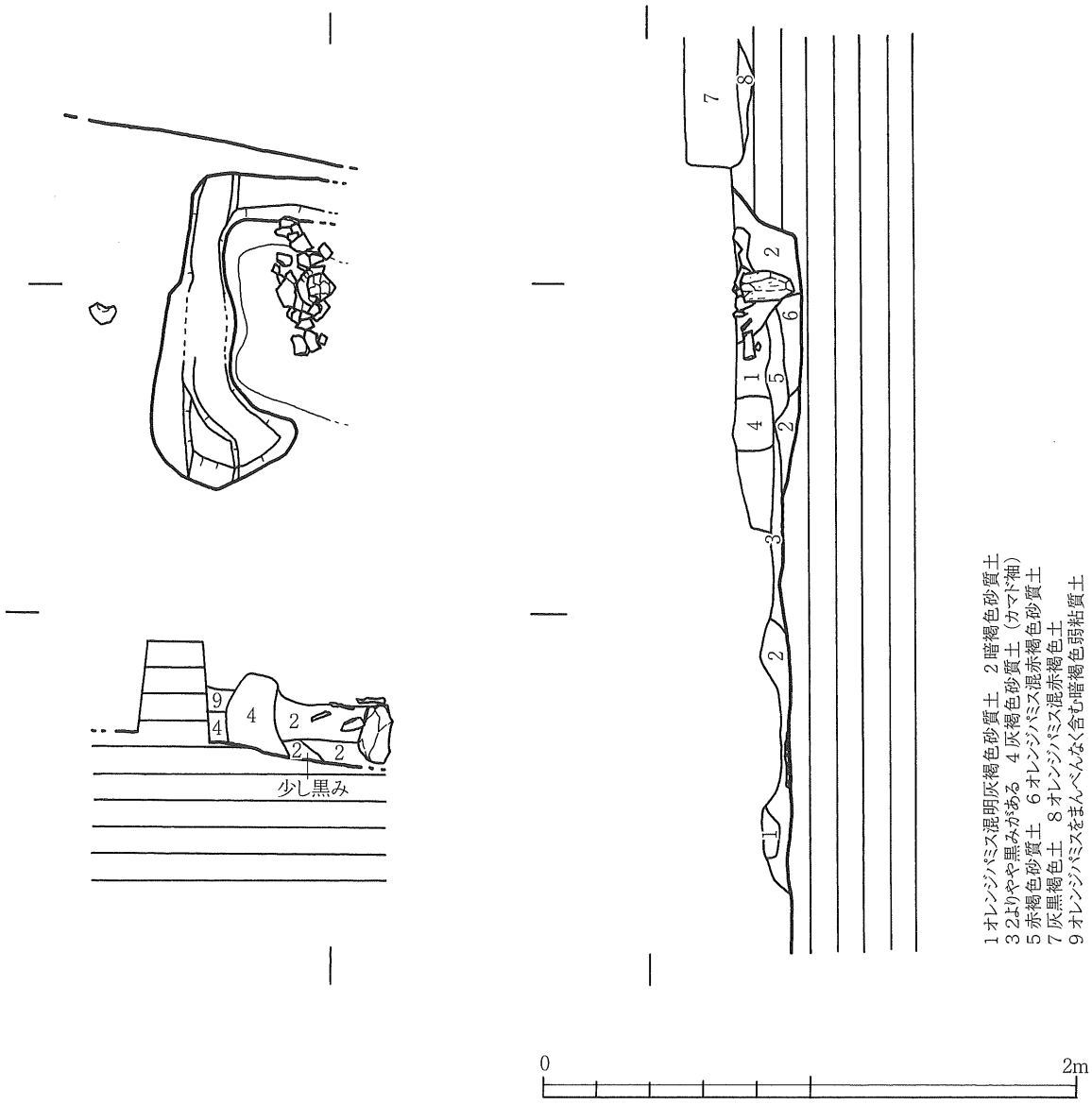
1 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土　2 中世SC　3 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土　4 オレンジパミス（御池ボラ）　5 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土



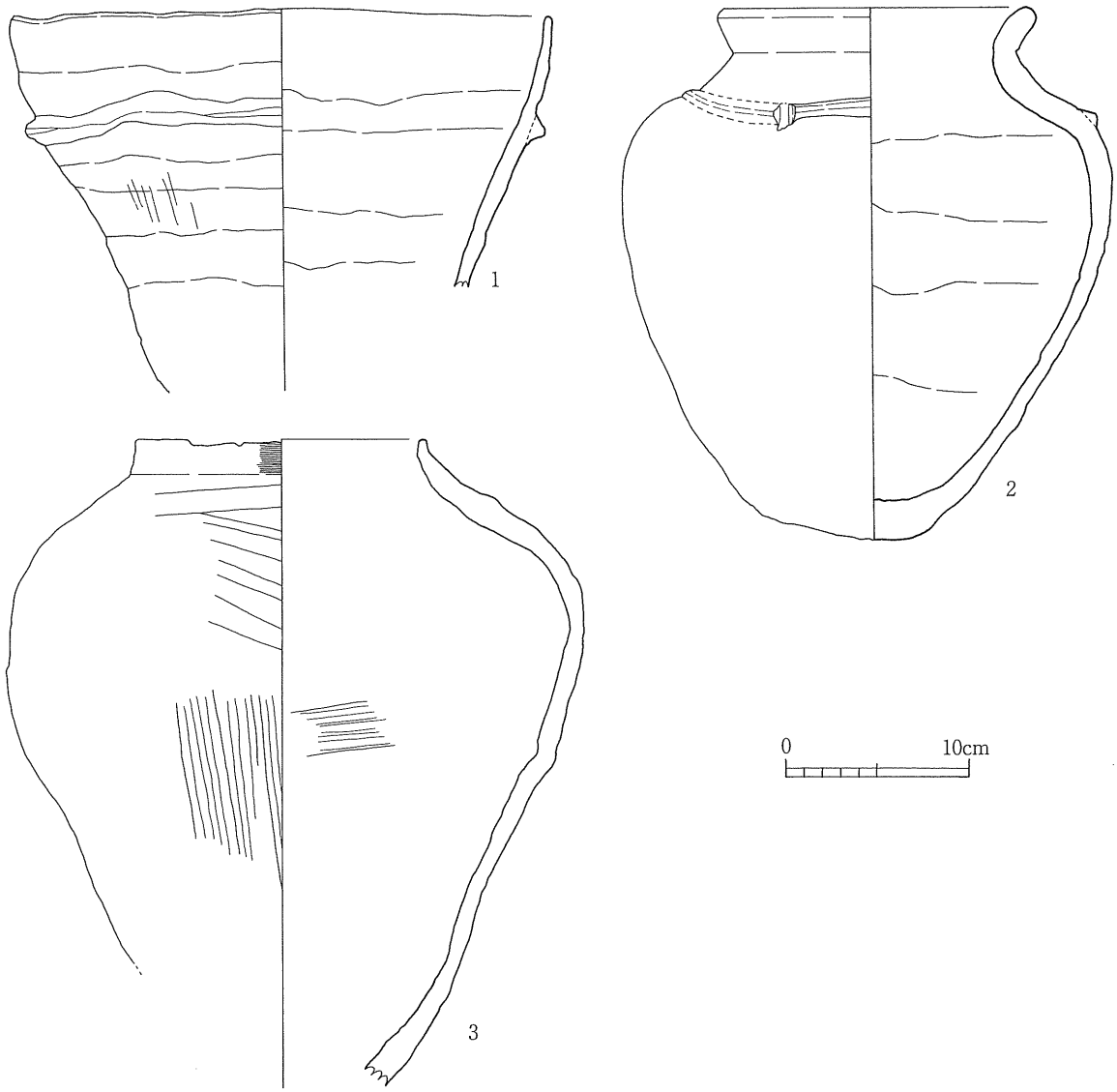
第６図　ＳＡＯ１実測図

1 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土
2 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土
3 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土
4 オレンジパミスをわずかに含む黒色粘質シルト
5 灰白色砂質土
6 オレンジパミスをわずかに含む明灰褐色弱粘質土
7 オレンジパミスをわずかに含む明褐色砂質土
8 オレンジパミスをわずかに含む褐色砂質土
9 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土
10 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土
11 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土
12 漆黒土

が１条付されている。底部は丸底状を呈す。口径17.6cm、器高29.3cmを測る。器肉の厚みは２cm前後。内器面には接合痕が残る。３は甕。底部が欠損している。口径15.5cmを測る。口縁部下から肩部が大きく張り出す。器面調整は粗雑。工具によるナデ調整である。４は須恵器蓋である。口径10cmを測り、身受けが付く。５は外器面に線刻あり。６は甕の口縁部。口径21.4cmを測る。内外ともにナデ調整であるが、内器面は工具ナデ痕が明瞭である。７は甕口縁部。口径17.1cmを測る。外器面には横位のミガキがみられる。８も甕。口径17.4cm。やや壷形に近い。９も甕で８と同様。10･11は底部。12は口縁部。甕か甑かはっきりしない。１条の突帯あり。13は底径8.4cmを測る。カマド状遺構（ＳＮ01）から出土。内外ともにナデ調整。14はチャートの剥片。15は浅鉢。口径30.2cmを測る。黒色を呈する器面は、内外ともに丁寧なミガキが施されている。縄文晩期黒川式系統のものと思われる。16は底部。17は坏蓋。口径10.2cm、器高3.2cmを測る。内外ともにナデ調整。外器面に線刻がある。18はＳＮ01から出土した甕。口径15.6cm。頸部に指頭調整の痕跡あり。肩部以下の整形が粗雑。19もＳＮ01出土の甕口縁部。20は甕の底部か。底径8.4cmを測る。21はＳＮ01出土の軽石製支脚。長径20cm強を測り、上部・側面は面取りがなされ、下部はカマド下面に突き刺すための調整がなされている。



第７図　ＳＡＯ１付設カマド（ＳＮＯ１）実測図



第８図　ＳＡＯ１内出土遺物実測図（１）

【２・３・４号竪穴住居跡（ＳＡ 02・03・04：第10・11図)】

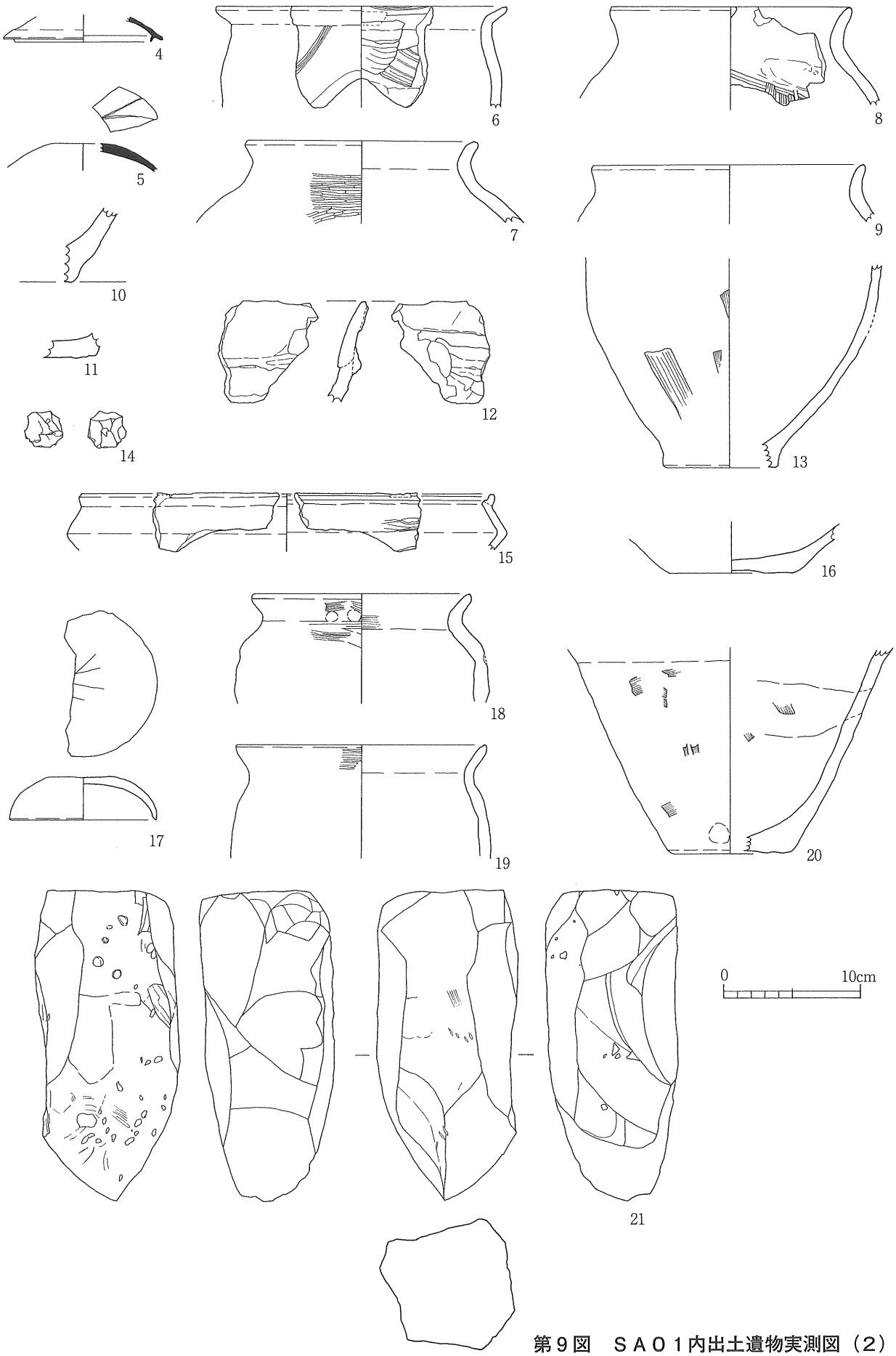
ＳＡ02・03はＡ調査区南西端、サ～シ－18区で検出。ともに方形プランである。02はＥ－W4.2mを測る。03では所々張床らしきものを確認した。Ｎ－Ｓ3.6m、Ｅ－W3.2mを測る。ともに主柱穴は不明。埋土からは、土器・礫が出土している。02→03の時期差あり。ＳＡ03の東側にあったＳＡ04は不整形（やや方形）である。

22～27がＳＡ02出土、28～33がＳＡ03出土遺物である。22は甕口縁部である。23は胴部。甕もしくは甑か。突帯１条あり。24は甕口縁部か。１条の刻目突帯あり。25は軽石製の石器か。26は坏蓋。口径13.6cmを測る。外器面に線刻がみえる。27は甑底部。単口で径9.5cmを測る。接合痕が明瞭に残る。28は口縁部下もしくは胴部。突帯あり。29は甑の底部。おそらく単口タイプである。30は口縁部。31は石器。32は甕。口径17.4cm。頸部がすぼまり、肩部がわずかに張り出す。頸部に指頭痕がある。33は手鎌状鉄器である。

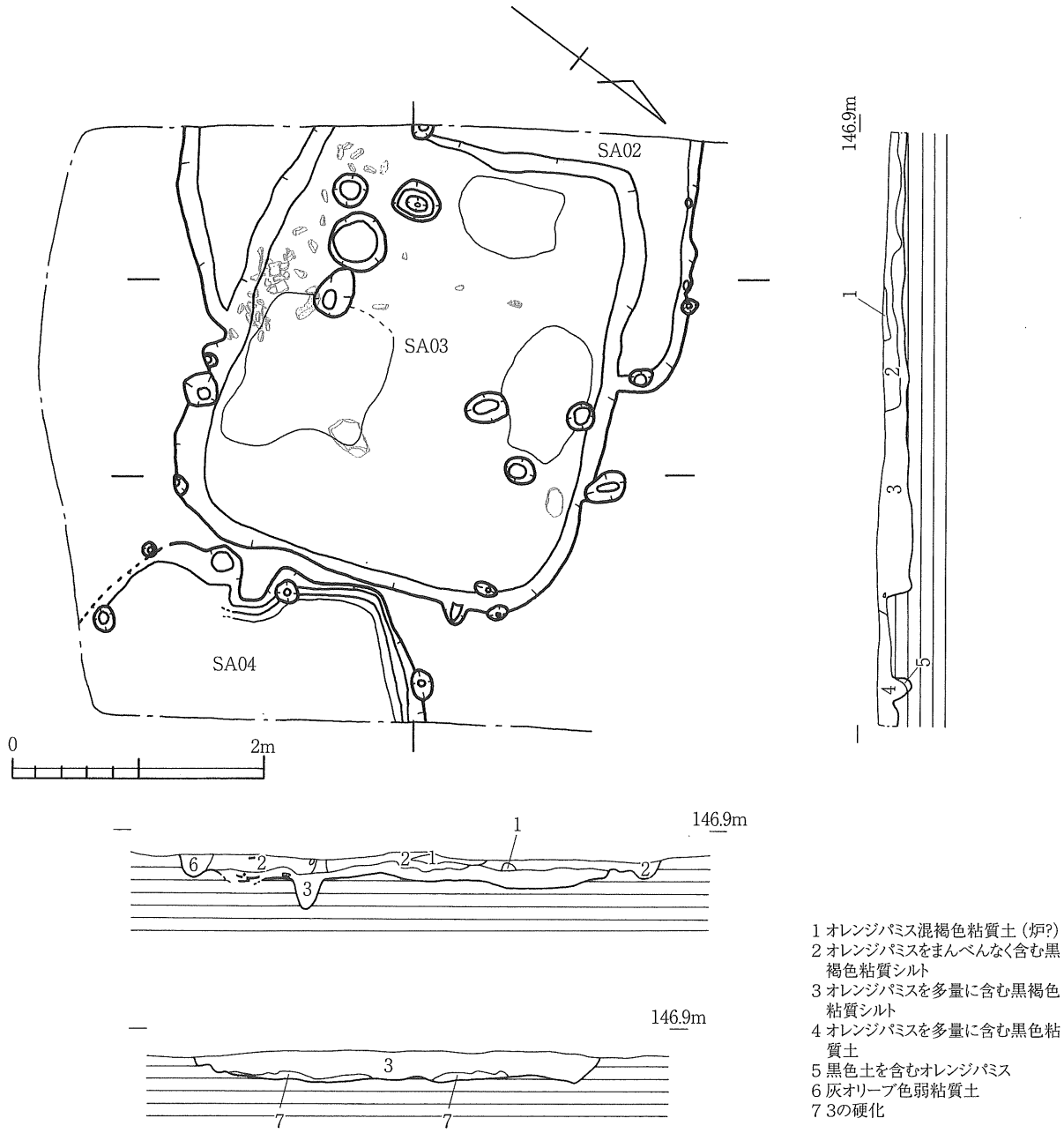
【５号竪穴住居跡（ＳＡ05：第12・16図)】

Ａ調査区、ケ～コ－８～９区に位置する。Ｎ－Ｓ4.6m、Ｅ－W5.2mの方形状を呈する。検出面からの深度は約20cm。主柱穴は明確でない。所々に壁帯溝状の遺構が確認された。

第16図34～38が出土遺物である。34は浅鉢口縁部。黒色磨研である。口径11.2cm。黒川式系統であろう。35は坏。口径10.5cm、底径3.3cm、器高約５cmを測る。内外ともにナデ調整が施されているが、内器面は磨耗している。36は底部。37は縄文土器の口縁部と思われる。晩期か。38は口縁部。



第９図　ＳＡＯ１内出土遺物実測図（２）

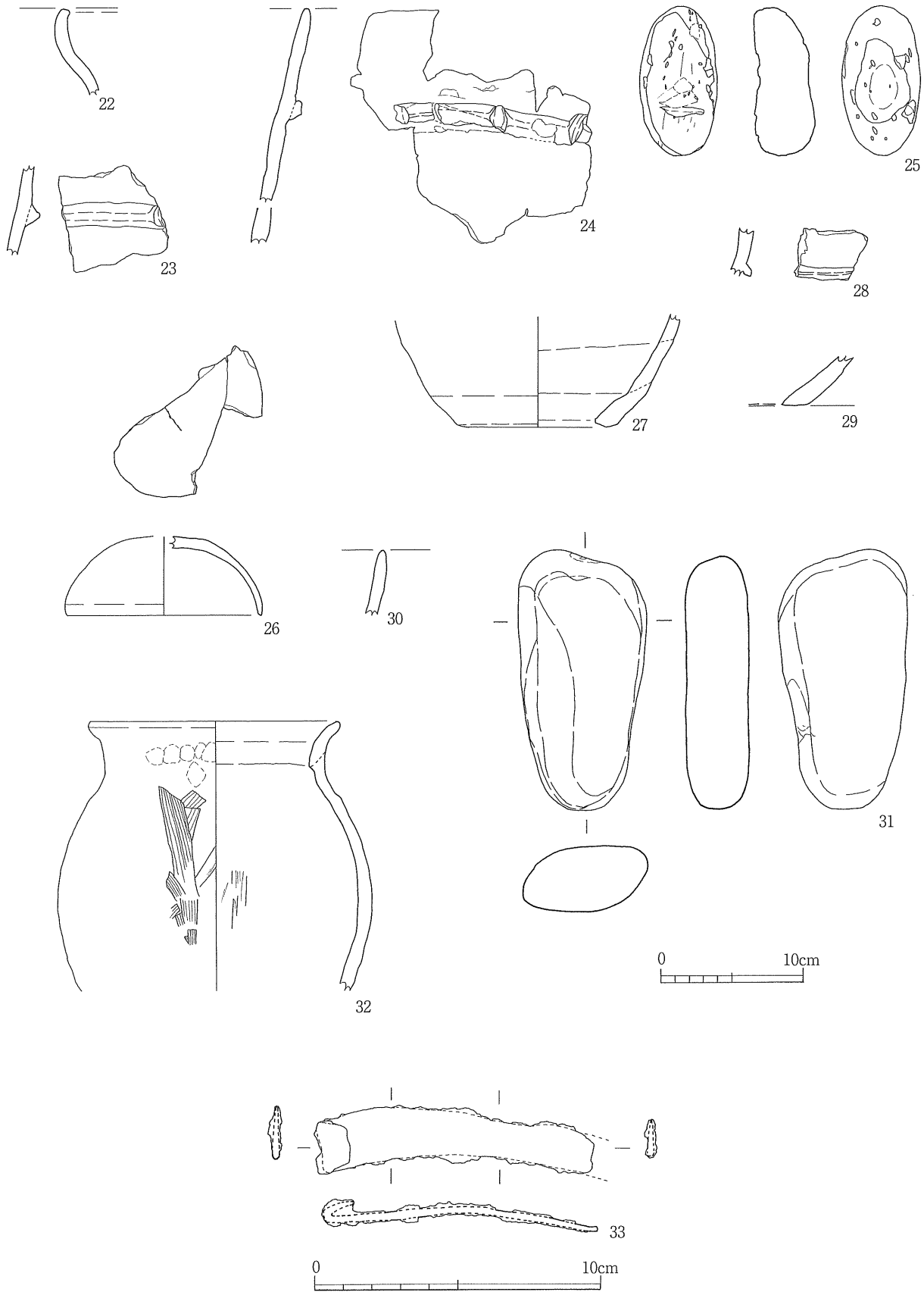


第10図　ＳＡ０２・０３・０４実測図

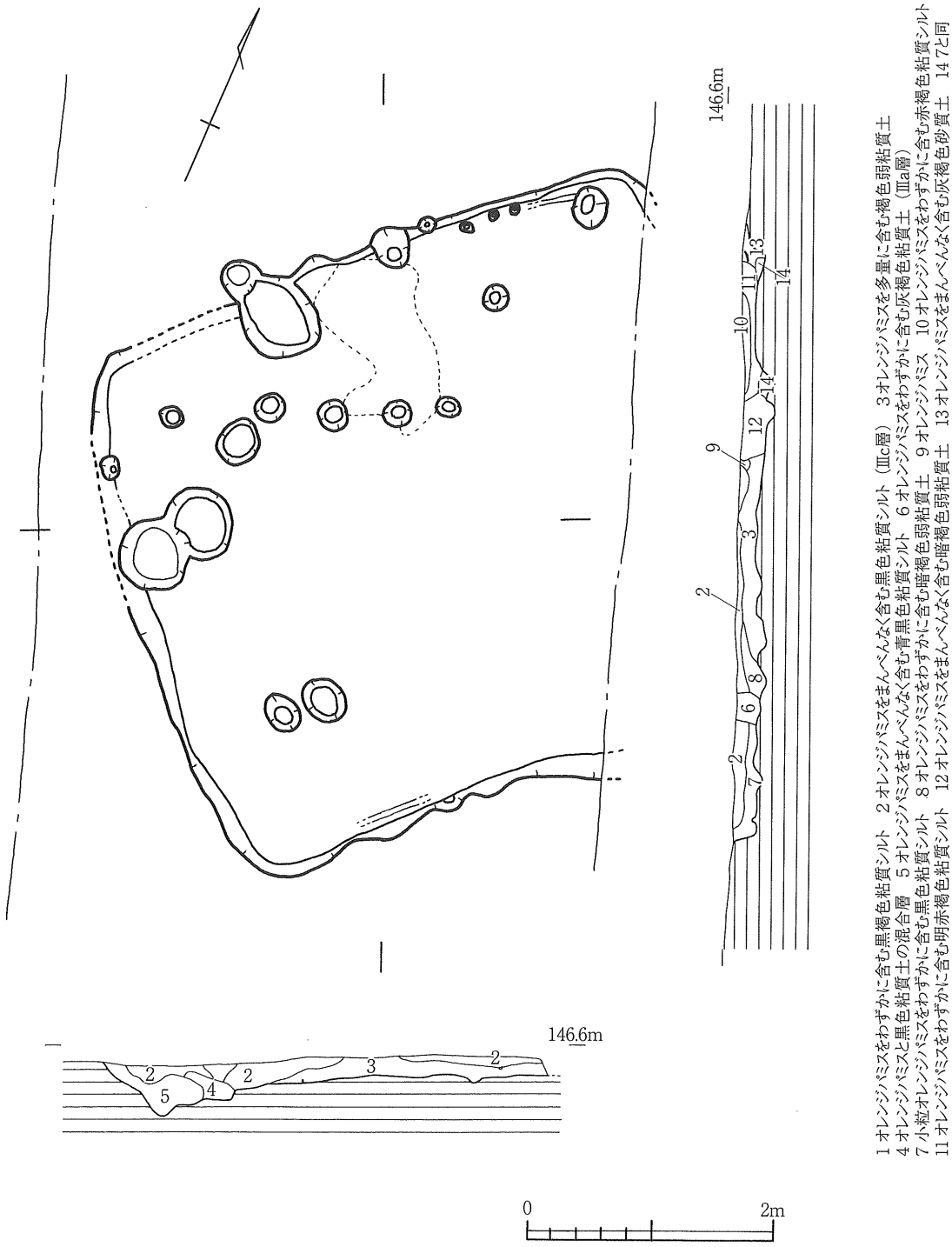
【６号竪穴住居跡（ＳＡ06：第13・16図）】

ＳＡ06は方形プランの住居跡である。Ａ調査区コ～サ－15～16区で検出。張床状で柱穴も確認でき、４穴のタイプと思われる。Ｎ－Ｓ７m、Ｅ－W6.7mのほぼ正方形状を呈し、本遺跡で検出した最大の住居跡である。検出面からの深度は約50cmを測る。道路敷設部分のため、調査区域に制約があり、全容を把握できなかったこともあろうが、カマド、炉は確認されなかった。壁帯溝らしきものも部分的に確認している。

第16図に出土遺物を掲げた(39～44)。39は須恵器坏身である。蓋受けが付き、口径8.8cm、廂径は11.2cmを測る。40は高坏脚部である。底径は12cmほどで、わずかにミガキがみられる。41は甕である。口縁部下に１条の刻目（絡縄）突帯を付する。口唇部―突帯部間には２条の接合痕が明瞭に残る。口径30.4cm、底径4.6cm、器高30.3cmを測る。底部はやや上げ底気味。外器面突帯下には斜位の工具ナデ痕が明瞭に残る。外器面にススの付着もみられる。42は底部。43は高坏である。底径18.8cmを測る。40と同様に、ナデ調整後わずかにミガキがなされている。



第11図　ＳＡ０２・０３内出土遺物実測図

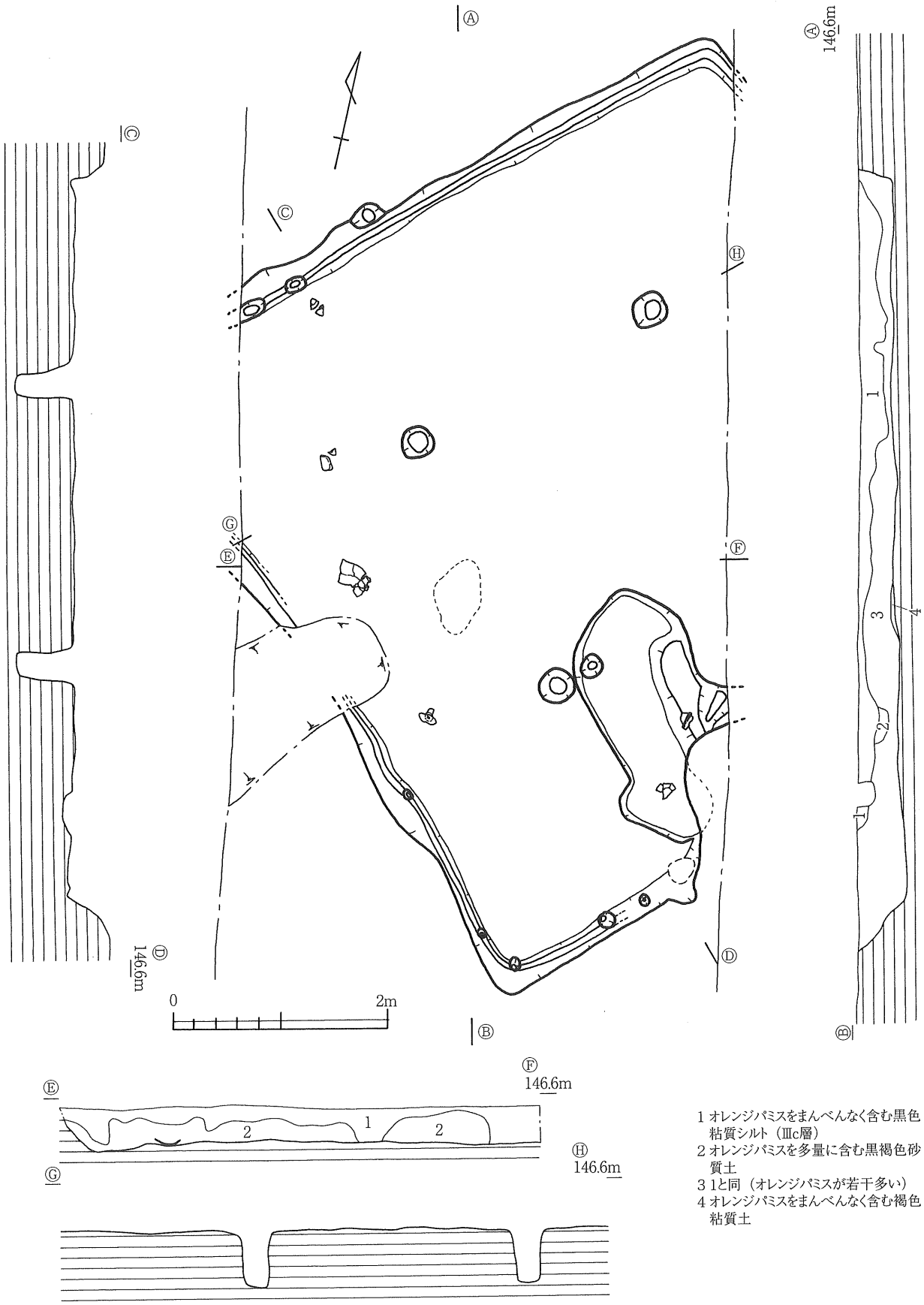


第12図　ＳＡ０５実測図

44は甕口縁部。口径33.2cmを測る。口縁部下に１条の刻目突帯をもつ。41と同一もしくは同様のものと思われる。

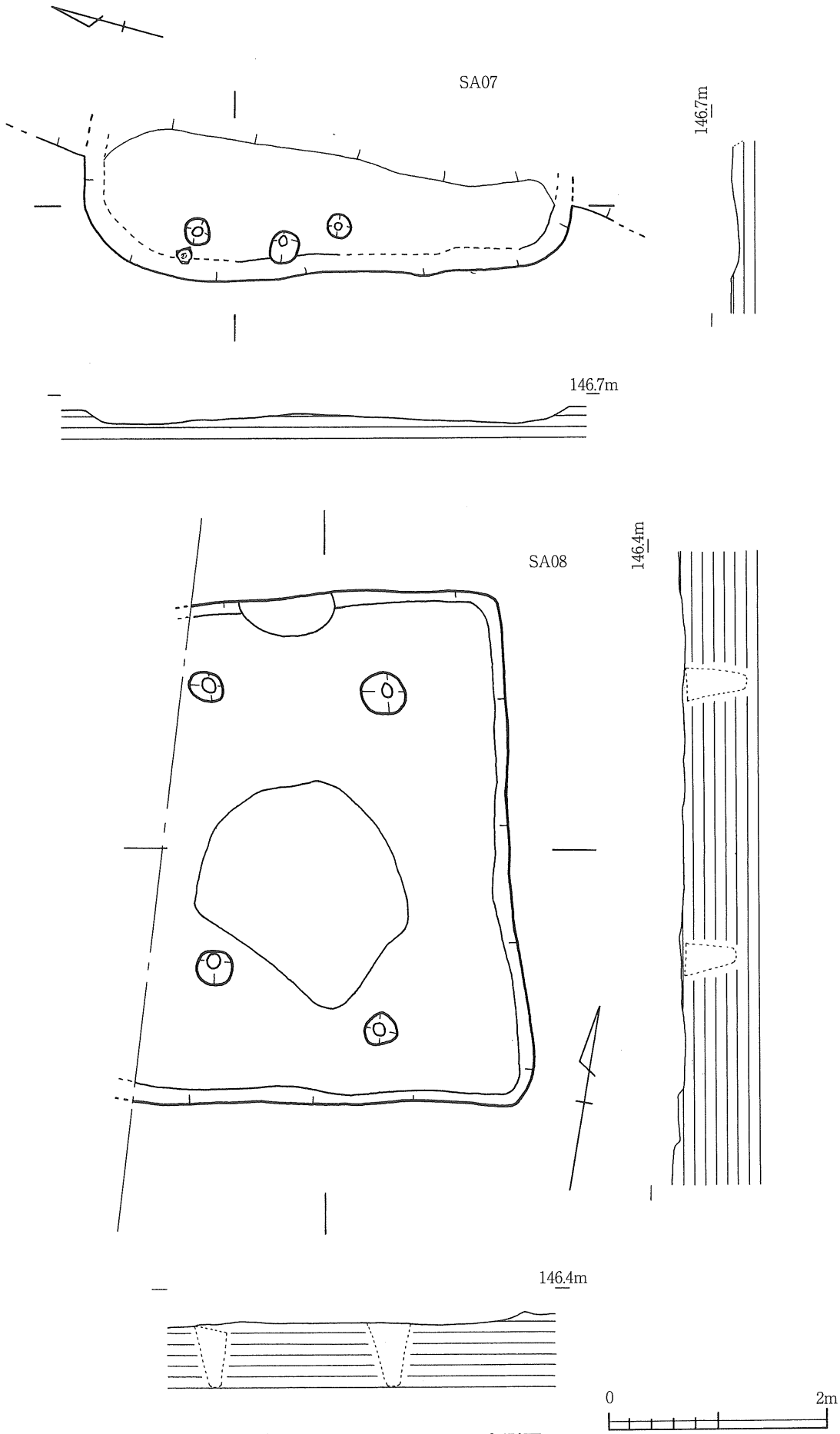
【７号竪穴住居跡（ＳＡ07：第14～16図)】

ＳＡ07はその大半を溝状遺構に破壊されており、一部遺存しているのみである。Ａ調査区コ－10～11区にある。直上には軽石を組んで使用したとみられるカマド状遺構（ＳＮ07）があった。若干横倒しになった状態で確認したが、焼土・灰の上に長径60cmほどの整形された軽石がやや崩れてはいたがL字状に配置され、焼土・灰の中心には軽石製支脚が立っていた。可能性として、整形された軽石が「コ」の字形に組まれ、その内部が

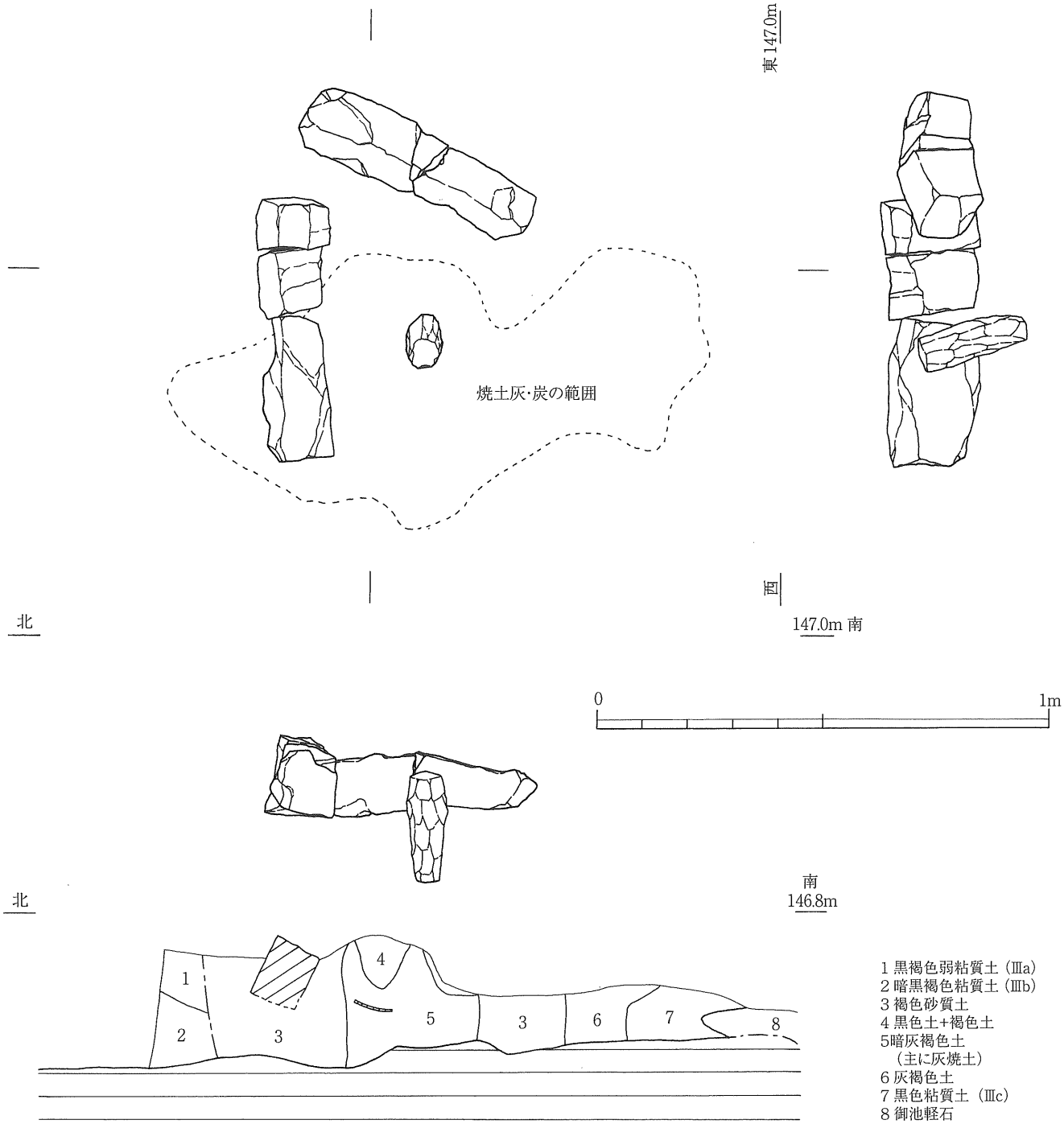


1 オレンジパミスをまんべんなく含む黒色粘質シルト（Ⅲc層）
2 オレンジパミスを多量に含む黒褐色砂質土
3 1と同（オレンジパミスが若干多い）
4 オレンジパミスをまんべんなく含む褐色粘質土

第13図　ＳＡ０６実測図



第14図　ＳＡ０７・０８実測図



第15図　ＳＮ０７実測図

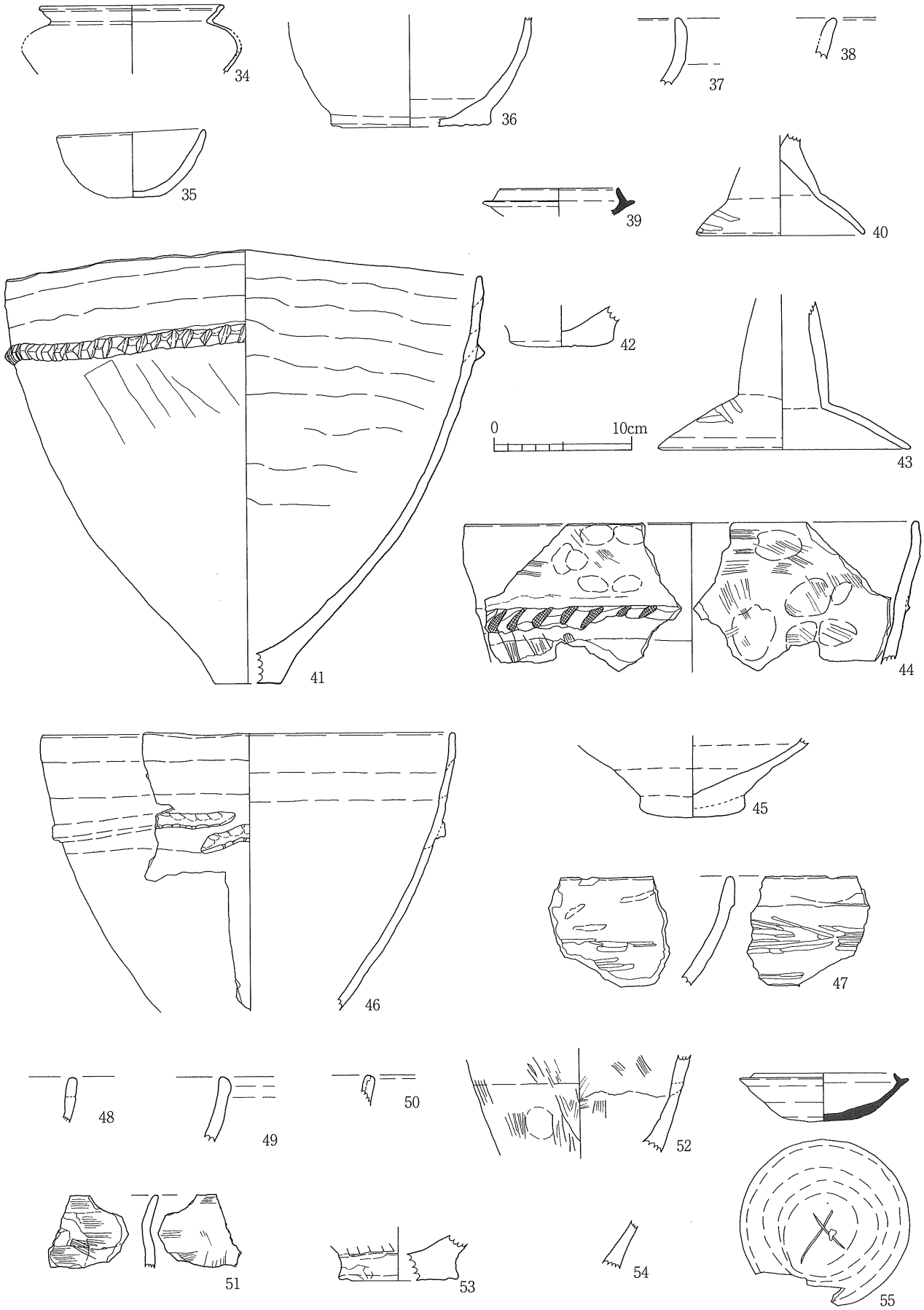
燃焼部となっていたかもしれない。

45は底部。径7.9cmを測る。46はＳＮ07出土の甕か。１条の突帯が付されている。口縁～突帯までの間には２条の接合痕が残る。口径30cmを測る。48は口縁部。50は口縁部。51は甕の口縁部か。52・54は底部付近。

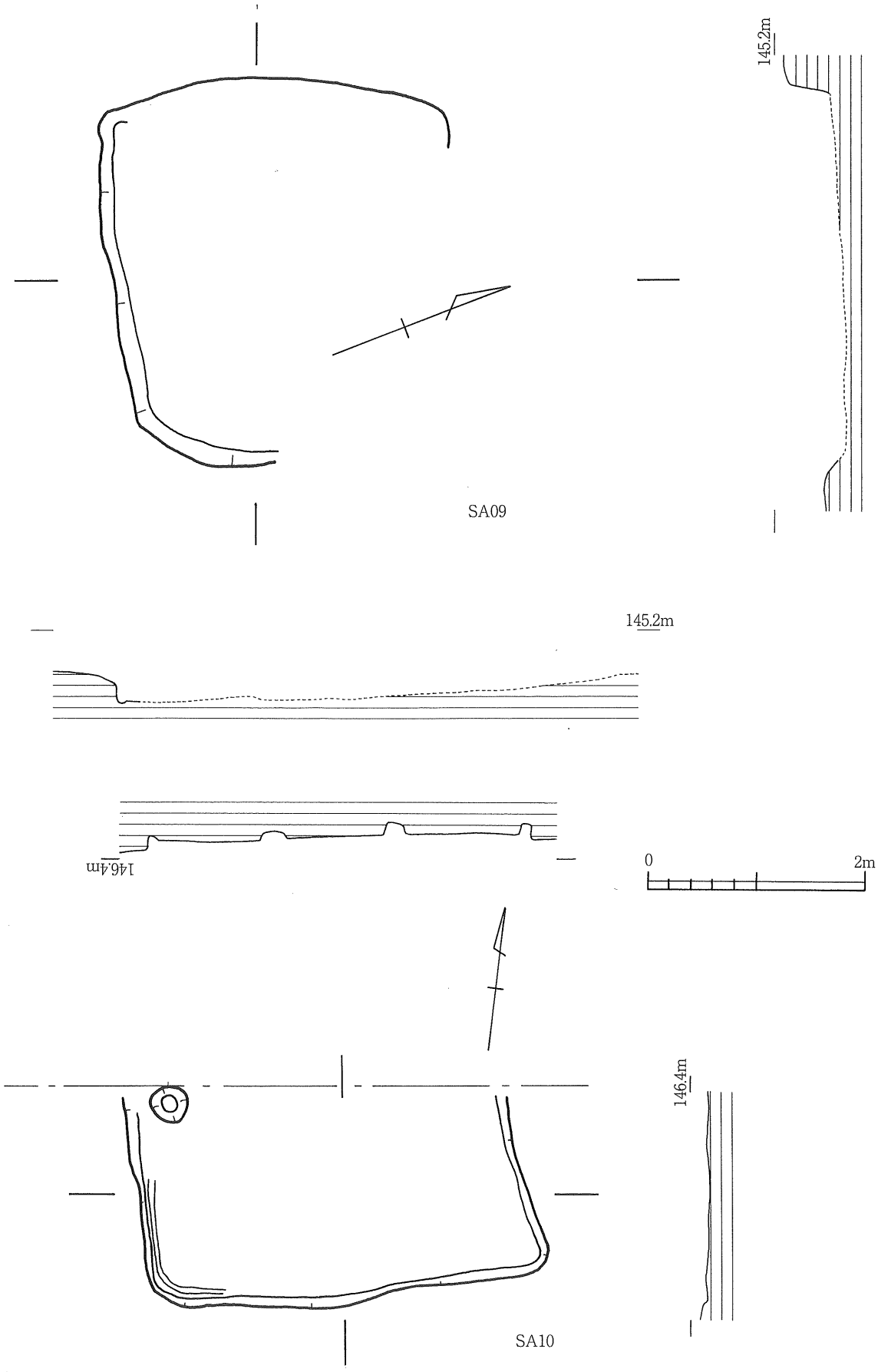
【８号竪穴住居跡（ＳＡ08：第14・16図）】

ＳＡ08はＤ調査区、ＳＡ01の北、ナ－15～16区で検出。１辺約4.7mの方形プランで、検出面と床面の比高差は10cmほどとほとんどない。西側の一部分は調査区外に延びる。カマドは検出されず、中央付近に焼土らしき痕跡が見受けられた。主柱穴は４穴。

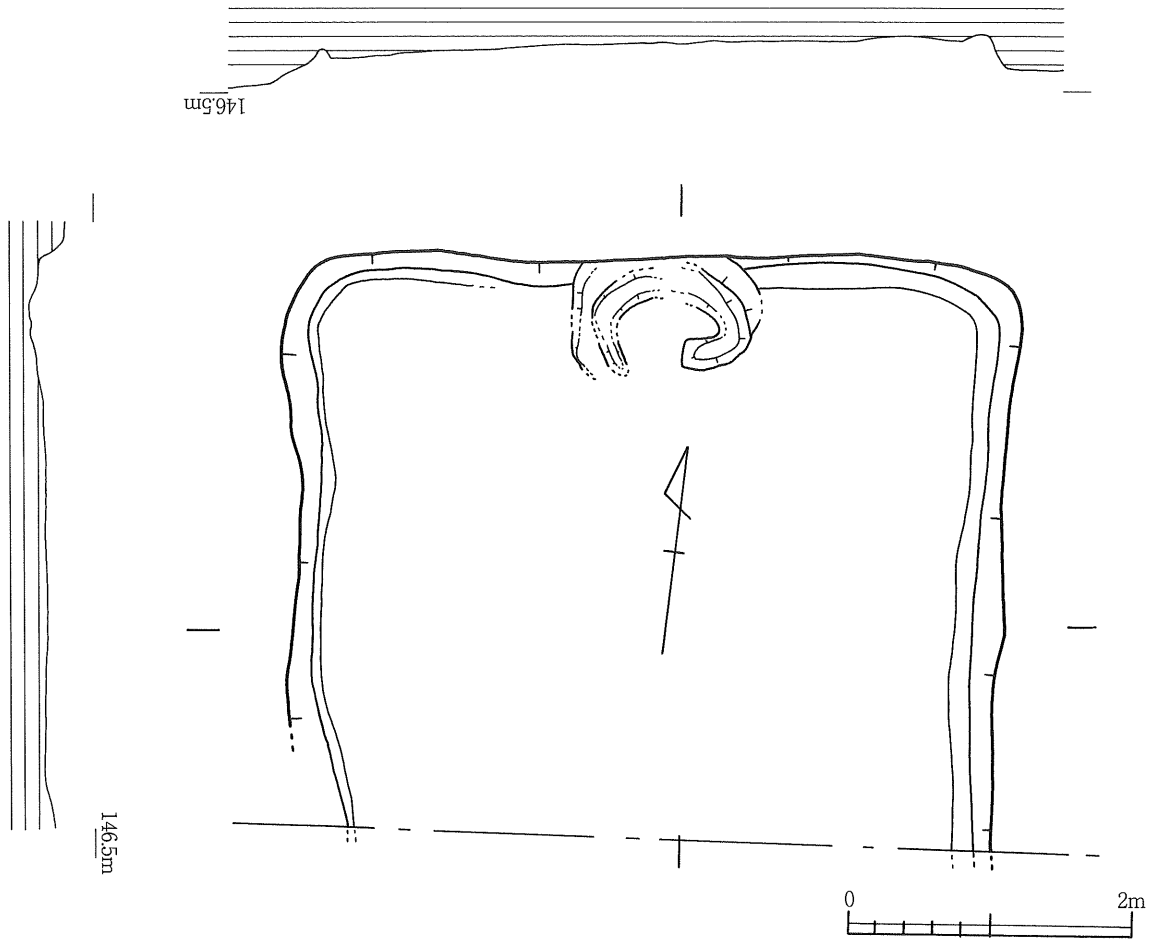
47は鉢形の口縁部。外器面はナデ調整。縄文晩期か。49は口縁部。51は甕の口縁部か。53は底部で縦位の工



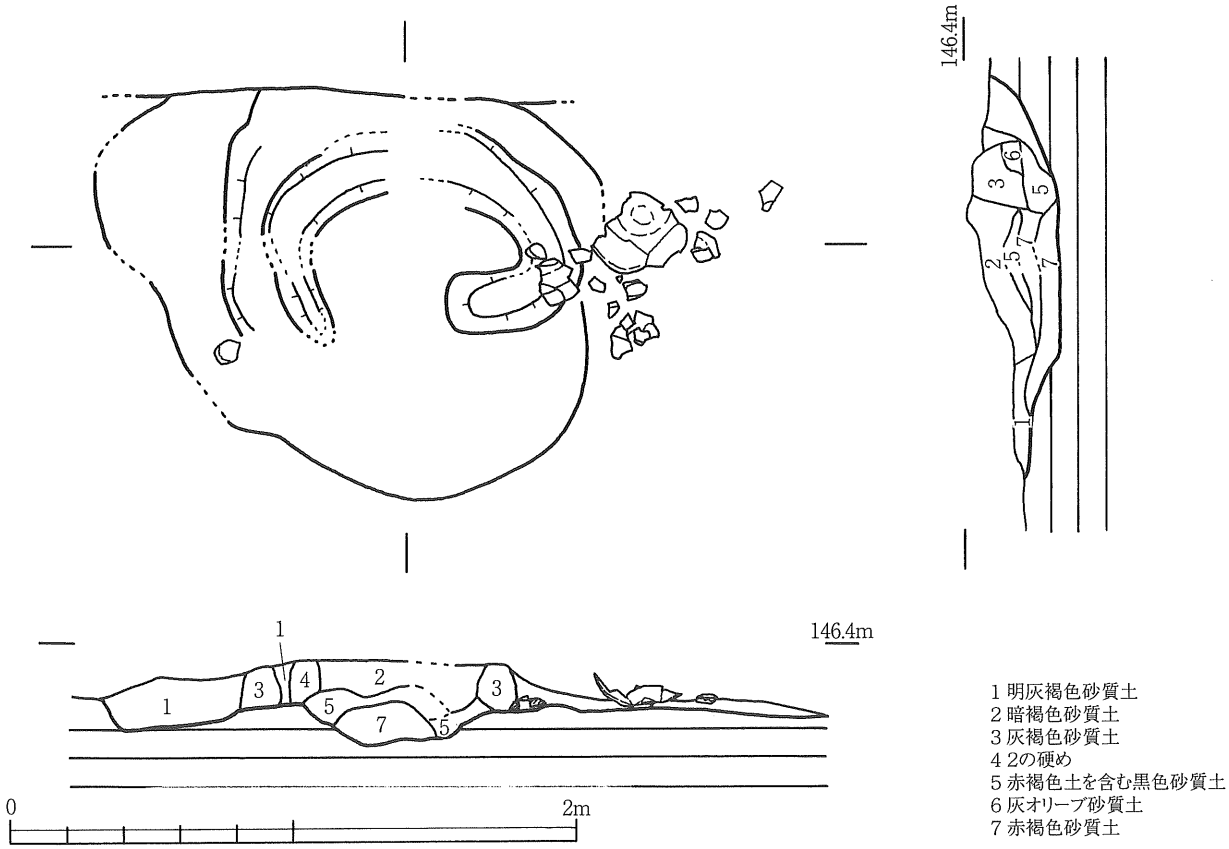
第16図　ＳＡ０５・０６・０７・０８内出土遺物実測図



第17図　ＳＡ０９・１０実測図

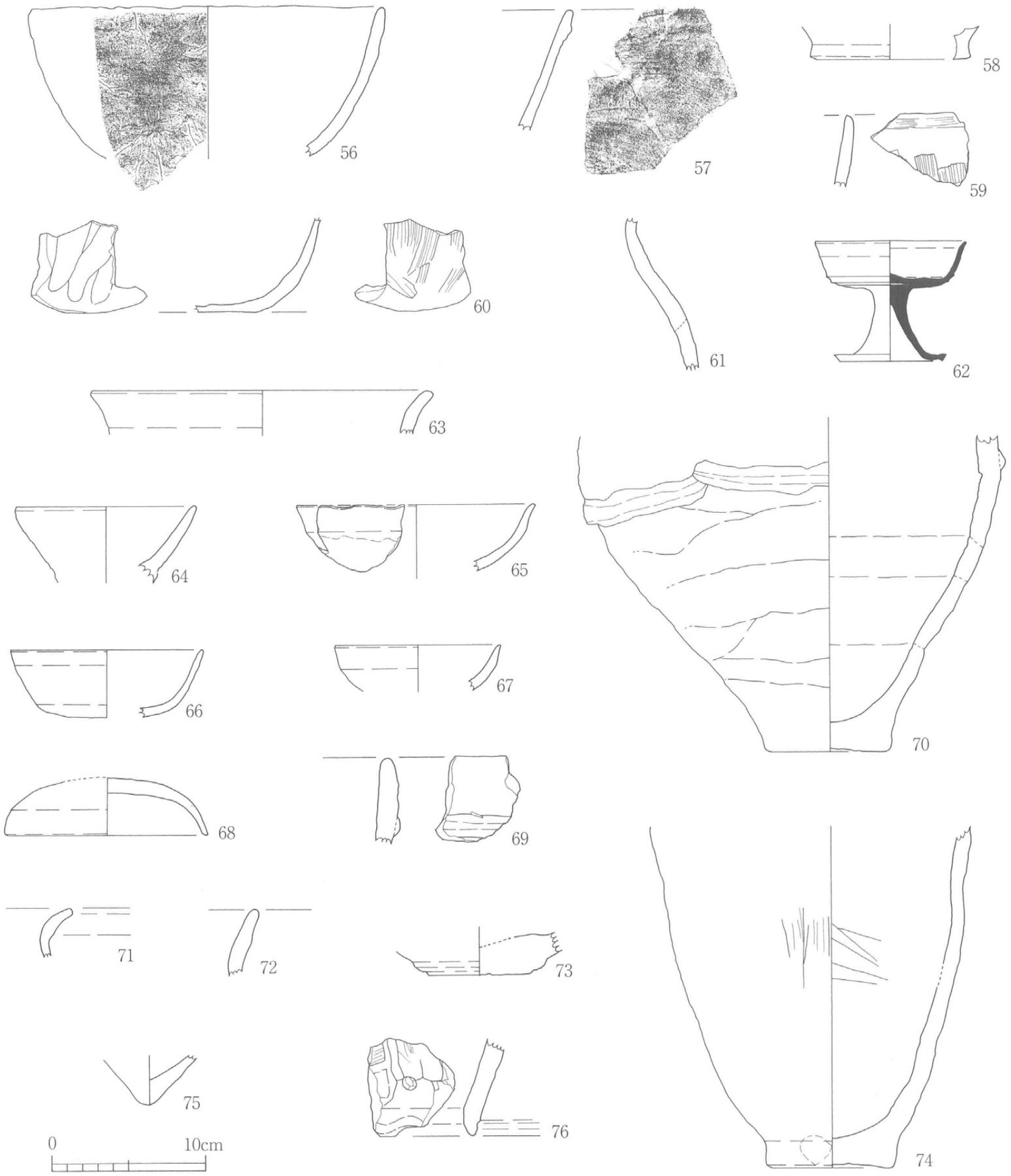


第18図　ＳＡ１１実測図



1 明灰褐色砂質土
2 暗褐色砂質土
3 灰褐色砂質土
4 2の硬め
5 赤褐色土を含む黒色砂質土
6 灰オリーブ砂質土
7 赤褐色砂質土

第19図　ＳＡ１１付設カマド（ＳＮ１１）実測図



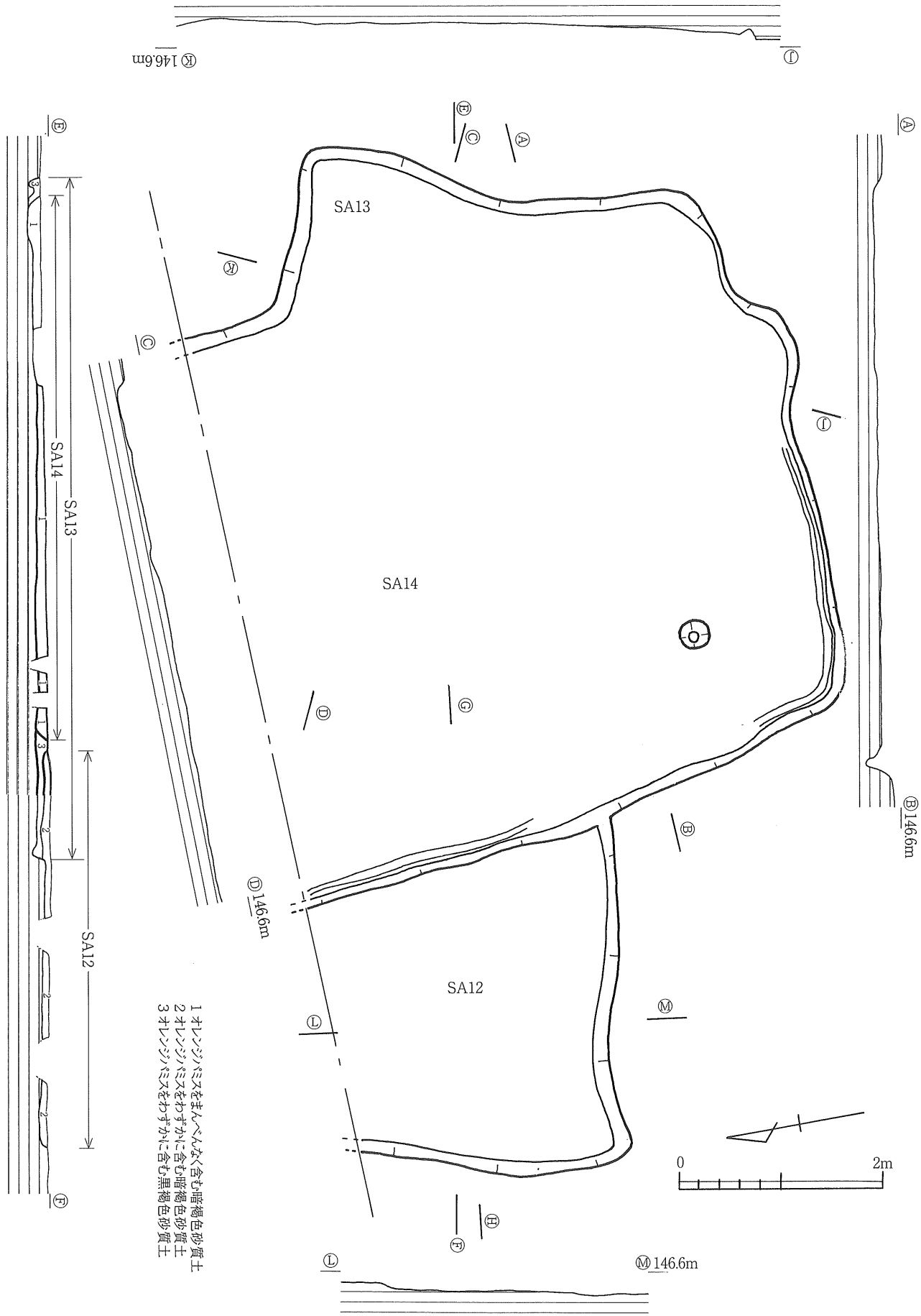
第20図　ＳＡ０９・１０・１１内出土遺物実測図

具ナデ痕あり。55は須恵器坏身である。口径10.2cm、廂径12.4cm、器高3.6cmを測る。外器面に「×」あり。

【９号竪穴住居跡（ＳＡ09：第17・20図）】

ＳＡ09はノ－17～18区で検出した。Ｎ－Ｓ3.2m、Ｅ－W3.6mを測るやや不整の方形を呈し、北側の壁面が不明瞭である。カマドもみられなかった。

第20図56～58が出土遺物である。56は口径23cmを測る鉢の口縁部である。縄文晩期か。57は深鉢の口縁部である。縄文晩期松添タイプと思われる。58は底径10.4cmを測る。



第21図　ＳＡ１２・１３・１４実測図

【10号竪穴住居跡（ＳＡ10：第17・20図)】

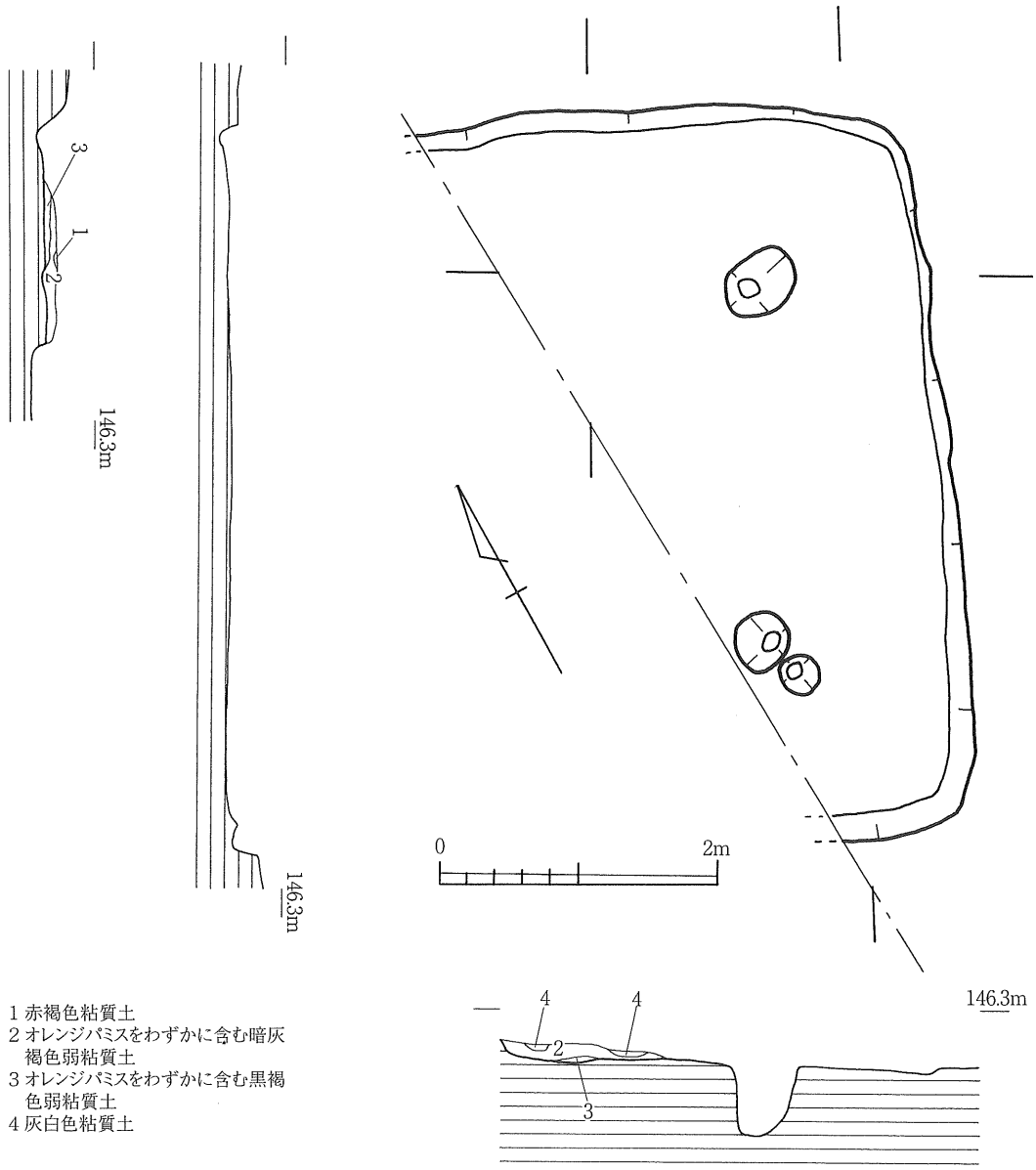
ト－18区で確認した。3.5mのやや小型で、南側半分しか検出できていない。カマドの有無、主柱穴もはっきりしない。検出面からの深度は10cmほど。

出土遺物は59～61である。59は口縁部である。60は毬形の底部。61は甕の肩部か。

【11号竪穴住居跡（ＳＡ11：第18～20図)】

ＳＡ10の南側に接したＳＡ11は、北側にカマドが設けられていた。南側は調査区外。検出面から床面までの比高差は30cm弱を測る。住居の１辺は5.1m。主柱穴は確認できていない。カマド状遺構（ＳＮ11）はＳＡ01同様灰褐色粘質土で造られており、最上部から須恵器の高坏が出土し、カマド東側には土器片が集在していた。カマド状遺構（ＳＮ11）は住居跡北側に付設されていた。形状が明確ではないが、第19図のような状態で検出した。煙道は不明。焚き口付近には赤褐色系土があり、燃焼部と認識できる。その奥に支脚は残っていなかった。

62～76が出土遺物である。62は須恵器高坏。ほぼ完形。口径9.8cm、底径6.6cm、器高６cm弱を測り、坏部底位に２条の強い稜をもつ。ＳＮ11の上部にあった。63は甕の口縁部である。口径は22cmを測る。64は口縁部。

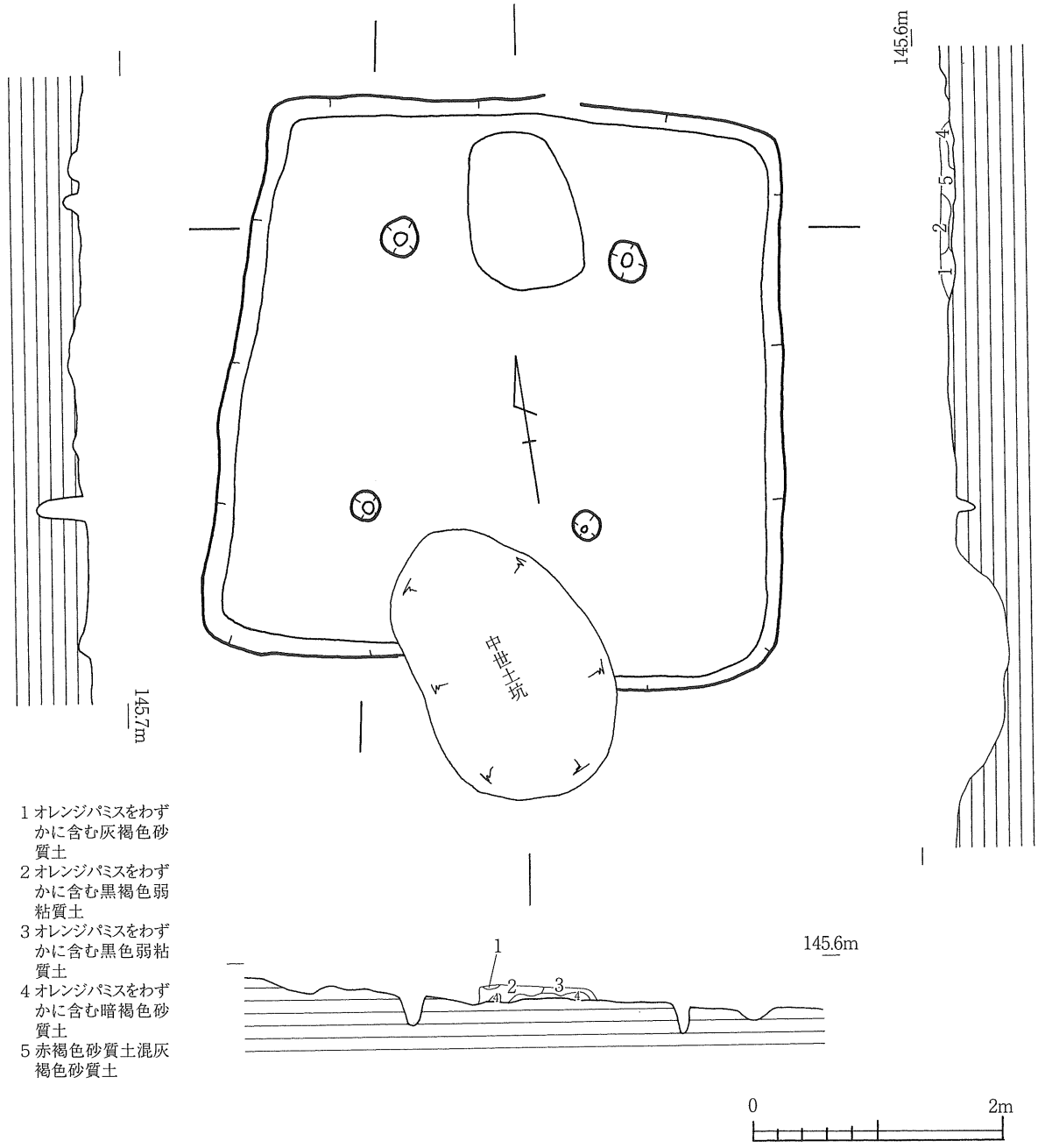


第22図　ＳＡ１５実測図

65～69はＳＮ11出土である。65～67は坏である。70は甕と思われる。口縁部が欠損。１条の突帯が巡る。以下底部まで接合痕が明瞭に残る。底径は８cm強。68は坏蓋。口径13.2cm、器高3.7cmを測る。69は口縁部。甕か。１条の突帯あり。70は甕か。底径８cm強。歪みが大きい。突帯を１条付する。口縁部は欠損している。71・72は口縁部。ＳＮ11から出土した74は甕の胴～底部と思われる。やや長胴形であろうか。底径は7.8cm。73・75は底部。75はミニチュア形か。76は甑の底部である。内器面に穿孔が１点あり、杉井分類でいけば浅渡し用小円孔タイプに属する。

【12・13・14号竪穴住居跡（ＳＡ12・13・14：第21・24図）】

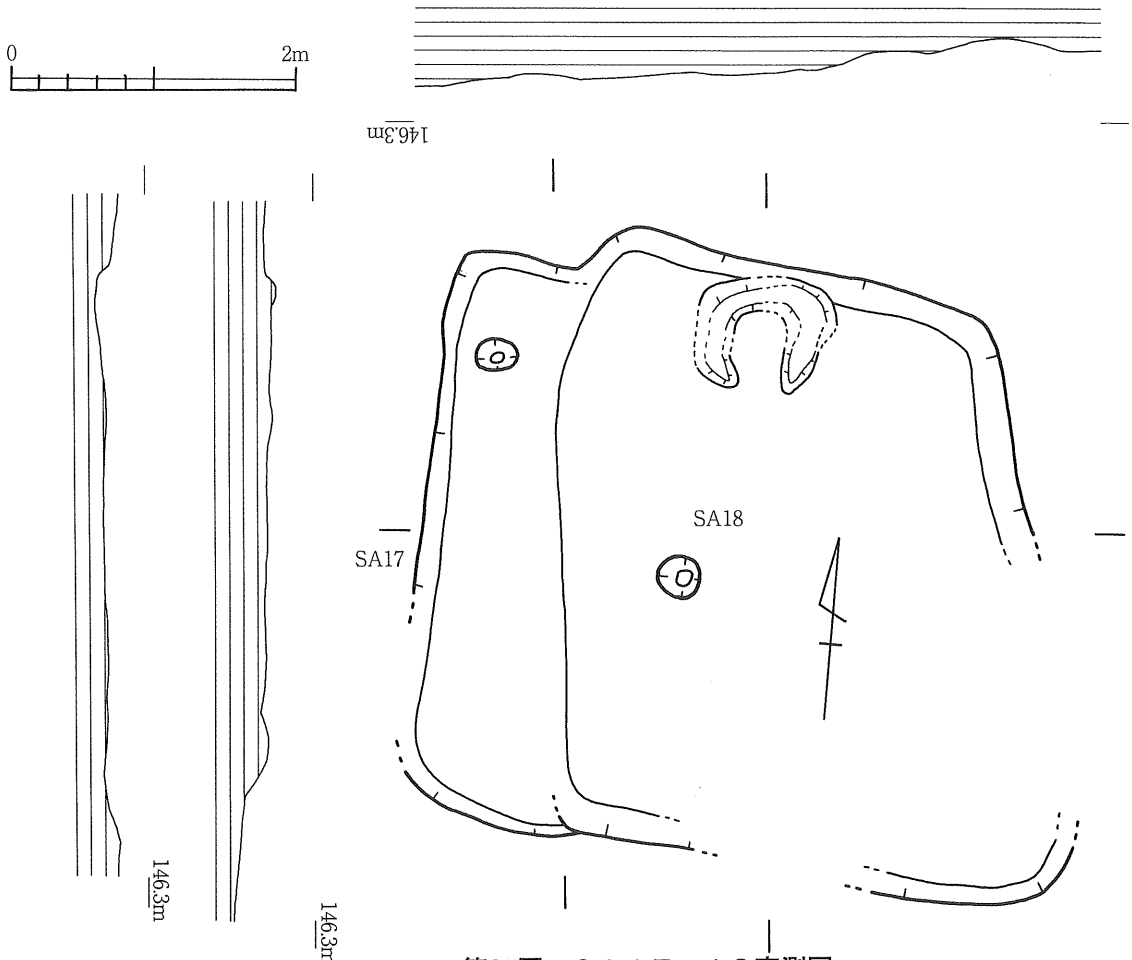
ＳＡ12～14は、ソ～ツ－19～20区で重なり合って検出。各々からカマドは確認していない。埋土の断面観察から12→14→13の時期差が見て取れる。検出面からの深度は10cmほどである。すべて方形状を呈している。



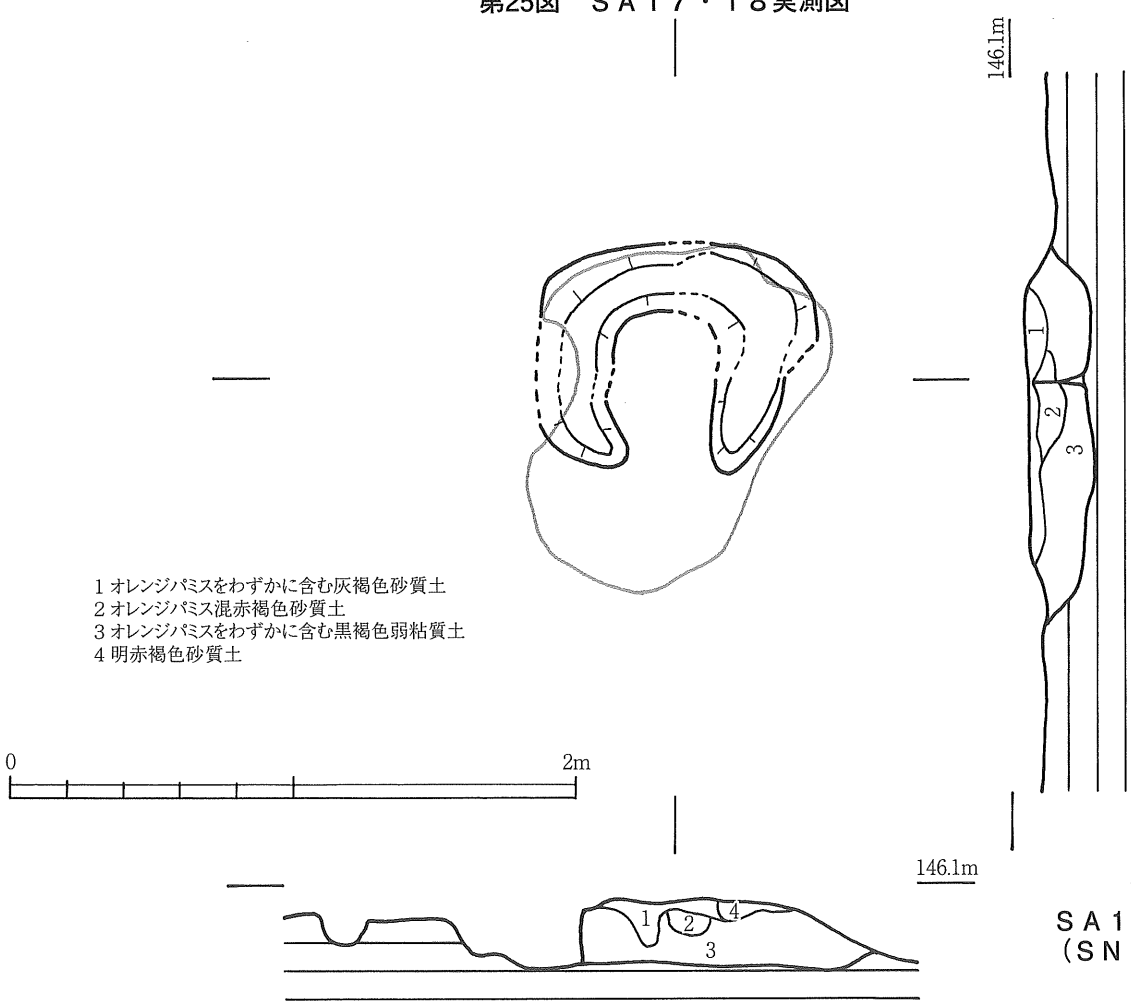
第23図　ＳＡ１６実測図

第24図　ＳＡ１２・１３・１４・１５・１６内出土遺物実測図

77・78がＳＡ12、79～86がＳＡ13、87～91がＳＡ13・14一括、92～98がＳＡ14出土遺物である。77は甕の口縁部か。78は底部。79は甕の口縁部か。甑の可能性もある。口径34.2cmを測る。口縁下に１条の突帯をもつ。内外ともにナデ調整が施されている。80は甑の胴～底部である。単口で、底径は９cm。単口部の内器面は強い稜をもつが、ケズリ出して整形している。外器面は工具によるナデ調整がなされている。81は底部。外器面に指頭痕あり。82も底部。上部は接合痕で剥離している。83～86も底部。83は内外ともにミガキがなされ、84は外器面にわずかにミガキがみられる。87は甕である。口径は16.2cm。内器面に接合痕がみえる。88は底部。89



第25図　ＳＡ１７・１８実測図



1 オレンジパミスをわずかに含む灰褐色砂質土
2 オレンジパミス混赤褐色砂質土
3 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土
4 明赤褐色砂質土

第26図
ＳＡ１８付設カマド
（ＳＮ１８）実測図

は甕の口縁部である。90は底部付近、91は底部である。外器面に縦位の工具ナデ痕が明瞭に残る。92は口縁部。内外ともにナデ調整ののちミガキがなされているが、磨耗している。93・94は甕の口縁部。95は高坏の脚部付近か。96は底部、97は底部付近。98は底部。底径9.9cmを測る。

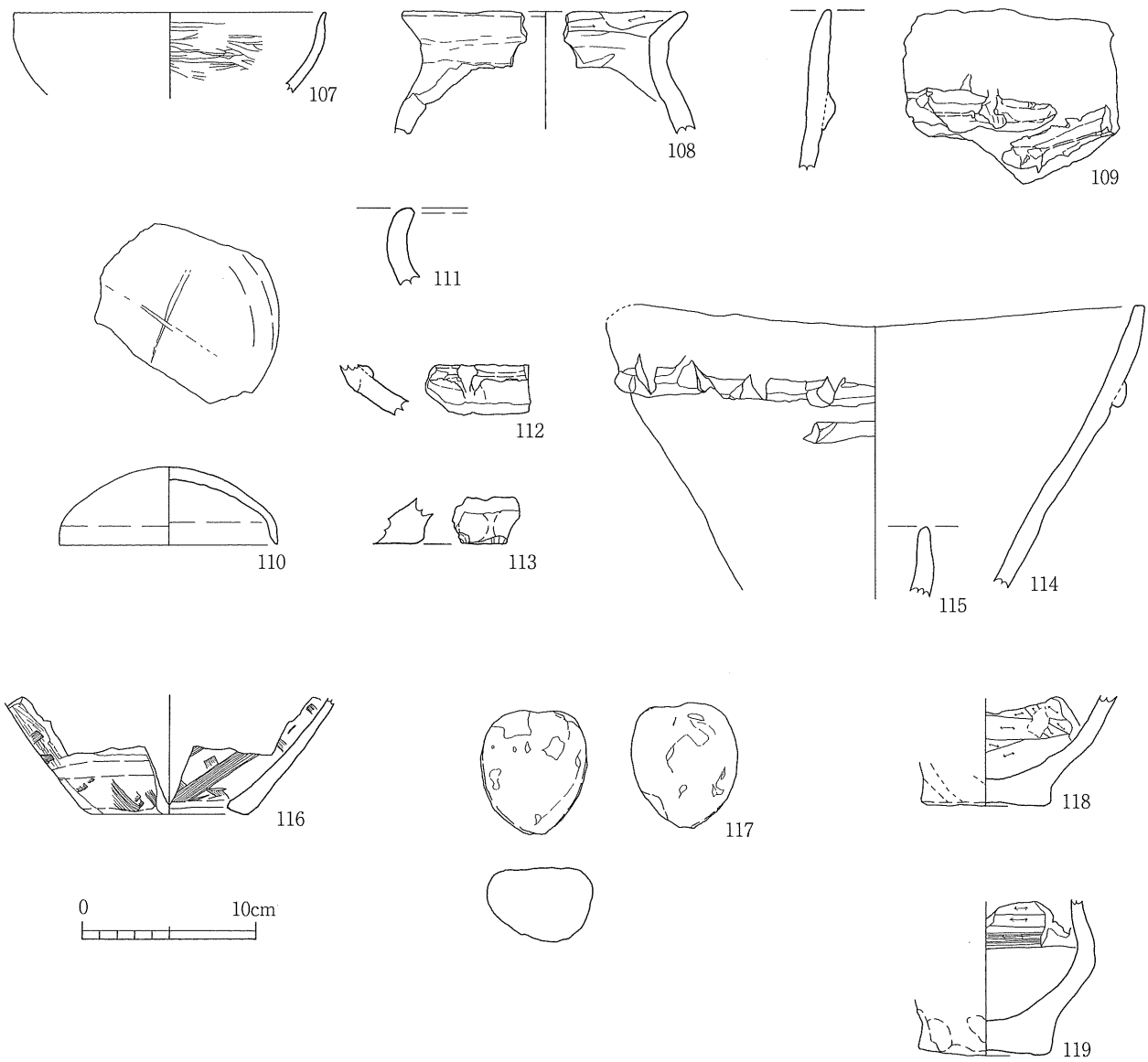
【15号竪穴住居跡（ＳＡ15：第22・24図）】

ナ～ニ－20～21区で検出したＳＡ15はほぼ半分が調査区外。１辺5.3mを測る。検出面から床面までの比高差は10cmほどである。柱穴は２穴しか確認していないが、おそらく４穴。やはり北壁ほぼ中央部にカマドの構成土が確認できた（ＳＮ15）が、形状を把握できる状態になかった。

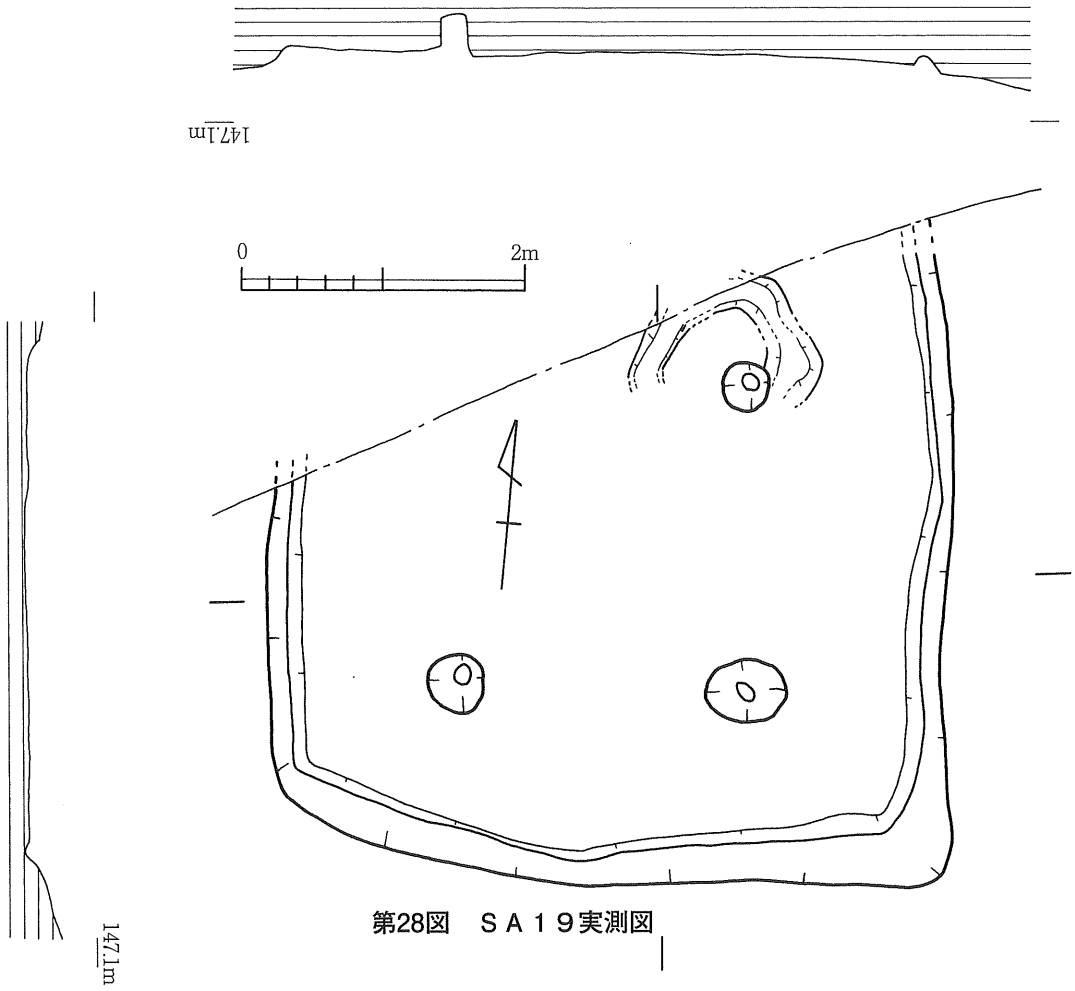
出土遺物は99～101である。99・100は口縁部である。101は須恵器坏蓋か。口径は12cmを測る。

【16号竪穴住居跡（ＳＡ16：第23・24図）】

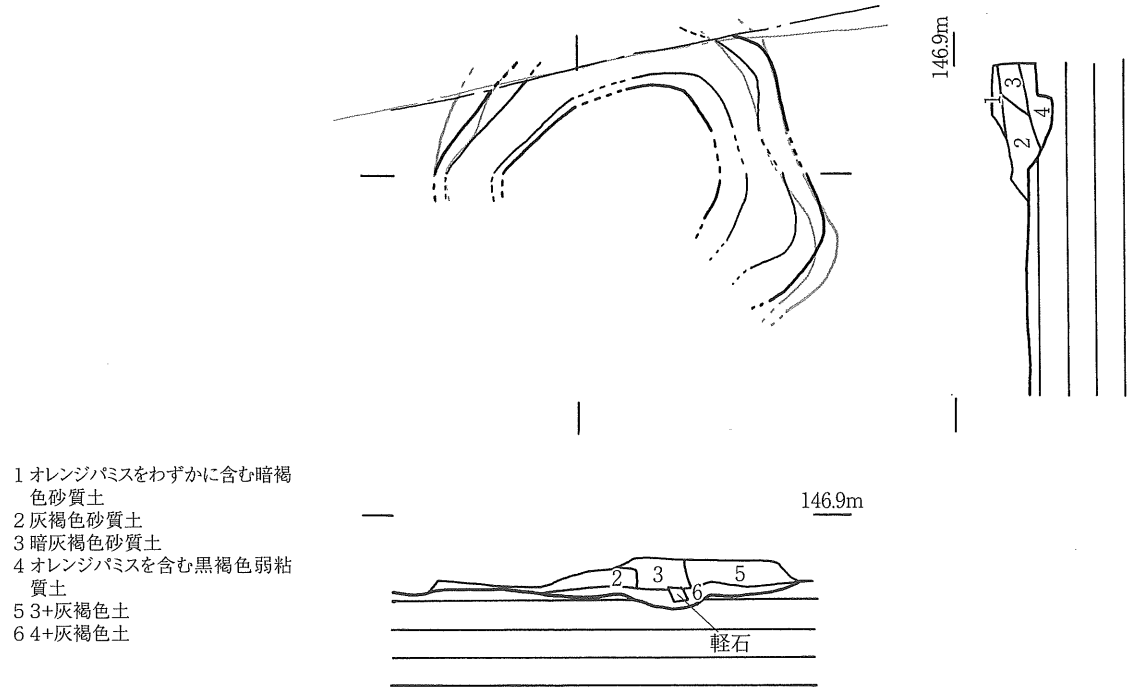
ヌ～ネ－20～21区で確認したＳＡ16はカマドの残存状態が悪く、面的には捉えきれなかった。南壁に土坑が切り合う。１辺4.5mの方形プラン。検出面から床面までの比高差は約15cm。柱穴は４穴確認している。北側に焼土状のものが残っていた（ＳＮ16）。



第27図　ＳＡ１８内出土遺物実測図

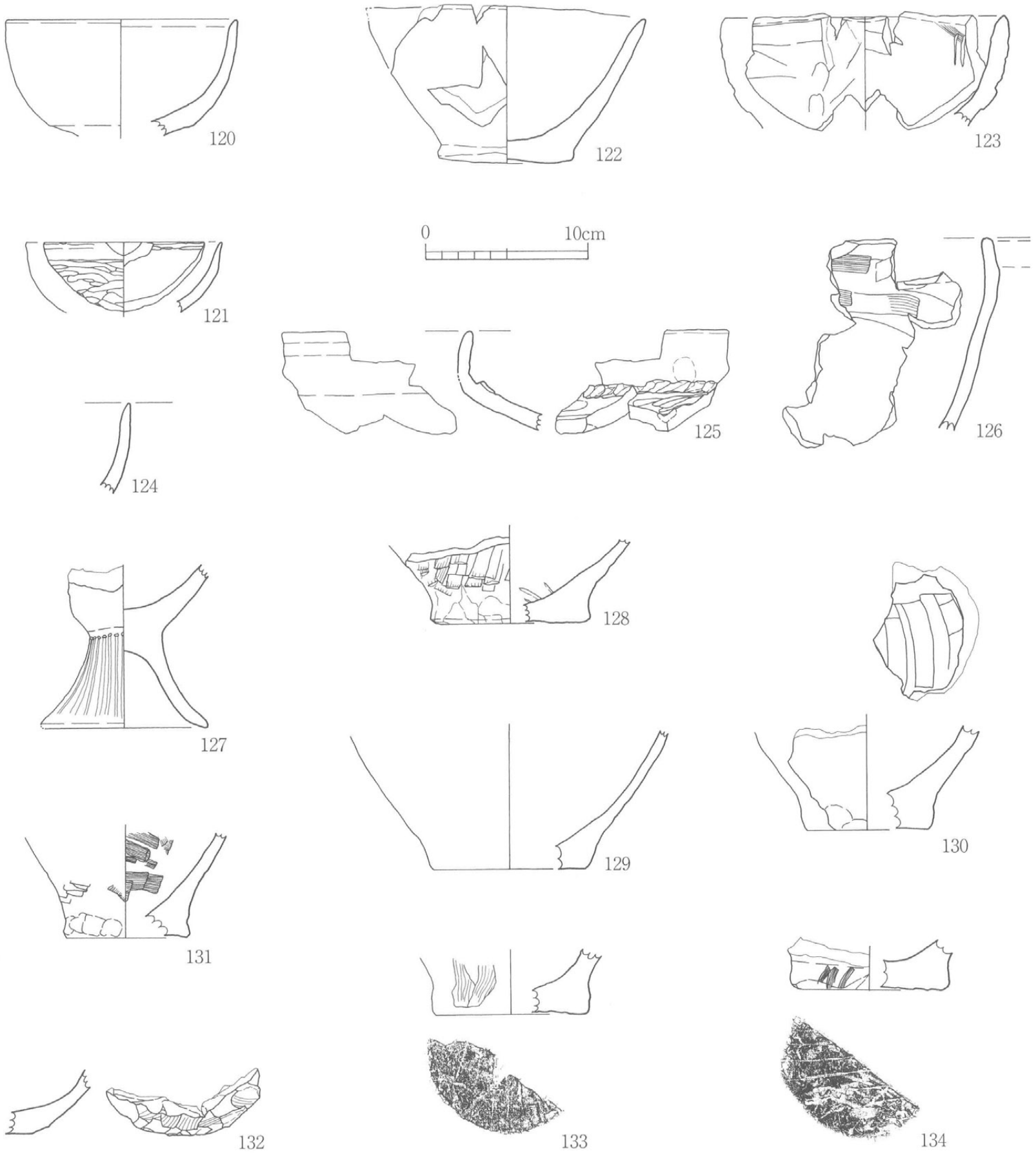


第28図　ＳＡ１９実測図



1 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土
2 灰褐色砂質土
3 暗灰褐色砂質土
4 オレンジパミスを含む黒褐色弱粘質土
5 3+灰褐色土
6 4+灰褐色土

第29図　ＳＡ１９付設カマド（ＳＮ１９）実測図



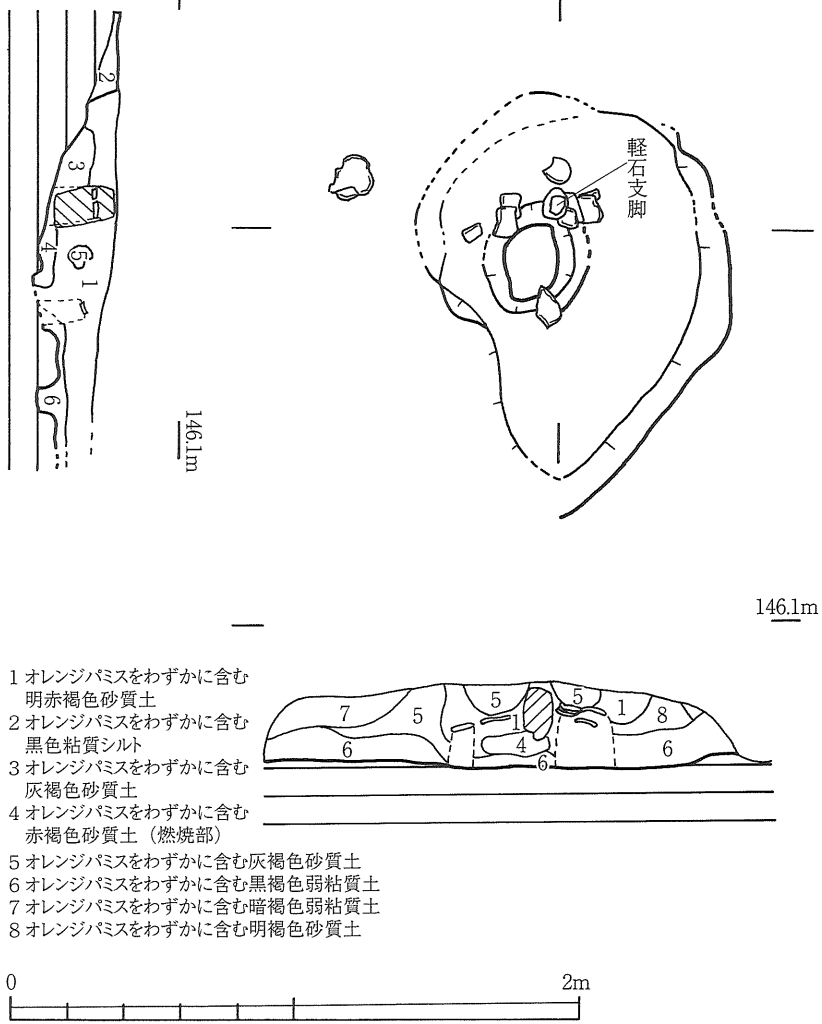
第30図　ＳＡ１９内出土遺物実測図

102は毬形の底部か。103は坏蓋の口縁部か。104は甕の口縁部か。105は須恵器坏の口縁部。口径9.8cmを測る。器壁は薄い。106は須恵器胴部。内器面に同心円状当て具痕あり。

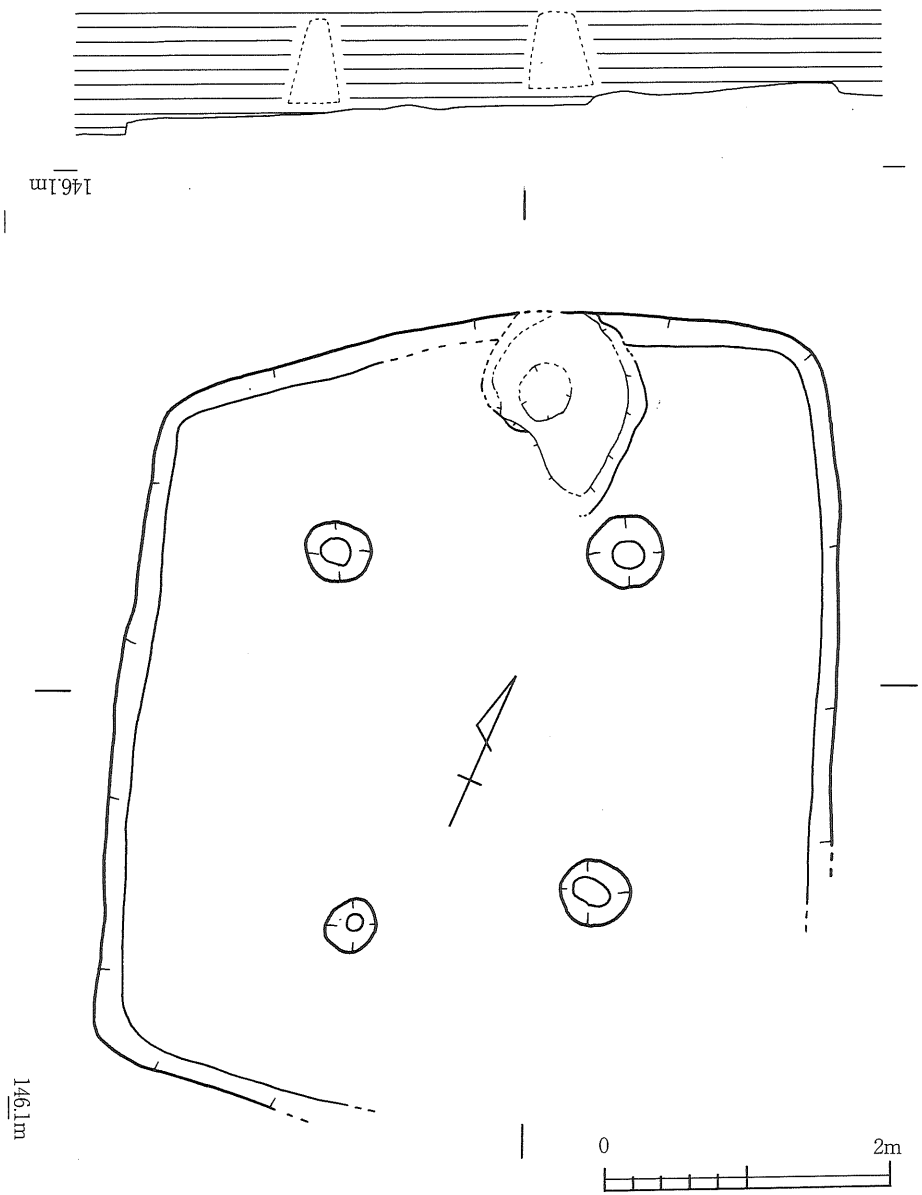
【17・18号竪穴住居跡（ＳＡ17・18：第25～27図）】

ＳＡ15の南側にあるＳＡ17・18は切り合っており、17→18の時期差がある。17はほとんどを18に切られてしまっている。１辺約４ｍを測る方形の住居跡と思われる。18はＮ－Ｓ4.3m、Ｅ－W3.4mを測る、やや歪んだ方形プランの住居跡である。18には北壁にカマド状遺構が設けられていた（ＳＮ18）が、すでに土圧の影響か、形状は明確とはいえない状況であった。検出面から床面までの比高差は約10cmを測る。

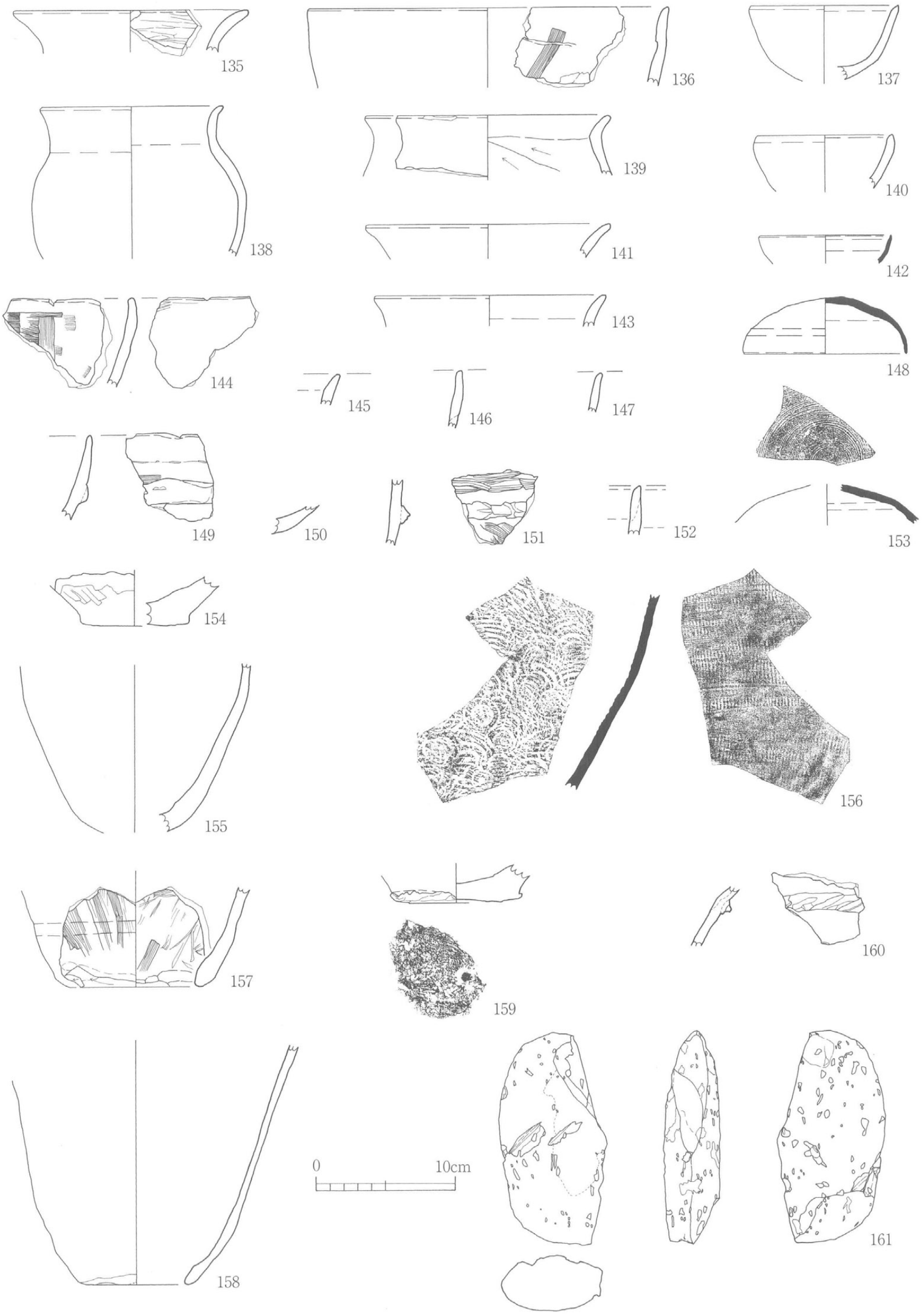
第27図に出土遺物を示した。107は坏である。口径18cmを測り、内器面に横位のミガキがある。108は甕である。109は甑もしくは甕の口縁部と思われる。１条の突帯を付す。110は坏蓋。口径12.6cm、器高4.5cmを測る。外器



第32図　ＳＡ２０付設カマド（ＳＮ２０）実測図



第31図　ＳＡ２０実測図



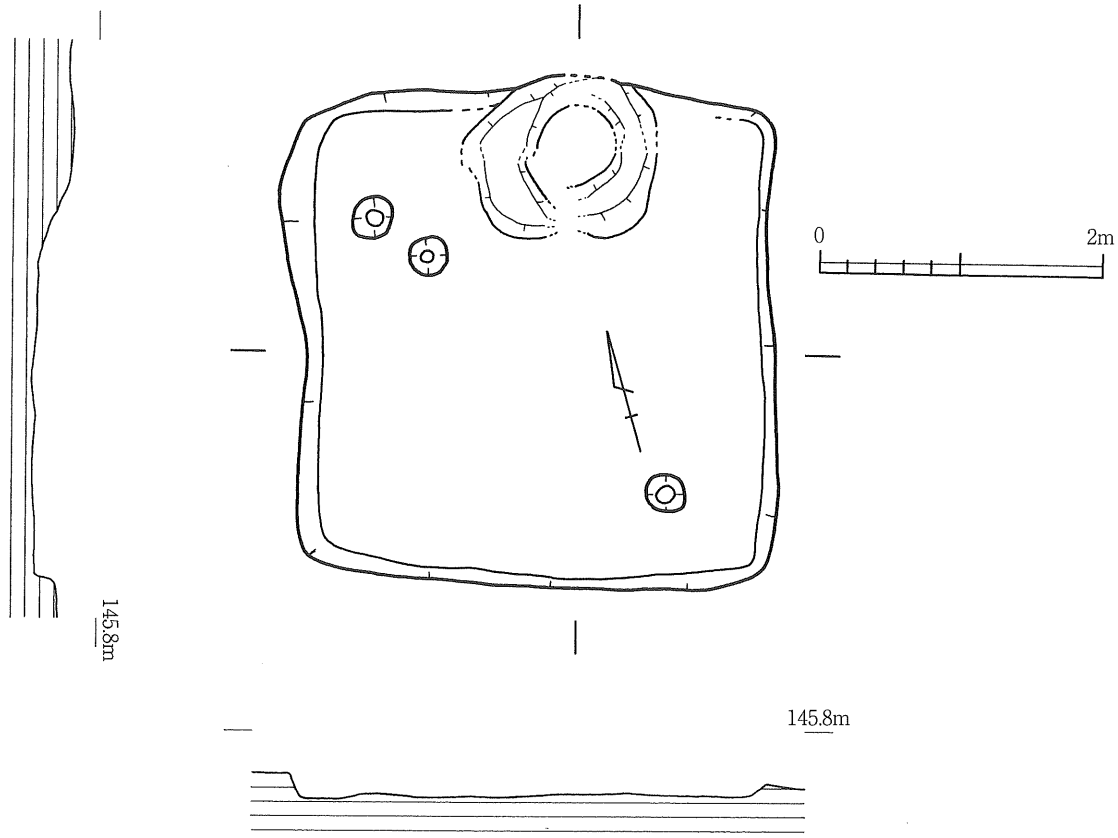
第33図　ＳＡ２０内出土遺物実測図（１）

面に「×」あり。111は甕の口縁部。112は甕の肩部か。突帯を１条もつ。113は底部片。114は甕と思われる。口径30.4㎝を測る。１条の突帯をもつ。115は甕の口縁部か。116は甑の底部。底径９㎝の単口である。内外器面ともに、工具によるナデ調整がなされている。117は軽石製品。118は甕の底部か。内器面には工具によるナデ調整痕が明瞭である。119は底部。内器面は工具ナデ調整。

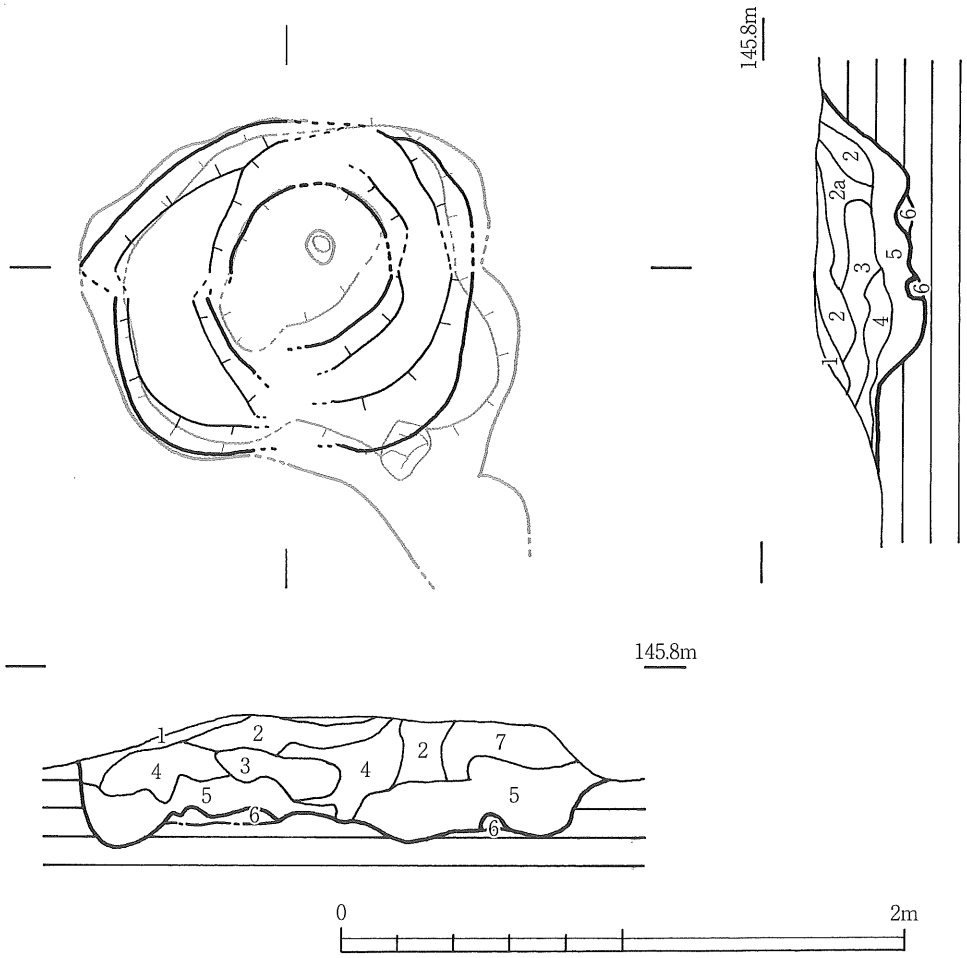
【19号竪穴住居跡（ＳＡ19：第28～30図）】

ＳＡ19はＳＡ12の西、セ～ソ－19～20区で確認した。１辺約4.9m。壁面を壁帯溝が巡り、北側にはカマドが備わっている。柱穴は４穴であろうが、３穴のみ確認した。検出面から床面までの比高差は約15cmを測る。

第34図　ＳＡ２０内出土遺物実測図（２）

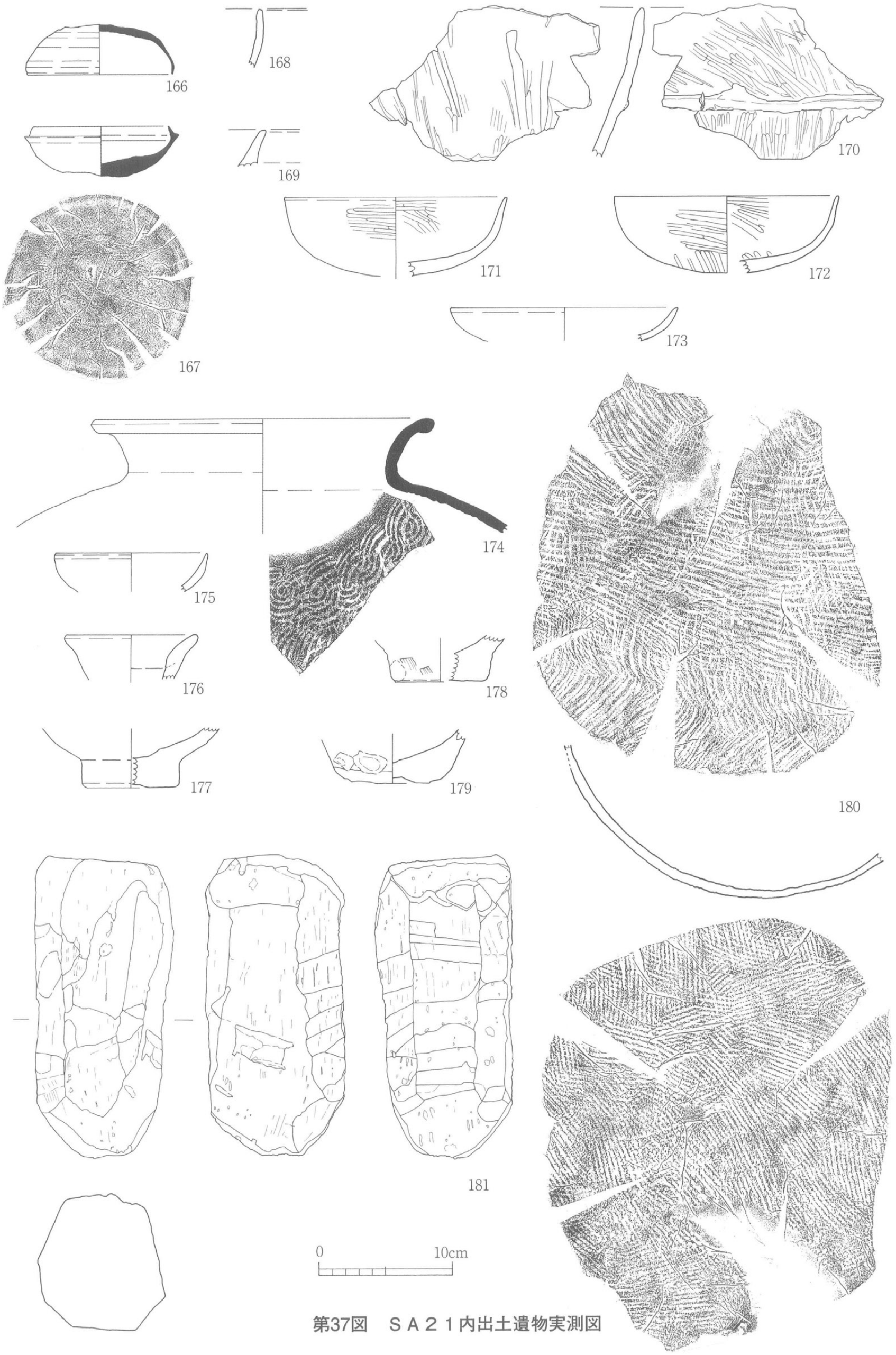


第35図　ＳＡ２１実測図

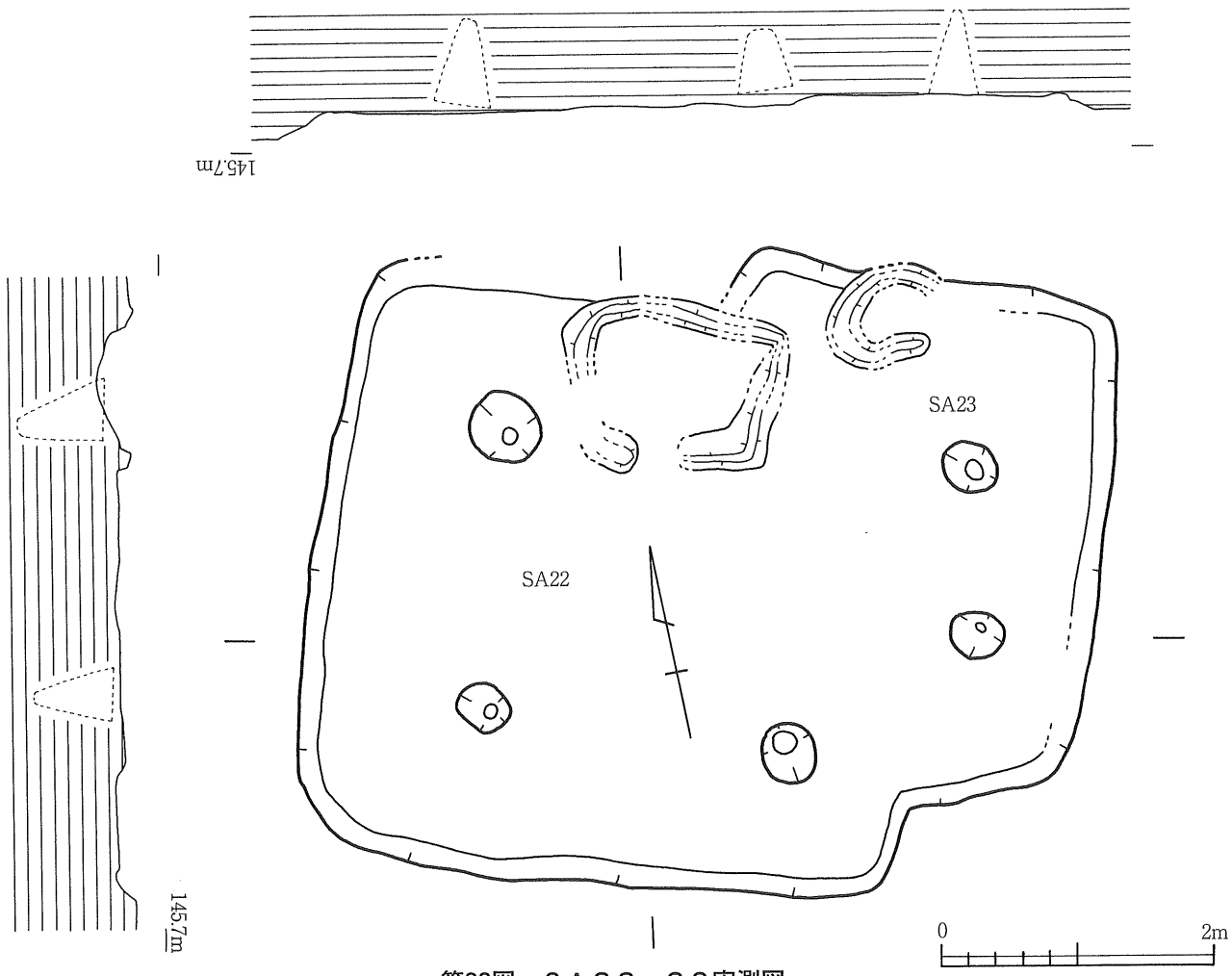


1 オレンジパミス・黒褐色弱粘質土・灰褐色砂質土の混層
2 オレンジパミスをわずかに含む明褐色砂質土
3 赤褐色砂質土
4 オレンジパミスをわずかに含む褐色砂質土
5 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土
6 オレンジパミス（御池軽石）
7 オレンジパミス・黒褐色弱粘質土・灰褐色砂質土の混層
2a オレンジパミスをわずかに含む明褐色弱粘質土

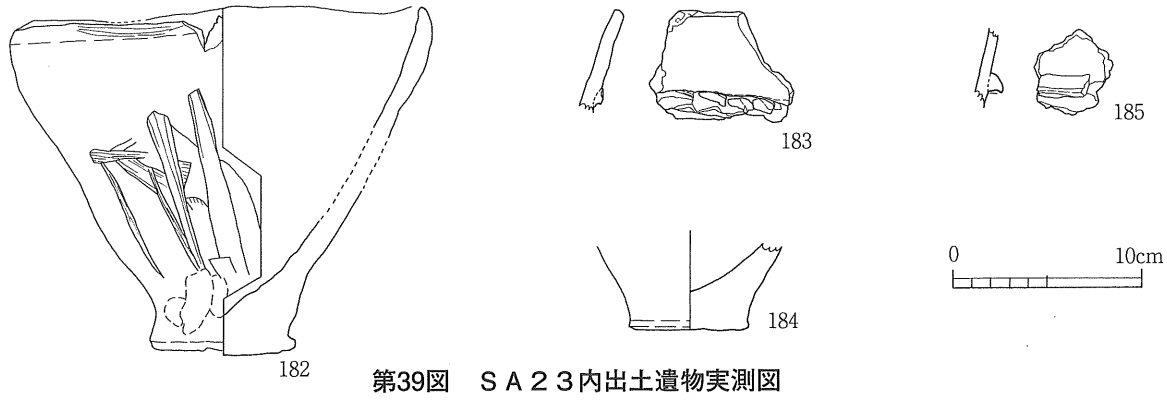
第36図　ＳＡ２１付設カマド（ＳＮ２１）実測図



第37図　ＳＡ２１内出土遺物実測図



第38図　ＳＡ２２・２３実測図

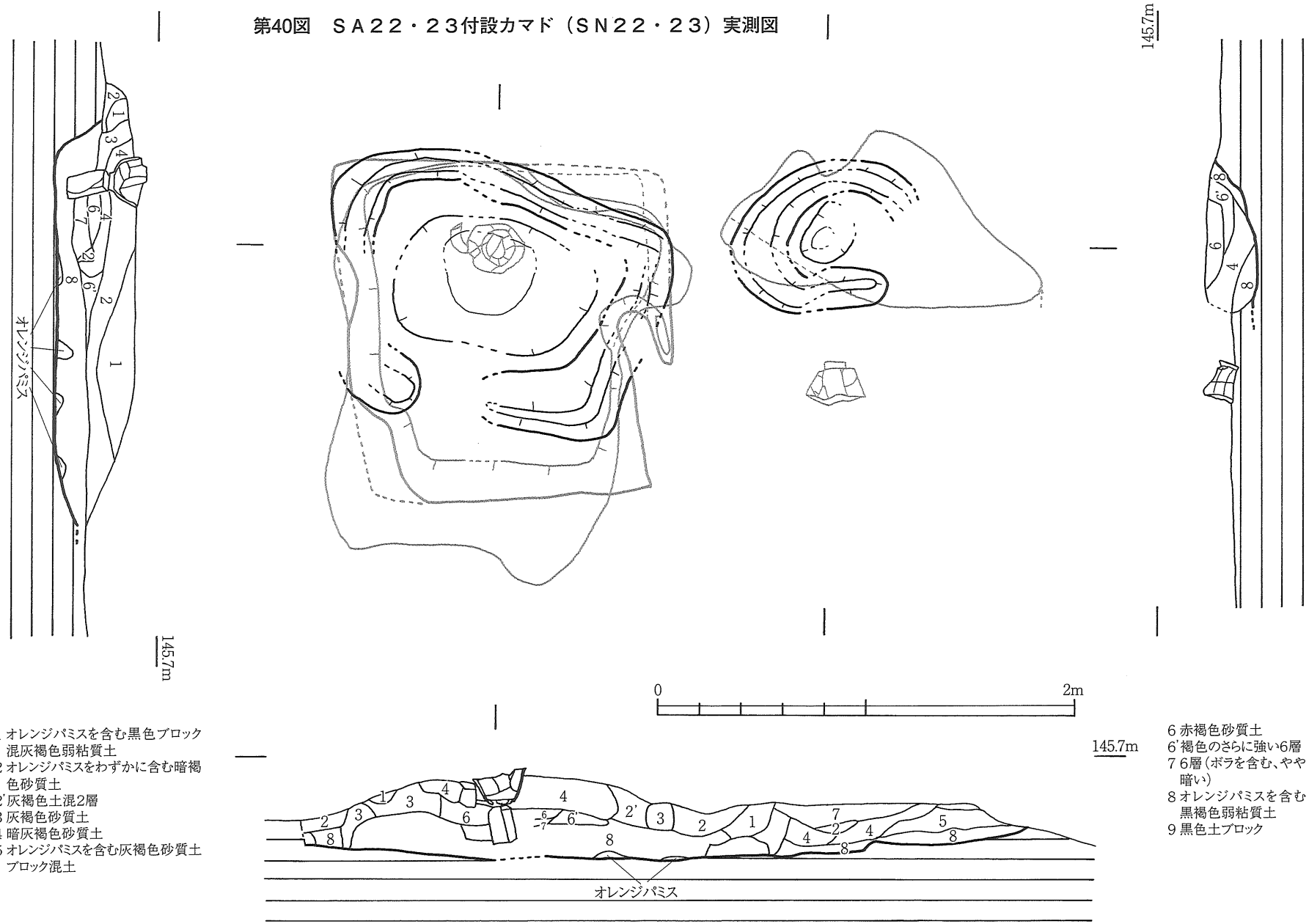


第39図　ＳＡ２３内出土遺物実測図

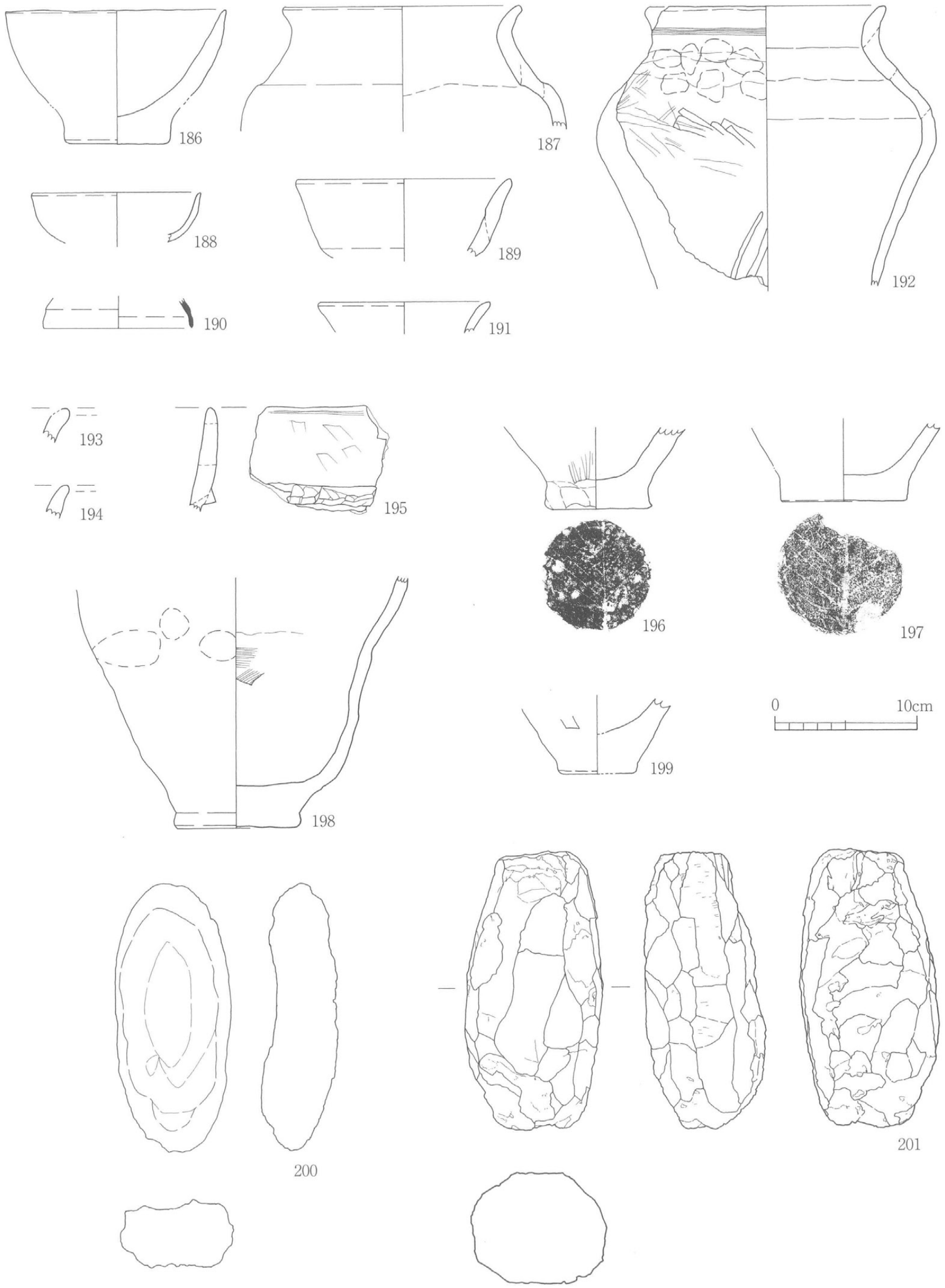
カマド状遺構（ＳＮ19）は調査区壁際にあり、ＳＡ19の北側柱穴に若干重なる状態にあった。形状ははっきりしない。

120は高坏の坏部と思われる。口径は14cm。内外ともにナデ調整である。121は坏。内外ともにミガキが施されている。外器面は横位方向のミガキであり、内器面は磨耗でよくわからない。口径12cm。122は鉢形か。口径17.2cm、底径8.4～8.5cm、器高8.9～9.8cmを測る。123は坏か。124は坏の口縁部。125は短頸壷の口縁部か。口縁下に突帯を１条付す。外器面の突帯下には斜位のミガキがなされている。126は甕の口縁部か。内器面に工具ナデ調整痕がよく残る。127は高坏の脚部である。丁寧にミガキがなされている。128～131は底部。全て甕か。128は底径10cmを測り、縦位の工具ナデ調整が明瞭である。130も同様に工具ナデ調整。131も同様である。

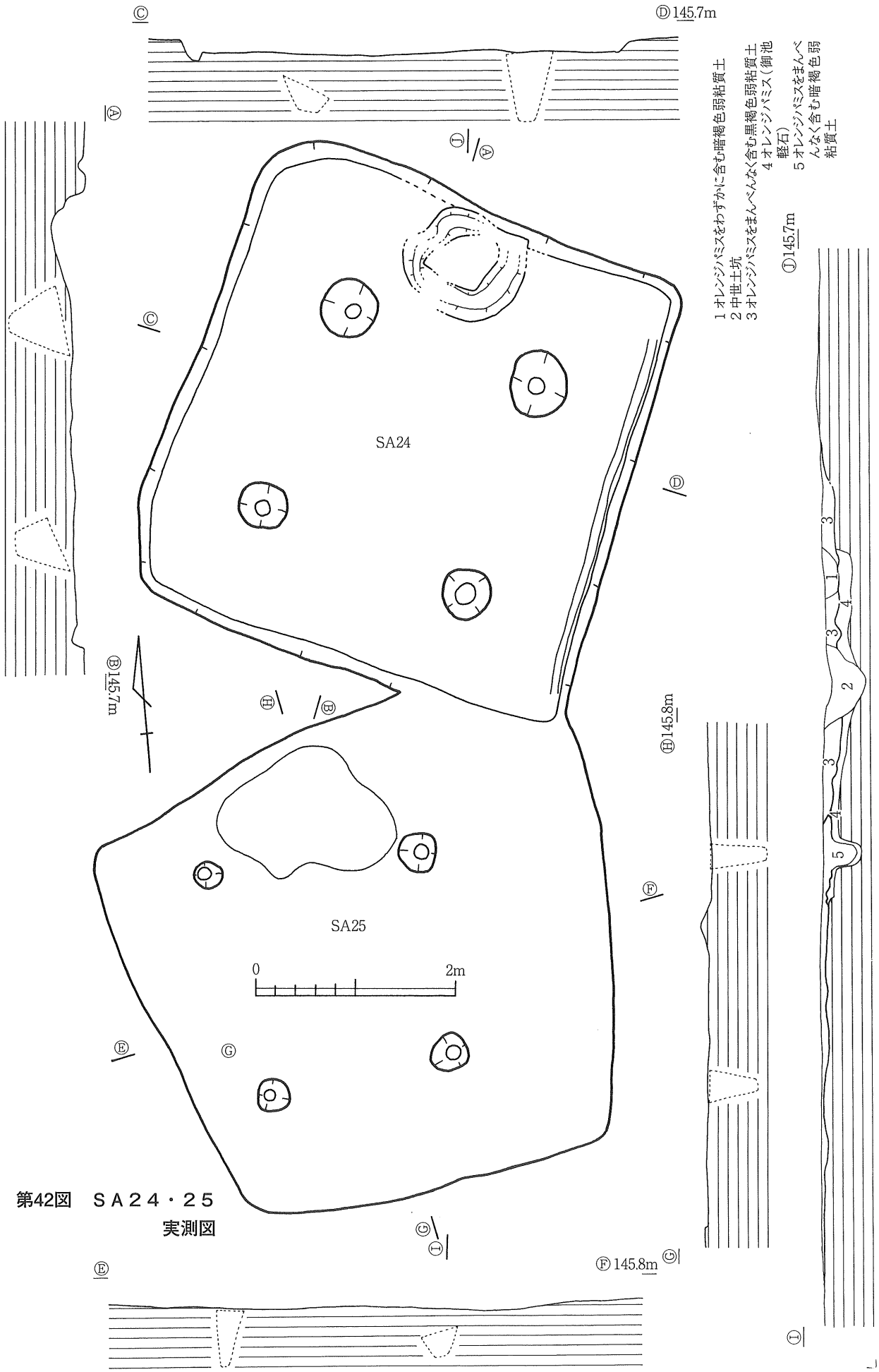
第40図　ＳＡ２２・２３付設カマド（ＳＮ２２・２３）実測図



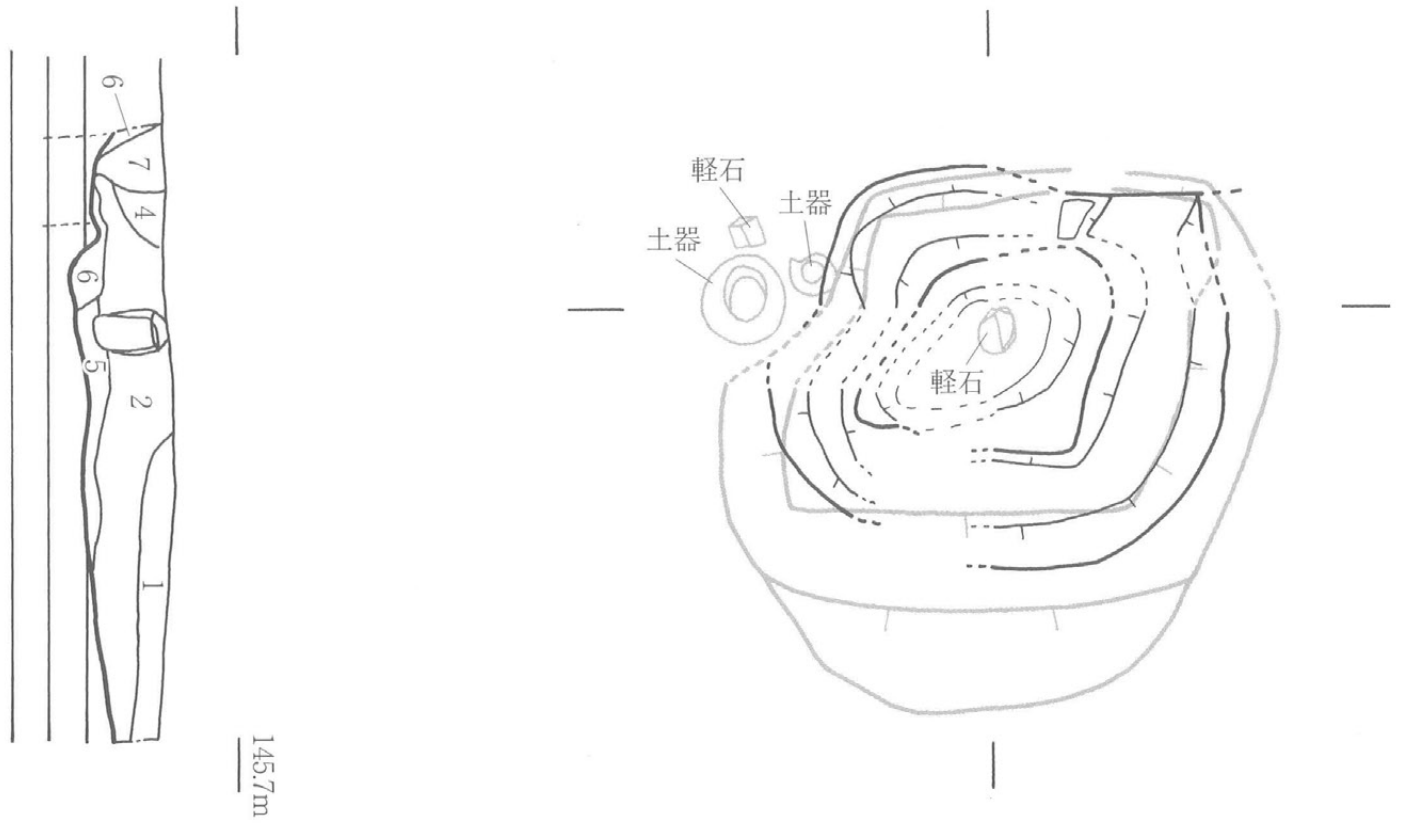
1 オレンジパミスを含む黒色ブロック混灰褐色弱粘質土
2 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土
2' 灰褐色土混2層
3 灰褐色砂質土
4 暗灰褐色砂質土
5 オレンジパミスを含む灰褐色砂質土ブロック混土
6 赤褐色砂質土
6' 褐色のさらに強い6層
7 6層（ボラを含む、やや暗い）
8 オレンジパミスを含む黒褐色弱粘質土
9 黒色土ブロック



第41図　ＳＡ２２内出土遺物実測図

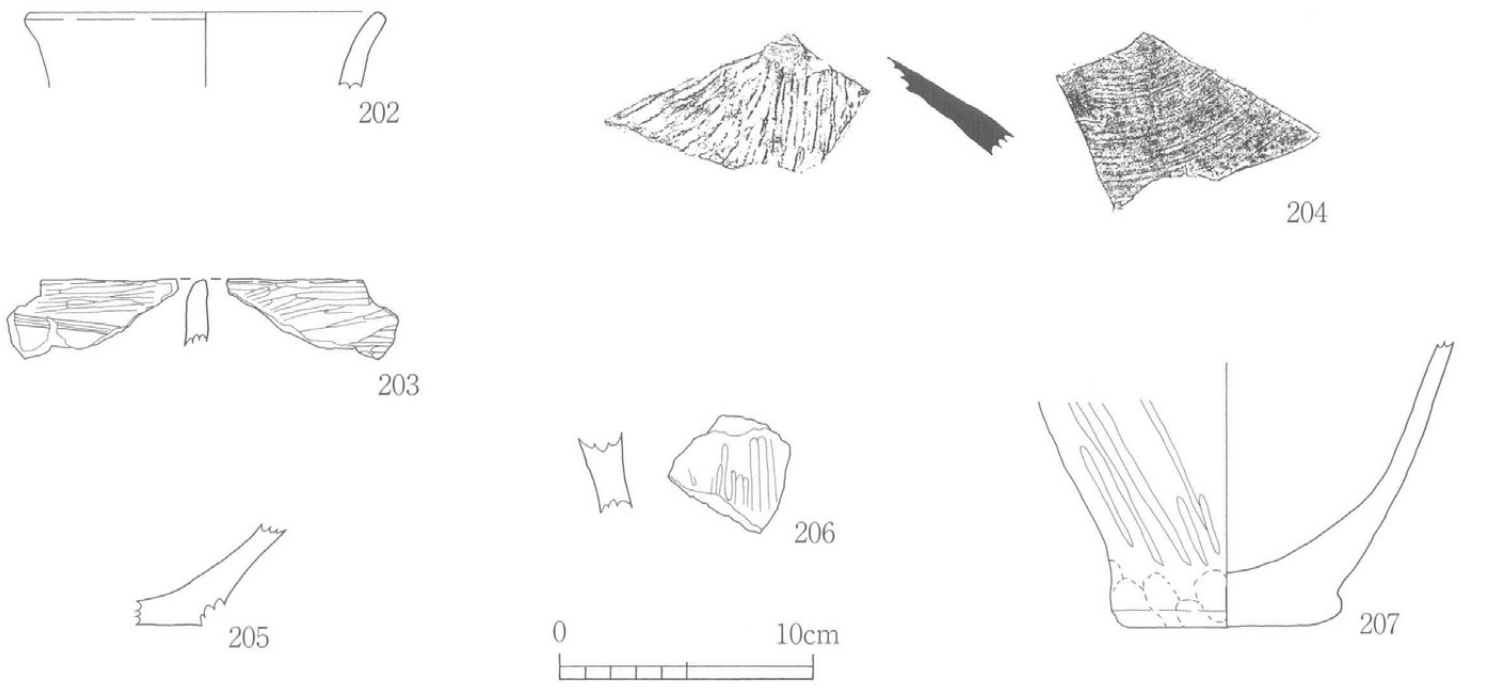


第42図　ＳＡ２４・２５
実測図

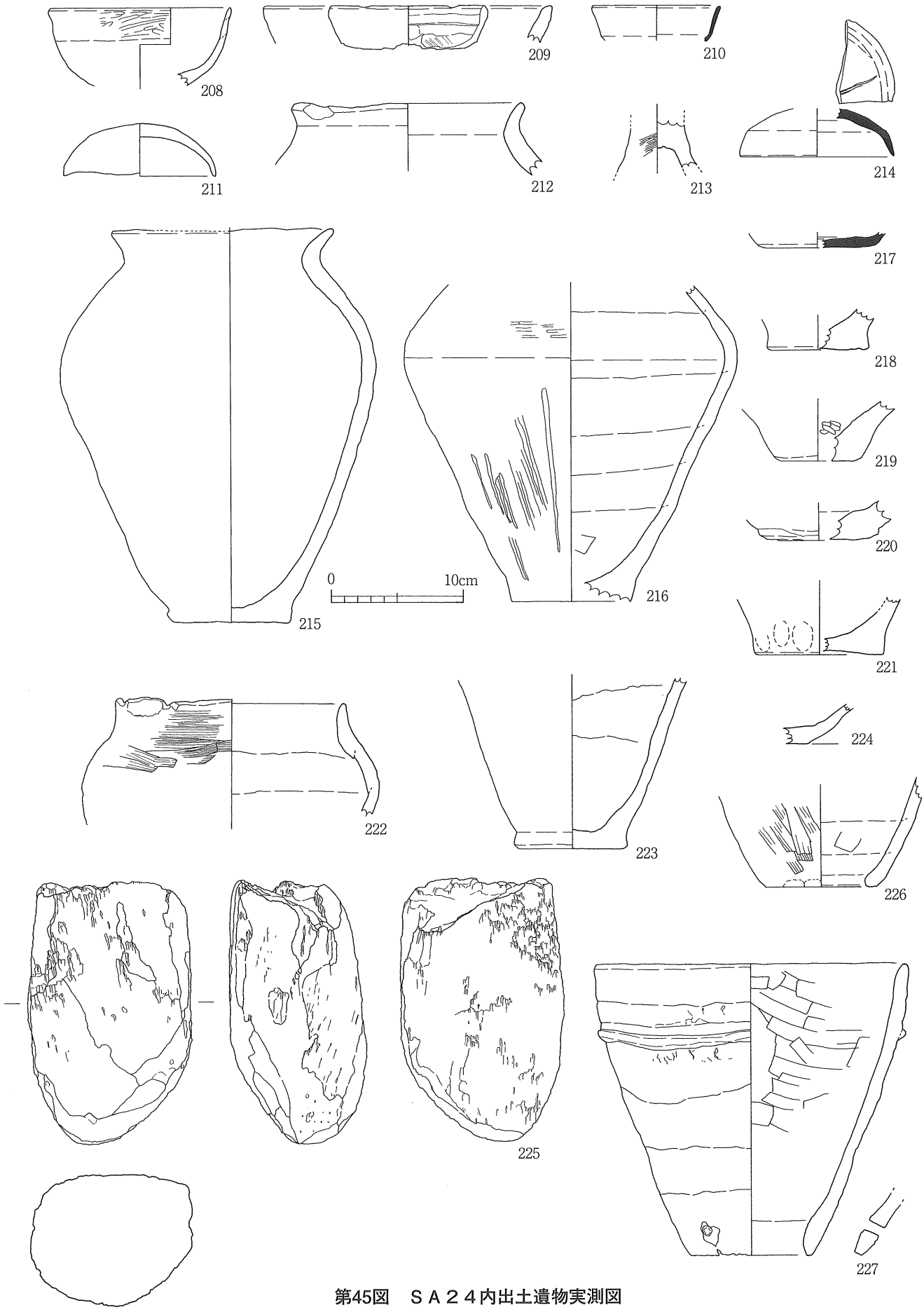


1 オレンジパミスを含む黒色ブロック混灰褐色弱粘質土
2 灰褐色砂質土
3 2層より白っぽい
4 暗灰褐色砂質土
5 赤褐色砂質土
6 オレンジパミスを含む黒褐色弱粘質土
7 6層にわずかに灰褐色土混
8 オレンジパミスを含む暗褐色弱粘質土

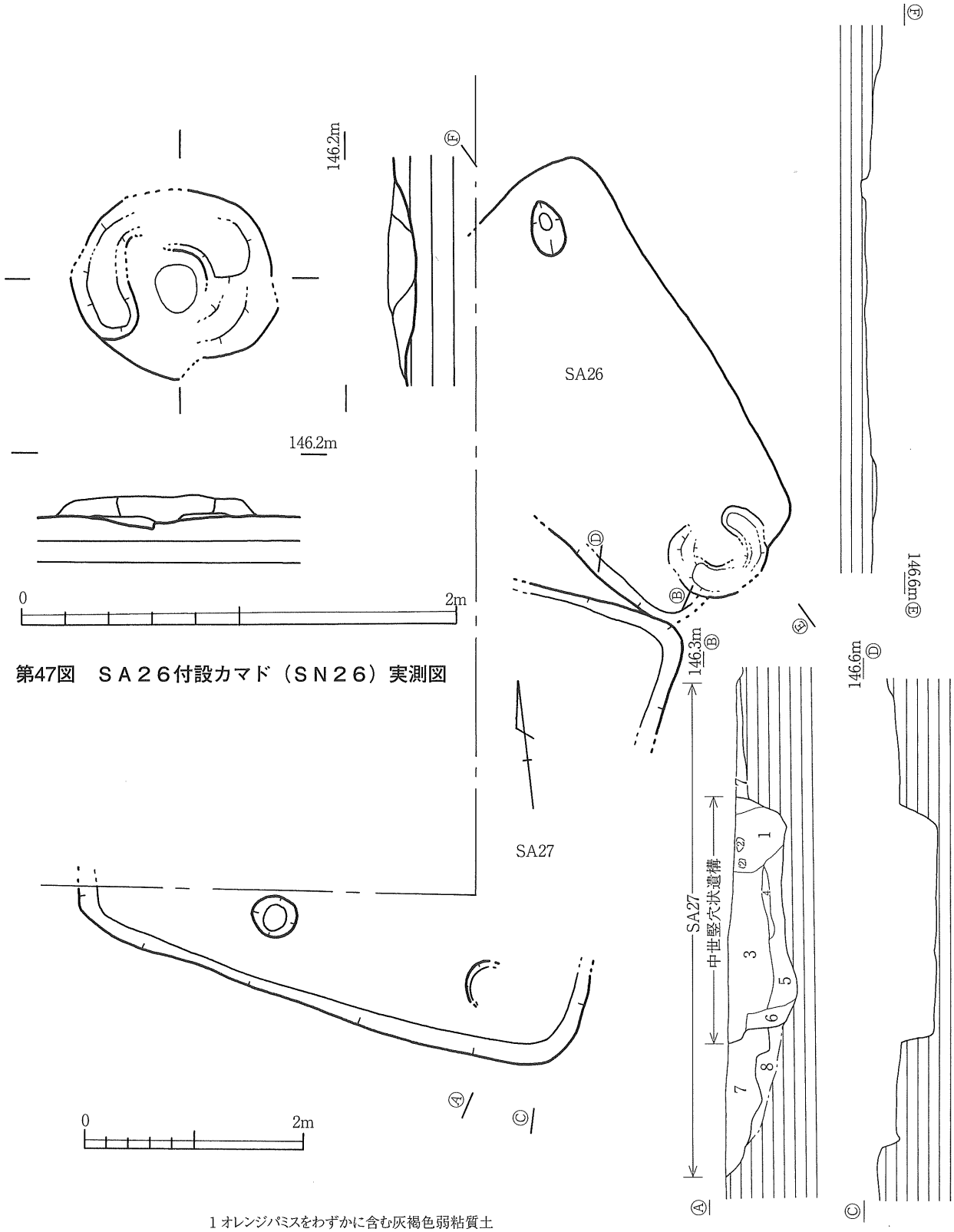
第43図　ＳＡ２４付設カマド（ＳＮ２４）実測図



第44図　ＳＡ２５内出土遺物実測図



第45図　ＳＡ２４内出土遺物実測図



第47図　ＳＡ２６付設カマド（ＳＮ２６）実測図

1 オレンジパミスをわずかに含む灰褐色弱粘質土
2 オレンジパミス混褐色粘質土
3 オレンジパミスを多量に含む暗褐色砂質土
4 オレンジパミスを多量に含む暗灰褐色砂質土（硬）
5 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土
6 オレンジパミスを多量に含む暗褐色砂質土（3層よりやや暗）
7 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土
8 オレンジパミス（御池軽石）

第46図　ＳＡ２６・２７実測図

132は底部。133は底径9.4cmを測る。木葉痕が残る。134も同様に木葉痕がある。

【20号竪穴住居跡（ＳＡ20：第31～34図）】

ＳＡ20はニ～ヌ－24～25区で確認した。Ｎ－Ｓ5.5m、Ｅ－W5.1mのやや方形。南東部分は不明瞭。北側ほぼ中央にカマド（ＳＮ20）があり、その形状は明瞭ではなかったものの、確認できた燃焼部には面取りされた軽石製支脚が立ったまま残っていた。周辺には土器も残存していた。検出面から床面までの比高差は約10cm。柱穴は４穴。

出土遺物を第33･34図に掲げた。135は口縁部で、口径16.8cmを測る。136は甕か。137は高坏の坏部であろう。138は甕。口径13cm。調整が丁寧で、内外ともに赤色顔料（丹か）の塗布痕跡が見受けられる。139は口径17.4cmを測る甕口縁部。140は口縁部。141は甕の口縁部か。口径は17.4cm。142は須恵器の小坏。口径9.4cm。器肉は薄い。143は甕の口縁部で、口径16.6cm。144は鉢か。145～147は口縁部。148は須恵器坏蓋。口径11.9cm、器高4.1cmを測る。149は甕口縁部か。内器面には工具ナデ調整痕が残る。150は底部付近か。151は胴部付近であろう。突帯を付す。152は口縁部。153は須恵器。154は甕の底部か。外器面には縦位の工具ナデ痕がみえる。155は甕の底部か。156は内外ともにタタキ痕が明瞭に残る。157は甑底部。底径9.6cmを測る杉井分類の単孔つつぬけタイプである。単孔部内器面をケズリ出して整形している。内外ともに工具ナデ痕あり。158も甑底部。底径８cmの単孔つつぬけタイプ。159は底部。組織痕らしきものあり。160は胴部で、突帯１条をもつ。161は軽石製。162～165はカマド（ＳＮ20）内から出土したものである。162は甕の胴部。接合痕が明瞭で、外器面には工具ナデ痕がある。163は口縁部。164は丸底状甕か。165は軽石製支脚。長径約25cmを測る。部分的な面取りがなされている。

【21号竪穴住居跡（ＳＡ21：第35～37図）】

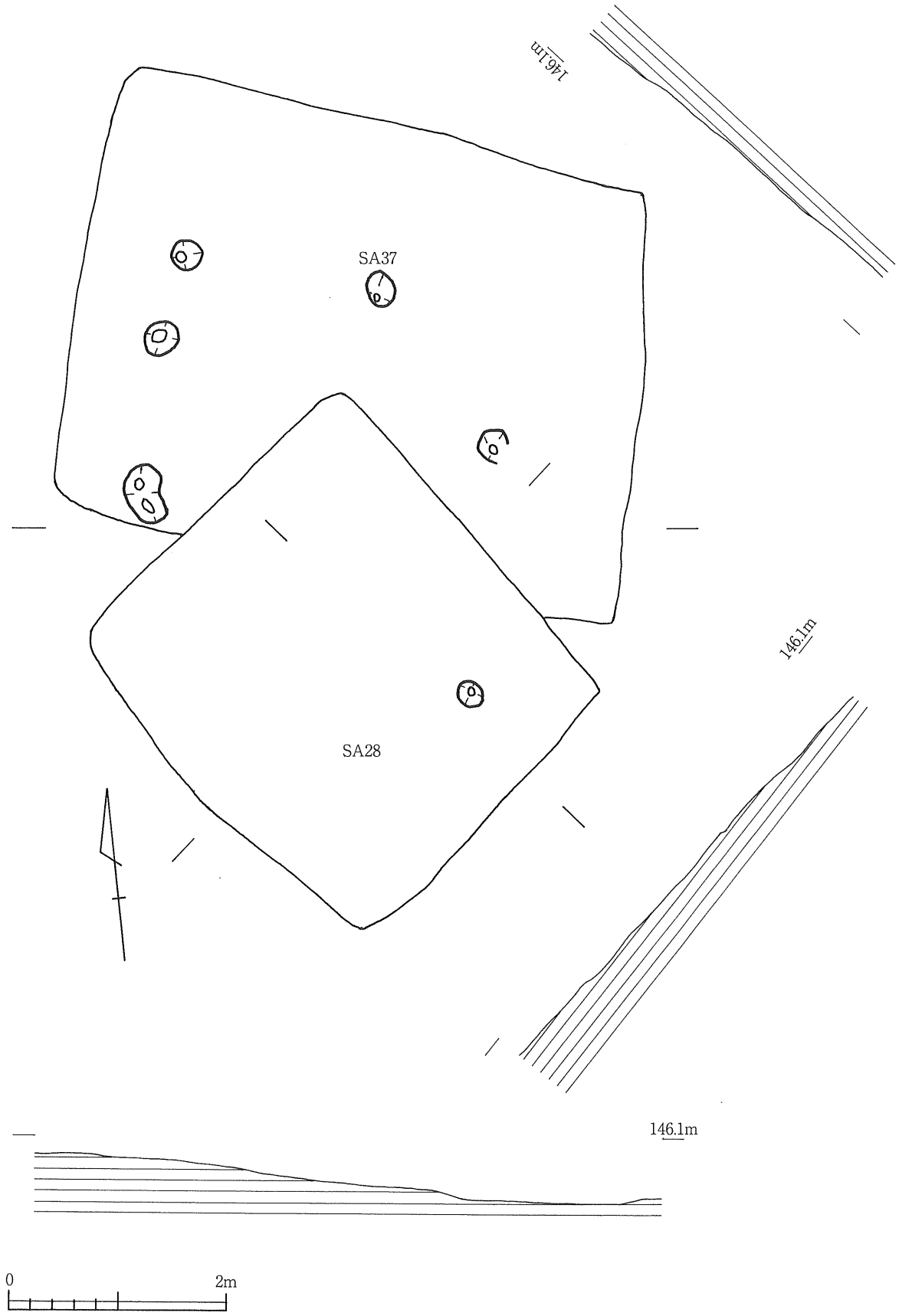
ＳＡ20の東側にはＳＡ21がある。Ｎ－Ｓ3.3m、Ｅ－W3.5mを測り、ＳＡ10と同じくやや小ぶりである。主柱穴ははっきりしない。北壁にカマドの痕跡（ＳＮ21）を残していた。カマドの形状は明確でないもののＳＡ01と近似した状況で、中央の燃焼部からは軽石製支脚も見つかっている。

出土遺物を第37図に示した。166は須恵器坏蓋である。口径10.8cm、器高3.8cmを測る。167は須恵器坏身である。口径9.9～10.1cm、器高3.9cmを測る。外器面には「×」がある。168は甕の口縁部か。169は高坏の口縁部か。170はおそらく甑の口縁部であろう。口縁下に１条の突帯を付し、内外ともに斜位、縦位の粗雑なミガキがなされている。171･172は坏。内外ともに横位、斜位のミガキ調整がなされている。173は坏。174は須恵器の甕か。口径25cmを測る。肩部にはタタキ痕が明瞭に残る。175は坏。176は口縁部。177は甕の底部であろうか。178・179も底部。180は内外ともにタタキ痕が明瞭に残る。181は軽石製支脚。長径23cmほど。面取りがなされている。

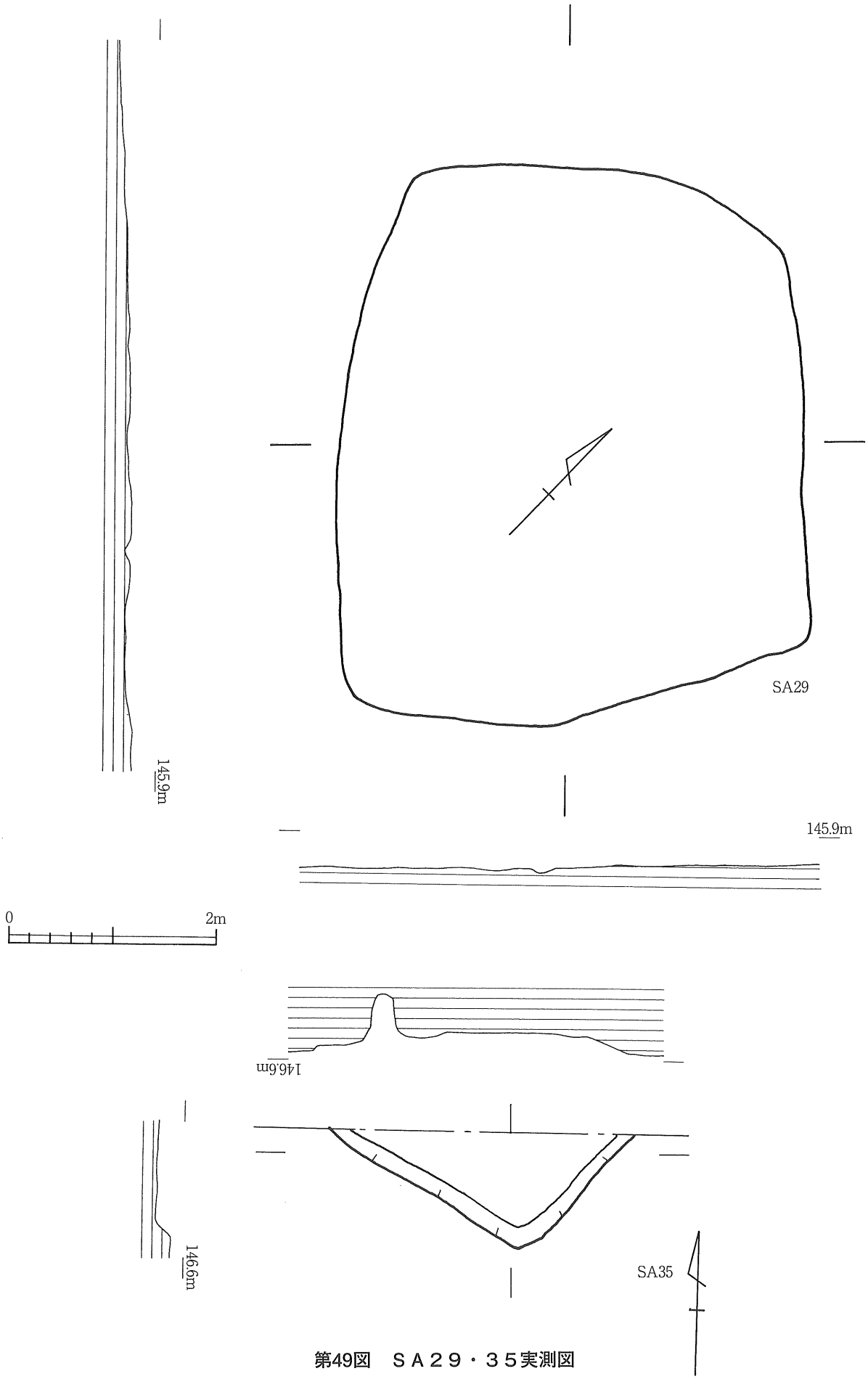
【22・23号竪穴住居跡（ＳＡ22・23：第38～41図）】

ＳＡ21の東、ネ～ノ－25～26区にＳＡ22・23がある。切り合いからみて22→23の時期差を見出しうる。22はＮ－Ｓ4.3m、Ｅ－W4.6mの方形プランで柱穴を３穴確認しているが、主柱穴は４穴であろう。23はＮ－Ｓ3.8m、Ｅ－W2.9mを測り、小さめである。これも恐らく４穴の主柱穴であったと思われるが検出はできなかった。双方ともに北壁にカマドをもつが、23は22による破壊を受けて半分以上欠損している。22のカマド（ＳＮ22）は北壁に設けられ、同様に灰褐色土によって楕円形状に形作られ、カマド内中央部には燃焼部（赤褐色土）があり、その後方に軽石製支脚が立っている。支脚の上には甕の胴部～底部がカマドにかけられた状態で残っていた。23はカマドの形状（SN23）がより不鮮明であったが、燃焼部は確認できた。

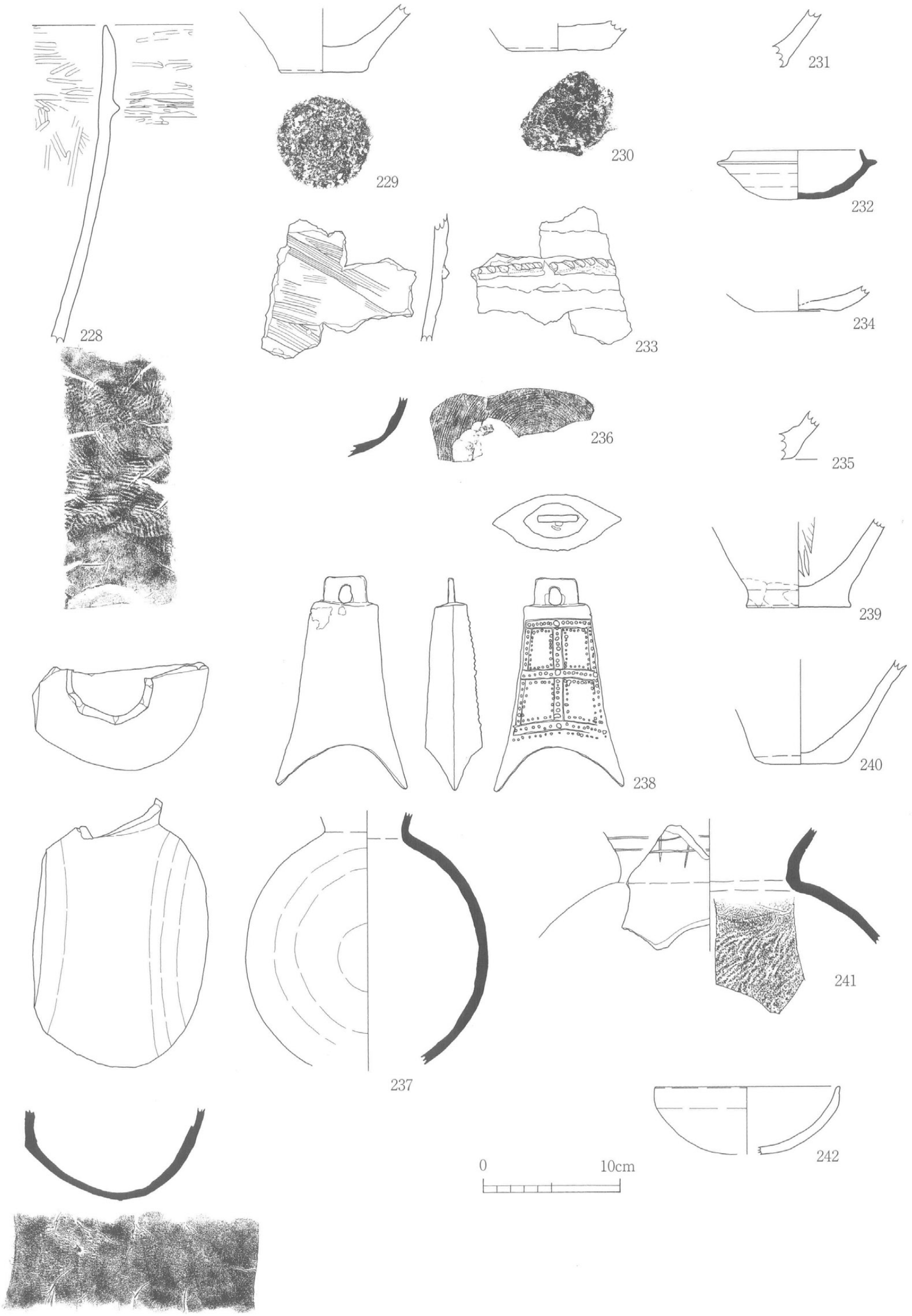
22の出土遺物は第41図（186～201）、23の出土遺物は第40図（182～185）に示した。182は鉢形。口径21.6cm、底径7.5cm、器高約18cmを測る。183は甕の口縁部か。突帯をもつ。184は底部。185は甕か。突帯あり。186は鉢か。口径15cm、底径6.6cm、器高9.4cmを測る。187は甕。口径16.6cmを測る。内器面に接合痕が明瞭に残る。188は坏。189は高坏の坏部か。190は須恵器。口径10.6cmを測る。191は甕の口縁部か。192は甕。底部が欠損。SN22内出土。外器面には指頭痕、工具ナデ痕が残る。193・194は口縁部。195は口縁部。１条の突帯をもつ。196・197はともに木葉痕が残る。198・199は甕底部か。198は底径8.4cmを測る。200は軽石製。201は軽石製支脚である。長径19.5cmほど。比較的丁寧な面取りがなされている。



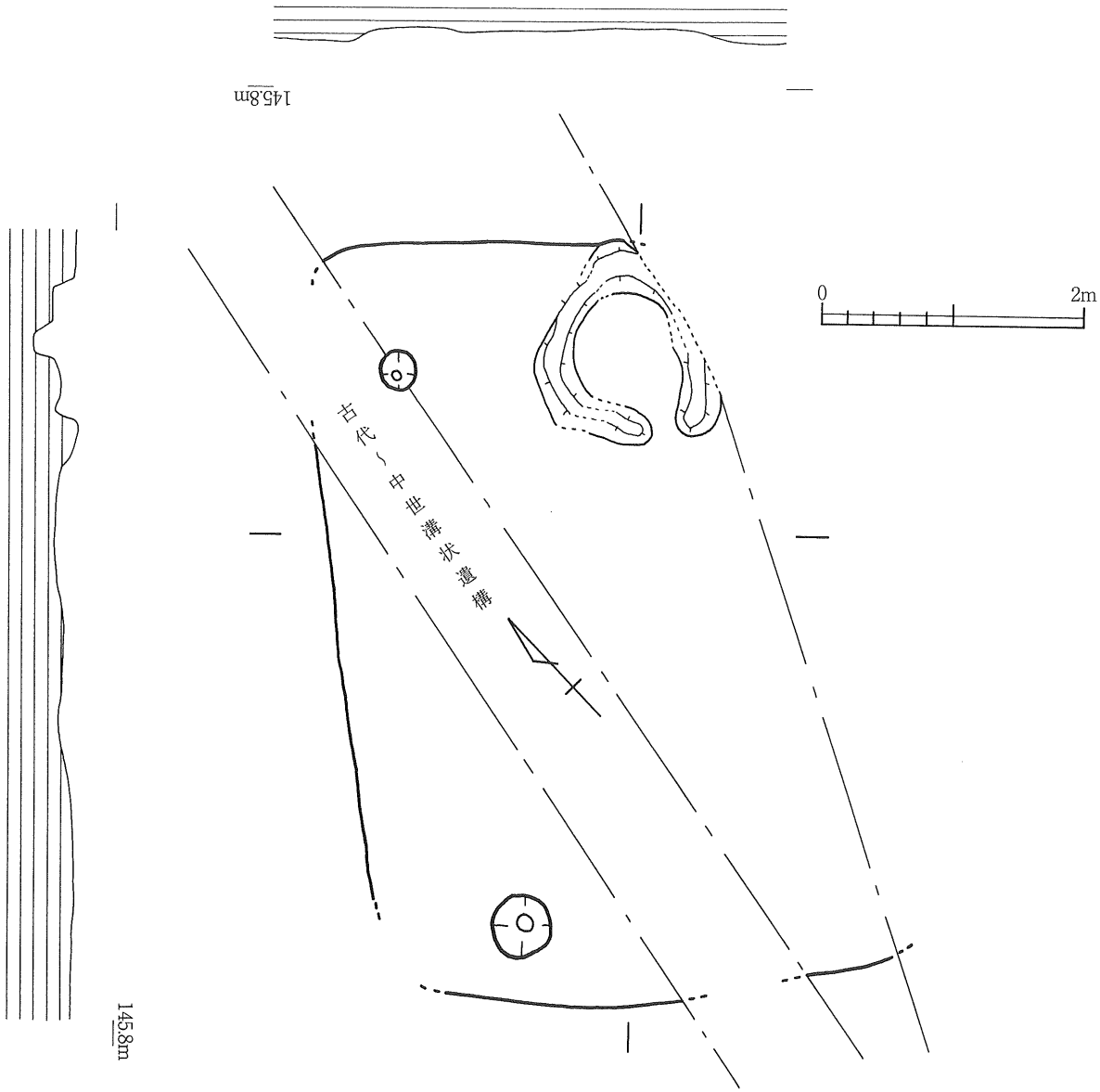
第48図　ＳＡ２８・３７実測図



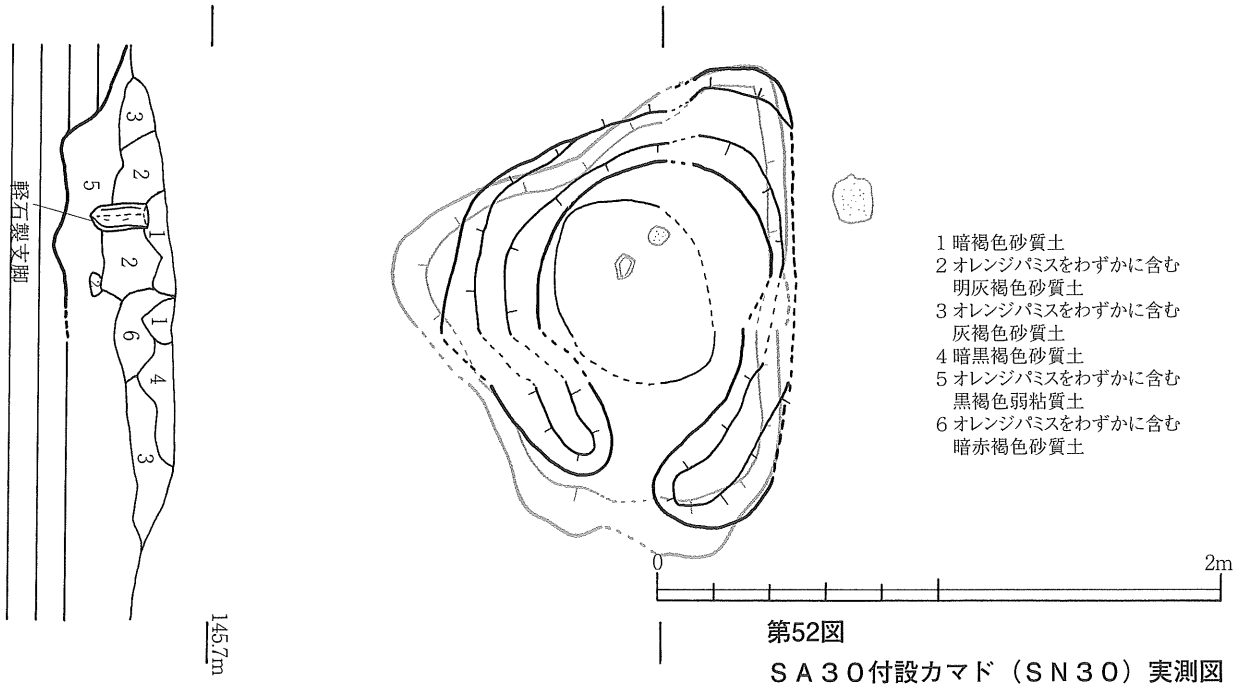
第49図　ＳＡ２９・３５実測図



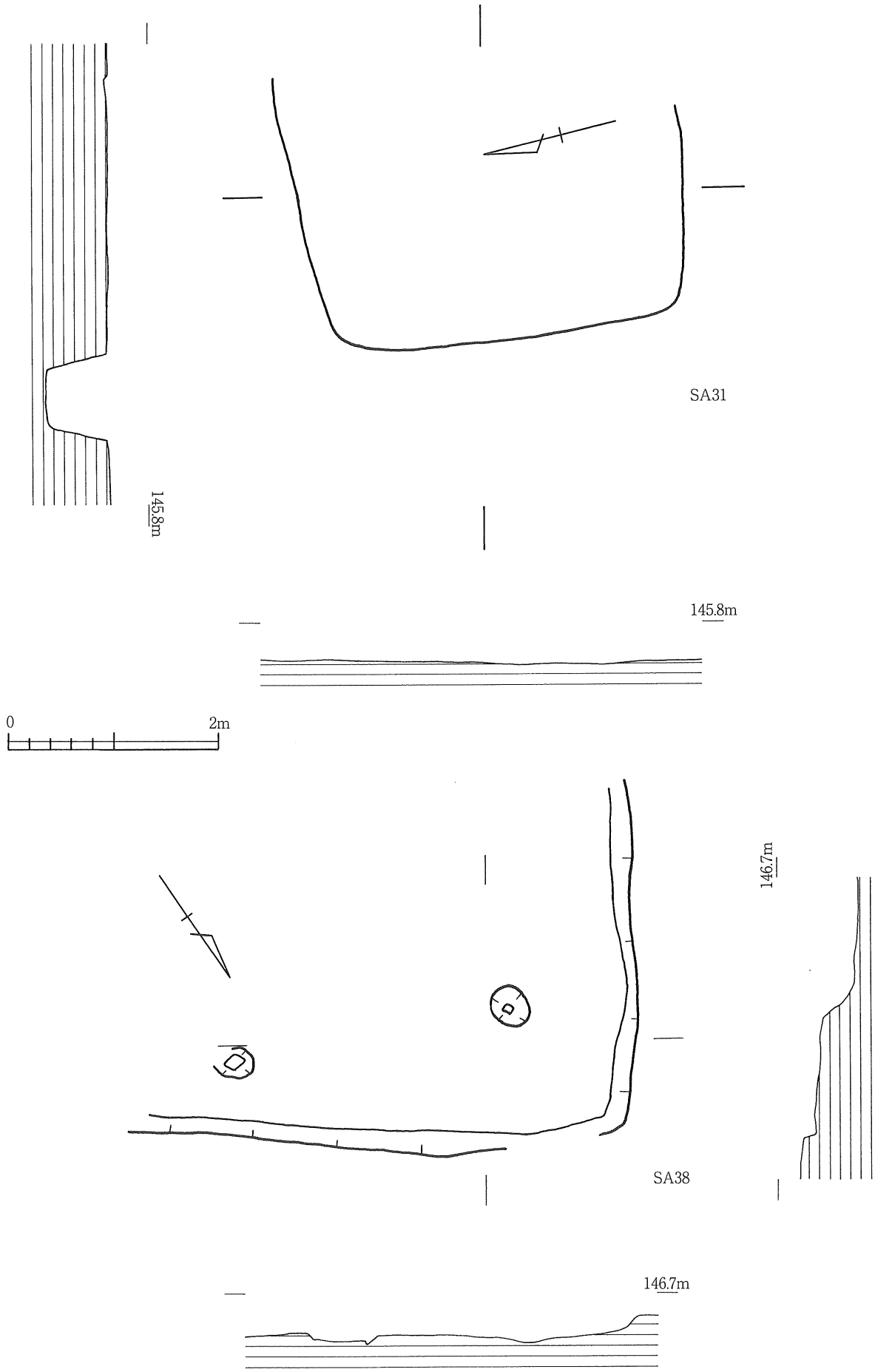
第50図　ＳＡ２６・２７・３５・３７内出土遺物実測図



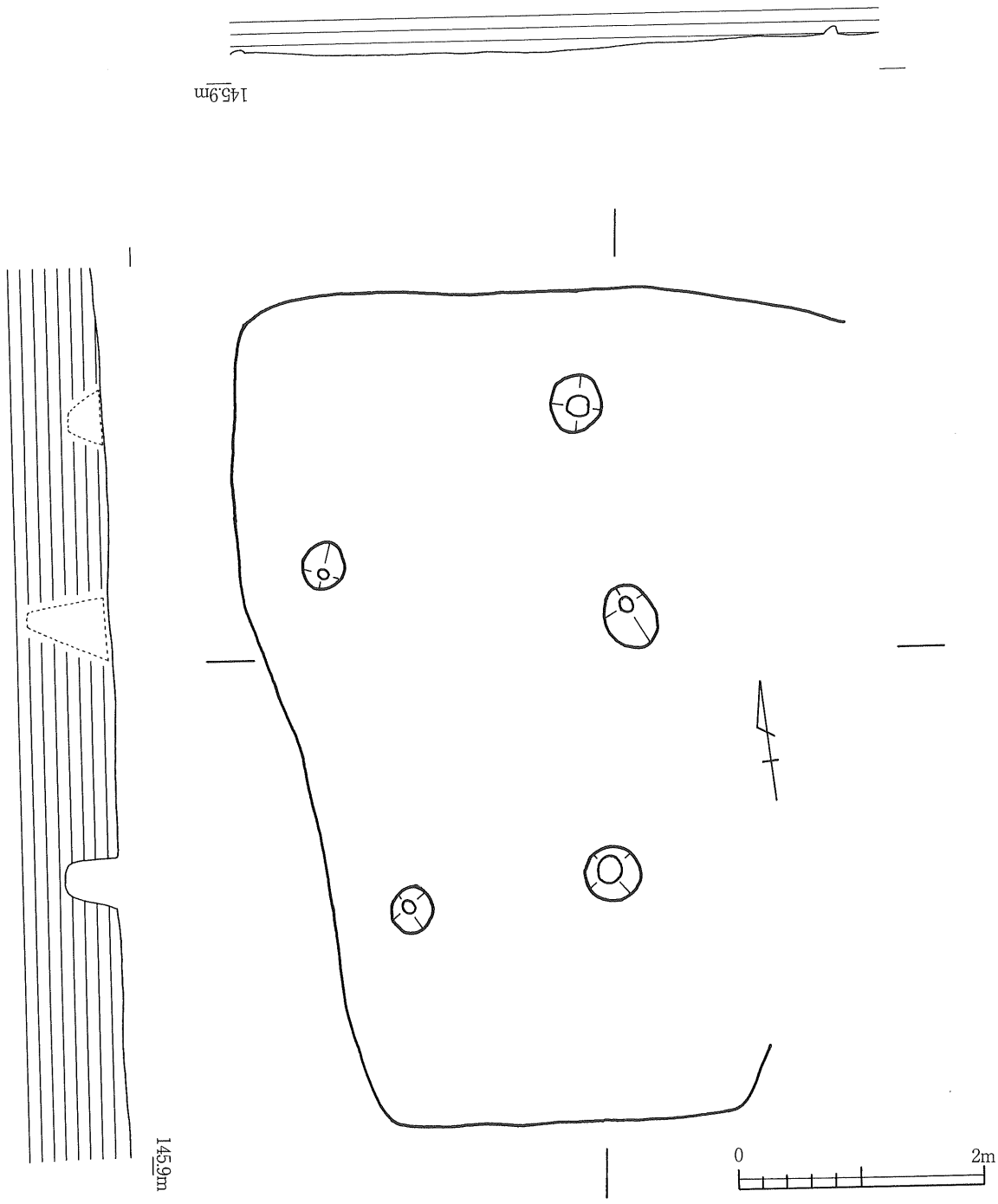
第51図　ＳＡ３０実測図



第52図
ＳＡ３０付設カマド（ＳＮ３０）実測図



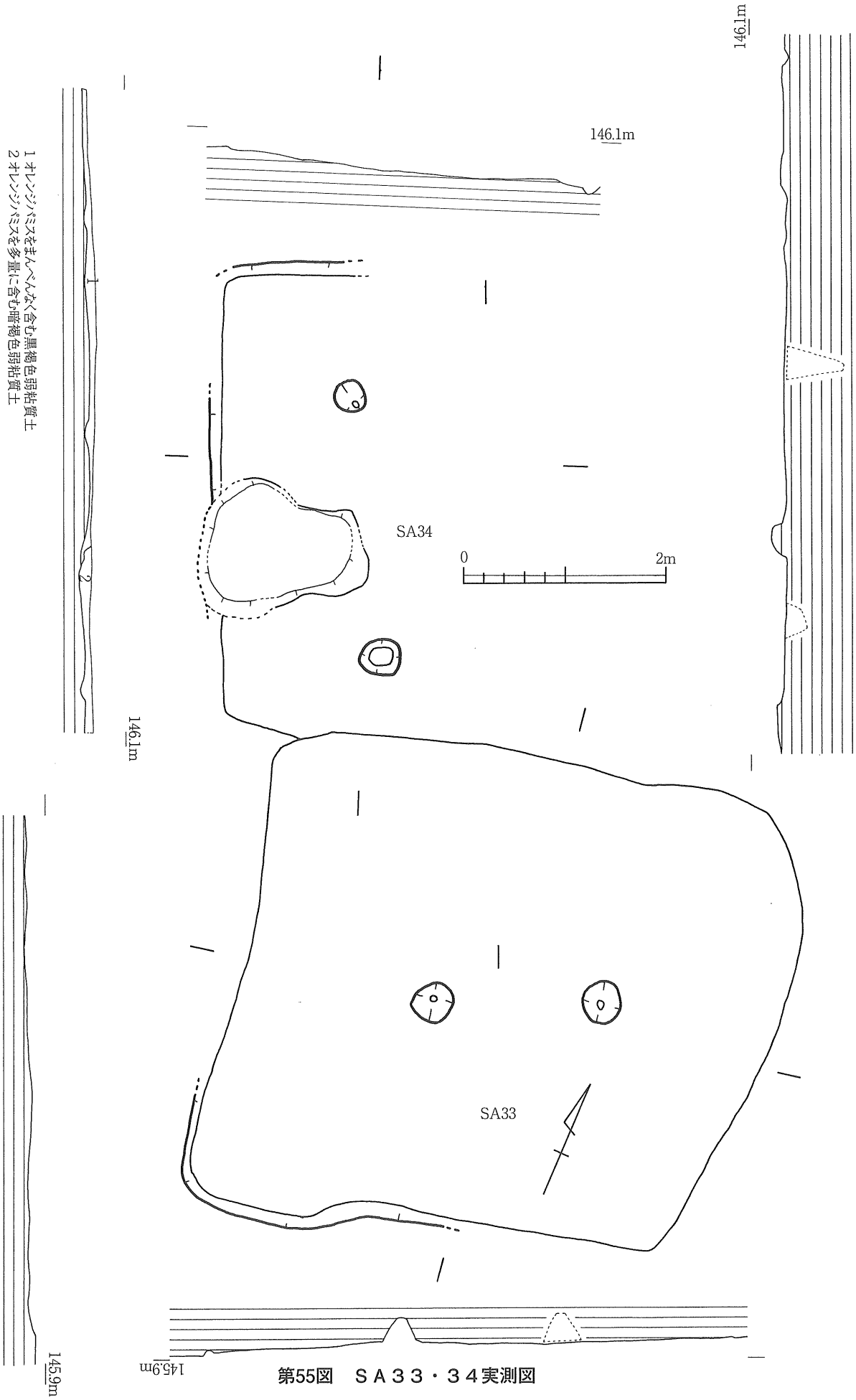
第53図　ＳＡ３１・３８実測図



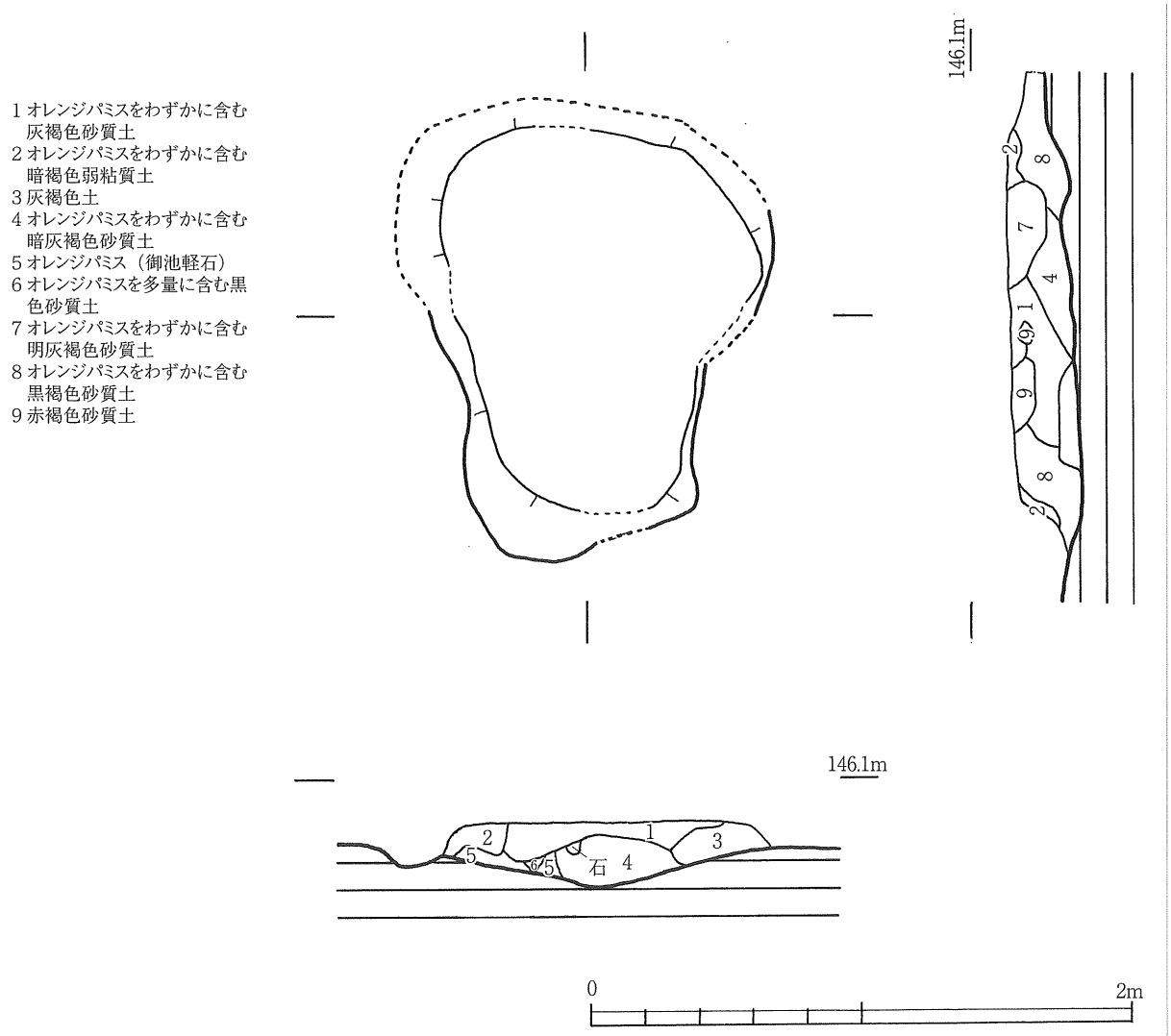
第54図　ＳＡ３２実測図

【24・25号竪穴住居跡（ＳＡ24・25：第42～45図）】

ＳＡ24・25はＳＡ22の南、ノ－26～28区にある。埋土の断面観察から24→25の時期差が見受けられる。24はＮ－Ｓ4.9m、Ｅ－W4.6mを測る方形プランで北側にカマド（ＳＮ24）が付設されており、部分的に壁帯溝を有する。柱穴は比較的しっかりしたものが4穴。検出面から床面までの比高差は約15cmを測る。カマド（ＳＮ24）は他と同様に灰褐色土によって楕円形状に形作られている。燃焼部･軽石製支脚も確認している。カマド（ＳＮ24）の左側（西側）には貯蔵用かとも思われる粗製の甕型土器が立てたまま胴部付近まで埋め込まれていた。



第55図　ＳＡ３３・３４実測図

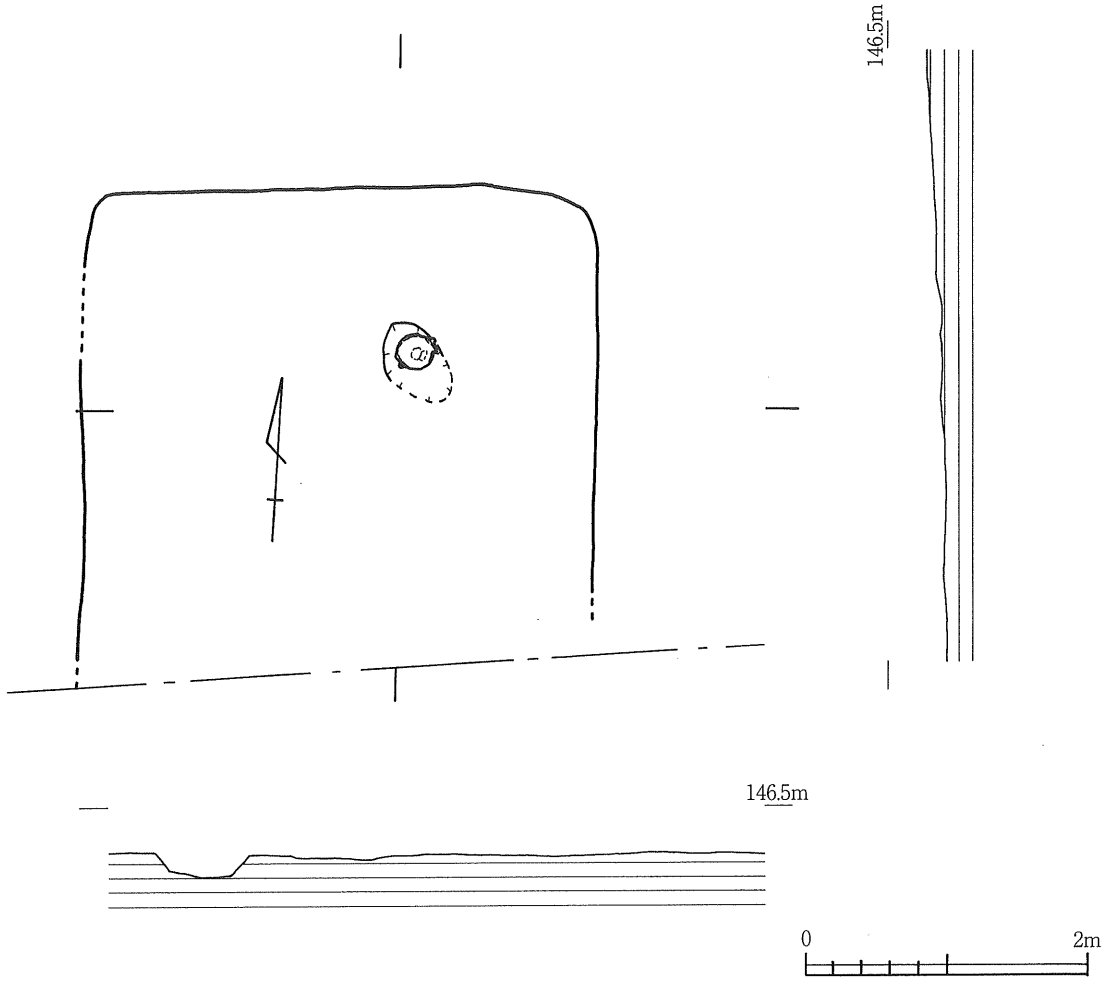


第56図　ＳＡ３４付設カマド（ＳＮ３４）実測図

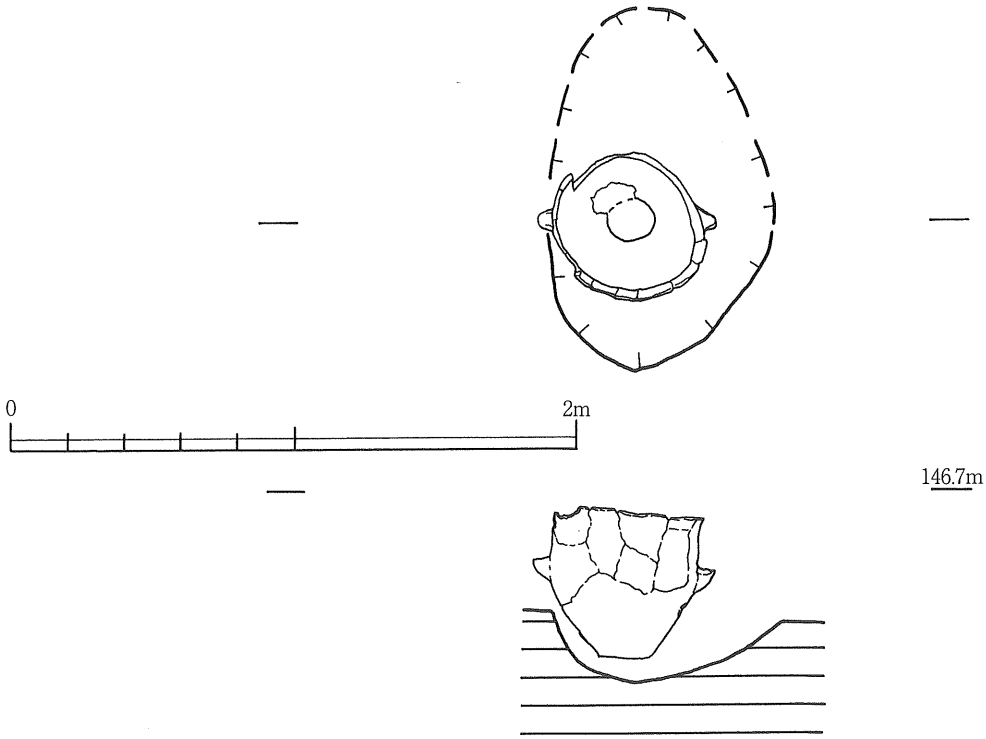
出土遺物を第45図（208～227）に示した。208は埦か。口径14cm。外器面には横位のミガキ調整がある。209は甕の口縁部か。口径21.6cm。210は須恵器高坏の坏部か。口径9.6cm。211は口径11.6cm、器高4cmを測る坏蓋。212は甕の口縁部である。213は高坏の脚部か。外器面にはミガキがみられ、赤色顔料（丹か）の塗布痕跡も確認できる。214は須恵器坏蓋。口径11.8cmを測る。外器面に線刻あり。215は甕。カマド西側に埋設されていたものである。口径16～16.5cm、底径8.5cm～9cm、器高29.7～29.9cmと、若干歪みがある。216は甕の胴部。215よりも肩部の張り出しが大きい。内器面の接合痕が明瞭に残る。外器面には縦位の粗雑なミガキ痕がある。217は須恵器坏の底部。218～221は底部。222は甕の口縁部。肩部の張り出しが弱い。接合痕は明瞭。外器面は横位の工具ナデ痕あり。口径17.6cmを測る。223・224は底部。225は軽石製支脚。226は甑底部。底径8.4cmを測る単孔つつぬけタイプ。内器面の接合痕がはっきり残る。227は甑。口径23.5cm、底径9cm、器高22.1cmを測る。外器面には接合痕が残り、1条の突帯が巡る。内器面は工具ナデ痕あり。底部付近には穿孔が2穴、対置されている。杉井分類でいえば桟渡し用小円孔タイプである。

ＳＡ25は検出面との比高差がほとんどない状態だったが、土器片が南西角で集中して出土した。カマドは付設されていなかったが、北側にカマドの痕跡を示すような粘質土の名残が見受けられた。柱穴は4穴確認している。

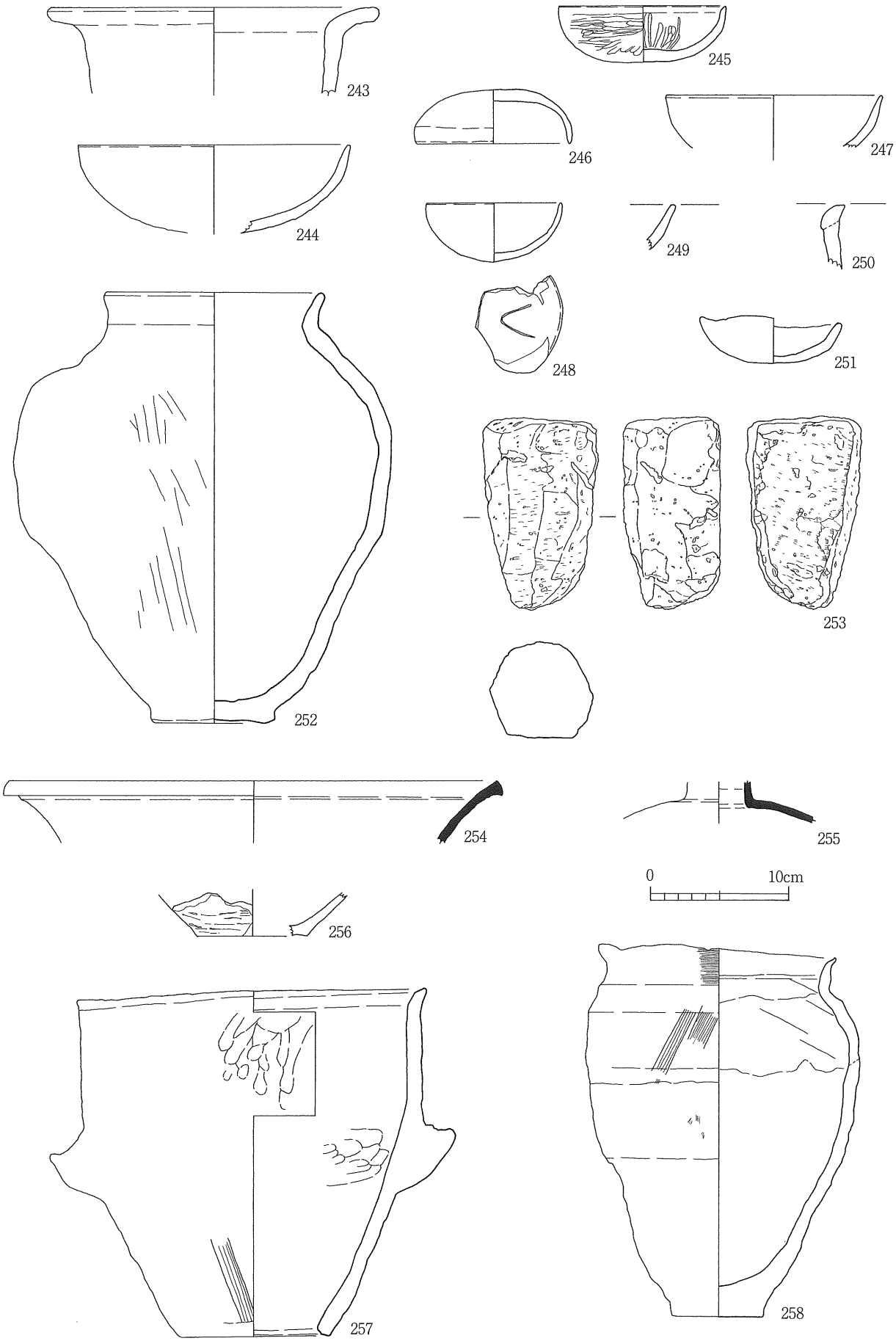
出土遺物を第44図に掲げた。202は口縁部。口径13.8cmを測る。203は口縁部で、内外ともにミガキがみられる。



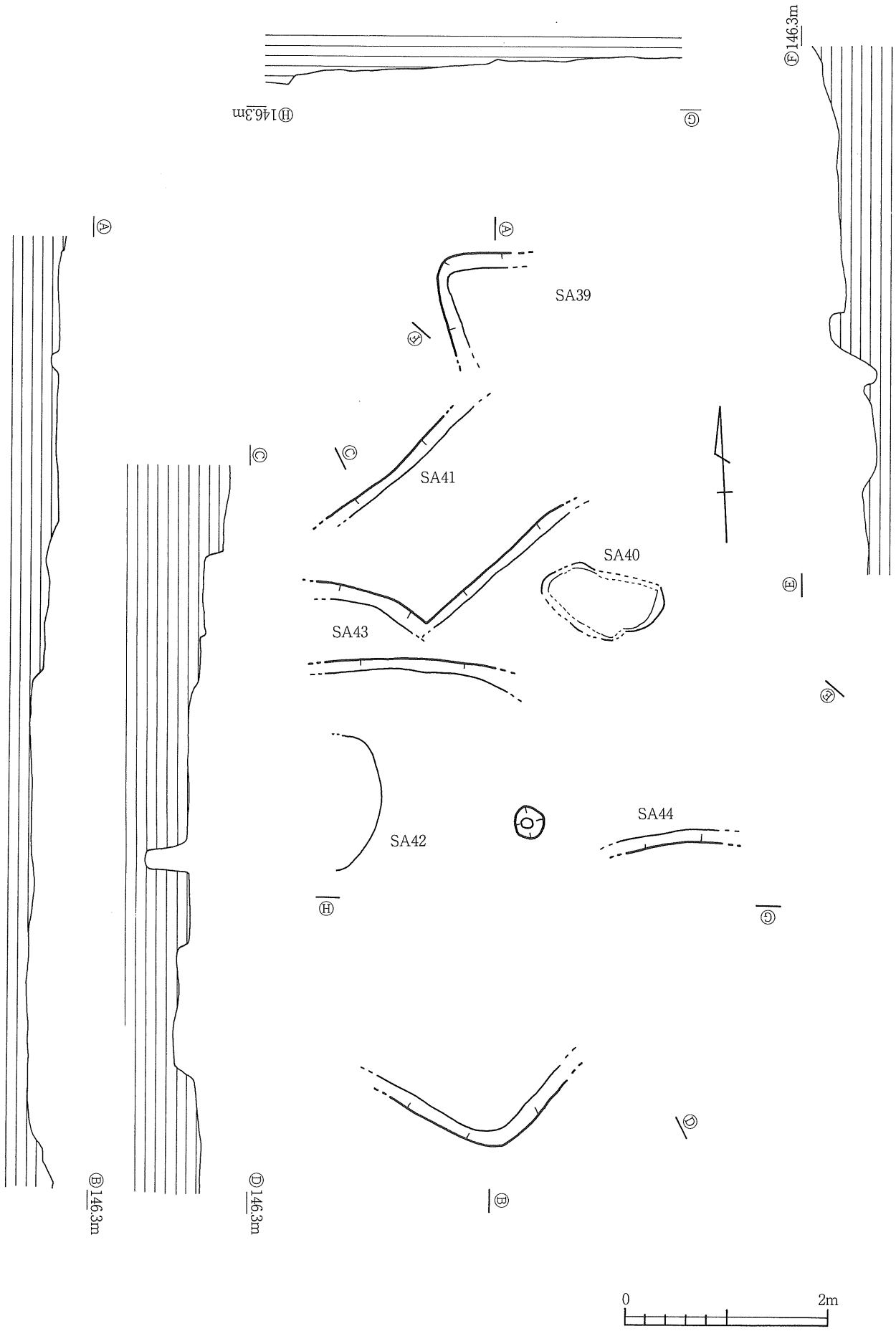
第57図　ＳＡ３６実測図



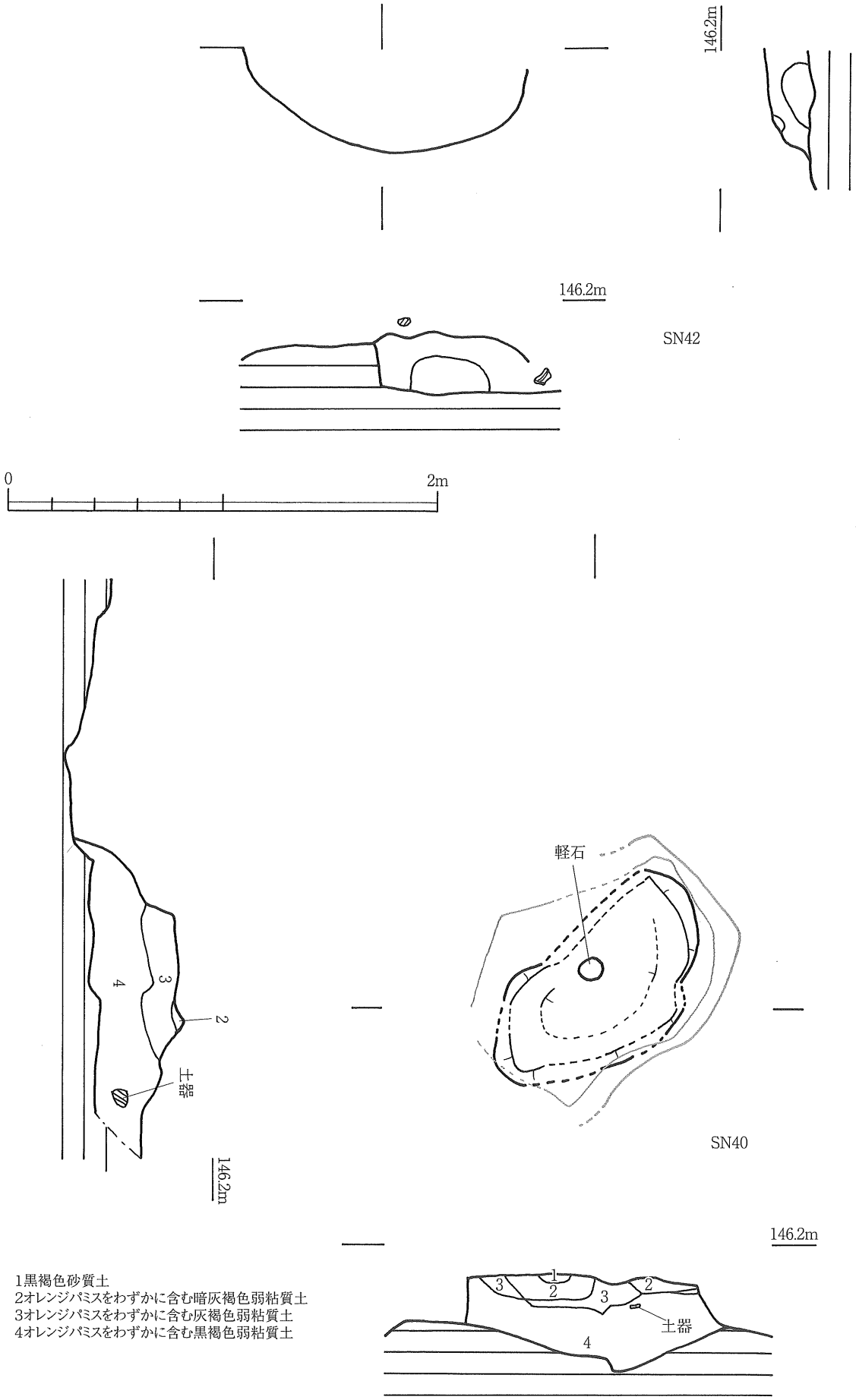
第58図　ＳＡ３６内埋設土器（甑）実測図



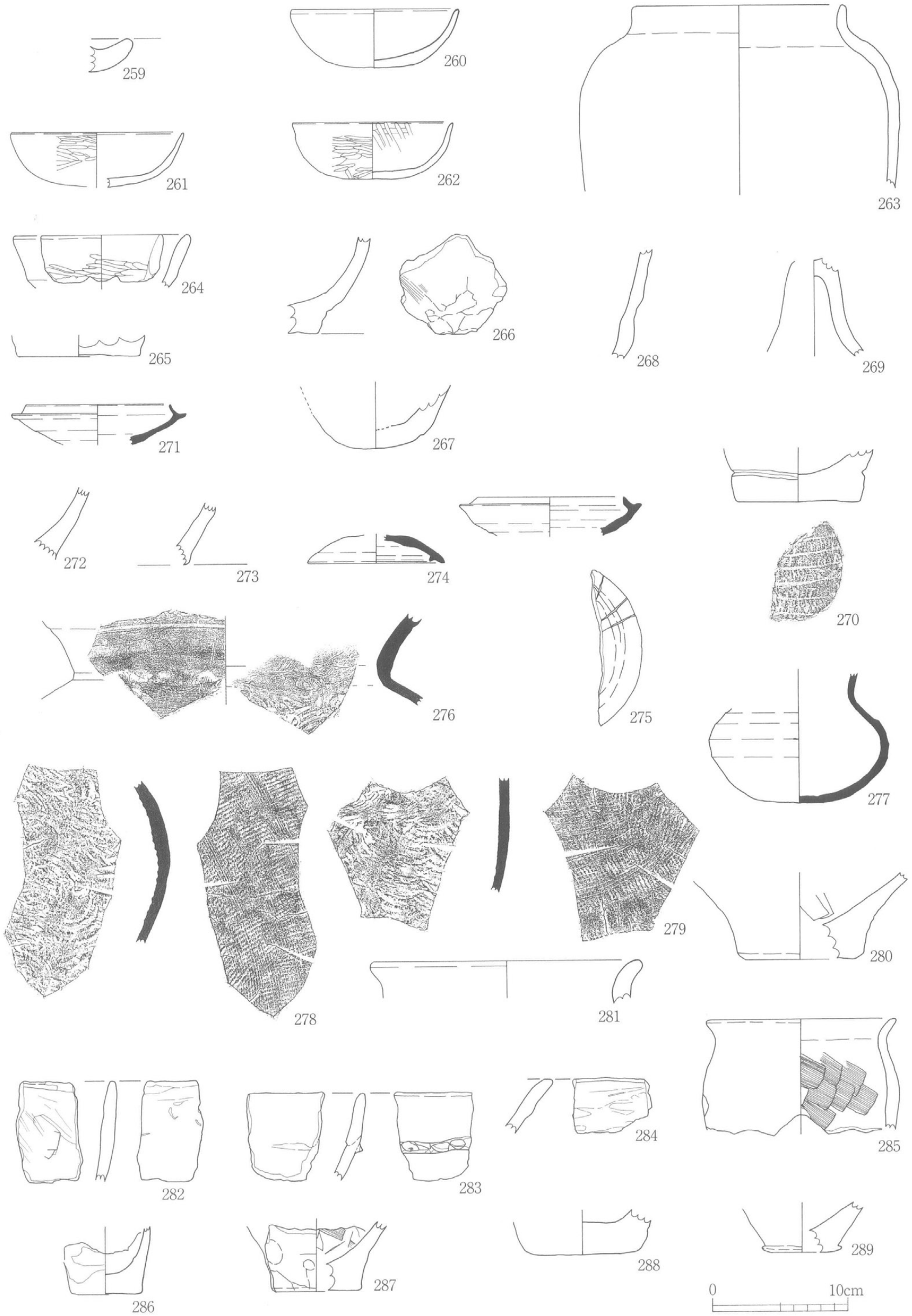
第59図　ＳＡ３０・３２・３４・３６・３８内出土遺物実測図



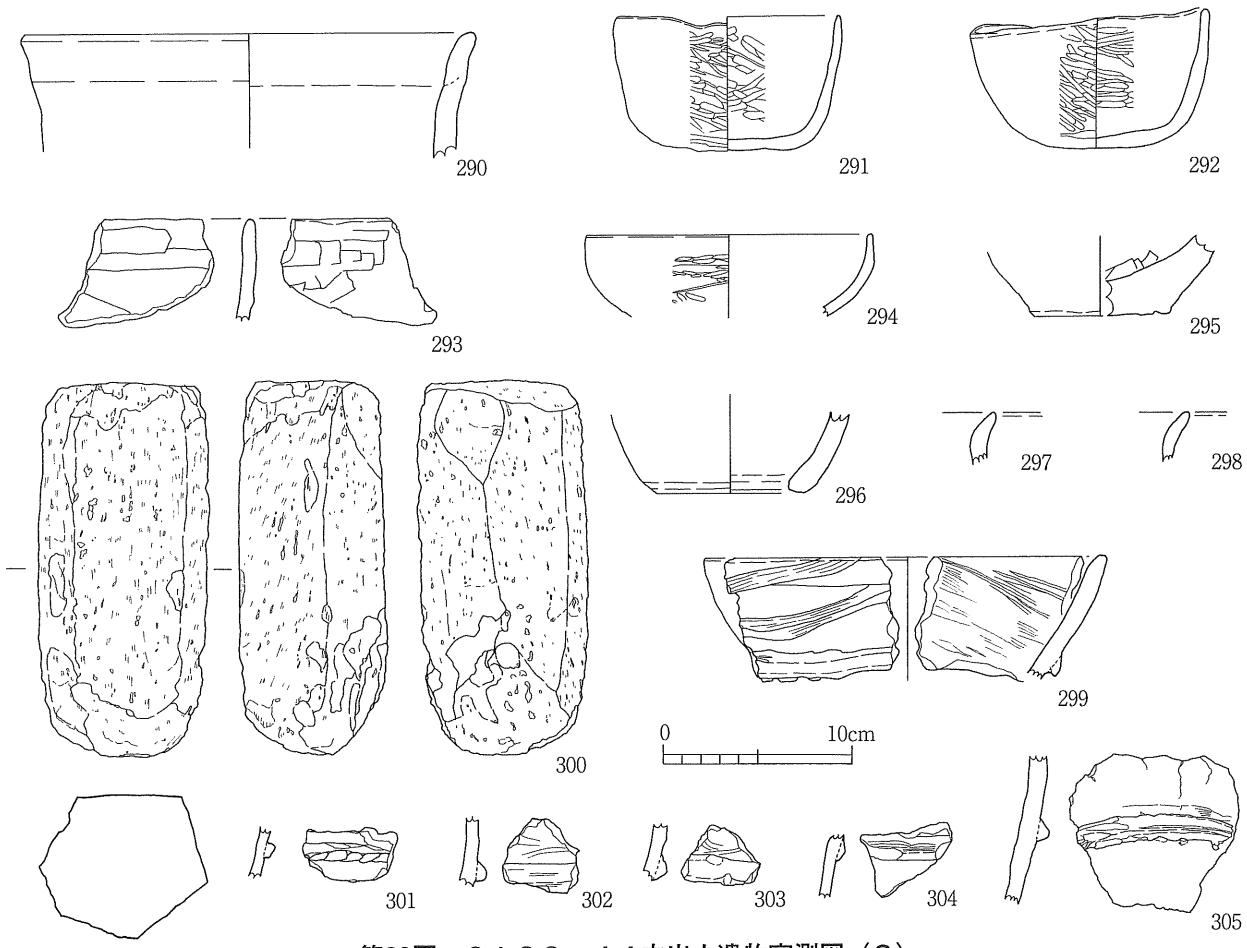
第60図　ＳＡ３９～４４実測図



第61図　ＳＡ３９～４４付設カマド（ＳＮ４０・４２）実測図



第62図　ＳＡ３９～４４内出土遺物実測図（１）



第63図　ＳＡ３９～４４内出土遺物実測図（２）

204は須恵器。タタキ痕が残る。205は底部。内外ともにミガキ。206は脚部か。赤色顔料(丹か)が塗布されている。外器面はミガキ調整。207は底部。外器面には指頭痕と縦位の粗雑なミガキがある。

【26・27号竪穴住居跡（ＳＡ26・27：第46・47・50図)】

ＳＡ26・27はニ－29・30区で検出。26→27の時期差あり。26はＮ－Ｓ4.1ｍを測る。Ｅ－Ｗは不明。カマド状の痕跡を示す状況が看取できた。その形状は明確ではなく、痕跡の範囲と燃焼部らしき部分の確認のみにとどまった。

出土遺物は第50図228～231である。228は口縁部。甑か。口縁部下に1条の突帯をもつ。内外ともにミガキ調整。229・230は底部。ともに組織痕らしきものがみられる。231は底部付近。

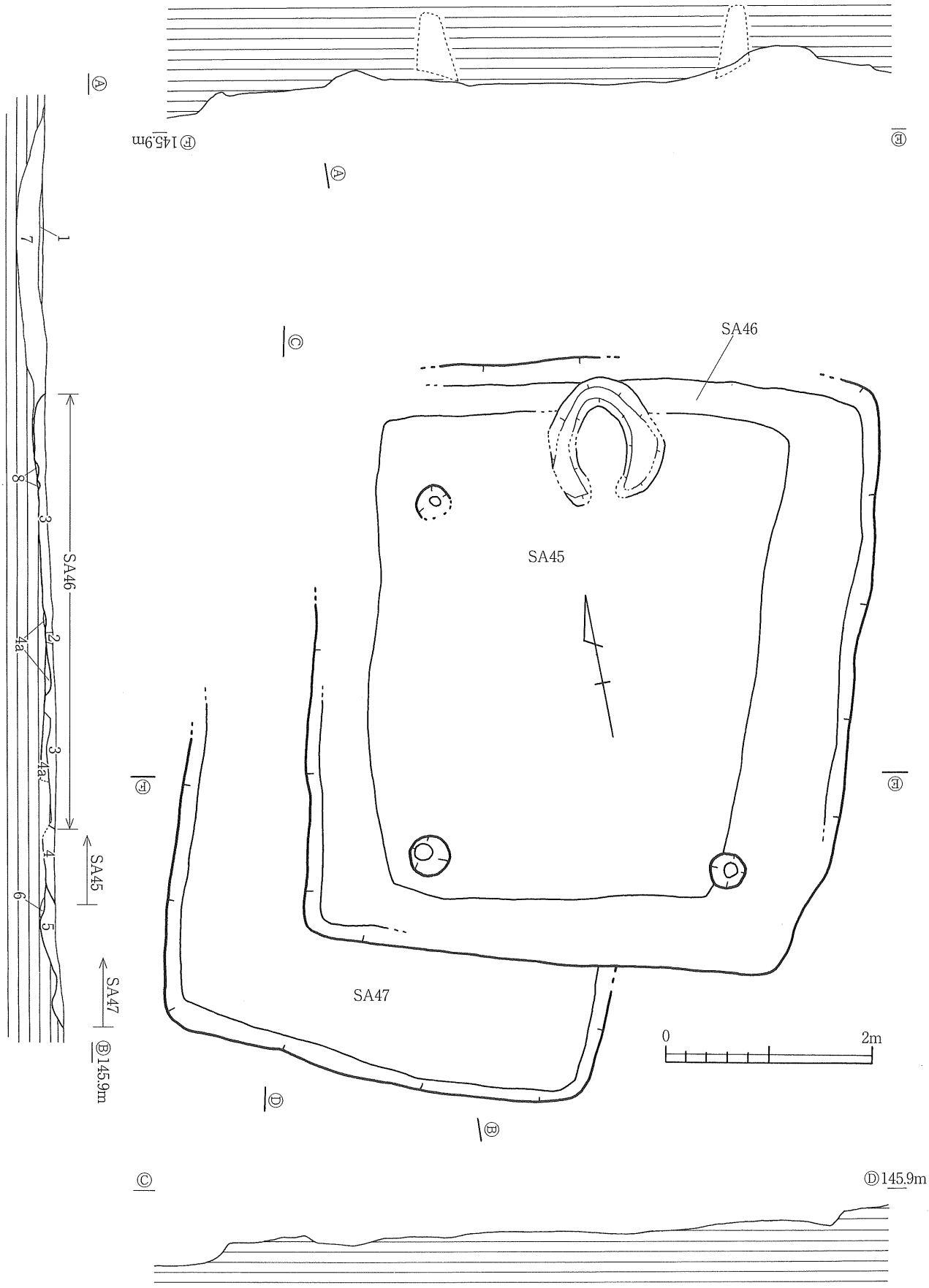
27はほぼ中央部を中世竪穴状遺構の築造により破壊されている。Ｎ－Ｓ4.4ｍ、Ｅ－Ｗ4.8ｍを測る方形プランである。柱穴は不明。カマド・炉の存在もわからない。

第50図232～236が出土遺物である。232は須恵器坏身。口径9.4cm、器高4.4cmを測る。233は胴部。1条の突帯あり。内器面は工具ナデ痕明瞭。外器面は接合痕がみえる。234・235は底部。236は須恵器。

【28・37号竪穴住居跡（ＳＡ28・37：第48・50図)】

ＳＡ28は26の北側にあり、ＳＡ37と切り合っている（ニ～ヌ－27～28区)。28・37ともに検出面と床面の比高差はほとんどないため、断面観察による時期差判断は難しい。また、柱穴等も不明瞭である。

37の出土遺物が第50図237・238である。237は須恵器提瓶。238の馬鐸は青銅製で長径約15cm、弧状下底径約10cmを測る。片面（表）には珠文が施され、もう片面（裏）には文様が認められない。使用痕のみえる紐は板状である。内部に舌は遺存していなかった。中村倉司編年の第Ⅳ期（6世紀前半）に相当すると思われる。



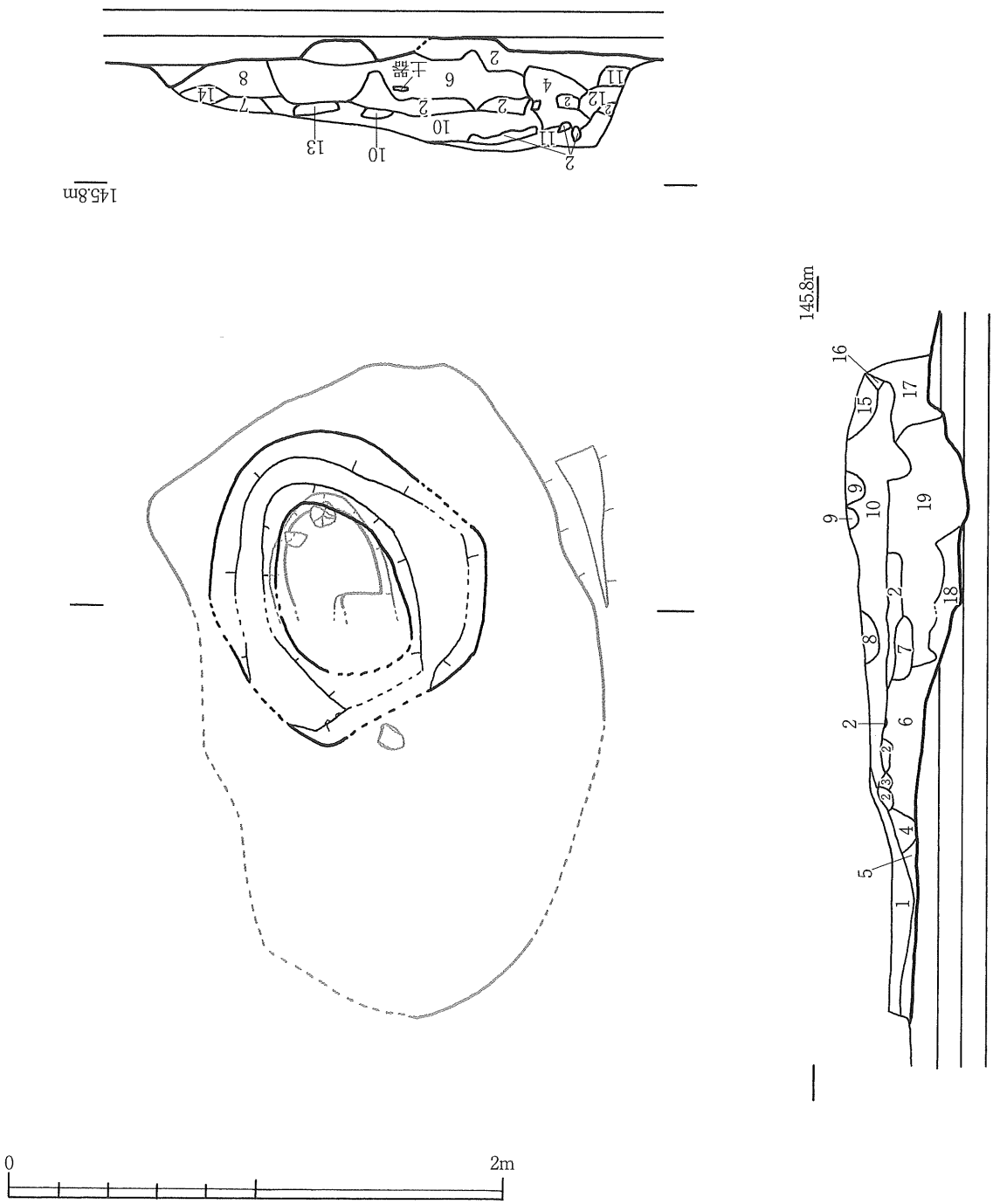
1 オレンジパミスをまんべんなく含む明褐色弱粘質土　2 オレンジパミスをわずかに含む褐色弱粘質土　3 オレンジパミスをまんべんなく含む灰褐色弱粘質土　4 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色弱粘質土　4a 3の張床部分か　5 オレンジパミスをわずかに含む褐色弱粘質土
6 オレンジパミス混黒色粘質シルト　7 オレンジパミスをまんべんなく含む黒色粘質シルト　8 オレンジパミス混黒色粘質シルト

第64図　ＳＡ４５～４７実測図

【29・35号竪穴住居跡（ＳＡ29・35：第49・50図)】

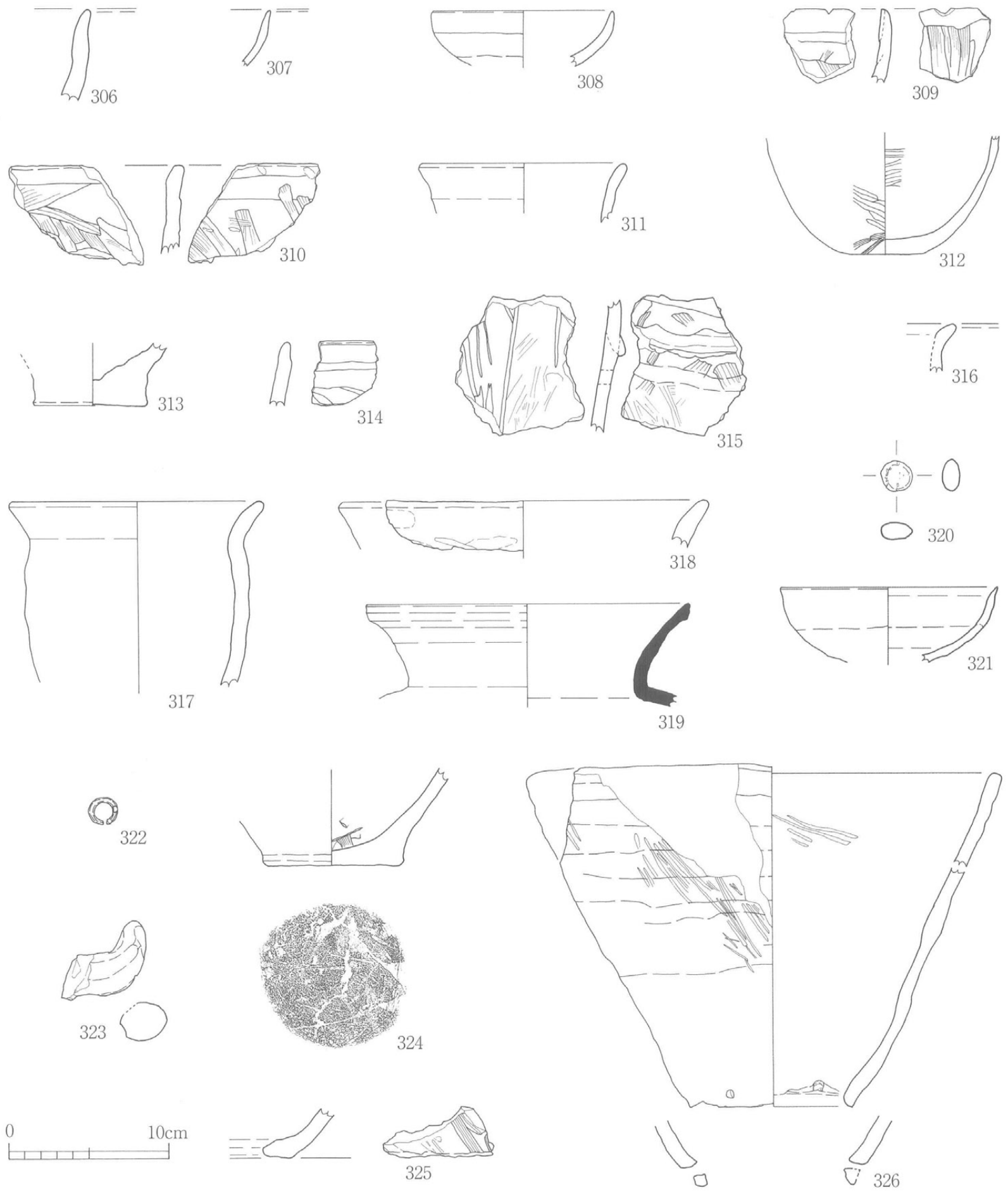
ＳＡ29はヒ・フ－29・30区にある。これも検出面と床面の比高差はほとんどなく、遺物も確認されていない。ＳＡ35は南側の角がわずかに確認されたのみである。

35の出土遺物を第50図に示した（239～242)。239は底部。外器面に指頭痕が残る。240も底部。241は須恵器甕の頸部か。外器面口縁部下付近に線刻がみえ、肩部以下にはタタキ痕が明瞭に残る。242は坏である。



1 灰白色ブロック混暗褐色弱粘質土　2 オレンジパミスをわずかに含む黒色粘質土　3 灰褐色粘質土ブロック　4 暗灰褐色弱粘質土　5 灰褐色弱粘質土　6 明灰褐色砂質土　7 オレンジパミスをわずかに含む明褐色弱粘質土　8 明灰褐色砂質土　9 赤褐色砂質土　10 暗褐色砂質土と灰褐色砂質土の混層　11 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土　12 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　13 赤褐色砂質土　14 オレンジパミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土　15 オレンジパミスをわずかに含む灰褐色砂質土　16 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色弱粘質土　17 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　18 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　19 オレンジパミスをわずかに含む灰褐色砂質土

第65図　ＳＡ４６付設カマド（ＳＮ４６）実測図



第66図　ＳＡ４５～４７内出土遺物実測図

【30号竪穴住居跡（ＳＡ30：第51・52・59図）】

ハ－24～26区にあるＳＡ30は、東西を中世溝状遺構に破壊されている。検出面と床面との比高差がわずかにある。Ｎ－Ｓ5.8mとやや大きい。北側にカマドが付設され、中央部に土器片が集中していた。

第59図243～253が出土遺物である。243は甕の口縁部か。口径24.2cm。244は坏。245は坏。口径11.2～12.1cmを測り、内外ともにミガキ調整である。若干磨耗している。246は坏蓋。口径11.2cm、器高4cmを測る。247は坏。248は坏。内外ともに丁寧なミガキがみられる。口径10cm、器高4.2cmを測り、外器面に「く」の字状の線刻がある。249・250は口縁部。251は坏。252は甕である。ほぼ完形。口径15.7cm、底径8.1cm、器高31.2cmを測る。肩部の張り出しが大きく、わずかに歪みがある。253は軽石製支脚。他より小さめで、長径は12cm弱。

【31・38号竪穴住居跡（ＳＡ31・38：第53・59図）】

ＳＡ31はハ－24～26区で検出した。ＳＡ30と同様に東側を中世溝状遺構の築造によって破壊されている。検出面と床面との比高差はほとんどない。

ＳＡ38は、ツ～テ－31区で検出。後世の破壊も大きい。柱穴は2穴確認した。おそらく4穴を主柱穴とするものであろう。

第59図258は甕である。肩部の張り出しが弱いが、全体的に歪みがある。

【32号竪穴住居跡（ＳＡ32：第54・59図）】

ＳＡ25の南側、ノ－29～30区にあるＳＡ32は検出面との比高差はほとんどなく、カマドも確認されていない。柱穴も確認できているが整然としていない。Ｎ－Ｓ5.8mを測る。

第59図254･255が出土遺物である。254は須恵器(甕か)の口縁部である。口径35.4cmを測る。255は須恵器壷(瓶か）の頸部か。

【33・34号竪穴住居跡（ＳＡ33・34：第55・56・59図）】

ＳＡ33･34はヌ～ネ－29～30区で隣接して(切り合って)確認した。断面観察から33→34の時期差がみられる。

33はほとんどが下端のみの確認となった。中央付近に柱穴が2穴ある。

34は西側半分弱ほどしか確認できていない。柱穴の配置から主柱穴は4穴であろう。西壁にカマドが付設されていた痕跡が確認できたが、その形状は不明。

34出土の第59図256は鉢底部。縄文晩期か。

【36号竪穴住居跡（ＳＡ36：第57～59図）】

ＳＡ36はト－30区で確認しているが、検出面と床面との比高差はないに等しい。また、ほぼ中央部を中世溝状遺構によって破壊されている。中央付近には土坑らしきものがあり、把手付甑が埋設されていた。

第59図257が出土遺物である。257は土坑に埋設されていた甑。口径25.2cm、底径10.5cm、器高25cmを測る。牛角状の把手を有し、底部形態は単孔つつぬけタイプである。内外ともに磨耗が甚だしいが、工具ナデ調整が主である。

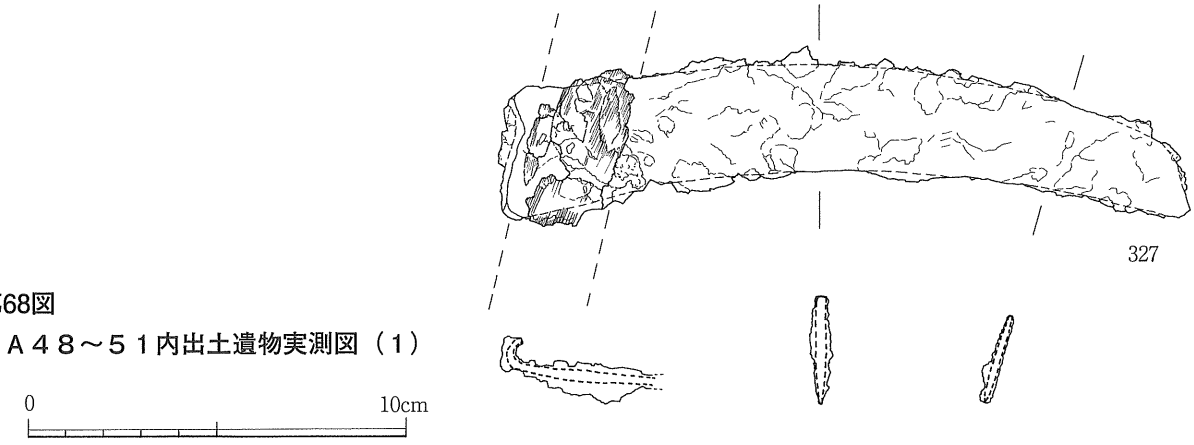
【39～44号竪穴住居跡（ＳＡ39～44：第60～63図）】

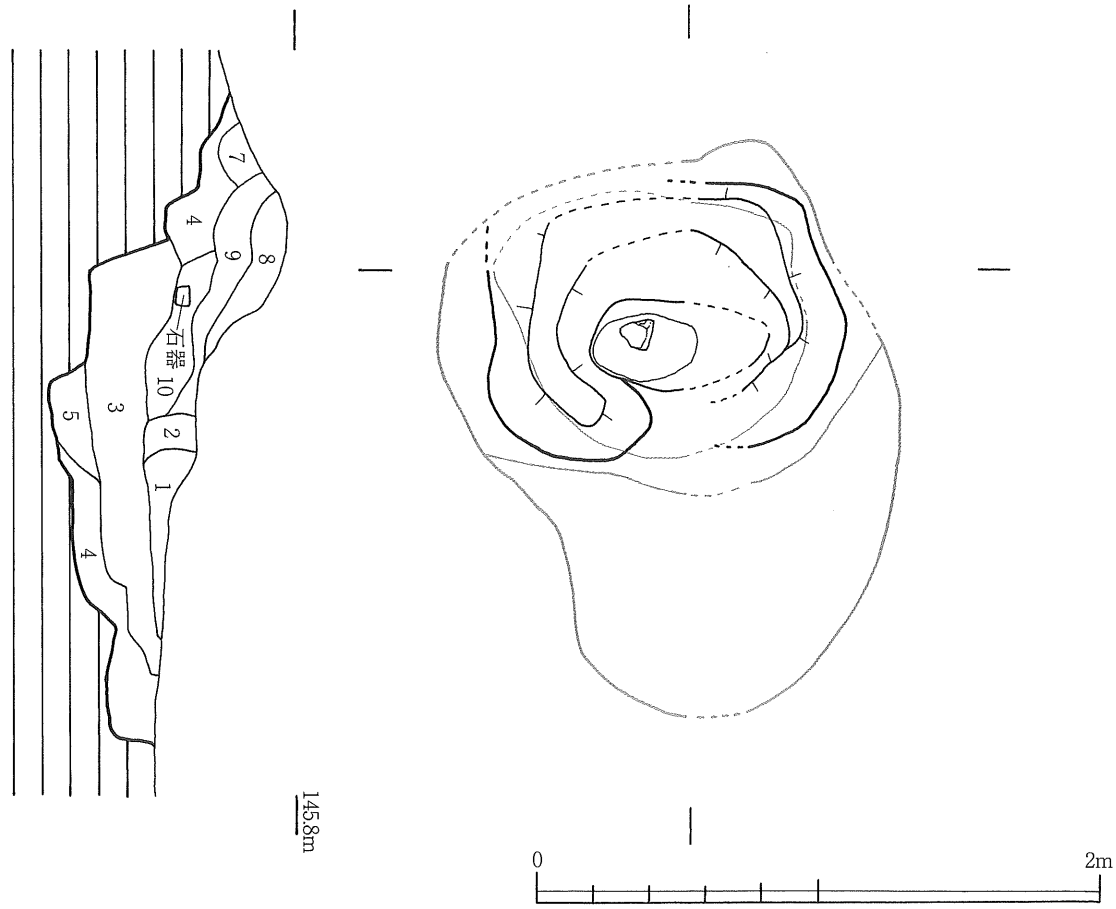
ニ～ヌ－21～23区で検出したＳＡ39～44は切り合って確認しているが、埋土の断面観察から40が時期的に遅れるようである。各々のプランは全くはっきりしない。カマドの存在は、灰褐色土の残存から判断でき、ＳＡ40にともなうものと、ＳＡ42にともなうものの2基確認できるが、その形状は全く明瞭ではない。

出土遺物は第62・63図259～305である。259がＳＡ39出土、260～279がＳＡ40出土、280がＳＡ40～42一括、281～289・296がＳＡ40・41一括、290～292がＳＡ41出土、293がＳＡ42・43一括、294・295がＳＡ41・42一括、297～305がＳＡ42カマド（ＳＮ42）出土となっている。259は甑の把手部。260は坏。口径12.3cm、器高4.4cmを測る。261は坏。内外ともにミガキがあるが､内器面は磨耗気味である。262も坏。口径11.8cm､器高4.2cmを測る。内器面は主に縦位の､外器面は横位のミガキがみられる。263は甕。肩部の張り出しはあまりない。口径15.6cm。264は高坏の坏部か。内外ともにミガキあり。265･266･267は底部。268は胴部か。269は高坏の脚部。270は底部。外器面には横位に沈線が巡る。木葉痕が残る。271は須恵器坏身。口径10.6cm、廂径13cmを測る。蓋受けの張り出しは強い。272･273は底部であるが､ＳＡ40カマド（ＳＮ40）から出土したものである。274は須恵器坏蓋。身受けがある。つまみがあったかもしれない。口径10cmを測る。275は須恵器坏身。口径10.8cm、廂径13.6cmを測る。276は須恵器甕頸部である。タタキ痕が明瞭に残る。277は須恵器壷か。丸底状を呈する。278・279は須恵器。胴部か。タタキ痕が明瞭である。280は底部。底径9.2cmを測り、内器面に工具ナデ痕が残る。281は甕口縁部か。口径19.4cm。282～285は甕の口縁部であろうか。283は口縁部下に1条の突帯を付する。285は内器面に工具ナデ調整が施されている。286～289は底部である。290は甕の口縁部。口径24cm。291・292は椀であろうか。赤い色調で、つくりは丁寧な感を受ける。内外ともに横位の丁寧なミガキがある。291は口径11.7cm、底径7～8cm、器高6.7～7.2cmを測る。292の口径は12.3～12.6cm、底径6～6.5cm、器高6.1～7.65cmである。293は

第67図
ＳＡ４８～５１実測図

第68図
ＳＡ４８～５１内出土遺物実測図（１）





1 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　2 オレンジパミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土　3 赤褐色砂質土・黒色弱粘質土・オレンジパミスの混層
4 オレンジパミス（御池軽石）　5 黒色粘質土　6 オレンジパミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土　7 黒褐色弱粘質土　8 褐色砂質土　9 赤褐色砂質土
10 黒色弱粘質土　11 オレンジパミスをわずかに含む灰褐色砂質土　12 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土　13 灰褐色弱粘質土

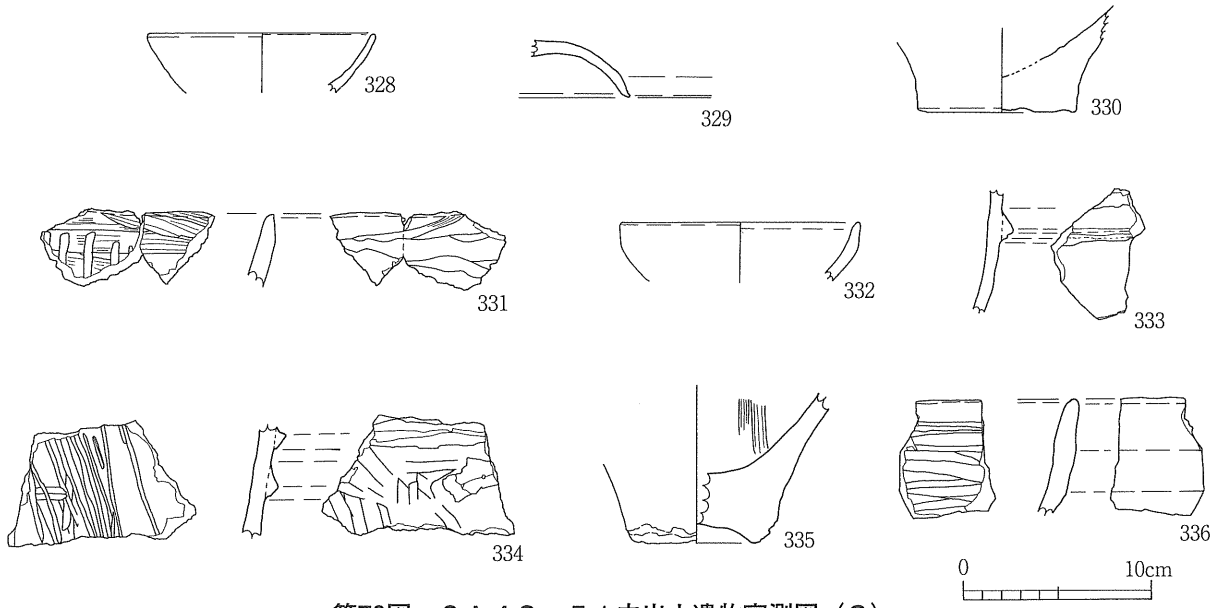
第69図　ＳＡ４９付設カマド（ＳＮ４９）実測図

甕の口縁部か。294は坏。295は甕の底部か。296は甑の底部である。単孔タイプ。297・298は口縁部。299は甕の口縁部か。口径21.4cmを測り、突帯を1条付する。内外ともに工具によるナデ調整がみられる。300は軽石製支脚。301～305は胴部。全て突帯を1条もつ。

【45～47号竪穴住居跡（ＳＡ45～47：第64～66図）】

ヌ～ネ－22～23区にあったＳＡ45～47も切り合いのため、形状が不明瞭であるが、47→45→46の時期差がある。45は下端のみの確認。46は恐らく4穴の主柱穴であったろう。Ｎ－Ｓ5.85m、Ｅ－W5.3mの方形プランであり、比較的大きめである。カマド（ＳＮ46）が北壁沿いに付設されていた。47は南側半分のみ確認した。Ｅ－W4.4mである。ＳＮ46は本遺跡において、その残存状態が最も良いものの一つであったが、カマド形態そのものを明確にできる状態ではなかった。ただ燃焼部の確認から、焚き口、かけ口の推定は可能と考えられる。

第66図に出土遺物を示した。306～309はＳＡ45出土である。306は口縁部。307は坏口縁部か。308は坏で、口径11.4cmを測る。ナデ調整。309は口縁部。310･311はＳＡ45･46一括。310は甕の口縁部か。311は口径12.8cm。312～315はＳＡ46出土で、313～315はＳＮ46内出土である。312・313は底部。314は口縁部。315は胴部。突帯を1条もつ。内外ともに工具ナデ痕が明瞭で、内器面にはさらに縦位の磨きが粗雑に施されている。316～326はＳＡ47出土。316は口縁部。317は甕である。口径15.8cmを測る。318も甕の口縁部か。319は須恵器甕か。口径20.4cm。320は石器。321は坏。322は耳環である。径2cmあまりで、金メッキがなされている。323は甑の把手部。324は甕の底部か。底径8.5～9cmであり、内器面に工具ナデ痕がみられ、底面には組織痕が残る。325は甑底部。単孔タイプとみられる。326は甑。口径29.3cm、底径10.3cm、器高21.6cmを測る。突帯はない。外器面の接合痕が明瞭で、内外ともに工具ナデ後に粗雑な縦位のミガキがなされている。底部付近には穿孔が対置している。

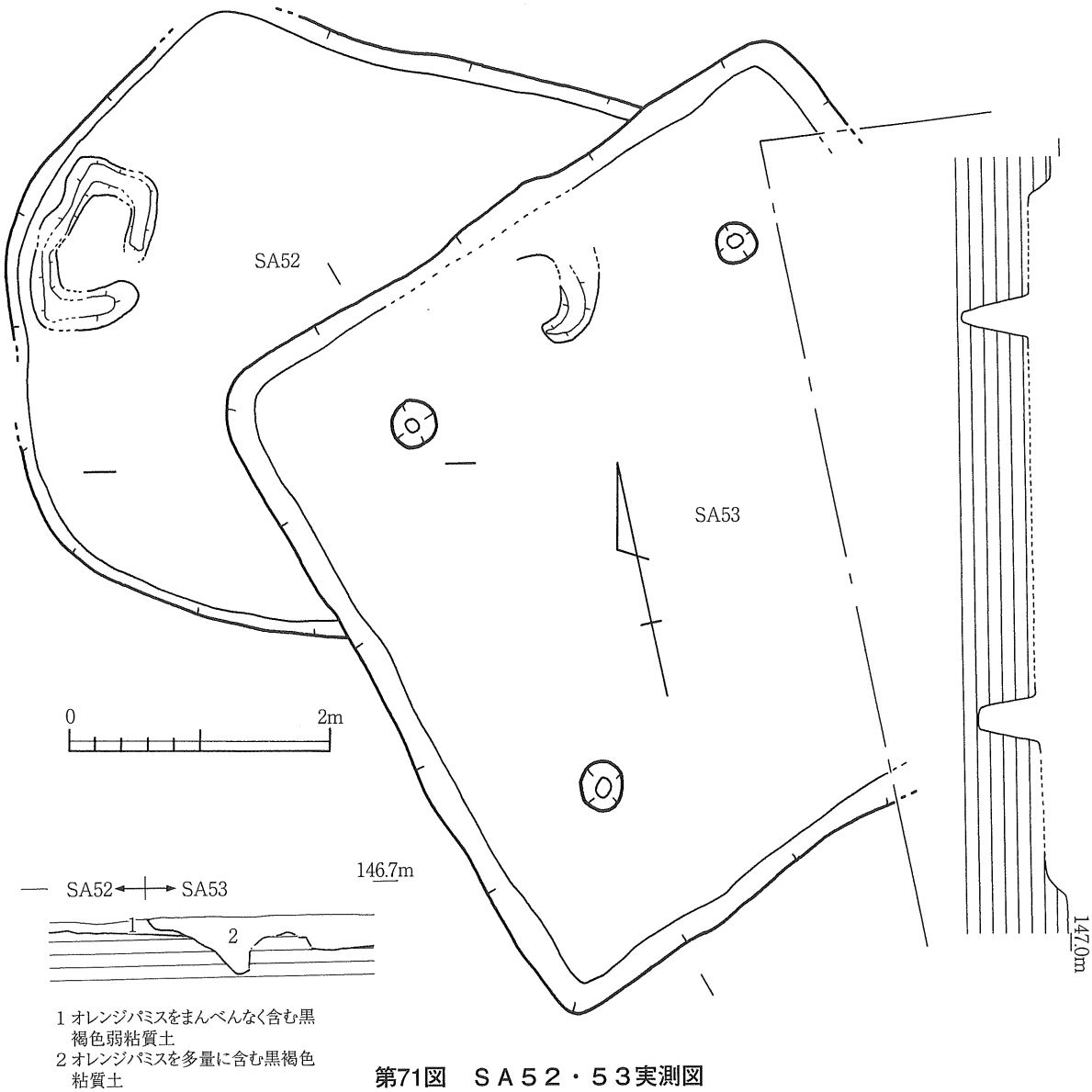


第70図　ＳＡ４８～５１内出土遺物実測図（２）

杉井分類の桟渡し用小円孔タイプ。

【48～51号竪穴住居跡（ＳＡ48～51：第67～70図）】

ＳＡ48～51はネ～ノ－23～25区にわたって確認した。ここでは48が最も遅く構築されたと思われる。検出したカマドは49に伴うものと解される。48はＮ－Ｓ4m（推定）、Ｅ－W4.4mの方形プランである。柱穴が2穴確認されているが、主柱穴は4穴であったであろう。49は北側部分のみ確認できた。北壁沿いにカマド（ＳＮ49）が付設されていた。このカマドの様相もＳＡ46付設カマドに近い。袖部等ははっきりしないが、燃焼部は明瞭に残っている。ＳＡ50は48の南側にあり、南側半分のみ検出した。ＳＡ51はさらにその南側にあった。



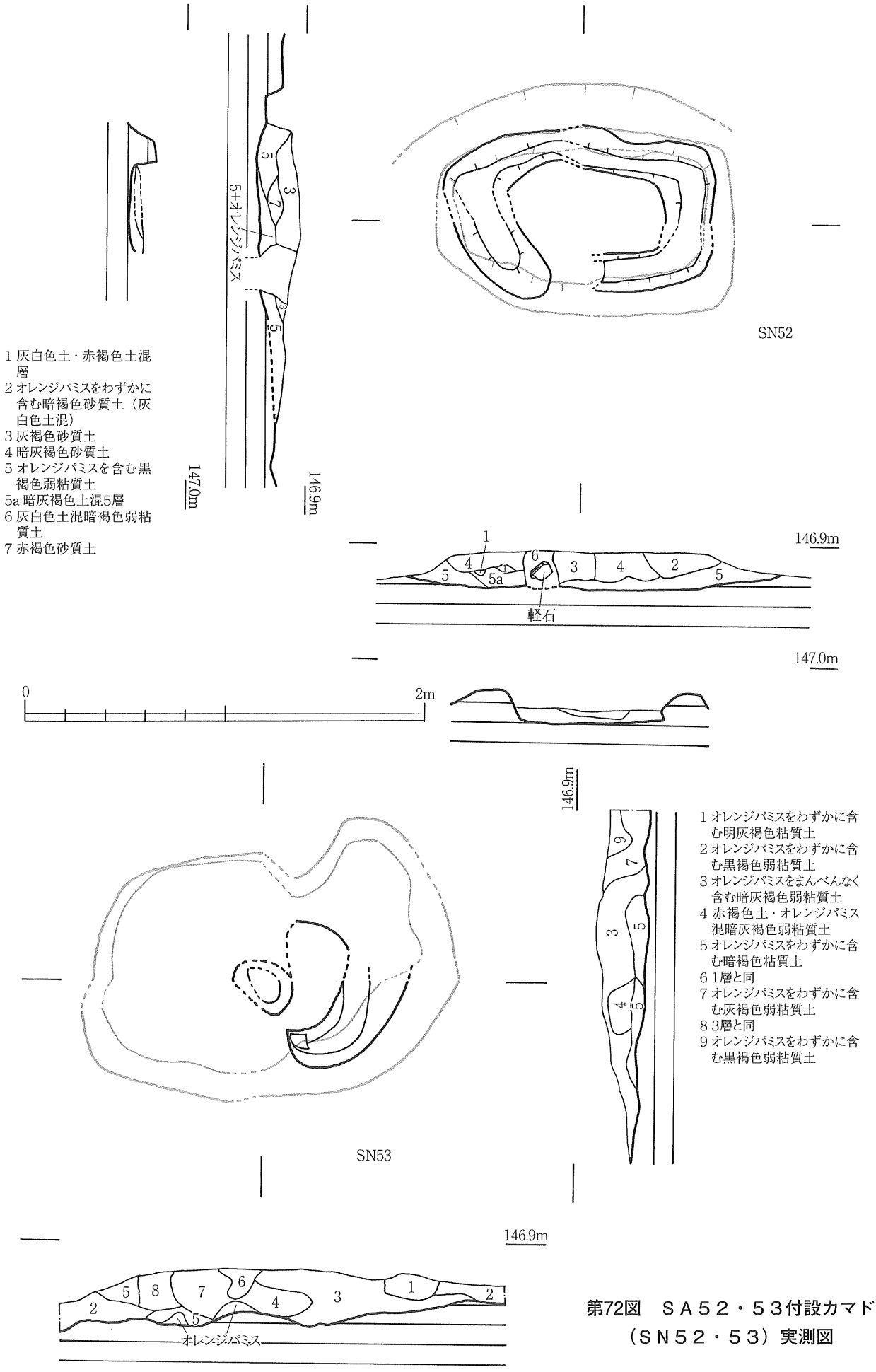
第71図　ＳＡ５２・５３実測図

出土遺物は第68・70図に示した。327～330はＳＡ48内出土である。327は鉄製鎌である。328は口径12cmを測る坏。329は坏蓋。330は底部。331～334はＳＡ50内出土である。331は甕の口縁部と思われる。内器面には工具ナデが明瞭で、粗雑なミガキもわずかにみられる。332は坏。333は胴部で、突帯が1条ある。334も胴部。外器面には工具ナデが明瞭で、内器面は縦位のミガキがみられる。335はＳＡ50・51一括資料で、径6.6cmを測る、上げ底状の底部である。336はＳＡ51出土である。甕の口縁部と思われるが、内器面に横位のミガキが残る。外器面は磨耗。

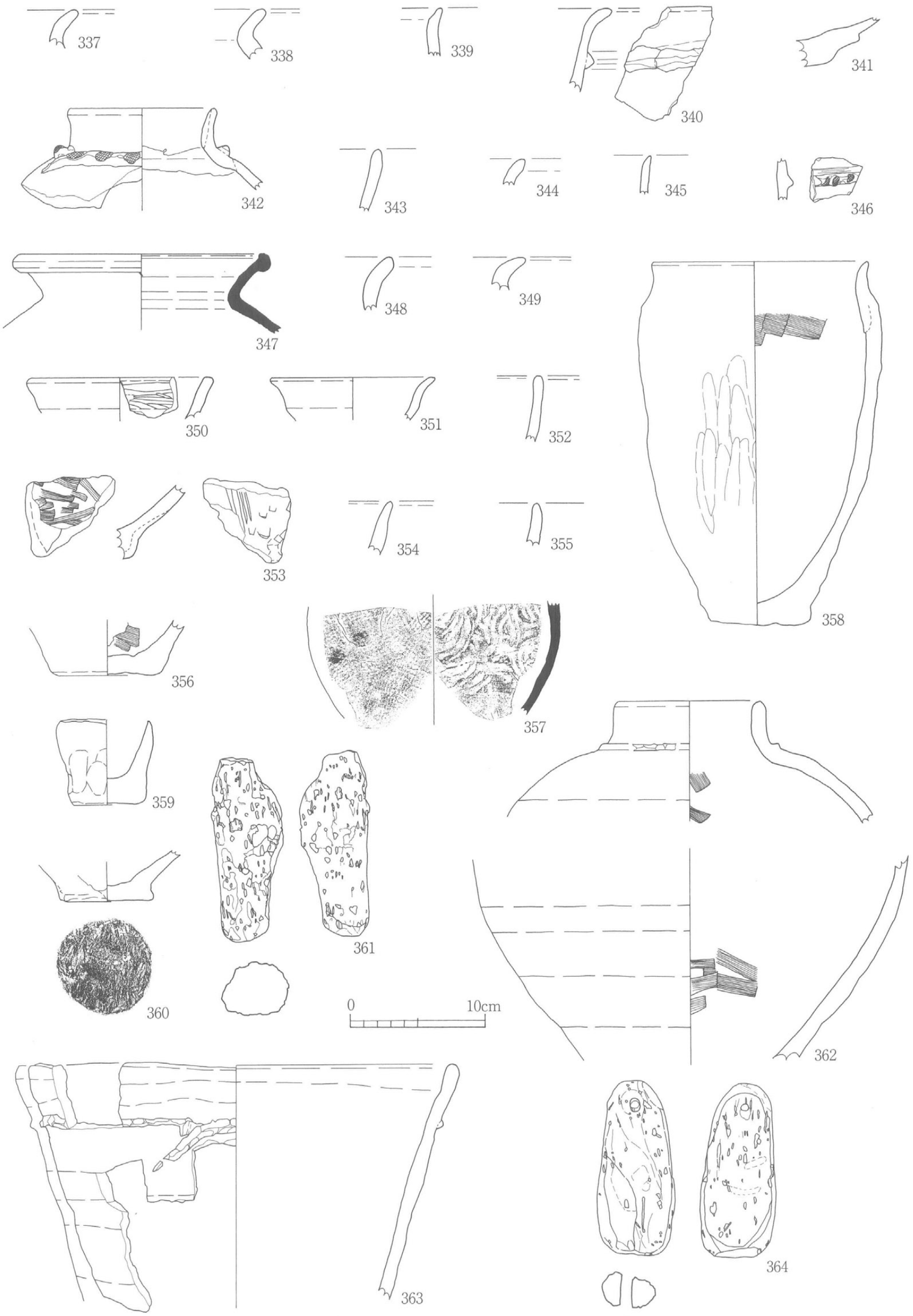
【52・53号竪穴住居跡（ＳＡ52・53：第71～73図)】

セ～ソ－20～22区で検出したＳＡ52・53は52→53の時期差がある。ともにカマドをもち、52は北西向き、53は北向きとなっていた。検出面から床面までの比高差は52が約10cm、53が約20cmを測る。52はＮ－Ｓ4.6mのやや楕円形プラン。北西壁沿いにカマド(ＳＮ52)が付設されている。形状はそれほど明瞭ではないが、燃焼部・袖等わずかに確認できる部分もある。53はＮ－Ｓ5.5m、Ｅ－W5.3mを測る方形プランで、主柱穴は4穴。北壁沿いにカマド（ＳＮ53）が付設されている。形状はほとんどわからない。

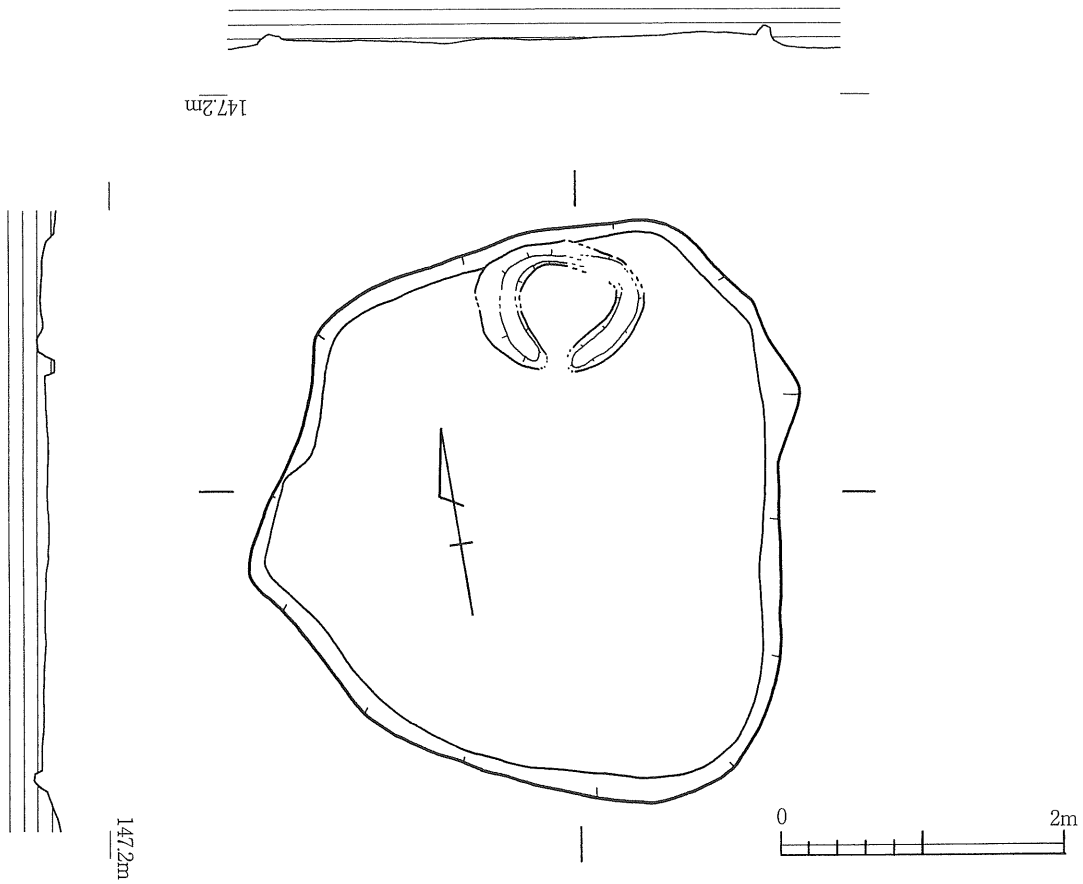
出土遺物を第73図に示した。337～346がＳＡ52出土である。337～339は口縁部。340は甕の口縁部か。口縁



第72図　ＳＡ５２・５３付設カマド（ＳＮ５２・５３）実測図

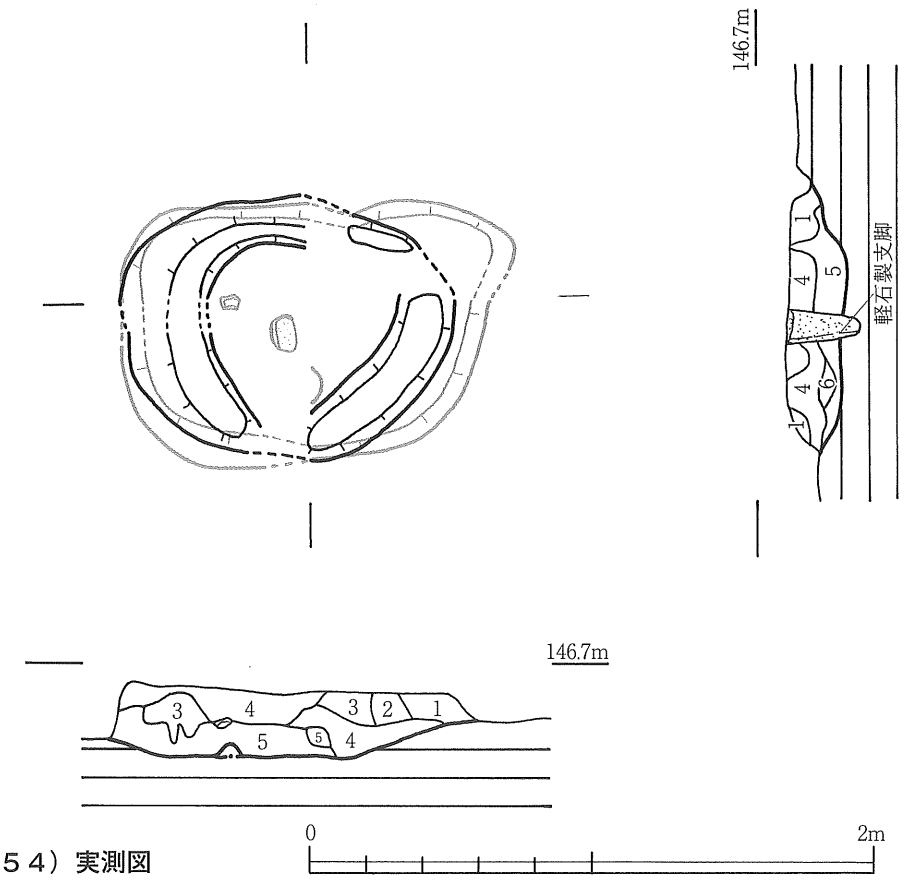


第73図　ＳＡ５２・５３内出土遺物実測図

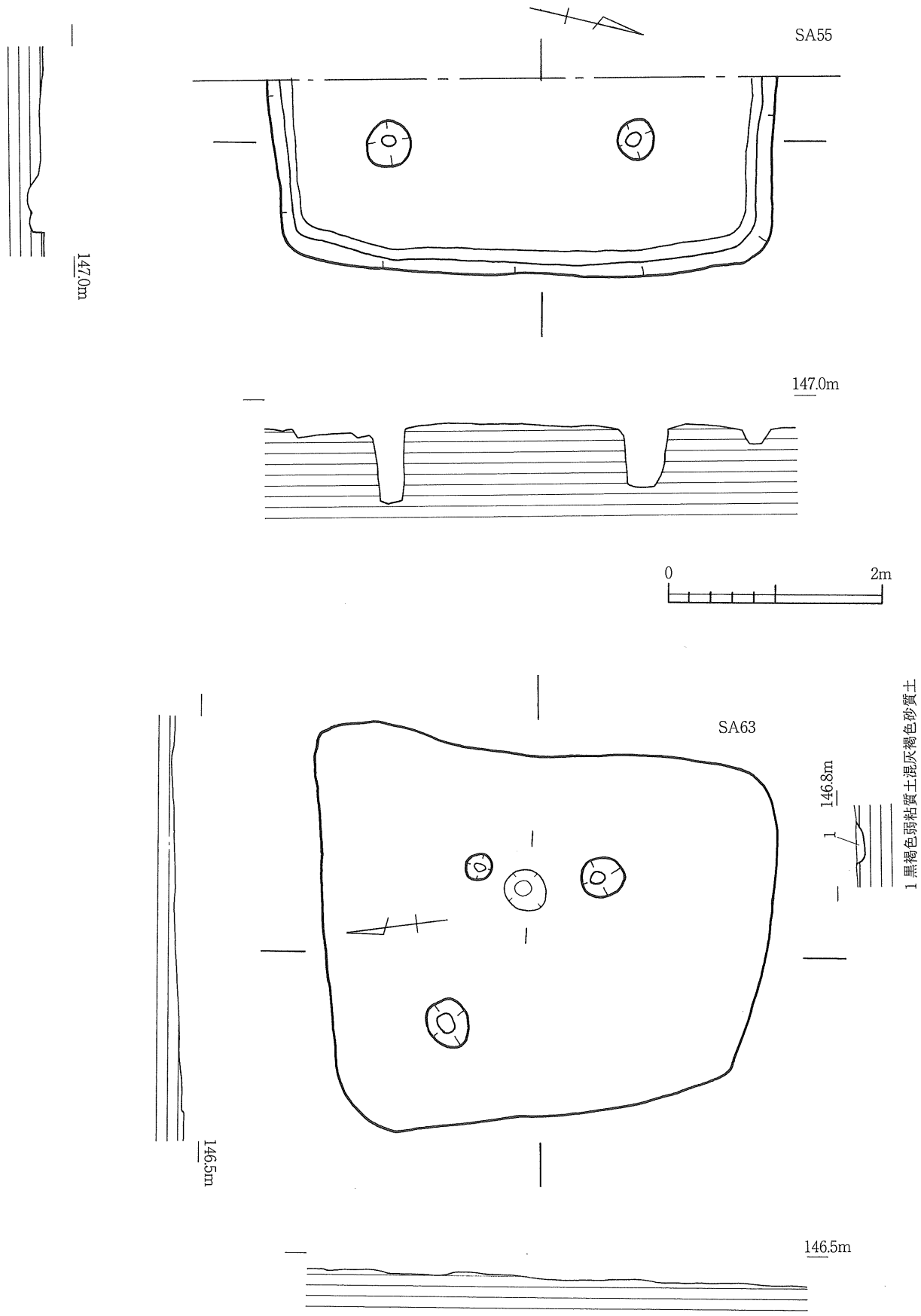


第74図　ＳＡ５４実測図

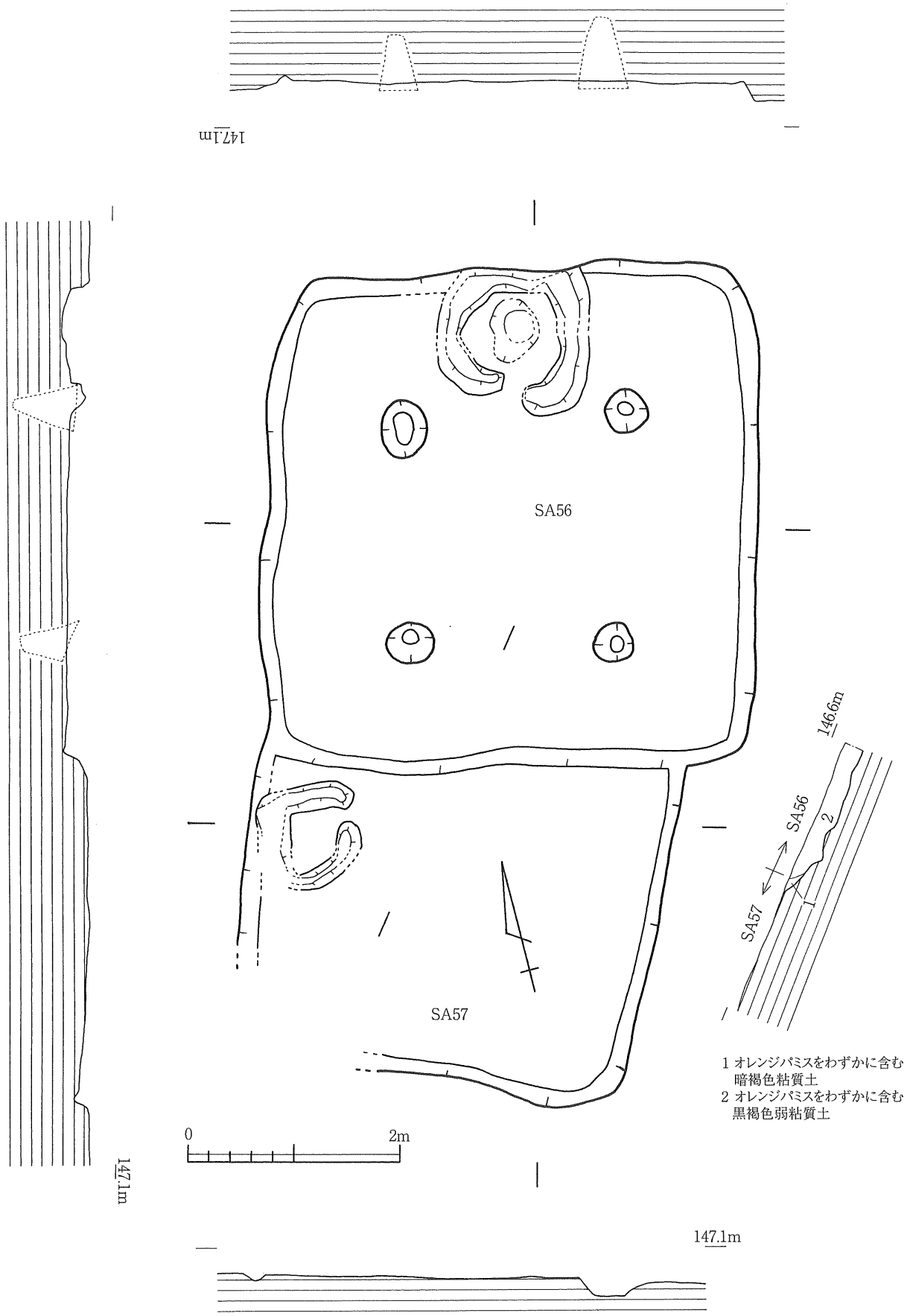
1 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土
2 暗褐色土混明灰褐色粘質土
3 明灰褐色粘質土
4 オレンジパミス・暗褐色土混灰褐色砂質土
5 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土
6 オレンジパミスを多量に含む赤褐色砂質土



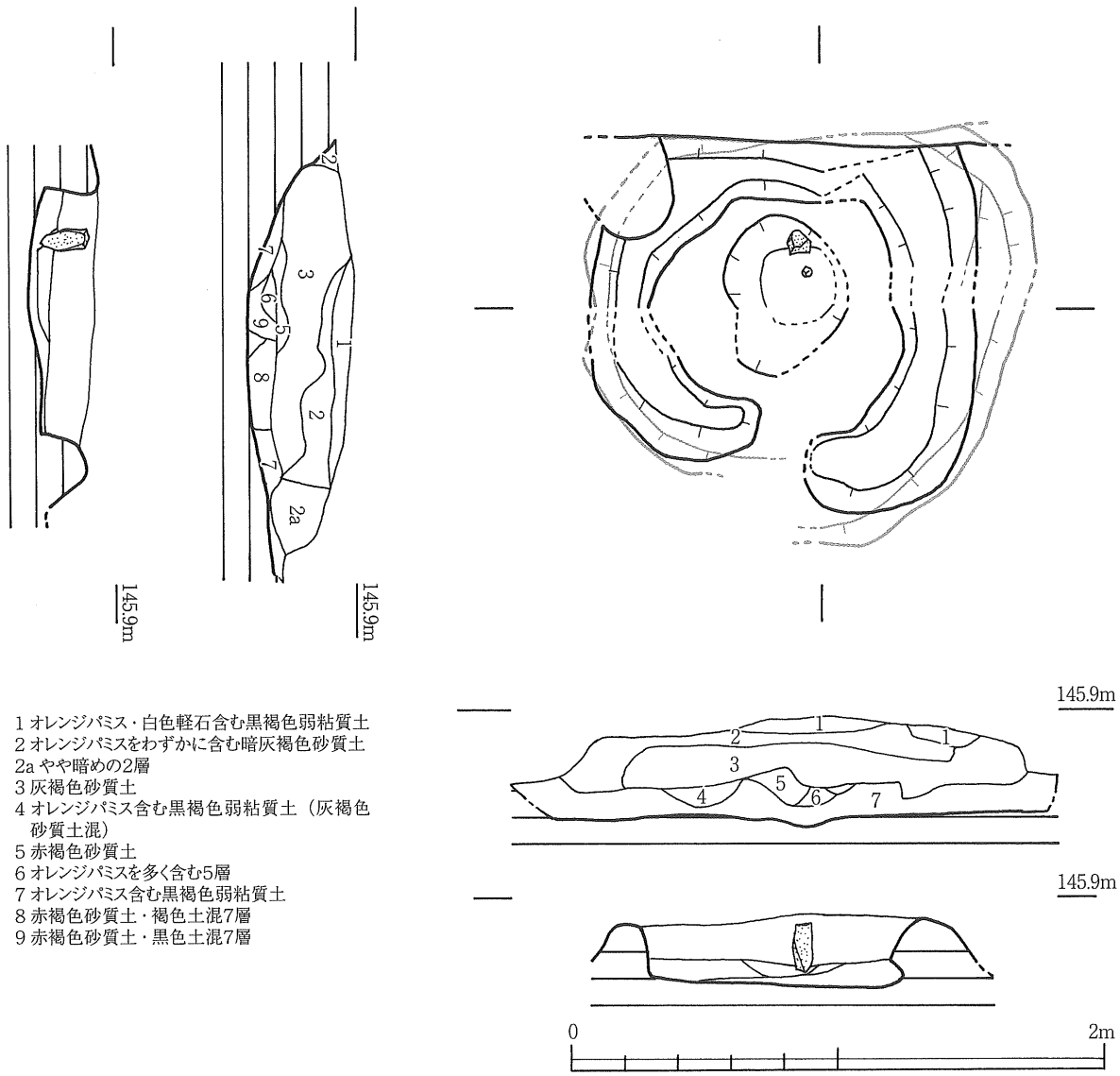
第75図
ＳＡ５４付設カマド（ＳＮ５４）実測図



第76図　ＳＡ５５・６３実測図



第77図　ＳＡ５６・５７実測図



第78図　ＳＡ５６付設カマド（ＳＮ５６）実測図

下に突帯が1条ある。341は底部。342は直口壷か。口径10.8cmを測り、口縁下、頸部には絡縄状の刻みがなされた突帯が1条付される。343～346はカマド（ＳＮ52）出土。343～345は口縁部である。346は胴部か。1条の突帯あり。347～364がＳＡ53出土である。347は須恵器甕の口縁部か。口径17.8cmを測る。やや外反する口縁から頸部に向けてすぼまり、肩部へ張りだし、くの字状断面になる。348～350は口縁部。351は高坏の口縁部か。352は口縁部。353は底部。内器面には工具ナデ痕が、外器面には縦位の粗雑なミガキ痕がみえる。354・355は口縁部。356は底部。357は須恵器胴部。タタキ痕が残る。358は甕。口径16.6cm、底径7.5cm、器高27.1cmを測る。内器面には工具ナデ痕が、外器面には縦位のミガキ調整痕が残る。359・360は底部。359は接合部分で剥離したか。360は底面に組織痕状のものがみえる。361は軽石製。362は直口壷か。口径10.6cm。341と同様に口縁下、頸部に1条の突帯を付す。内器面には工具によるナデ痕が残る。363は甕か。口径32.2cmを測る。口縁下には1条の突帯が付される。外器面の接合痕が残る。底部は欠損。364は軽石製。

【54号竪穴住居跡（ＳＡ54：第74・75・80図）】

ＳＡ53のすぐ南西、ス～セ－22区で確認したＳＡ54はプランが不定形で小型、かつピットも確認できなかった。検出面から床面までの比高差は10cm強。北壁沿いにカマド（ＳＮ54）が付設されており、遺存状態は比較

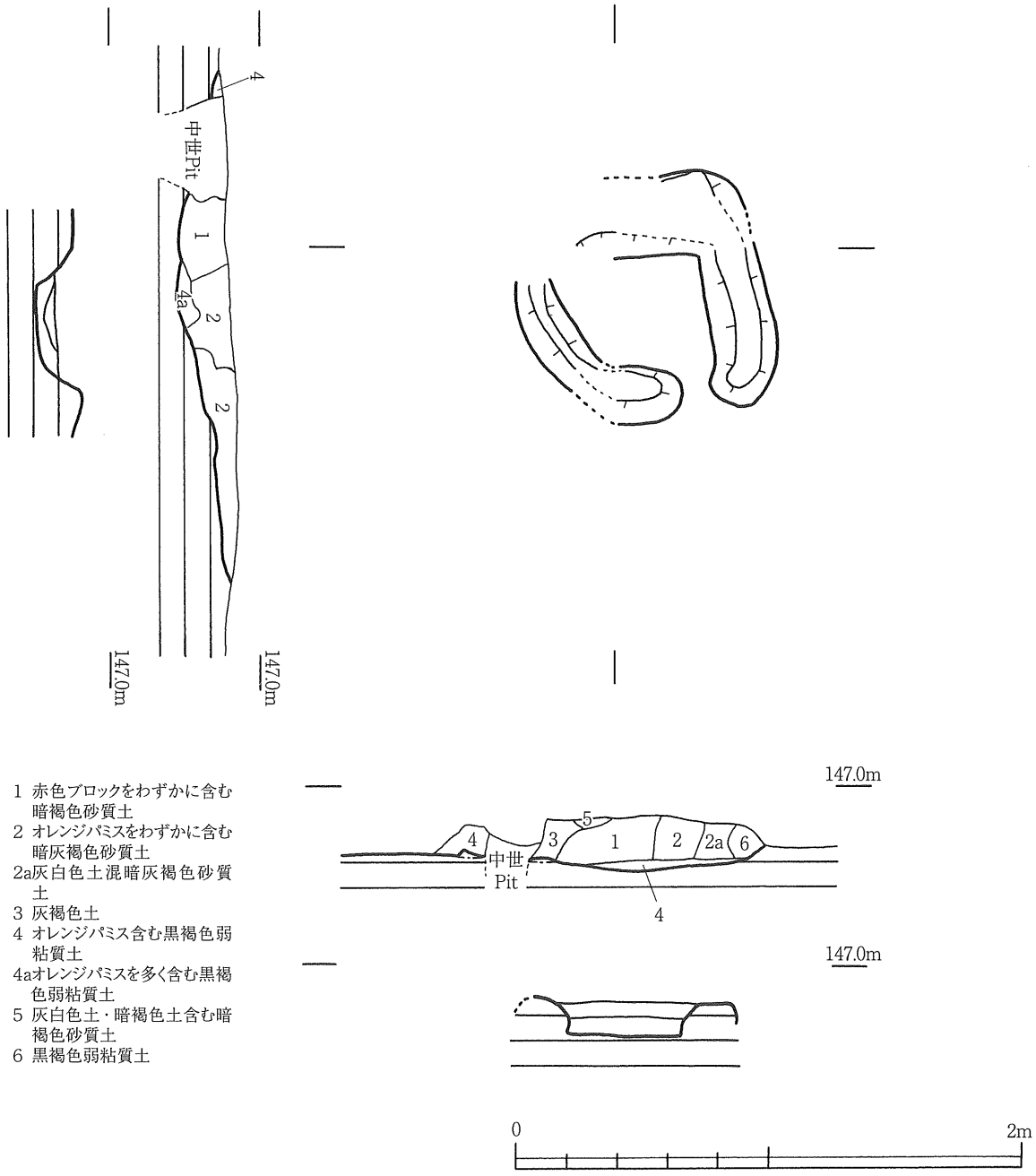
的良好で、燃焼部奥に軽石製支脚も残っていたが、形状は明瞭とはいかなかった。

出土遺物を第80図365～375に掲げた。365～373は口縁部である。365は口縁下に1条の突帯あり。工具ナデ痕が残る。370も口縁下に突帯がある。372も突帯あり。373は高坏の坏部か。口径10.8cmを測る。374は甑の底部。375は甕か。口径11.4cm。

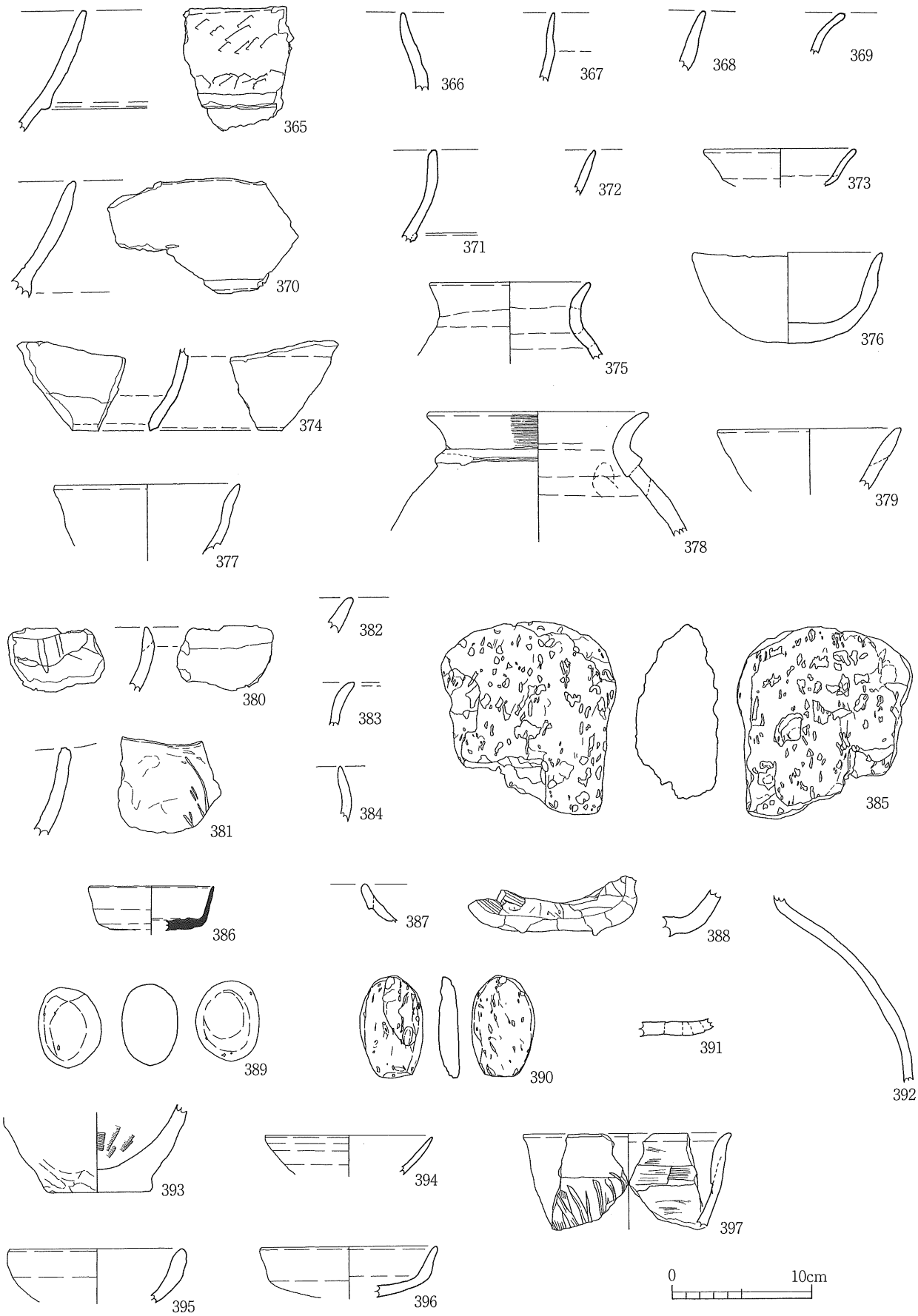
【55・63号竪穴住居跡（ＳＡ55・63：第76・80図）】

ＳＡ55は調査区の西壁沿い、シ－23区に位置する。半分のみの検出である。主柱穴は4穴であろう。Ｎ－Ｓ4.7ｍ。検出面から床面までの比高差は約10cm。

63はセ－27区、62と64に挟まれたように位置する。検出面と床面との比高差はほとんどない。不定形。Ｎ－Ｓ4.1ｍ、Ｅ－Ｗ3.4ｍを測る。主柱穴も不明。中央部にピット状の落ち込みがあった。



第79図　ＳＡ５７付設カマド（ＳＮ５７）実測図



第80図　ＳＡ５４・５５・５６・５７内出土遺物実測図

出土遺物は377～379。377は埦か。口径13.4cmを測る。378は甕の口縁部。口径16cmを測る。頸部に突帯あり。接合痕が明瞭に残る。379は坏の口縁部か。口径13cm。

【56・57号竪穴住居跡（ＳＡ56・57：第77～80図）】

ス～セ－23～24区のＳＡ56・57は57→56の時期差がある。

56は1辺4.7mのほぼ正方形プランで、検出面から床面までの比高差は20cm強と深めである。柱穴は4穴。北壁沿いにカマド（ＳＮ56）がある。カマドの遺存状態は良く、袖や燃焼部は確認できた。燃焼部の奥には軽石製の支脚が立ったまま残っていた。57は張床が明瞭である。Ｅ－W4m。北側は56に破壊されている。検出面から床面までの比高差はほとんどなかった。西壁沿いにカマド（ＳＮ57）が付されていた。検出状況から、その形態は56カマドほど明瞭ではない。燃焼部は確認できた。

出土遺物は第80図にあり、56出土が380～393、57出土が394～397である。380～384は口縁部。385は軽石製。386は須恵器高坏の坏部か。口径9cmを測る。387は口縁部。388は底部。389・390は石器か。391は底部。392は壷もしくは甕の胴部か。393は底部。底径7.5～8.5cm。内器面に工具ナデ痕がある。394は坏の口縁部か。口径12cm。395はＳＮ57出土。396は高坏の坏部か。口径12.6cm。内外ともに丁寧なミガキがなされている。ＳＮ57出土の397は甕の口縁部か。口径14.6cm。内外ともに工具ナデ痕が残る。

【58号竪穴住居跡（ＳＡ58：第81・82図）】

58はシ～ス－25区に位置する。中央部は溝状遺構に破壊されている。検出面から床面からの比高差はほとんどない。Ｎ－Ｓ5.2m、Ｅ－W4.5mを測る方形プランと思われる。3穴のみの検出だが、柱穴は4穴であろう。57と同様に西壁沿いにカマド（ＳＮ58）を付する。燃焼部付近を中世ピットに破壊されているが、カマド跡を示す灰褐色土は遺存していた。

【59号竪穴住居跡（ＳＡ59：第83図）】

ＳＡ59はセ～ソ－25区に位置する。検出面から床面までの比高差はほとんどない。わずかに形状を示すほどの差である。Ｅ－W5.1mを測る。

【60・61号竪穴住居跡（ＳＡ60・61：第84・85・88図）】

ＳＡ60・61は調査区西端、シ～ス－26～27区で検出した。切り合っており、断面観察から61→60の時期差がある。60は柱穴を2穴確認している。Ｎ－Ｓ4.9m、Ｅ－W3.7mの方形プランである。壁沿いに壁帯溝状のほぞが巡る。検出面から床面までの比高差は5cmほど。カマドは確認されなかったが、中央部付近の土坑内に底部を欠いた土師器が埋設されていた。土坑は南北に若干細長く、長径1m、短径80cmを測る。

出土遺物が第88図398～403である。398は甕か。底部が欠損している。中央付近土坑に埋設されていた土器である。口径は25.8cmを測る。口縁下に1条の突帯が巡る。接合痕が残る。399は高坏脚部か。400・401は底部。401は底面に組織痕があり、内器面には工具ナデ痕が残る。402は両面ともに中央が窪む。403は石器か。

【62号竪穴住居跡（ＳＡ62：第86～88図）】

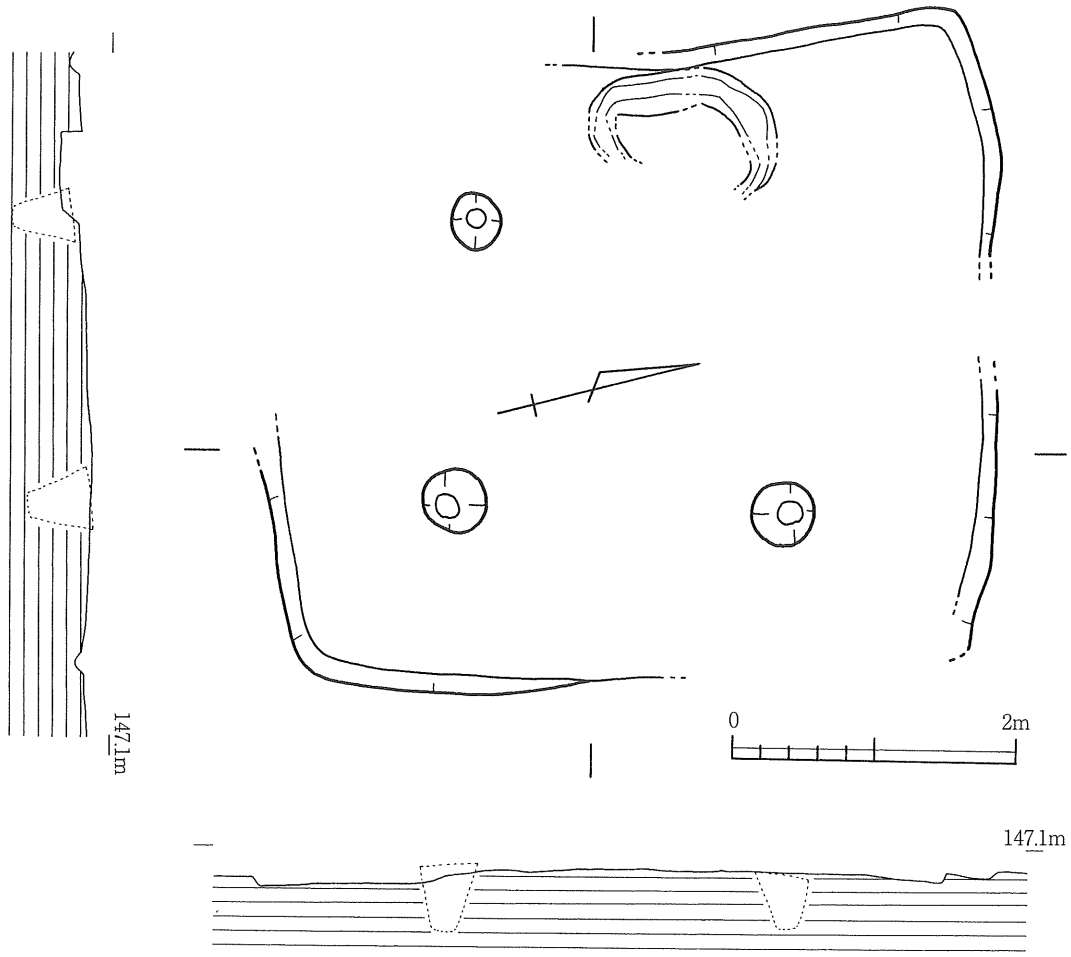
63の北側、セ～ソ－26～27区で確認した。検出面から床面までの比高差は無いに等しいものの、カマド（ＳＮ62）が西壁沿いに確認できた。カマドの形状そのものは明瞭ではない。焚口付近も中世ピットに破壊されていた。

出土遺物は404～406である。404は底部。405は高坏の坏部か。口径12.6cmを測る。内外ともに丁寧なミガキがある。406はＳＮ62内。口縁部。

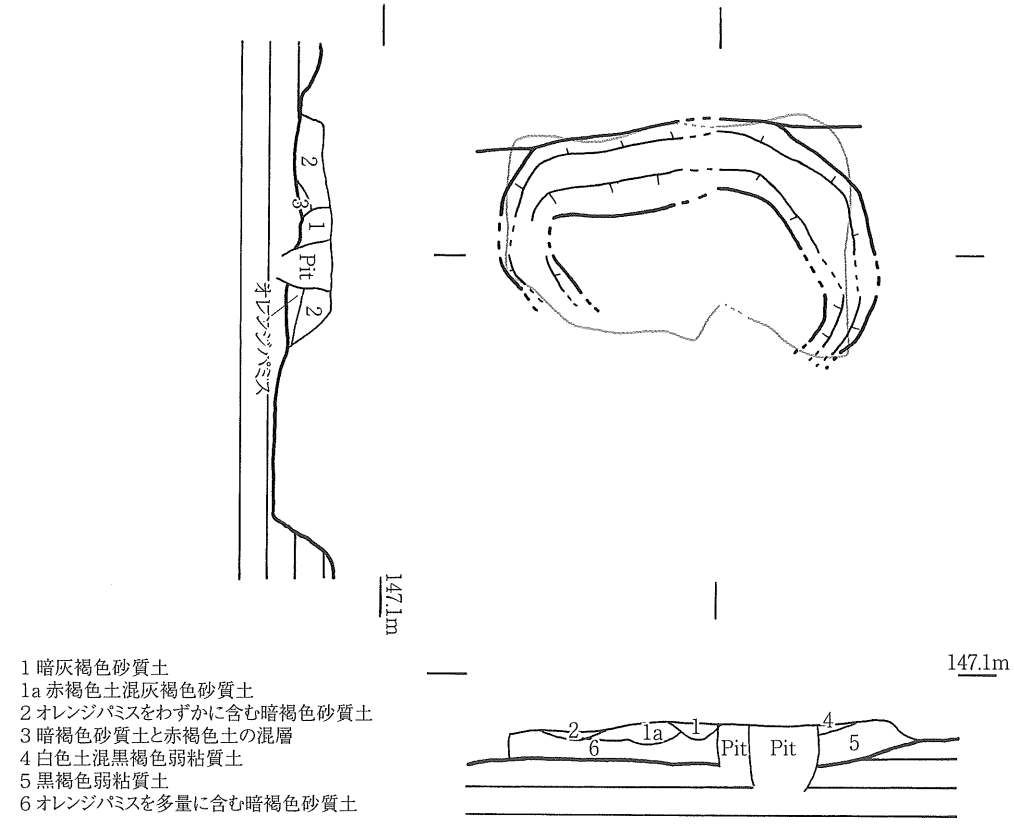
【64・67号竪穴住居跡（ＳＡ64・67：第89図）】

ＳＡ64は63の南西、セ－27～28区にある。一角のみの検出であり、形状等把握できていない。

ＳＡ67はス－32区で確認した。Ｎ－Ｓ3.1m、Ｅ－W3.3mと小型で、柱穴は確認できなかった。検出面から床面までの比高差はほとんどない。



第81図　ＳＡ５８実測図



1 暗灰褐色砂質土
1a 赤褐色土混灰褐色砂質土
2 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土
3 暗褐色砂質土と赤褐色土の混層
4 白色土混黒褐色弱粘質土
5 黒褐色弱粘質土
6 オレンジパミスを多量に含む暗褐色砂質土

第82図　ＳＡ５８付設カマド（ＳＮ５８）実測図

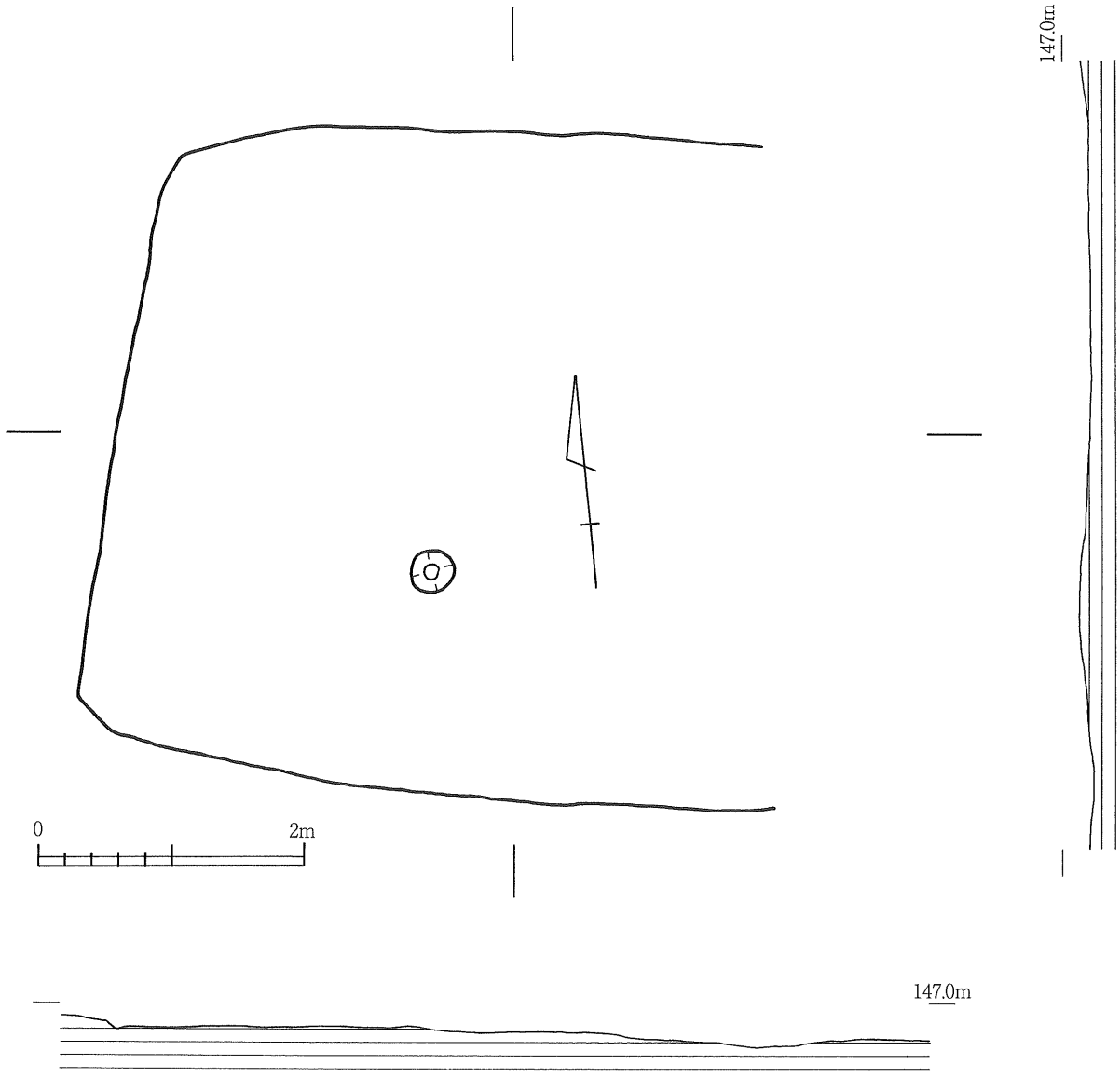
【65・66号竪穴住居跡（ＳＡ65・66：第90図）】

ス～セ－28～29区で重なって検出した。断面観察から66→65の時期差がある。ともにカマド・炉なし。65はＮ－Ｓ3.4m、Ｅ－W3mと小さく、ともなう柱穴は確認できていない。66はＮ－Ｓ4.5m、Ｅ－W4.8mの方形プランである。柱穴が4穴。検出面から床面までの比高差は10cmほどである。

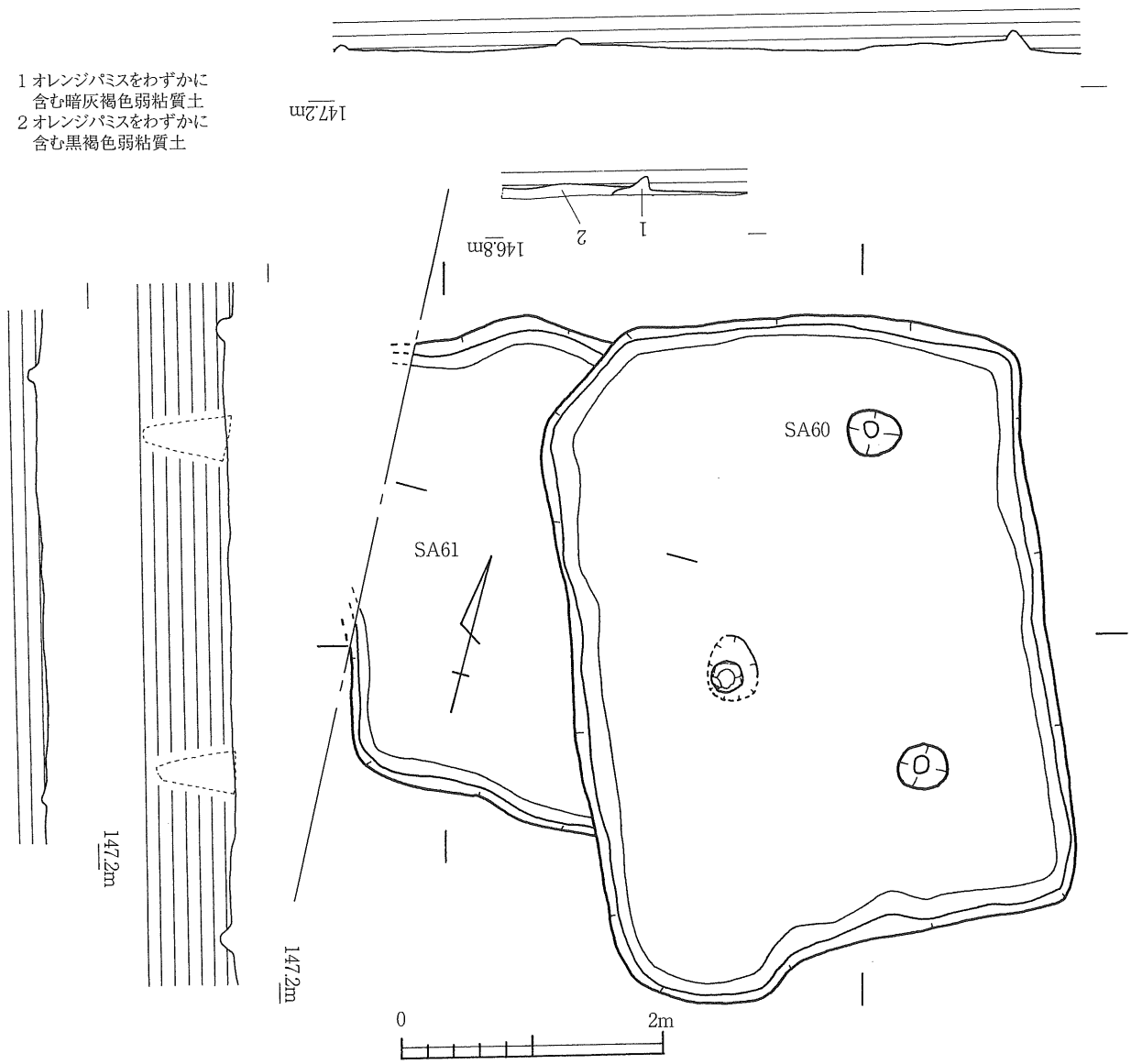
【包含層内出土遺物（第91～93図）】

本遺跡内における遺物包含層は基本土層の第Ⅲ層であるが、古墳期相当層はその下部：Ⅲc層にあたる。

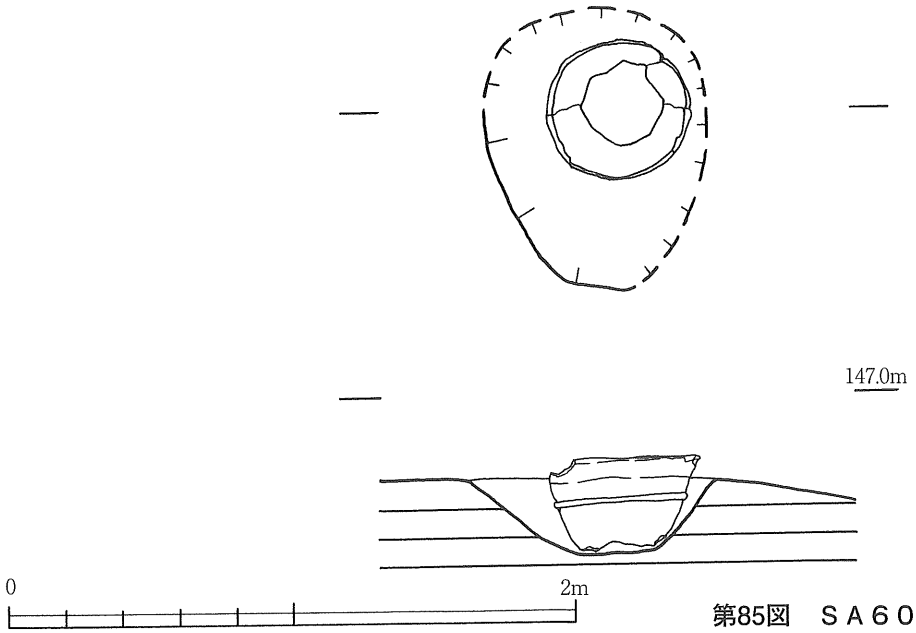
図化し得るものを第91～93図407～474に掲げた。407は口径14.8cmを測る土器の口縁部で、縄文ではないかと思われる。408は土器胴部。2条の貝殻による刺突文がある。409は縄文土器の肩部か。内外ともに丁寧なミガキがなされている。410も縄文土器底部で、ミガキが丁寧である。411は口縁部。412は甕の口縁部か。口径23cmを測る。内器面は接合痕が明瞭で、外器面は工具ナデ痕が残る。413は口縁部。甕もしくは甑か。口径



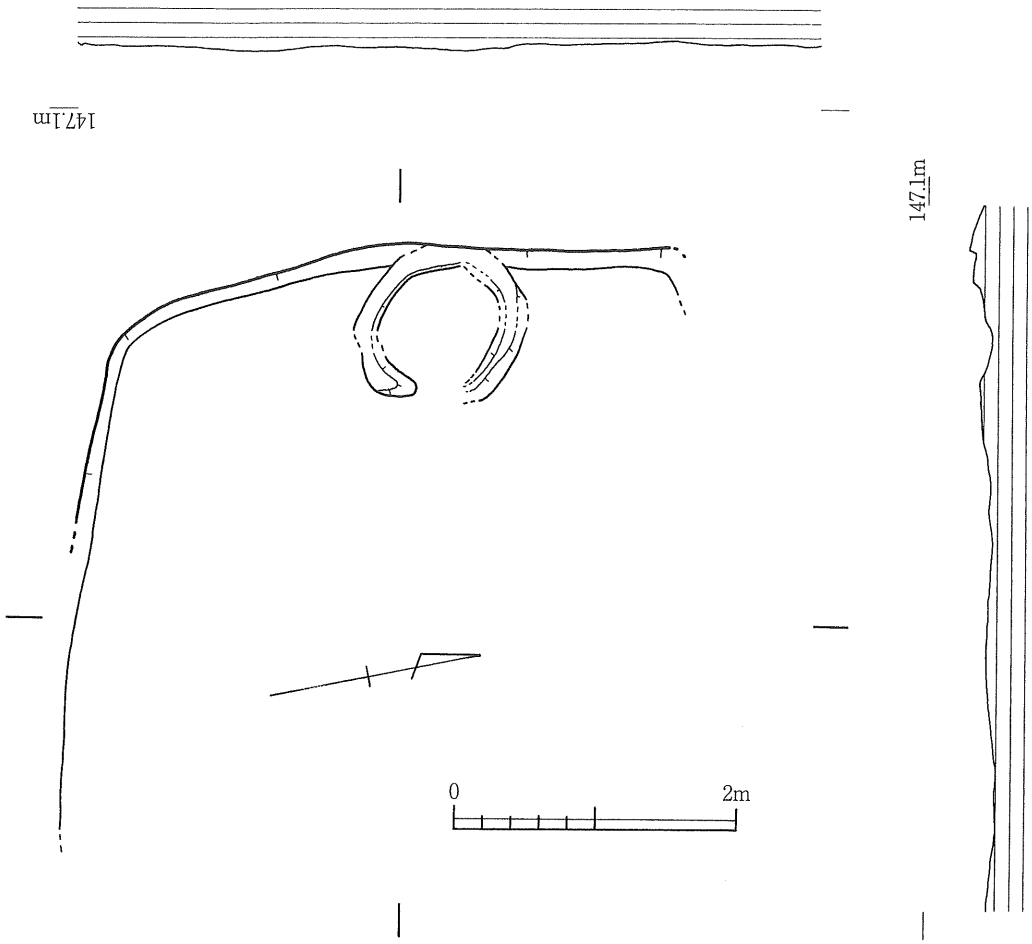
第83図　ＳＡ５９実測図



第84図　ＳＡ６０・６１実測図

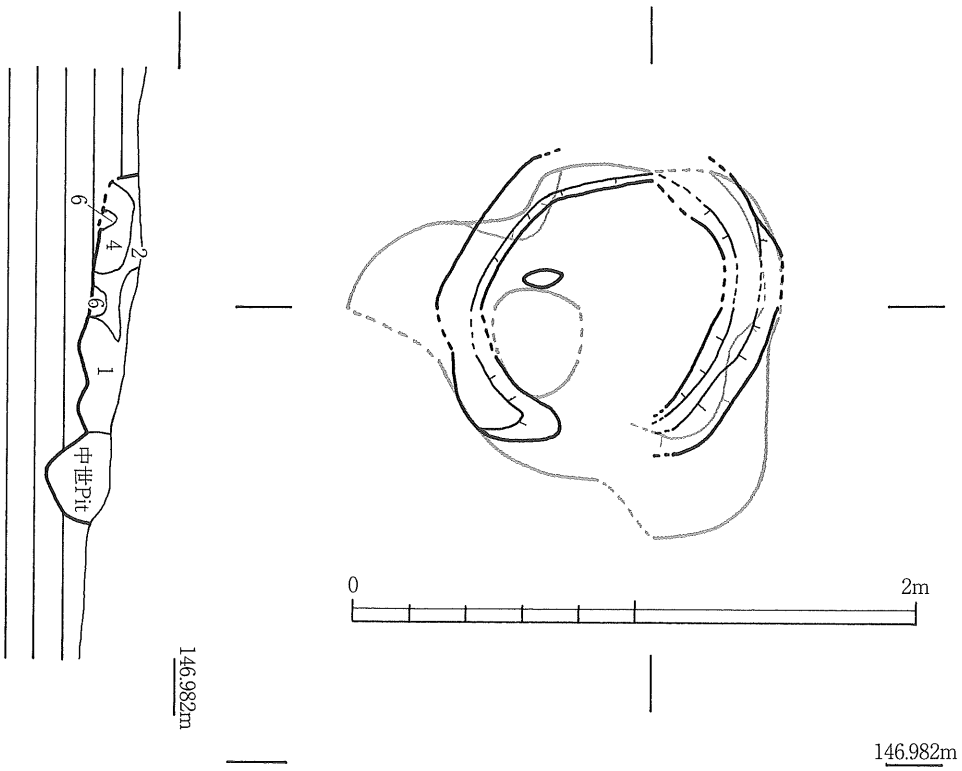


第85図　ＳＡ６０埋設土器実測図

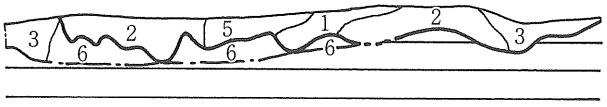


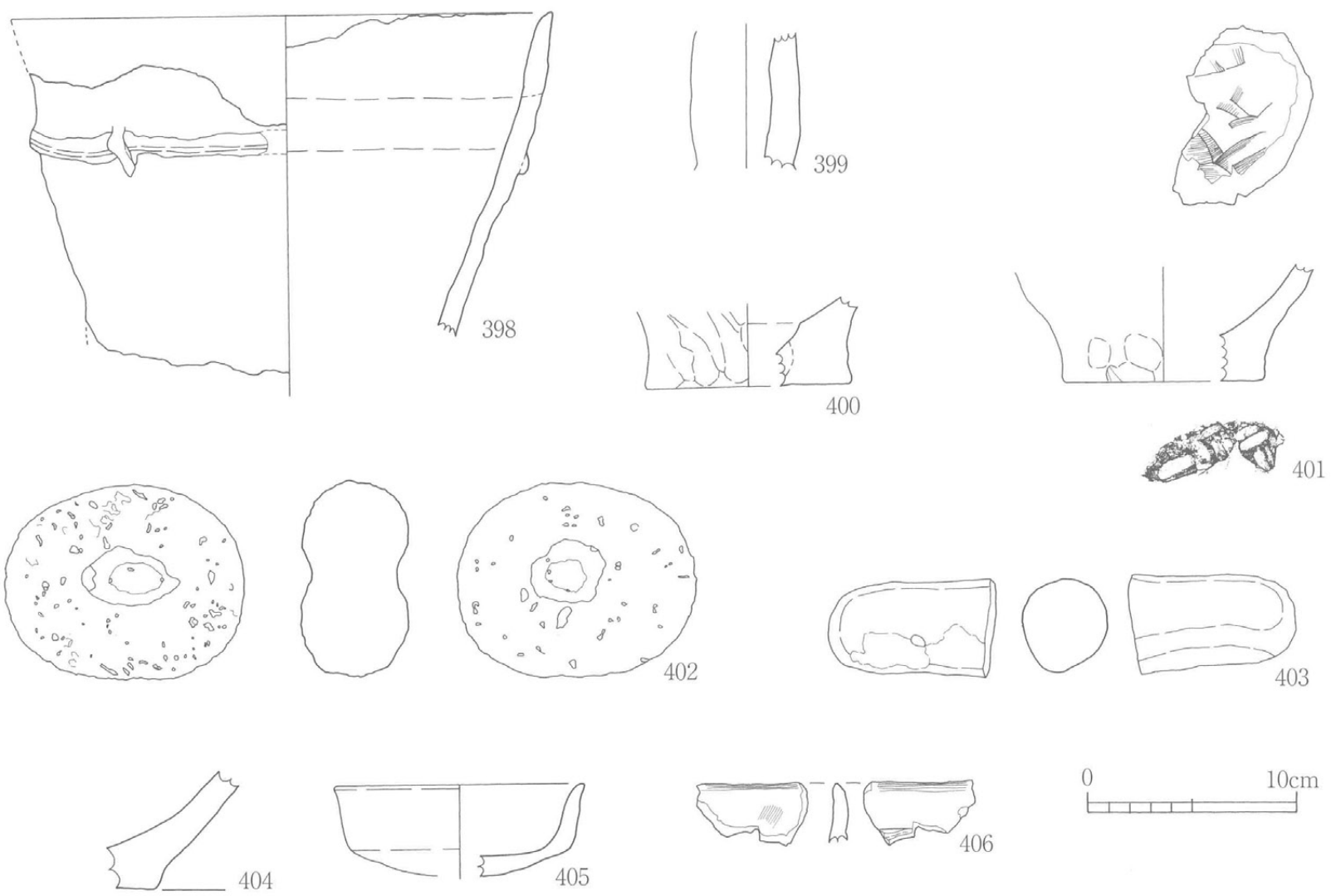
第86図　ＳＡ６２実測図

1 オレンジパミスをわずかに含む明灰褐色粘質土
2 オレンジパミス+黒褐色土+明灰褐色土
3 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色砂質土
4 オレンジパミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土
5 赤褐色粘質土
6 オレンジパミス(御池軽石)



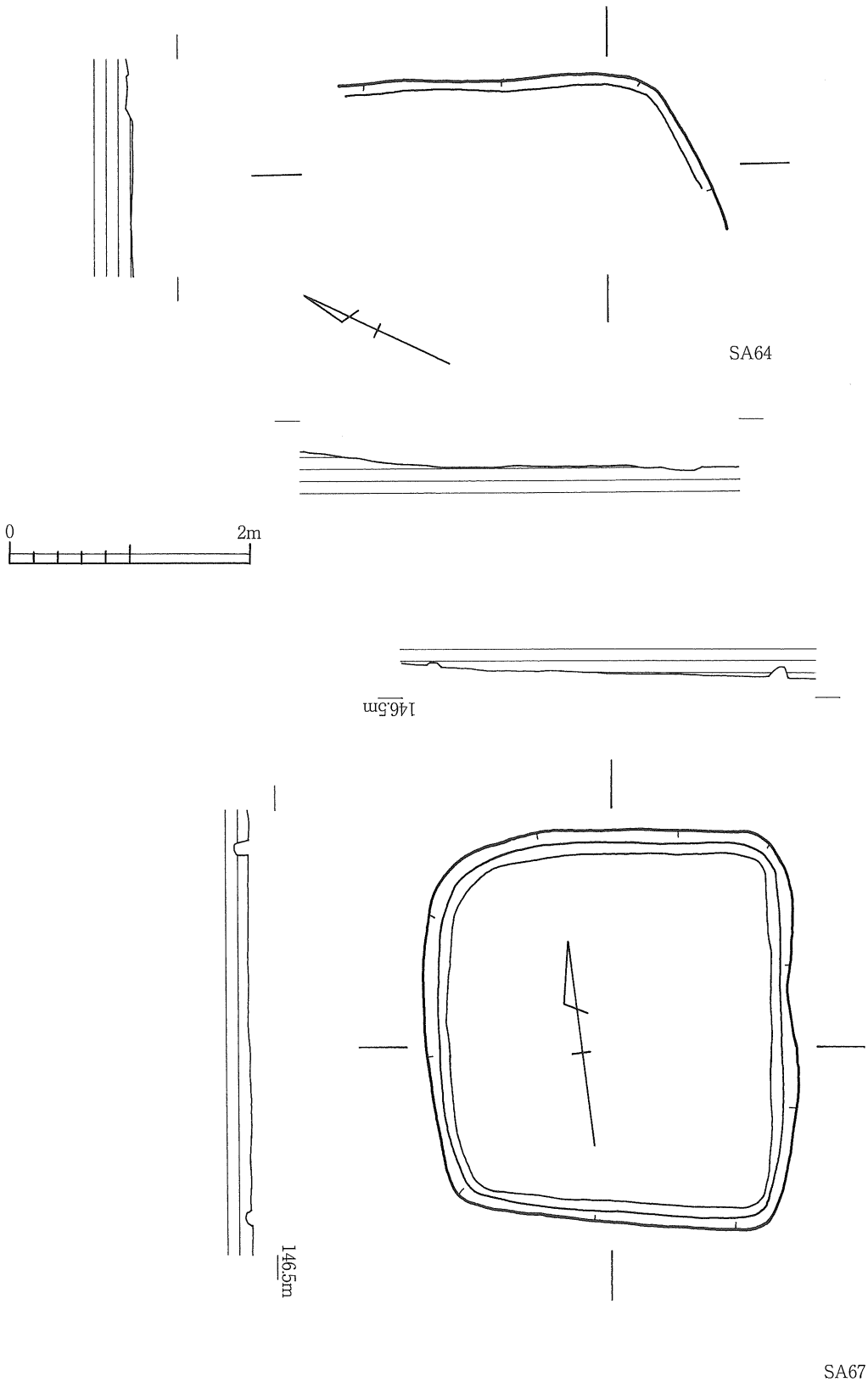
第87図
ＳＡ６２付設カマド（ＳＮ６２）実測図



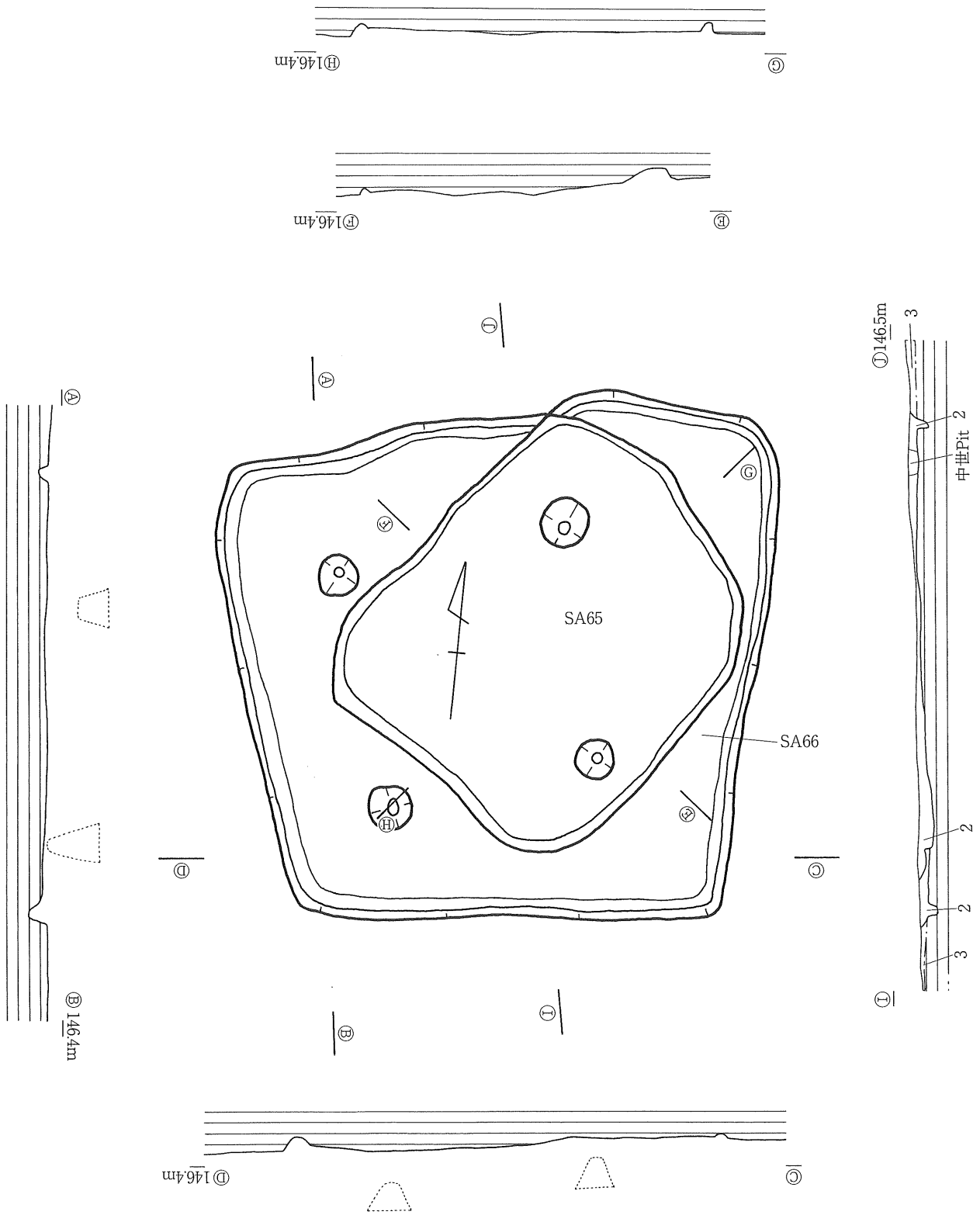


第88図　ＳＡ６０・６２内出土遺物実測図

25.8cmを測る。口縁下には1条の突帯がある。414は甕か。口径11.2cm。415は小型甕か。416は甕の口縁部か。417～421は口縁部。417は口径21cm、頸部に突帯が1条ある。418・419は甕か。420は口縁部。422は丸底甕。焼成は良い。口径28.8cm。外反した口縁から頸部で若干すぼまり、ややふくらんで体部、底部にいたる。内器面には横位の工具ナデが、外器面には横位、縦位、斜位の工具ナデ痕がみられる。423は丸底状の長胴甕。424は坏か。口径12.4cm、底径3.9cm、器高5.5cmを測る。内外ともにミガキがみられる。425・426は坏の口縁部か。427は蓋。口径13cm。428は頸部。429は胴部か。内外にタタキ痕が残る。430は高坏脚部か。431～451は底部である。431は底径9.2～9.5cmで、底面に組織痕もしくは調整痕がある。432は底面に調整痕らしき痕跡があり、内器面に工具ナデ調整痕が残る。433･434の底面は同様に調整痕か。435も同様か。436は底面に木葉痕がある。437は外器面に指頭痕、内器面に工具ナデ痕がある。438・439は内器面に工具ナデ痕あり。449は甕か。451は甑の底部。底径10.6cmで、単孔タイプである。452は須恵器口縁部。甕か。口径38.6cmを測る。口縁下に波状文が施されている。453は口径14.9～15cm。454は須恵器口縁部。壷もしくは瓶か。455は須恵器口縁部。口径26cmを測る。456・457は須恵器口縁部である。ともに口縁下に波状文がある。甕もしくは瓶か。458は須恵器壷口縁部か。口径10.4cmで、複合口縁となっている。459は須恵器の口縁部。460は須恵器坏身。内傾した短めの蓋受けが付く。口径12.2cm。461は須恵器坏か。462は須恵器口縁部。463は須恵器壷の口縁部か。口径13.2cmを測る。464は須恵器坏身。内傾した蓋受けが付く。口径11cm、廂径12.6cmを測る。465は須恵器坏身。464と同様に内傾した蓋受けが付くが464より短い。466は須恵器甕の胴部か。タタキ痕が残る。467は須恵器瓶の底部か。底径10.2cm。468は須恵器瓶の頸部か。469は須恵器高坏の脚部か。470も同様。471は須恵器底部。472は石器か。473は土掘具と思われる。474は軽石製である。



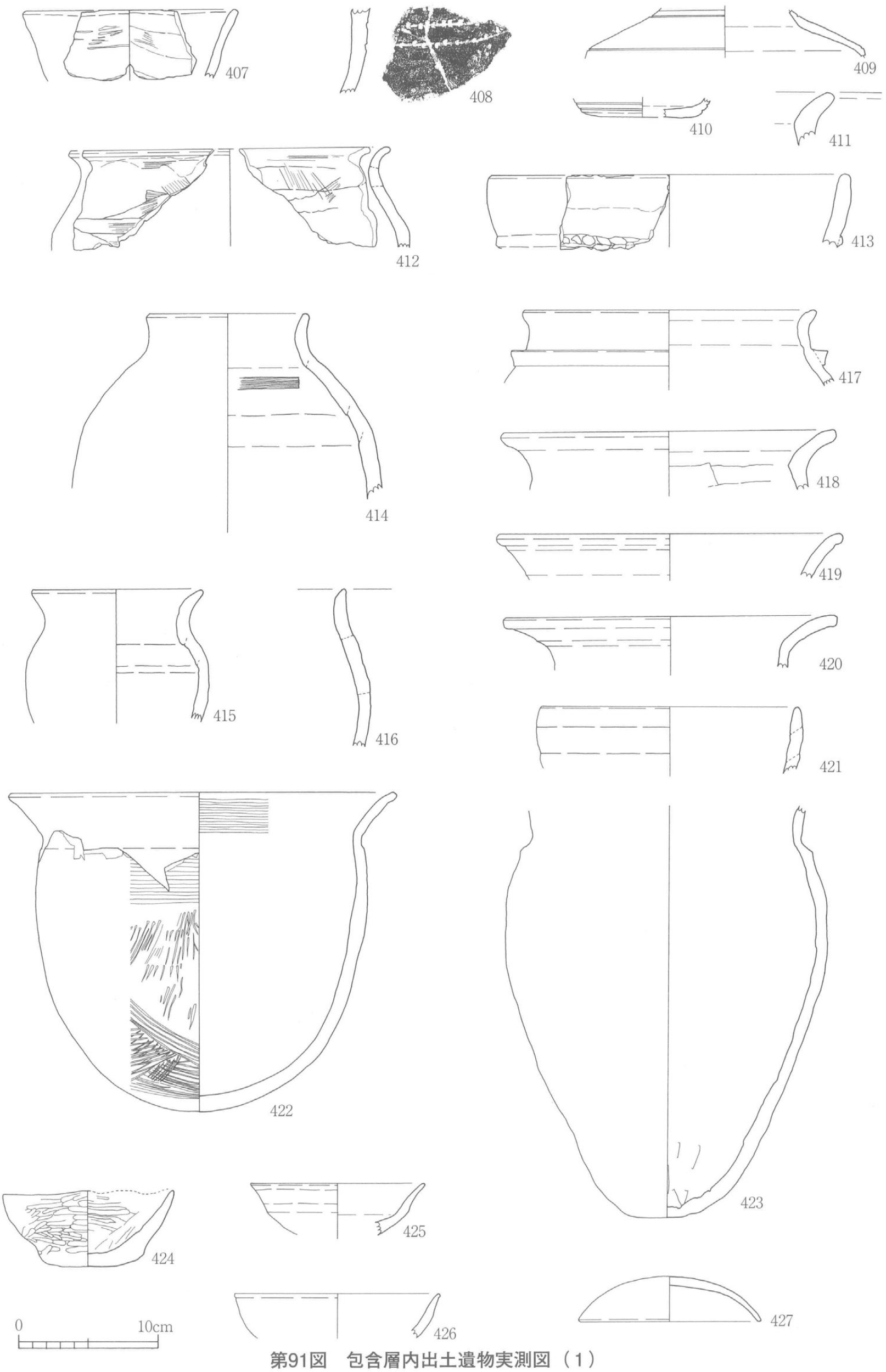
第89図　ＳＡ６４・６７実測図



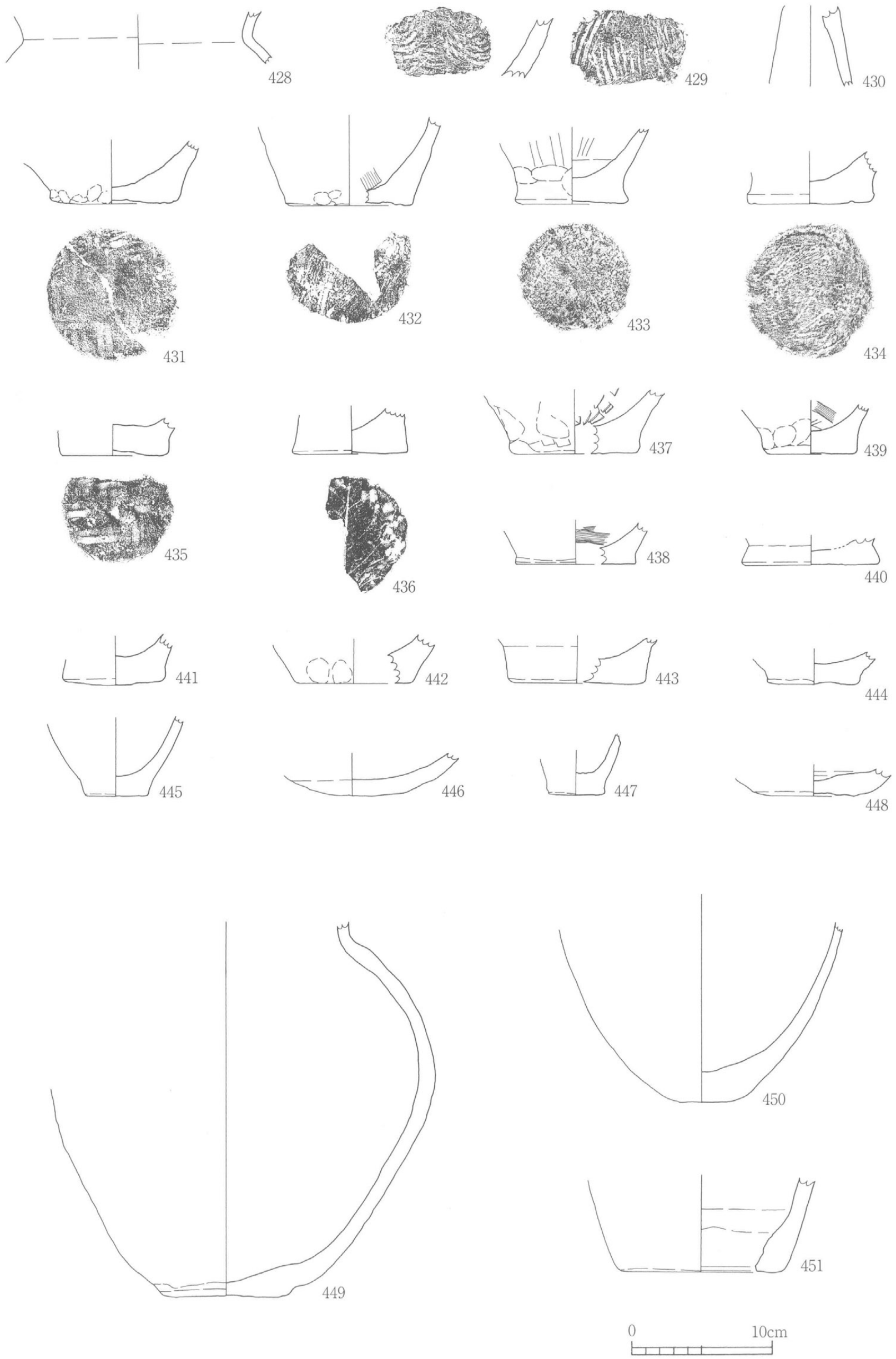
1 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土
2 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土
3 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色弱粘質土

0 2m

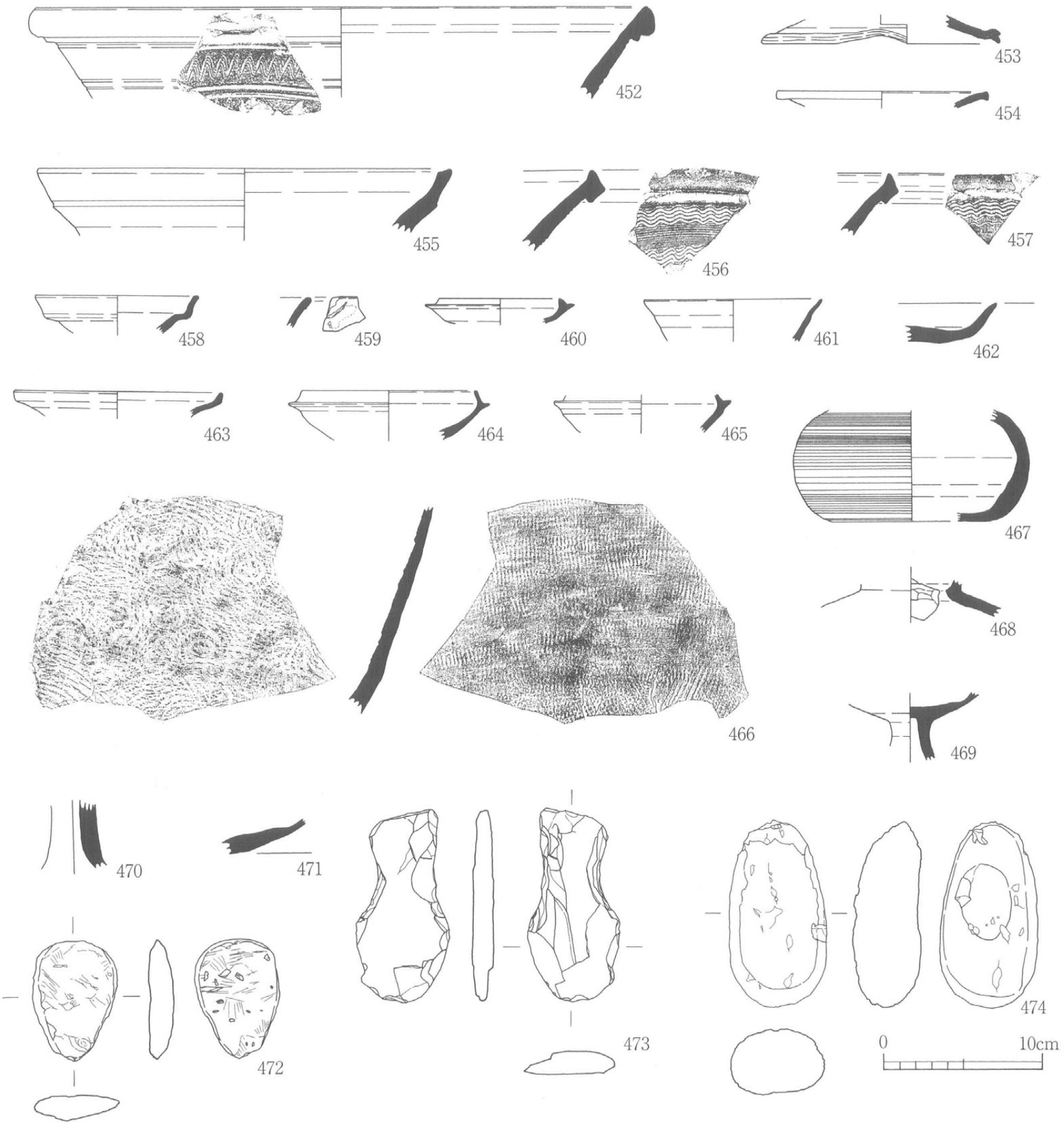
第90図　ＳＡ６５・６６実測図



第91図　包含層内出土遺物実測図（1）



第92図　包含層内出土遺物実測図（2）



第93図　包含層内出土遺物実測図（3）

遺物No.	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(瘤径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
1	土師器（甕）	B（SA01）		29.4	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	4㎜以下鉱物含	17879・17883・17894	突帯あり
2	土師器（甕）	B（SA01）		17.6	—	29.3	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	9634・17504・17507	完形　突帯あり
3	土師器（甕）	D（SA22）		15.5	—	—	ナデミガキ	ナデ	灰褐色	褐色		17881・17887	
4	須恵器（蓋）	B（SA01）		10(11.8)	—	—	ナデ	ナデ				17498	口縁部　庇付
5	須恵器(坏蓋)	B（SA01）		—	—	—	ナデ	ナデ				17511	外線刻あり
6	土師器（甕）	B（SA01）		21.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	17509	口縁部
7	土師器（甕）	B（SA01）		17.1	—	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄色	4㎜以下鉱物含	一括	口縁部
8	土師器（甕）	B（SA01）		17.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	一括（ニ－17）	口縁部
9	土師器（甕）	B（SA01）		19.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	暗黄褐～にぶい黄橙色	5㎜以下鉱物含	9912	口縁部
10	土師器	B（SA01）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい黄色	5㎜以下鉱物含	17888	底部
11	土師器	B（SA01）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰黄色	2㎜以下鉱物含	一括（ニ－17）	底部
12	土師器（甕？）	B（SA01）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～灰黄褐色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	一括（ニ－17）	口縁部　突帯
13	土師器	SA01（SN01）		—	8.4	—	ナデ	ナデ	灰白～浅黄橙	にぶい黄橙～褐色	3㎜以下鉱物含	17775	底部
14	剥片	B（SA01）		—	—	—						17897	
15	土器（浅鉢）	B（SA01）		30.2	—	—	ミガキ	ミガキ	灰～黒色	灰色	ごく微小鉱物含	17495	口縁部　黒色磨研　黒川式？
16	土師器	B（SA01）		—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	4㎜以下鉱物含	一括	底部
17	土師器(坏蓋)	B（SA01）		10.8	—	3.2	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙～にぶい黄橙色	2㎜以下鉱物含	17896	外線刻あり
18	土師器（甕）	SA01（SN01）		15.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	17775	口縁部　外面頸部に指頭圧痕あり
19	土師器（甕）	SA01（SN01）		18.2	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色		17775	内面接合痕明瞭
20	土師器	B（SA01）		—	8.4	—	ナデ	ナデ	灰褐～にぶい褐色	にぶい赤褐色	5㎜以下鉱物含	9865・10973	底部
21	軽石製支脚	SA01（SN01）		—	—	—						17776	竈内の支脚
22	土師器（甕）	A（SA02）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい褐色	1㎜以下鉱物含	8840	口縁部
23	土師器	A（SA02）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	9528	口縁部下？　突帯あり
24	土師器（甕？）	A（SA02）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐色	橙～灰黄色	3㎜以下鉱物含	9482・9484～86・9491・9492	口縁部　甑か？　刻目突帯
25	軽石製品	A（SA02）		—	—	—						9507	
26	土師器(坏蓋)	A（SA02）		13.6	—	—	ナデ	ナデ	橙色	灰黄色	1㎜以下鉱物含	8842・9505	口縁部
27	土師器（甑）	A（SA02）		—	9.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	5㎜以下鉱物含	8838・8488・9469・9483・9481・9490・9493	底部　単孔
28	土師器	A（SA03）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	5㎜以下鉱物含	9511	口縁部下？　突帯あり
29	土師器（甑）	A（SA03）		—	—	—	ナデ	ミガキ	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	9509	底部　単孔
30	土師器	A（SA03）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐～黒褐色	にぶい赤褐～黒褐色	1㎜以下鉱物含	9513	口縁部
31	石器	A（SA03）										10863	
32	土師器（甕）	A（SA03）		17.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3㎜以下鉱物含	10897・10898・10888・10891・10893	口縁～胴部　外指頭痕　10872と接合
33	鉄製品	A（SA03）		—	—	—						9514	手鎌様鉄器
34	土器（浅鉢）	A（SA05）		11.2	—	—	ミガキ	ミガキ	灰褐～灰色	灰褐～灰色	0.5㎜以下鉱物含	10821	口縁～胴部　黒色磨研　黒川式？
35	土師器（坏）	A（SA05）		10.5	3.3	4.6～5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～明黄褐色	にぶい黄橙色	3㎜以下鉱物含	9534	内磨耗
36	土師器	A（SA05）		—	11.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	橙～にぶい橙色	ごく微小の鉱物含	10854	底部　底面に5㎜程度の石多数付着
37	土器（浅鉢）	A（SA05）		—	—	—	ナデ	ナデミガキ	灰黄色	にぶい黄橙色	1㎜以下鉱物含	10829	口縁部　晩期？
38	土師器	A（SA05）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白～にぶい橙色	にぶい黄橙色	1.5㎜以下鉱物含	9542	口縁部
39	須恵器(坏身)	A（SA06）		8.8(11.2)	—	—	ナデ	ナデ			0.5㎜以下鉱物含	9708	口縁部
40	土師器(高坏)	A（SA06）		—	11.8～12	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい黄橙～橙色	橙色	1.5㎜以下鉱物含	10858	底部（脚部）
41	土師器（甕）	A（SA06）		30.4	4.6	30.3	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	2㎜以下鉱物含	10861・19801	口縁～底部　刻目突帯　スス
42	土師器	A（SA06）		—	7.5	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	5㎜以下鉱物含	9658	底部
43	土師器(高坏)	A（SA06）		—	18.6～18.8	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい橙色	にぶい黄橙～にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	10862	底部（脚部）
44	土師器（甕）	A（SA06）		33.2	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	2㎜以下鉱物含	10864	口縁部　絡縄突帯　外指頭痕　外スス
45	土師器(鉢形？)	D（SA07）		—	7.9	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	10952	底部　接合痕明瞭
46	土師器（甕）	SA07（SN07）		30	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	10925・10929・10932	口縁～胴部　接合痕　スス
47	土器（鉢）	D（SA08）		—	—	—	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙～にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	一括（ナ－16）	口縁部　縄文晩期？
48	土師器	SA07（SN07）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部　接合痕明瞭
49	土師器	D（SA08）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	5㎜以下鉱物含	一括（ナ－15）	口縁部
50	土師器	SA07（SN07）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部
51	土師器（甕）	SA07（SN07）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	灰白色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部
52	土師器	SA07（SN07）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐色	浅黄橙色	2㎜以下鉱物含	一括	胴部？　外指頭痕　内接合痕
53	土師器	D（SA08）		—	8.6	—	ナデ	ナデ	明赤褐～赤褐色	にぶい黄褐色	4㎜以下鉱物含	9844	底部
54	土師器	SA07（SN07）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	一括	底部付近
55	須恵器(坏身)	D（SA08）		10.2(12.4)	—	3.6	ナデ	ナデ				一括（ナ－15）	外「×」あり
56	土器（浅鉢）	D（SA09）		23	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰～オリーブ色	1㎜以下鉱物含	17529	口縁部　外スス　晩期？
57	土器（深鉢）	D（SA09）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐～灰褐色	にぶい赤褐色	2㎜以下鉱物含	17517	口縁部　晩期　松添タイプ
58	土師器	D（SA09）		—	10.4	—	ナデ		褐色		ごく微小鉱物含	17622	底部
59	土師器	D（SA10）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	6㎜以下鉱物含	一括	口縁部
60	土師器(毬形？)	D（SA10）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄褐色	灰黄色	ごく微小鉱物含	17488	底部
61	土師器（甕）	D（SA10）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい橙色	にぶい黄橙色	4㎜以下鉱物含	17489	胴部
62	須恵器(高坏)	D（SA11）		9.8	6.6～6.7	5.85	ナデ	ナデ				17490	ほぼ完形
63	土師器(甕？)	D（SA11）		22	—	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	一括（ト－19）	口縁部
64	土師器	D（SA11）		11.8	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙～にぶい黄橙色	灰白～灰褐色	1㎜以下鉱物含	一括（ト－19）	口縁部？
65	土師器（坏）	SA11（SN11）		15.6	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	0.5㎜以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	口縁部
66	土師器（坏）	SA11（SN11）		12.4	4.4	4.4	ナデ	ミガキ	橙色	黄橙～にぶい黄橙色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁～胴部　内磨耗
67	土師器（坏）	SA11（SN11）		10.9	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	1㎜以下鉱物含	17768	口縁部
68	土師器(坏蓋)	SA11（SN11）		13.2	—	3.7	ナデ	ナデ	橙色	橙色	4㎜以下鉱物含	17793	
69	土師器	D（SA11）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	浅黄橙～灰黄褐色	1㎜以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	口縁部　突帯
70	土師器（甕）	SA11（SN11）		—	8～8.3	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい橙色	にぶい橙～灰褐色	5㎜以下鉱物含	17774	胴～底部　突帯あり　接合痕明瞭

第1表　出土遺物観察表（1）

遺物No.	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(胴径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
71	土師器	D（SA11）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	2mm以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	口縁部
72	土師器	D（SA11）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐～黒色	灰黄褐色	0.5mm以下鉱物含	一括（ト－19）	口縁部
73	土師器	D（SA11）		—	6.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	明褐色	0.5mm以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	底部
74	土師器（甕）	SA11（SN11）		—	7.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐色	橙～褐色	0.5mm以下鉱物含	17769・17766・SA11一括	胴～底部　外指頭痕
75	土師器	D（SA11）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	橙色	0.5mm以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	底部　ミニチュア
76	土師器（甑）	D（SA11）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	5mm以下鉱物含	一括(ト・テ－19)	底部　単孔
77	土師器	D（SA12）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐色	浅黄橙色	2mm以下鉱物含	一括（ヌ－19）	口縁部
78	土師器	D（SA12）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色～灰黄褐色	5mm以下鉱物含	一括（タ－19）	底部　外指頭痕
79	土師器（甕）	D（SA13）		34.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	橙～にぶい橙色	4mm以下鉱物含	一括(タ～チ－19～20)	口縁部　突帯
80	土師器（甑）	D（SA13）		—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括（チ－20）	底部　単孔
81	土師器	D（SA13）		—	5.2～5.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	5mm以下鉱物含	10199	底部　外指頭痕
82	土師器	D（SA13）		—	5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	11189	底部　外指頭痕
83	土師器	D（SA13）		—	7.6	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙～にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	3mm以下鉱物含	一括(タ～チ－19～20)	底部　丁寧なミガキ（内外）
84	土師器	D（SA13）		—	9.2	—	ナデ	ナデ	にぶい褐～明褐色	黄橙～橙色	4mm以下鉱物含	17461	底部
85	土師器	D（SA13）		—		—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下鉱物含	17571	底部
86	土師器	D（SA13）		—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～灰褐色	にぶい黄橙色	1.5mm以下鉱物含	10086	底部　接合痕　外指頭痕
87	土師器（甕）	D(SA13・14)		16.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～灰褐色	にぶい橙色	6mm以下鉱物含	一括(タ～チ－19～20)	口縁部　外スス　接合痕
88	土師器	D(SA13・14)		—	7.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～灰白色	4mm以下鉱物含	一括	底部
89	土師器（甕）	D(SA13・14)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙～にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
90	土師器	D(SA13・14)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	4mm以下鉱物含	一括	底部
91	土師器	D(SA13・14)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐～灰褐色	にぶい赤褐色	3mm以下鉱物含	一括	底部
92	土師器	D（SA14）		13.2	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	橙～灰褐色	橙～灰褐色	6mm以下鉱物含	一括（チ－19）	口縁部　磨耗
93	土師器（甕）	D（SA14）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	橙色	2mm以下鉱物含	17469	口縁部
94	土師器（甕）	D（SA14）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	6mm以下鉱物含	17476	口縁部　外スス
95	土師器(高坏)	D（SA14）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～灰白色	4mm以下鉱物含	17462	
96	土師器	D（SA14）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐色	暗灰黄色	4mm以下鉱物含	一括（チ－19）	底部
97	土師器	D（SA14）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	2mm以下鉱物含	17477	
98	土師器	D（SA14）		—	9.9	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい褐色	2.5mm以下砂粒含	17480	底部　17492と接合
99	土師器	D（SA15）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	1.5mm以下鉱物含	一括	口縁部
100	土師器	D（SA15）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	0.5mm以下鉱物含	一括	口縁部
101	須恵器	D（SA15）		12	—	—	ナデ	ナデ				一括	口縁部
102	土師器	D（SA16）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	ごく微小鉱物含	17539	底部付近
103	土師器	D（SA16）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	ごく微小鉱物含	17535	口縁部
104	土師器	D（SA16）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい赤褐色	橙～にぶい黄橙色	3mm以下鉱物含	17534	口縁部
105	須恵器（坏）	D（SA16）		9.8	—	—	ナデ	ナデ				17537	口縁部
106	須恵器	D（SA16）		—	—	—	タタキ	タタキ				17536	内同心円
107	土師器（坏）	D（SA18）		18	—	—	ナデ	ミガキ	橙色	橙色	1mm以下鉱物含	17544	口縁部
108	土師器（甕）	D（SA18）		16	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	2mm以下鉱物含	17546	口縁部
109	土師器(甕？)	D（SA18）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	浅黄橙～橙色	5mm以下鉱物含	17547	口縁部　突帯あり
110	土師器(坏蓋)	D（SA18）		12.6	—	4.5	ナデミガキ	ナデミガキ	橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17549	外「×」あり
111	土師器（甕）	D（SA18）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括（ニ－22）	口縁部
112	土師器	D（SA18）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括（ニ－21）	肩部？　突帯あり
113	土師器	D（SA18）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい赤褐色	3mm以下鉱物含	一括（ニ－22）	底部
114	土師器（甕）	D（SA18）		30.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～灰褐色	7mm以下鉱物含	17556・17557・17560～17562・17564	口縁部　突帯あり
115	土師器	D（SA18）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	6mm以下鉱物含	17565	口縁部
116	土師器（甑）	D（SA18）		—	9	—	ナデ	ナデミガキ	にぶい赤褐～灰黄褐色	にぶい黄橙～暗灰黄色	5mm以下鉱物含	一括	底部　単孔　内丁寧ミガキ
117	軽石製品	D（SA18）		—	—	—						17559	
118	土師器(甕？)	D（SA18）		—	7.4～7.7	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	17541	底部
119	土師器	D（SA18）		—	7.5～7.7	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい橙色	橙～灰褐色	6mm以下鉱物含	17365	底部
120	土師器(坏？)	D（SA19）		14	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙～灰褐色	4mm以下鉱物含	17817	口縁～底部近く
121	土師器（坏）	D（SA19）		12	—	—	ナデミガキ	ミガキ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部　丁寧なミガキ
122	土師器（鉢）	D（SA19）		17.2	8.4～8.5	8.9～9.8	ナデミガキ	ナデミガキ	にぶい黄橙～明赤褐色	にぶい黄橙～橙色	4mm以下鉱物含	17821・17820・17818・17817	口縁完形　見込みに黒斑あり　部分的にミガキ
123	土師器(坏？)	D（SA19）		19.4	—	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい黄橙色	にぶい褐色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
124	土師器（坏）	D（SA19）		—	—	—	ナデミガキ	ナデ	橙色	橙色	6mm以下鉱物含	17816	口縁部
125	土師器(壷？)	D（SA19）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり
126	土師器	D（SA19）		—	—	—	ナデ	ナデ	黒色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
127	土師器(高坏)	D（SA19）		—	10	—	ミガキ	ミガキ	灰黄色	にぶい黄橙色	2mm以下鉱物含	17485	頸～底部
128	土師器(甕？)	D（SA19）		—	10	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	底部
129	土師器(甕？)	D（SA19）		—	10	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	一括	底部
130	土師器（甕）	D（SA19）		—		—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	17811	底部
131	土師器(甕？)	D（SA19）		—	7.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	6mm以下鉱物含	一括	底部
132	土師器	D（SA19）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～灰黄色	にぶい黄橙～灰黄色	3.5mm以下鉱物含	17815	底部
133	土師器(甕？)	D（SA19）		—	9.4	—	ナデ	ナデ	明赤褐～にぶい赤褐色	明赤褐色	3mm以下鉱物含	17486	底部　木葉痕あり
134	土師器（甕）	D（SA19）		—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	3mm以下鉱物含	一括	底部　木葉痕あり
135	土師器	D（SA20）		16.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括(ニ・ヌ－25)	口縁部
136	土師器	D（SA20）		26	—	—	ナデ	ナデ	黒褐～黄橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	1744 ？	口縁部
137	土師器(高坏？)	D（SA20）		10.6	—	—	ミガキ	ミガキ	灰褐～黄灰色	灰褐～黒色	3mm以下鉱物含	一括(ニ－24)＋SN20	口縁部　内外ともに黒色研磨
138	土師器（甕）	D（SA20）		13	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～赤褐色	にぶい橙～赤褐色	ごく微小の鉱物含	17616・17618～621・17625	口縁～胴部　内外丹塗り　丁寧な調整
139	土師器(甕？)	D（SA20）		17.4	—	—	ナデ	ケズリ	にぶい橙色	にぶい橙～灰褐色	1mm以下鉱物含	17644	口縁部　スス
140	土師器	D（SA20）		9.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物含	17627	口縁部

第２表　出土遺物観察表（２）

遺物No.	種　別	地区（遺構）	地層	法　量			調　整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(胴径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
141	土師器(甕？)	D（SA20）		17.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	5mm以下鉱物含	17640	口縁部　ススス
142	須恵器(坏？)	D（SA20）		9.4	—	—	ナデ	ナデ				一括（ヌ－24）	口縁部
143	土師器(甕？)	D（SA20）		16.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	1mm以下鉱物含	17900	口縁部
144	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～橙色	橙色	1mm以下鉱物含	一括(ニ・ヌ－25)	口縁部
145	土師器(甕？)	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	黄橙～黒褐色	にぶい橙色	ごく微小鉱物含	17622	口縁部
146	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデミガキ	ナデ	黄灰～黒色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	17628	口縁部
147	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	17639	口縁部
148	須恵器(坏蓋)	D（SA20）		11.8	—	4.1	ナデ	ナデ				17613～615	内に5cmほどの「×」印
149	土師器(甕？)	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	17903	口縁部　突帯あり
150	土師器	D（SA20）		—	—	—	ミガキ	ナデのちミガキ	にぶい橙～灰黄色	灰黄褐～灰黄色	ごく微小の鉱物含	17617	底部　丁寧なミガキ（内外）
151	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐色	灰褐色	2mm以下鉱物含	17901	突帯あり
152	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデミガキ	ナデ	橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	17630	口縁部
153	須恵器	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ				17902	
154	土師器	D（SA20）		—	7.8	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	17631	底部　底面ススス
155	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐～にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	17636	胴部　内外ススス
156	須恵器	D（SA20）		—	—	—	タタキ	タタキ				17641	内同心円当て具痕あり
157	土師器（甑）	D（SA20）		—	9.6	—	ナデケズリ	ナデケズリ	にぶい橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括(ニ・ヌ－25)	底部　単孔　内外ケズリ
158	土師器（甑）	D（SA20）		—	8	—	ミガキ	ナデミガキ	にぶい橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	17645・17646	底部　単孔　丁寧なミガキ
159	土師器	D（SA20）		—	9.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	灰褐色	3mm以下鉱物含	17646	底部　組織痕
160	土師器	D（SA20）		—	—	—	ナデミガキ	ミガキ	橙色	にぶい橙～橙色	5mm以下鉱物含	17637	胴部？　突帯あり
161	軽石製品	D（SA20）		—	—	—						17642	
162	土師器（甕）	SA20（SN20）		—	—	—	ナデミガキ	ナデ	橙～黄橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17779	胴部　丸底タイプ？　接合痕明瞭
163	土師器	SA20（SN20）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	0.5mm以下鉱物含	一括	口縁部
164	土師器	SA20（SN20）		—	—	—	ミガキ	ナデ	橙色	にぶい橙色	0.5mm以下鉱物含	17777	底部　丸底
165	軽石製支脚	D（SA20）										17803	竈内の支脚
166	須恵器(坏蓋)	D（SA21）		10.8	—	3.8	ナデ	ナデ				17683	
167	須恵器(坏身)	D（SA21）		9.9～10.1	—	3.9	ケズリ	ナデ				17672	外「×」あり　完形
168	土師器(甕？)	D（SA21）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙～灰褐色	浅黄橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部　外ススス
169	土師器(高坏？)	D（SA21）		—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰褐色	灰褐色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部　内外磨耗
170	土師器(甑？)	D（SA21）		—	—	—	ナデ	ナデミガキ	橙色	橙色	5mm以下鉱物含	17681	口縁部　突帯あり
171	土師器（坏）	D（SA21）		16.8	—	—	ミガキ	ミガキ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	17670	口縁部
172	土師器（坏）	D（SA21）		17	—	—	ミガキ	ミガキ				17670	
173	土師器(坏蓋)	D（SA21）		17.2	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	17666	口縁～胴部
174	須恵器(甕？)	D（SA21）		25	—	—	タタキ	タタキ				17677	口縁部　内同心円
175	土師器（坏）	D（SA21）		11.4	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	17682	口縁部
176	土師器	D（SA21）		4.9	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
177	土師器	D（SA21）		—	6.4	—	ナデ	ナデ	淡橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	底部　外指頭痕
178	土師器	D（SA21）		—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	明赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	底部　外指頭痕
179	土師器	D（SA21）		—	6～6.5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐～灰黄褐色	6mm以下鉱物含	17665	底部　外指頭痕
180	土師器	D（SA21）		—	—	—	タタキ	タタキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小鉱物含	17682	胴部
181	軽石製支脚	D（SA21）										17801	竈内の支脚
182	土師器（鉢）	SA23（SN23）		21.6	7.5	17.3～18.5	ナデ	ナデ	橙～にぶい橙色	黄橙～橙色	砂粒含	17791	ほぼ完形　内ススス
183	土師器（甕）	D（SA23）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	4mm以下鉱物含	17718	口縁部　刻目突帯
184	土師器	D（SA23）		—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	4mm以下鉱物含	17717	底部
185	土師器(甕？)	D（SA23）		—	—	—	ナデ	ナデ	明赤褐色	橙色	2mm以下鉱物含	17726	突帯あり
186	土師器(鉢？)	D（SA22）		15	6.6	9.4	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	17707	
187	土師器（甕）	D(SA22･SA24)		16.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2.5mm以下鉱物含	17905	口縁～頸部　外指頭痕
188	土師器（坏）	D（SA22）		11.8	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	1cm以下鉱物含	一括	口縁部
189	土師器	D（SA22）		15	—	—	ミガキ	ミガキ	浅黄橙～灰褐色	にぶい橙～灰褐色	ごく微小鉱物含	一括	口縁部
190	須恵器	D（SA22）		10.6	—	—	ナデ	ナデ				一括	口縁部
191	土師器(甕？)	D（SA22）		12	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2.5mm以下鉱物含	17690	口縁部
192	土師器（甕）	SA22（SN22）		16.4	—	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい橙～灰黄褐～黒褐色	にぶい橙色	2.5mm以下鉱物含	17792	口縁～胴部　ススス　外指頭痕　接合痕　内剥落
193	土師器	D（SA22）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
194	土師器	D（SA22）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	4mm以下鉱物含	一括	口縁部
195	土師器(甕？)	D（SA22）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙～灰褐色	浅黄橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部　ススス　突帯あり
196	土師器(甕？)	D（SA22）		—	7.7	—	ナデ	ナデ	黄褐色	褐色	3mm以下鉱物含	17687	底部　木葉痕あり　指頭痕あり
197	土師器(甕？)	D（SA22）		—	8.7	—	ナデ	ナデ	灰褐色	黄褐色	1cm以下鉱物含	17712	底部　木葉痕あり
198	土師器(甕？)	SA22（SN22）		—	8.4	—	ナデ	ナデ	灰褐～浅黄橙色	橙色	4mm以下鉱物含	17790	胴～底部　ススス　圧痕多
199	土師器	D（SA22）		—	6.8	—	ナデ		淡赤橙色	淡赤橙色	1mm以下鉱物含	一括	底部
200	軽石製品	D（SA22）		—	—	—						17706	
201	軽石製支脚	SA22（SN22）										17793	竈内の支脚
202	土師器	D（SA25）		13.8	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	4mm以下鉱物含	12607	口縁部
203	土師器	D（SA25）		—	—	—	ミガキ	ミガキ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
204	須恵器	D（SA25）		—	—	—	タタキ	タタキ				16376	肩部？
205	土師器	D（SA25）		—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	4mm以下鉱物含	一括	底部　丁寧なミガキ
206	土師器	D（SA25）		—	—	—	ミガキ	ナデ	明赤褐色	にぶい橙色	ごく微小鉱物含	17747	脚部　丹塗
207	土師器	D（SA25）		—	9	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい黄橙～にぶい褐色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	17746	底部　内外黒斑
208	土師器（埦）	D（SA24）		14	—	—	ナデミガキ	ナデ	橙色	橙色	ごく微小鉱物含	17724	口縁部
209	土師器(甕？)	D（SA24）		21.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	一括	口縁部
210	須恵器(高坏？)	D（SA24）		9.6	—	—	ナデ	ナデ				一括	坏部

第３表　出土遺物観察表（３）

遺物No.	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
211	土師器(坏蓋)	SA24（SN24）		11.6	—	4	ナデケズリ	ナデ	にぶい橙～灰褐色	橙～灰褐色	ごく微小鉱物含	17808	ほぼ完形
212	土師器（甕）	D（SA24）		17.3	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	1cm以下鉱物含	17726	口縁部
213	土師器(高坏)	D（SA24）		—	—	—	ミガキ	—	明赤褐色	にぶい黄橙色	4mm以下鉱物含	17725	丹塗　脚部
214	須恵器(坏蓋)	D（SA24）		11.8	—	—	ナデ	ナデ				一括	外「×」あり
215	土師器（甕）	SA24（SN24）		16～16.5	8.5～9	29.7～29.9	ナデ	ナデ	にぶい橙～橙色	にぶい橙～明褐色		17807	ほぼ完形
216	土師器（甕）	D（SA24）		—	9	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	3mm以下鉱物含	17743	肩～底部
217	須恵器（坏）	D（SA24）		—	8.6	—	ナデ	ナデ				一括	底部
218	土師器(甕？)	D（SA24）		—	7.6	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐～黄橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	17908	底部
219	土師器	D（SA24）		—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	8mm以下鉱物含	一括	底部
220	土師器	D（SA24）		—	9.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	底部
221	土師器	D（SA24）		—	9.8	—	ナデ	ナデミガキ	にぶい黄橙色	暗灰黄色	ごく微小鉱物含	17744	底部
222	土師器（甕）	D（SA24）		17.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	4mm以下鉱物含	17739·17740·17741	口縁～胴部
223	土師器（甕）	D（SA24）		7.9	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	4mm以下鉱物含	17734～17739	底部
224	土師器	D（SA24）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17907	底部
225	軽石製支脚	SA24（SN24）										17810	竈内の支脚
226	土師器（甑）	D（SA24）		—	8.4	—	ナデ	ナデ	橙色	橙～明赤褐色	4mm以下鉱物含	17745	底部　単孔
227	土師器（甑）	D（SA24）		23.5	9	22.1	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	17742	底部　単孔
228	土師器（甑）	D（SA26）		—	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	橙～にぶい黄橙色	橙色	4mm以下鉱物含	17763	口縁～胴部　突帯あり
229	土師器	D（SA26）		—	5.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	1mm以下鉱物含	17752	底部　組織痕？
230	土師器	D（SA26）		—	6.6	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	17764	底部　組織痕
231	土師器	D（SA26）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	細砂粒含	一括	底部
232	須恵器(坏身)	D（SA27）		9.4	3.6	4.4	ナデ	ナデ				17797	
233	土師器(甕？)	D(SA27·SY02)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙～灰褐色	ごく微小鉱物含	一括	口縁部近辺？　刻目突帯　輪積み痕明瞭
234	土師器	D（SA27）		—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	2mm以下鉱物含	17797	底部
235	土師器	D(SA27·SY02)		—	—	—			にぶい橙色	橙色	2.5mm以下鉱物含	一括	底部
236	須恵器	D（SA27）		—	—	—						17797	底部付近？
237	須恵器(提瓶)	D（SA37）		—	—	—						17749	内面指調整・当て具痕あり　Ⅲ期(6c～7c)
238	馬鐸	D（SA37）		—	—	—						17748	珠文タイプ
239	土師器	D（SA35）		—	7.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	17796	底部　外面指頭痕あり
240	土師器	D（SA35）		—	7	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	12985・17794	底部
241	須恵器(甕？)	D（SA35）		—	—	—	タタキ	タタキ				12954	頸部　内面同心円当て具痕　外線刻　Ⅱ期？
242	土師器（坏）	D（SA35）		13.8	—	—	ナデ	ナデ	橙～灰褐色	浅黄橙～にぶい橙色	2mm以下鉱物含	17795	口縁部
243	土師器（甕）	D（SA30）		24.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	浅黄橙～にぶい橙色	5mm以下鉱物含	12761	口縁部
244	土師器（坏）	D（SA30）		19.6	—	—	ナデ	ナデミガキ	橙色	橙色	ごく微小の砂粒含	一括	口縁部　磨耗
245	土師器（坏）	D（SA30）		11.2～12.1	3.9	4～4.3	ミガキ	ミガキ	明赤褐色	明赤褐色	ごく微小の鉱物含	一括	ほぼ完形？　一部スス
246	土師器(坏蓋)	D（SA30）		11.2	—	4	ナデ	ナデ	橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17800	完形
247	土師器（坏）	D（SA30）		15.8	—	—	ナデ	ミガキ	橙～にぶい橙色	橙色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部　磨耗
248	土師器（坏）	D（SA30）		10	—	4.2	ミガキ	ミガキ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物含	一括	外面に刻線あり
249	土師器	D（SA30）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
250	土師器（甕）	D（SA30）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	17904	外面圧痕あり
251	土師器（坏）	D（SA30）		10	1.9	2.4	ナデケズリ	ナデケズリ	にぶい黄橙～黒褐色	にぶい黄橙～黒褐色	3mm以下鉱物含	一括	ほぼ完形？
252	土師器（甕）	D（SA30）		15.7	8.1	31.2	ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色	5mm以下鉱物含	一括	ほぼ完形
253	軽石製支脚	D（SA30）										17811	竈内の支脚
254	須恵器（甕）	D（SA32）		35.4	—	—	ナデ	ナデ				12855	口縁部
255	須恵器（壺）	D（SA32）		—	—	—	ナデ	ナデ				12800	頸部
256	土器（鉢）	D（SA34）		—	8	—	ナデ	ナデ	灰褐色	橙色	1.5mm以下鉱物含	17751	縄文晩期？
257	土師器（甑）	D（SA36）		25.2	10.5	—	ナデケズリ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	5mm以下鉱物含	17920	ほぼ完形　把手付
258	土師器（甕）	D（SA38）		17.3	6.6	26.9	ナデ	ナデ	にぶい褐～灰褐色	橙色		17804	完形　接合痕明瞭
259	土師器（甑）	D（SA39）		—	—	—	ナデ		にぶい橙色		3mm以下鉱物含	17569	甑の把手
260	土師器（坏）	D（SA40）		12.3	—	4.4	ナデミガキ	ミガキ	橙色	橙色	1mm以下鉱物含	一括	
261	土師器（坏）	D(SA18＋40)		12.8	—	—	ミガキ	ミガキ	橙～にぶい橙～浅黄橙色	橙色	ごく微小鉱物含	一括	内磨耗
262	土師器（坏）	D（SA40）		11.8	—	4.2	ナデミガキ	ミガキ	橙色	橙色	ごく微小鉱物含	一括	
263	土師器（甕）	D（SA40）		15.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐～灰褐色	1mm以下鉱物含	17598	口縁～胴部
264	土師器(高坏？)	D（SA40）		12.8	—	—	ミガキ	ミガキ	黒	黒	ごく微小鉱物含	11581	坏部
265	土師器	D（SA40）		—	8.8	—	ナデ	—	にぶい橙色	—	1mm以下鉱物含	17578	底部
266	土師器(甕？)	D（SA40）		—	—	—	ナデミガキ	ミガキ	灰黄褐色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	底部
267	土師器	D（SA40）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	5mm以下鉱物含	17588	底部　内剥落
268	土師器	D（SA40）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～灰褐色	にぶい橙～灰褐色	2mm以下鉱物含	17899	胴部？
269	土師器(高坏)	D（SA40）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	にぶい褐色	ごく微小鉱物含	17585	脚部
270	土師器(甕？)	D（SA40）		—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	ごく微小鉱物含	17580	底部　木葉痕あり
271	須恵器(坏身)	D（SA40）		10.6(13)	—	—	ナデ	ナデ				一括	口縁部
272	土師器	SA40（SN40）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	5mm以下鉱物含	一括	底部付近　指頭痕あり
273	土師器	SA40（SN40）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	浅黄色	3mm以下鉱物含	一括	底部付近　指頭痕あり
274	須恵器(坏蓋)	D（SA40）		10(10.2)	—	—	ナデ	ナデ			1mm以下鉱物含	17586	つまみ痕跡　小田Ⅴ　7c中～後
275	須恵器(坏身)	D（SA40）		10.8(13.6)	—	—	ナデ	ナデ				一括	外線刻あり
276	須恵器(甕？)	D（SA40）		—	—	—	タタキ	タタキ				11588	頸部　内同心円
277	須恵器（壺）	D（SA40）		—	—	—	ナデ	ナデ				17593	胴～底部
278	須恵器	D（SA40）		—	—	—	タタキ	タタキ				17591	胴部　内同心円
279	須恵器	D（SA40）		—	—	—	タタキ	タタキ				17591	胴部　内同心円
280	土師器	D(SA40～42)		—	9.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～灰黄色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	一括	底部

第４表　出土遺物観察表（４）

遺物No.	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(瓶径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
281	土師器（甕）	D (SA40+41)		19.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
282	土師器	D (SA40+41)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	一括（二－23）	口縁部
283	土師器	D (SA40+41)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり
284	土師器	D (SA40+41)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部
285	土師器（甕）	D (SA40+41)		13.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい黄橙～灰黄褐色	2mm以下鉱物含	一括	口縁～胴部
286	土師器	D (SA40+41)		—	5.2	—	ナデ	ナデ	灰黄褐～にぶい橙色	灰黄褐色	5mm以下鉱物含	一括	底部
287	土師器	D (SA40+41)		—	6.5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	1cm以下鉱物含	一括	底部
288	土師器	D (SA40+41)		—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	底部
289	土師器	D (SA40+41)		—	6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	底部　木葉痕
290	土師器（甕）	D (SA41)		24	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	11585	口縁部　内外ススあり
291	土師器（坩）	D (SA41)		11.7	7～8	6.7～7.2	ミガキ	ミガキ	赤褐色	にぶい褐色	2mm以下鉱物含	17574	ほぼ完形
292	土師器（坩）	D (SA41)		12.3～12.8	6～6.5	6.1～7.65	ミガキ	ミガキ	にぶい橙～にぶい褐色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	17575	
293	土師器	D(SA42+43)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐～黒褐色	にぶい赤褐～褐色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
294	土師器（坏）	D(SA41+42)		15	—	—	ミガキ	ミガキ	橙色	橙色	ごく微小鉱物含	一括	口縁部
295	土師器	D(SA41+42)		—	7.4	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	底部
296	土師器（甑）	D (SA42+43)		—	7.6	—	ナデケズリ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	一括（二－23）	底部　単孔
297	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～灰褐色	4mm以下鉱物含	一括	口縁部
298	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐～灰褐色	4mm以下鉱物含	一括	口縁部
299	土師器(甕？)	SA42 (SN42)		21.4	—	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
300	軽石製支脚	SA42 (SN42)										17806	
301	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙～黒褐色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	突帯あり
302	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	明赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	突帯あり
303	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	明赤褐色		一括	突帯あり
304	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	2mm以下鉱物含	一括	突帯あり
305	土師器	SA42 (SN42)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3mm以下鉱物含	17805	胴部？　突帯あり　スス
306	土師器	D (SA45)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3mm以下鉱物含	17612	口縁部
307	土師器（坏）	D (SA45)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
308	土師器（坏）	D (SA45)		11.4	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	17910	口縁部
309	土師器	D (SA45)		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	17910	口縁部
310	土師器	D(SA45·46)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
311	土師器(甕？)	D(SA45·46)		12.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部
312	土師器	D (SA46)		—	4～4.7	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物含	17609	底部　内ミガキ磨耗
313	土師器(甕？)	SA46 (SN46)		—	6.9	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色～灰黄色	橙色	2mm以下鉱物含	17787	底部
314	土師器	SA46 (SN46)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
315	土師器	SA46 (SN46)		—	—	—	ナデ	ナデミガキ	明赤褐色	橙色	1mm以下鉱物含	一括	胴部？　突帯あり　接合痕明瞭
316	土師器（甕）	D (SA47)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	にぶい褐色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部
317	土師器（甕）	D (SA47)		15.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	5mm以下鉱物含	17601	口縁～胴部
318	土師器（甕）	D (SA47)		22.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～黄橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部　外面スス付着
319	須恵器(甕？)	D (SA47)		20.4	—	—	ナデ	ナデ				17600	口縁～頸部
320	軽石製品	D (SA47)		—	—	—						一括	
321	土師器（坏）	D (SA47)		19.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙～にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部　輪積み痕明瞭
322	金属製品	D (SA47)		—	—	—						17606	耳環
323	土師器（甑）	D (SA47)		—	—	—	ナデ		にぶい赤褐～褐色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	把手部
324	土師器(甕？)	D (SA47)		—	8.5～9	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい橙色	橙～にぶい黄橙色	6mm以下鉱物含	一括	底部
325	土師器（甑）	D (SA47)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	にぶい橙～黄橙色	6mm以下鉱物含	一括	甑底部
326	土師器（甑）	D (SA47)		29.3	10.3	21.6	ナデミガキ	ナデミガキ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	7mm以下鉱物含	17607	ほぼ完形　底部付近には穿孔が対称にあり
327	鉄製品	D (SA48)		—	—	—	—	—	赤褐色	—		17655	鉄鎌
328	土師器（坏）	D (SA48)		12	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	橙色	0.5mm以下鉱物含	17649	口縁部
329	土師器(坏蓋)	D (SA48)		—	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	0.5mm以下鉱物含	17653	口縁部
330	土師器(甕？)	D (SA48)		—	8～8.8	—	ナデ	ナデ	赤橙～にぶい橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17647	底部　外面指頭痕あり
331	土師器	D (SA50)		—	—	—	ナデ	ナデミガキ	にぶい赤褐色～灰褐色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
332	土師器（坏）	D (SA50)		12.6	—	—	ナデ	ナデ	橙色	橙色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部
333	土師器	D (SA50)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部？　外面スス付着　突帯あり
334	土師器	D (SA50)		—	—	—	ナデ	ナデミガキ	褐色	赤褐色	4mm以下鉱物含	一括	突帯あり
335	土師器	D(SA50·51)		—	6.6	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい橙色	にぶい黄橙色～灰黄褐色	5mm以下鉱物含	一括	底部
336	土師器	D (SA51)		—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐～灰黄褐色	灰褐色	1.5mm以下鉱物含	一括	口縁部　外磨耗
337	土師器（甕）	D (SA52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
338	土師器（甕）	D (SA52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
339	土師器（甕）	D (SA52)		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
340	土師器（甕）	D (SA52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	4mm以下鉱物含	17833	口縁部　突帯
341	土師器	D (SA52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	9mm以下鉱物含	17831	底部
342	土師器（壷）	D (SA52)		10.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	3mm以下鉱物含	17836	口縁部　肩部に稜褐突帯　内面接合痕
343	土師器	SA52 (SN52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
344	土師器（甕）	SA52 (SN52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
345	土師器	SA52 (SN52)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	1mm以下鉱物含	一括	口縁部
346	土師器	SA52 (SN52)		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙～灰褐色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	一括	突帯あり　スス
347	須恵器（甕）	D (SA53)		17.8	—	—	ナデタタキ	ナデタタキ				一括	口縁部　内同心円
348	土師器（甕）	D (SA53)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙～にぶい橙色	2mm以下鉱物含	一括	口縁部
349	土師器（甕）	D (SA53)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	一括	口縁部
350	土師器	D (SA53)		13	—	—	ナデミガキ	ミガキ	にぶい橙～にぶい黄橙色	灰黄褐色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部

第５表　出土遺物観察表（５）

遺物No	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo	備考
				口径(胴径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
351	土師器(高坏？)	D（SA53）		12.2	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	にぶい黄橙～灰黄褐色	灰黄色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部　器面磨耗
352	土師器	D（SA53）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2㎜以下鉱物含	一括	口縁部
353	土師器(甕？)	D（SA53）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黒褐色	にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	17845	底部
354	土師器	D（SA53）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙～にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	17837	口縁部　内外スス
355	土師器	D（SA53）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	一括	口縁部
356	土師器(甕？)	D（SA53）		—	8.2	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	8㎜以下鉱物含	一括	底部
357	須恵器	D（SA53）		—	—	—	タタキ	タタキ				17851	胴部
358	土師器（甕）	D（SA53）		16.6	7.5	27.1	ナデミガキ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐～にぶい橙色	8㎜以下鉱物含	17849	外黒斑
359	土師器	D（SA53）		6.5？	5.7	6.1～6.4	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	17848	胴部以下のみ？　外指頭痕　底部組織痕
360	土師器(甕？)	D（SA53）		—	7～7.2	—	ナデミガキ	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	1.2㎜以下鉱物含	17853	底部　組織痕　外スス
361	軽石製品	D（SA53）		—	—	—						17838	
362	土師器（壺）	D（SA53）		10.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黒橙色	橙～にぶい橙色	8㎜以下鉱物含	一括	頸部に貼り付け突帯
363	土師器（甕）	D（SA53）		32.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐～にぶい黄橙色	橙～にぶい褐色	2㎜以下鉱物含	17839・17840	突帯あり　底部なし
364	軽石製品	D（SA53）		—	—	—						17846	
365	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	橙～灰褐色	にぶい黄橙～橙色	6㎜以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり
366	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	5㎜以下鉱物含	一括	口縁部
367	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	灰白～灰褐色	ごく微小鉱物含	17856	口縁部
368	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～灰黄褐色	にぶい黄橙～灰黄褐色	0.5㎜以下鉱物含	一括	口縁部
369	土師器	D（SA54）		—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐色	黒褐色	ごく微小鉱物含	一括	口縁部　丁寧なミガキ
370	土師器(甕？)	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい橙～にぶい黄橙色	7㎜以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり
371	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	5㎜以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり　スス
372	土師器	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙～灰褐色	4㎜以下鉱物含	一括	口縁部
373	土師器(高坏？)	D（SA54）		10.8	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	にぶい橙色	にぶい橙～灰褐色	ごく微小鉱物含	一括	坏部
374	土師器（甑）	D（SA54）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	灰褐色	2㎜以下鉱物含	17857	底部　単孔タイプ
375	土師器（甕）	D（SA54）		11.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙～橙色	7㎜以下鉱物含	17860	口縁部　接合痕明瞭
376	土師器（埦）	D（SA54）		13.5	—	6.5	ナデ	ナデ	浅黄褐～灰褐色	にぶい黄橙～灰褐色	3㎜以下鉱物含	17861	
377	土師器（埦）	D（SA55）		13.4	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	明黄褐色	明黄褐～橙色	4㎜以下鉱物含	17866	口縁部　内外磨耗
378	土師器(甕？)	D（SA55）		16	—	—	ナデミガキ	ナデ	橙～明黄褐色	にぶい黄褐色	3㎜以下鉱物含	17867	口縁部　接合痕　突帯　内指頭痕
379	土師器(坏？)	D（SA55）		13	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい褐色	にぶい橙～橙色	2㎜以下鉱物含	17868	口縁部　接合痕明瞭
380	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデミガキ	ナデミガキ	にぶい橙～褐色	にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部
381	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	一括	口縁部
382	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部
383	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデミガキ	ナデ	灰黄褐～にぶい黄橙色	灰黄褐～にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	一括	口縁部
384	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙～灰黄褐色	にぶい黄橙～灰黄色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部
385	軽石製品	D（SA56）		—	—	—						一括	
386	須恵器(高坏)	D（SA56）		9	—	—	ナデ	ナデ				一括	坏部
387	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	にぶい橙色	1㎜以下鉱物含	一括	口縁部
388	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐色	浅黄橙色	ごく微小鉱物含	一括	底部
389	石器	D（SA56）		—	—	—						一括	
390	軽石製品	D（SA56）		—	—	—						一括	片面磨耗
391	土師器	D(SA56･65)		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐～黄褐色	黒褐色	2㎜以下鉱物含	一括	底部
392	土師器	D（SA56）		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐～にぶい褐色	明赤褐～にぶい橙色	2㎜以下鉱物含	17871	胴部　接合痕
393	土師器	D（SA56）		—	7.5～8.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～黄橙色	にぶい橙～橙色	2㎜以下鉱物含	一括	底部
394	土師器（坏）	D（SA57）		12	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部
395	土師器	SA57（SN57）		12.4	—	—	ナデのち ミガキ	ナデのち ミガキ	にぶい橙～橙色	にぶい黄橙色	ごく微小の鉱物含	一括	口縁部　内外磨耗
396	土師器(高坏？)	D（SA57）		12.6	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	2㎜以下鉱物含	一括	坏部　外スス　内外ともに剥落甚
397	土師器(甕？)	SA57（SN57）		14.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～褐色	橙～にぶい褐色	3㎜以下鉱物含	一括	口縁部　接合痕
398	土師器(甕？)	D（SA60）		25.8	—	—	ナデ	ナデ	橙～明褐色	橙色	5㎜以下鉱物含	17911	突帯　接合痕
399	土師器(高坏？)	D（SA60）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	灰褐色	2㎜以下鉱物含	一括	脚部
400	土師器	D（SA60）		—	9.6	—	ナデ	—	黄橙色	—	0.5㎜以下鉱物含	11288	底部
401	土師器	D（SA60）		—	8.1	—	ナデ	ナデ	黄褐色	灰褐色	6㎜以下鉱物含	11451	底部　組織痕あり
402	石器	D（SA60）		—	—	—						12979	
403	石器	D（SA60）		—	—	—						14085	
404	土師器	D（SA62）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	7㎜以下鉱物含	17876	底部
405	土師器(高坏)	D（SA62）		12.6	—	—	ミガキ	ミガキ	黒～灰黄褐色	黒～灰黄褐色	ごく微小の鉱物含	14875	坏部
406	土師器	SA62（SN62）		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	3㎜以下鉱物含	一括	口縁部　突帯あり
407	土器（鉢）	D	9	14.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐～灰褐色	黒褐色	1㎜以下鉱物含	一括（ニ－26）	口縁部　スス　縄文？
408	土器	A（SW09）		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～灰褐色	灰褐色	1.5㎜以下鉱物含	8818	外刺突文
409	土器	D	9c	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ごく微小の鉱物含	12984	縄文
410	土器	D	9c	—	8.8	—	ミガキ	ミガキ	黒褐色	黒褐色	微小鉱物含	12943	底部　縄文
411	土師器	A（SW09）		—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	1㎜以下鉱物含	6001	口縁部
412	土師器（甕）	D	9a	23	—	—	ナデ	ナデ	灰白色	浅黄橙色	3㎜以下鉱物含	一括	口縁部　外指頭痕
413	土師器（甕）	D	9	25.8	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい橙色	5㎜以下鉱物含	サブトレー括（ニ-24）	口縁部　突帯
414	土師器（甕）	D		11.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙～浅黄橙色	3㎜以下鉱物含	12982	口縁～胴部　接合痕
415	土師器（甕）	D		12.2	—	—	ナデ	ナデ	橙～にぶい黄橙色	灰褐色	1.5㎜以下鉱物含	表採	口縁～胴部　外指頭痕
416	土師器（甕）	D		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白色	にぶい黄橙色	1㎜以下鉱物含	16127	口縁部　スス
417	土師器(甕？)	D	9c	21	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	3㎜以下鉱物含	西側一括	口縁部　突帯
418	土師器(甕？)	D	9c	23.8	—	—	ナデ	ナデケズリ	浅黄橙色	浅黄橙色	4㎜以下鉱物含	11013	口縁部　内ケズリ
419	土師器(甕？)	D	9c	24.6	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	2㎜以下鉱物含	11020	口縁部
420	土師器	D	9c	23.8	—	—	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄橙色	2㎜以下鉱物含	11940	口縁部

第6表　出土遺物観察表（6）

遺物No.	種別	地区（遺構）	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(瓶径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
421	土師器(甕？)	A（SW09）		18.6	—	—	ナデ	ナデ	黒褐～にぶい橙色	浅黄橙色	2.5mm以下鉱物含	8797	口縁部　外スス
422	土師器（甕）	D		28.8	—	23.2	ナデミガキ	ナデケズリ	にぶい黄橙～灰黄褐色	にぶい黄橙色	5mm以下鉱物含	14880	ほぼ完形　口縁部欠損
423	土師器（甕）	A		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～灰褐色	にぶい橙～明灰褐色	4mm以下鉱物含	9548	口縁部欠損
424	土師器	D		12.4	3.9	5.5	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐～橙色	にぶい褐～黒色	0.5mm以下鉱物含	16398	ほぼ完形
425	土師器（坏）	D	9a	12.6	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい橙色	灰黄～黒色	1mm以下鉱物含	一括（ス－28）	口縁部
426	土師器（坏）	B		15	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙色	橙色	1mm以下鉱物含	33	口縁部
427	土師器(坏蓋)	D		13	—	3.3	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下鉱物含	10968	
428	土師器	D	9c	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄橙色	4mm以下鉱物含	9971	頸部
429	土師器	D	9a	—	—	—	タタキ	タタキ	灰黄褐色	浅黄橙色	3mm以下鉱物含	一括（ス－22）	
430	土師器(高坏)	D	9a	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	2mm以下鉱物含	一括（セ－26）	脚部
431	土師器(甕？)	D	9c	—	9.2～9.5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい橙色	5mm以下鉱物含	9836	底部・部分的に圧痕あり
432	土師器	D		—	8.5	—	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	3mm以下鉱物含	12874・12881	底部　組織痕あり
433	土師器(甕？)	D	9c	—	8.1	—	ナデミガキ	ナデ	橙～明赤褐色	にぶい褐色	1.5mm以下鉱物含	西側一括	底部　外指頭痕
434	土師器(甕？)	D	9c	—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	明灰褐色	5mm以下鉱物含	西側一括	底部
435	土師器(甕？)	D	9c	—	7.7～7.9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄褐色	3mm以下鉱物含	10132	底部
436	土師器(甕？)	D	9c	—	8.3	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	5mm以下鉱物含	西側一括	底部　木葉痕
437	土師器(甕？)	D	9c	—	9	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい赤褐色	5mm以下鉱物含	9941	底部
438	土師器(甕？)	D	9a	—	8.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰黄色	3mm以下鉱物含	一括（セ－25）	底部
439	土師器(甕？)	D	9c	—	6.1	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	灰褐色	0.5mm以下鉱物含	西側一括	底部　外指頭痕
440	土師器	D		—	9.6	—	ナデ	—	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	14590	底部
441	土師器	B		—	7.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	淡黄色	2.5mm以下鉱物含	5	底部
442	土師器	D	9a	—	8.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙～にぶい橙色	4mm以下鉱物含	一括（ヌ－22）	底部　外指頭痕
443	土師器(甕？)	D		—	9.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	1mm以下鉱物含	13004	底部
444	土師器	D	9a	—	6.3～6.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	5mm以下鉱物含	一括（ニ－26）	底部
445	土師器	D	9c	—	4.5～4.8	—	ナデ	ナデ	黄灰色～にぶい橙色	黄灰色	微小鉱物含	11122	底部
446	土師器	D	9ab	—	6.5	—	ナデ	ナデ	灰褐～灰黄褐色	灰褐色	2mm以下鉱物含	一括（ノ－23）	底部
447	土師器	D	9	—	4～4.4	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2mm以下鉱物含	一括	底部
448	土師器	D		—	6～8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	3mm以下鉱物含	10000	底部
449	土師器（甕）	D		—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	7mm以下鉱物含	17922	胴～底部　スス
450	土師器	D	9c	—	3.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙～灰褐色	浅黄橙～にぶい橙色	4mm以下鉱物含	東側一括	底部
451	土師器（甑）	D		—	10.6	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ごく微小鉱物含	13001	底部　単孔タイプ
452	須恵器(甕？)	D	9c	38.6	—	—	ナデ	ナデ				13683・13770	口縁部　外面波状櫛描文
453	須恵器	D		14.9～15	—	—	ナデ	ナデ				12932	口縁部
454	須恵器(壺？)	D	9a	13.3	—	—	ナデ	ナデ				一括（ス－25）	口縁部
455	須恵器（壺）	D		26	—	—	ナデ	ナデ				12644	口縁部
456	須恵器(甕？)	D	9c	—	—	—	ナデ	ナデ				14033	口縁部　外面波状櫛描文
457	須恵器(甕？)	D	9a	—	—	—	ナデ	ナデ				一括（ス－23）	口縁部　櫛描文
458	須恵器(壺？)	A		10.4	—	—	ナデ	ナデ				729	壺口縁部？
459	須恵器	D	9a	—	—	—	ナデ	ナデ				一括（セ－26）	口縁部
460	須恵器(坏身)	D	9a	7.6(9.4)	—	—	ナデ	ナデ				一括（ネ－27）	口縁部
461	須恵器（坏）	D	9a	12.2	—	—	ナデ	ナデ				一括（ヌ－28）	口縁部
462	須恵器	D		—	—	—	ナデ	ナデ				12996	口縁部
463	須恵器（壺）	D	9a	13.2	—	—	ナデ	ナデ				一括（シ－23）	口縁部
464	須恵器(坏身)	D	9c	11(12.6)	—	—	ナデ	ナデ				14642	口縁部
465	須恵器(坏身)	D		?(11.2)	—	—	ナデ	ナデ				12819	口縁部
466	須恵器	D	9	—	—	—	タタキ	タタキ				一括（ニ－27）	内同心円
467	須恵器(壺？)	D	9c	—	10.2	—	ナデ	ナデ				12867	
468	須恵器（瓶）	D	9a	—	—	—	ナデ	ナデ				一括（シ－22）	頸部
469	須恵器(高坏)	A		—	—	—	ナデ	ナデ				6698	頸部
470	須恵器(高坏)	D	9a	—	—	—	ナデ	ナデ				一括（セ－26）	脚部
471	須恵器	A		—	—	—	ナデ	ナデ				100	底部？
472	石器	D		—	—	—						13013	雲母含
473	土掘具	D		—	—	—						16599	
474	軽石製品	D		—	—	—						13304	

第７表　出土遺物観察表（７）

Ⅳ　まとめ

前章までにおいて、出土遺構と遺物の叙述を行った。ここでは、いくつかの試みを行い、本遺跡のまとめとしたい。

1．竪穴住居跡群（集落）について

宮崎県内における沖積地に立地する集落は、微高地上の限られた場所に形成されていた（宮崎県1997）。本遺跡の住居群もそういった立地状況にあるといっていいだろう。すでに述べたように、確認した竪穴住居跡の総数は68軒である。また、本遺跡には弥生時代の住居群は存在せず、この集落は古墳後期に至って全く新規に開拓されたものと考えられる。その各々のデータを集積してみたのが第8表である。

基本的に、４主柱の方形プランが多く、不定（やや長方）と楕円形が混在している。カマドと炉が各々に付設され、カマドは北壁沿いに付されるものが圧倒的に多い。

南九州における古墳時代の竪穴住居の類型化を中摩浩太郎氏が行っている（中摩1999）。中摩氏は、住居の床面積規模には20㎡を境に大小の区別があり、その形態も構造的に差異があるとし、前者を方形4本柱住居の導入とともに、弥生期以来の大型住居（有力世帯員・上層部）の後続類型、後者を中期後半以降採用された長形2本柱から、正方形化を指向した小型住居（古墳開始期以降主流：一般構成員の家屋）とした。

これに従って整理したのが以下である。

小形（1・2タイプ）　02・03・09・10・17・18・21・22・23・26・28・31・36・45・47・48・51・54・57
60・61・63・65・67

大形（3・4タイプ）　01・05・06・08・11・13・14・15・16・19・20・24・25・27・29・30・32・33・34
37・46・49・50・52・53・55・56・58・59・66

小形には楕円形プランがいくつか存在する（ＳＡ04 ?・09・52・54・61・65）。長形の2本柱プランも確認した（ＳＡ60）特にＳＡ60はＳＡ61を切っており、61→60の時期差を見出せる。ＳＡ52はＳＡ53に切られているが、楕円プラン→方形4本柱への移行が看取できる。しかし、出土遺物との関係から、小形のＳＡ18・21・57・60と大形のＳＡ20が同時期に存続した可能性が、小形のＳＡ22と大形のＳＡ11・19・56が同時期に存続した可能性があることから、方形プラン住居が盛行する中にも円形プランがまだ残っていることが理解できる。

中摩氏は、上層部の住居類型の変化が南部九州で斉一的なのに対して、大隅・薩摩湾奥部では一般構成員の住居類型選択に『自由度の高い』状況がみられ、『伝統の踏襲』によるものとしている。都城地域は、特に土器製作技法から、少なくとも大隅半島系の特色を導入している地域であり、その様相は弥生時代にまで遡ることが可能である（都城市教委1997・乗畑2000）。本地域は、「伝統の踏襲」を残す地域であり、その踏襲は、池畑耕一氏が「南九州では、6世紀になっても方形プランを持つ住居群の中に円形プランを持つ住居が数軒混ざっている」（吹上町教委1977）と指摘したように、円形プランの存続に見出せると思われる。

また、中摩氏はさらに住居の形態分類に取り組んでおり、大局的には、中心軸採用型の竪穴住居（ＩＢα）と平行枠・中心軸併用型の竪穴住居（ⅥＢα）に分類されるとし、これらがいわゆる「古墳住居」の典型であると認識するに至っている。ここで、これを援用すると、タイプ分類可能と思われる住居28基のうち、ⅥＢαタイプと考えられる住居は17基確認できる（ＳＡ01・05・08・15・16・19・20・22・23・24・25・34・46・48・50・53・55・56・58・66）ＩＢαタイプに属するものは４基にとどまる。しかし、ⅥＢαタイプの総数に占める割合は60％を超える数値となる。よって、本遺跡の住居タイプは、中摩氏の指摘どおり、方形の住居に変遷を遂げていく可能性があることが窺える。

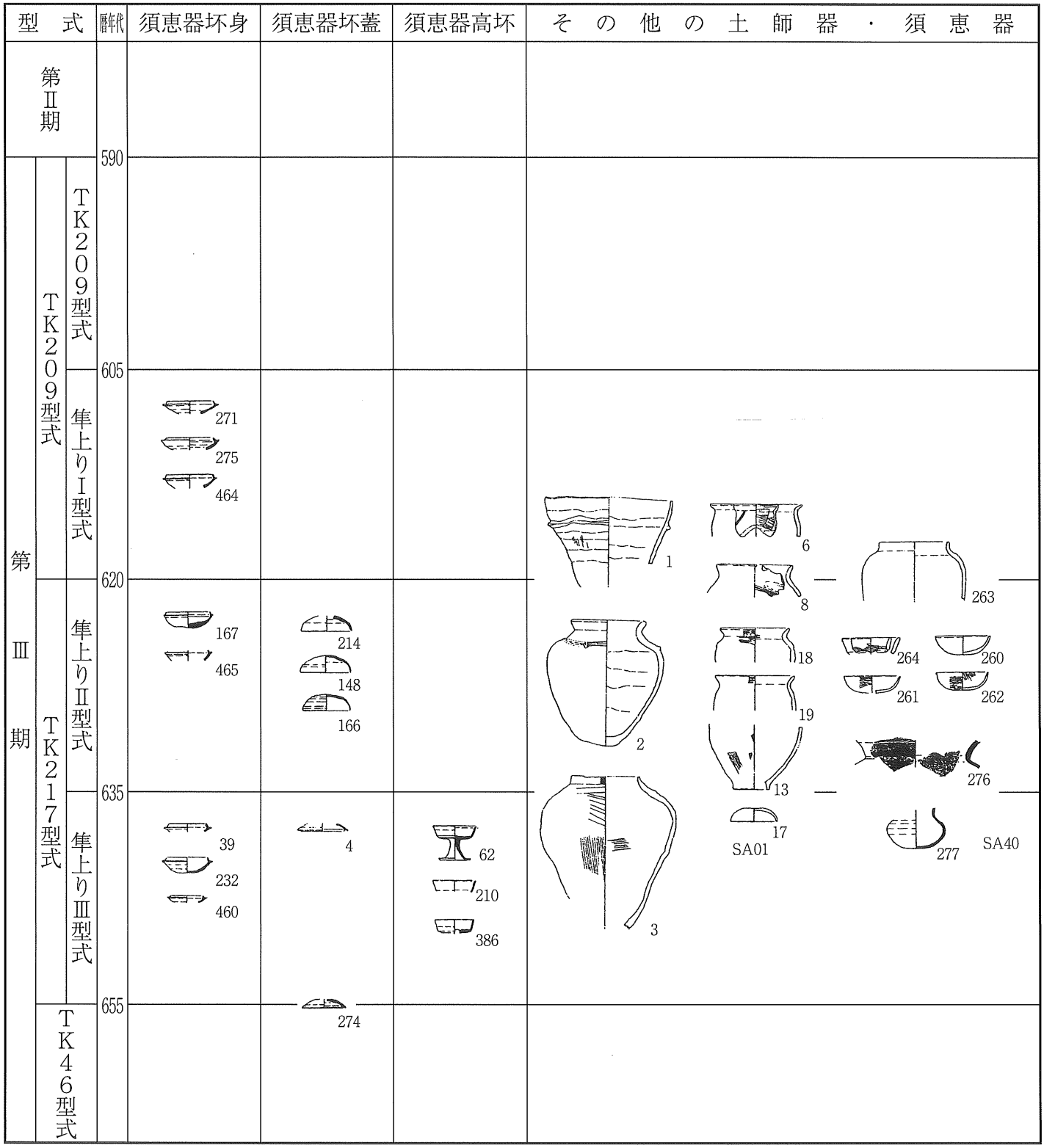
次に、出土遺物の様相から存続時期について展望してみたい。本遺跡出土遺物に占める須恵器の絶対量は決して多いものではないが、土師器に対して比較的対比年代を得やすいこともあり、ここでは、須恵器坏・坏蓋・高坏を使用して型式の傾向を検討した。その結果が第９表である。当初６世紀末以降の所産と考えていたが、これから、ＴＫ209型式の後半、概ね隼上りＩ型式から、ＴＫ217型式、いわゆる隼上りⅡ～Ⅲ型式の範疇におさまる。つまり第Ⅲ期の前半、7世紀初頭から第2四半期まで盛行したことが推測できる。しかし、ＳＡ06出土の甕（41）・高坏（43）や、ＳＡ40の須恵器坏蓋（274）から、集落の消長で言えば、その時間的幅はもっと長いものと推測できる。包含層Ⅲｂ層からは古代の須恵器が出土しており、かつⅢa層の様相から中世まで存続していた遺跡ではあるが、古墳期のみで考えれば、畿内編年Ⅲ期前半相当期、住居群は使用されなくなったと

住居跡	径（m）		面積（㎡）	形状	竈の有無	カマドNo.	柱穴	炉？	竈・炉の付設方角	形状タイプ
	N-S	E-W								
S A01	5.5	4.8	26.4	方形	○	SN01	4	×	北	3
S A02	−	4.2	17.64	方形	−	−	−	−	−	2
S A03	3.6	3.2	11.52	方形	−	−	−	−	−	1
S A04	−	−	−	楕円形	−	−	−	−	−	−
S A05	4.6	5.2	23.92	方形	−	−	−	−	−	3
S A06	7	6.7	46.9	方形	−	−	−	−	−	4
S A07	4.5	−	−	方形	○？	SN07	−	−	−	−
S A08	4.7	−	22.09	方形	−	−	4	−	−	3
S A09	3.2	3.6	11.52	方形	×	−	？	×	−	1
S A10	−	3.5	12.25	方形	×	−	？	×	−	1
S A11	−	5.1	26.01	方形	○	SN11	？	×	北	3
S A12	−	−	−	方形？	×	−	？	×	−	−
S A13	−	5.7	32.49	方形	×	−	？	×	−	4
S A14	5.2	−	27.04	方形	×	−	？	×	−	3
S A15	5.3	−	28.09	方形	○	SN15	4 ？	×	北	3
S A16	4.5	4.5	20.25	方形	○	SN16	4	×	北	3
S A17	4	−	16	方形	×	−	？	×	−	2
S A18	4.3	3.4	14.62	方形	○	SN18	？	×	北	1
S A19	4.9	−	24.01	方形	○	SN19	4	×	北	3
S A20	5.5 ？	5.1	28.05	方形	○	SN20	4	×	北	3
S A21	3.3	3.5	11.55	方形	○	SN21	4	×	北	1
S A22	4.3	4.6	19.78	方形	○	SN22	4	×	北	2
S A23	3.8	2.9	11.02	方形	○	SN23	4	×	北	1
S A24	4.9	4.6	22.54	方形	○	SN24	4	×	北	3
S A25	4.8	4.7	22.56	不定方形	○？	SN25	4	×	北	3
S A26	4.1	−	16.81	方形？	○	SN26	？	×	南	2
S A27	4.4	4.8	21.12	方形	×	−	？	×	−	3
S A28	3.8	3.5	13.3	方形	×	−	？	×	−	1
S A29	5.4	4.5	24.3	不定方形	×	−	？	×	−	3
S A30	5.8	−	33.64	方形	○	SN30	4	×	北	4
S A31	3.7	−	13.69	方形？	×	−	？	×	−	1
S A32	6.8	−	46.24	不定方形？	×	−	4 ？	×	−	4
S A33	4.7	5.2	24.44	方形	×	−	2	×	−	3
S A34	4.7	−	22.09	方形？	○	SN34	4 ？	×	西	3
S A35	−	−	−	方形？	×	−	？	×	−	−
S A36	−	3.65	13.3225	方形	×	甑有	？	×	−	1
S A37	4.2	5.3	22.26	長方形	×	−	？	×	−	3
S A38	−	−	−	方形？	×	−	4 ？	×	−	−
S A39	？	？	−	−	×	−	−	−	北	−
S A40	？	？	−	−	○	SN40	−	−	北	−
S A41	？	？	−	−	×	−	−	−	北	−
S A42	？	？	−	−	○	SN42	−	−	北	−
S A43	？	？	−	−	×	−	−	−	北	−
S A44	？	？	−	−	×	−	−	−	北	−
S A45	4.7 ？	3.7 ？	17.39	方形	×	−	？	×	−	2
S A46	5.85	5.3	31.005	方形	○	SN46	4	×	北	4
S A47	−	4.4	19.36	方形	×	−	？	×	−	2
S A48	4	4.4	17.6	方形	×	−	4	×	−	2
S A49	−	5	25	方形	○	SN49	？	×	北	3
S A50	−	5	25	方形	×	−	4 ？	×	−	3
S A51	−	3.4	11.56	不定方形？	×	−	？	×	−	1
S A52	4.6	−	21.16	楕円形	○	SN52	？	×	西	3
S A53	5.5	5.3	29.15	方形	○	SN53	4	×	北	3
S A54	4	3.6	14.4	楕円形	○	SN54	？	×	北	1
S A55	4.7	−	22.09	方形	×	−	4	×	-	3
S A56	4.7	4.7	22.09	方形	○	SN56	4	×	北	3
S A57	−	4	16	方形	○	−	？	×	西	2
S A58	5.2	4.5	23.4	方形	○	SN58	4	×	西	3
S A59	-	5.1	26.01	方形	×	−	？	×	−	3
S A60	4.9	3.7	18.13	方形	×	−	4 ？	○	中央	2
S A61	3.9	−	15.21	楕円形	×	SN61	？	×	−	1
S A62	−	−	−	方形？	○	SN62	？	×	西	−
S A63	4.1	3.4	13.94	不定方形	×	−	4 ？	？	−	1
S A64	−	−	−	不定方形	×	SN64	？	×	−	−
S A65	3.4	3	10.2	楕円形	×	−	4 ？	×	−	1
S A66	4.5	4.8	21.6	方形	×	−	4	×	−	3
S A67	3.1	3.3	10.23	方形	×	−	？	−	−	1
S A68	−	−	−	方形	−	−	−	−	−	−

※「○」「×」－有無が明確な場合　※「－」－不確定な場合　※形状タイプのグルーピングは以下のとおり。

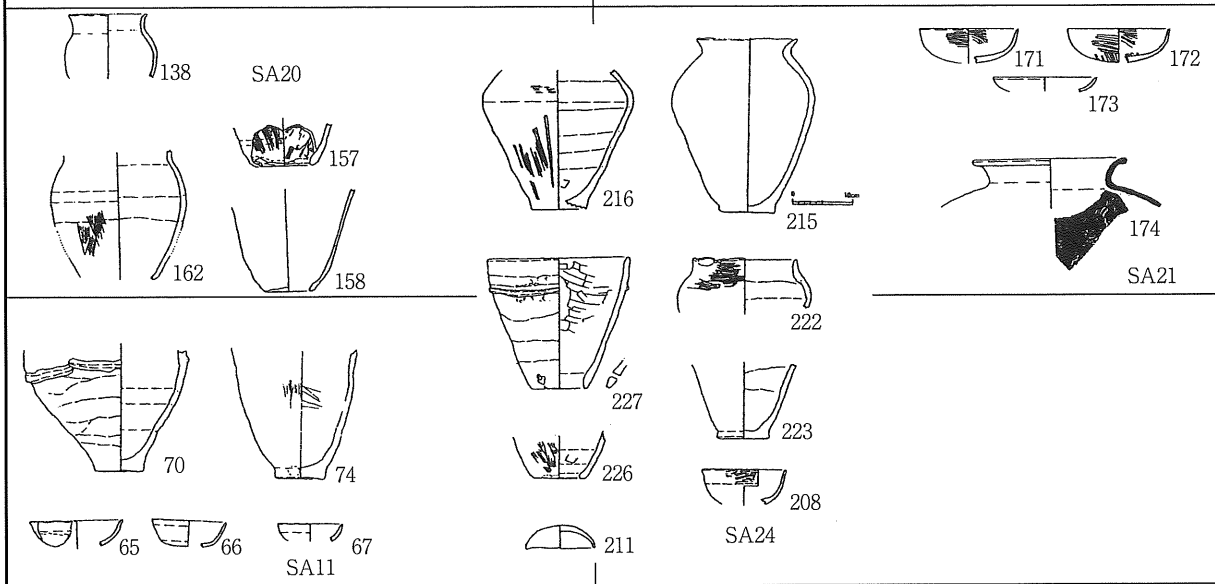
1　一辺 4m 以下（16 ㎡以下）　2　一辺 4.5m 以下（20.25 ㎡以下）　3　一辺 5.5m 以下（30.25 ㎡以下）　4　一辺 5.5m 以上（30.25 ㎡以上）

第８表　古墳住居データ一覧


型式
暦年代
須恵器坏身
須恵器坏蓋
須恵器高坏
その他の土師器・須恵器
第Ⅱ期
590
605
620
635
655
第Ⅲ期
TK209型式
TK209型式
隼上りⅠ型式
隼上りⅡ型式
TK217型式
隼上りⅢ型式
TK46型式
271
275
464
167
465
214
148
166
39
232
460
4
62
210
386
274
1
2
3
6
8
18
19
13
17
SA01
263
264
260
261
262
276
277
SA40

第９表　出土遺物対照表

その他の土師器・須恵器



※型式・暦年代は増田 1995 を援用した。

仮定できよう。他遺跡との関連でいえば、宮崎市大町遺跡や新富町上薗遺跡Ｆ地区にやや後続する時期となる。

また、第9表には各型式に対応する住居内出土遺物を一括掲載した。土師器については、今塩屋毅行氏・松永幸寿氏が宮崎平野部における古墳中後期の土師器を集成し、その編年を行っている（今塩屋・松永2003)。第9表の様相に照らせば、今塩屋・松永編年の7期末～8期初頭に比定できようか。

２．カマドについて

宮崎県内におけるカマドの導入はＴＫ43～ＴＫ217型式併行期とみられ（筌瀬1999)、今塩屋・松永編年7～8期に比定される。先に述べたとおり、ＴＫ209型式後半～ＴＫ217型式併行期（隼上りⅠ～Ⅲ）におさまる本遺跡のカマドは導入初期の様相を表す一例といえよう。

住居跡総数68軒のうち、カマドは28の住居跡に付設されていた。総数に占める割合は40％強である。全て、放棄過程においてか、または埋没時の土圧によってか、つぶれた状態での検出となった。よってカマドの構造を明瞭にみることは難しいが、これまで、南九州における7世紀初頭頃のカマド出土例は決して多くはなく、ここで改めて、確認事項を整理しておきたいと思う。

まず、住居とカマドの関係は、第8表のとおりである。カマドの付設の向きについては、圧倒的に北壁沿いであり、その占める割合は8割を超える。

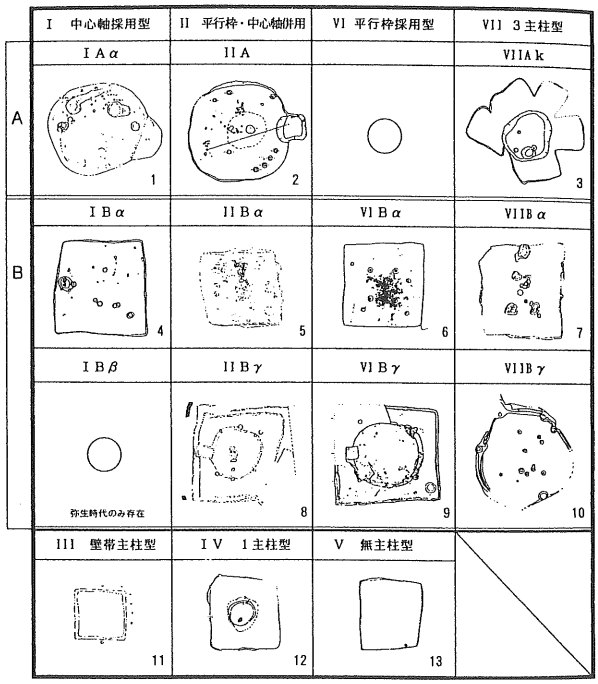
次に、発掘調査において確認し得るカマドの構造について触れてみたい。燃焼部やカマドの袖がわかるものは多い（ＳＮ01・11・18・19・20・21・22・23・24・30・34・46・49・52・54・56・57・58・62)。なかには土器のかけ口（土器付）がはっきりしているもの（ＳＮ01・20・22・56）もみられた。また、燃焼部は住居跡床面よりも若干窪まり、やや赤く変色している。かけ口の延長線上には軽石を長方に整形した支脚がたてられ、かけ口にかけられた土器を支えていた（ＳＮ01・07・20・21・24・30・40・54・56)。かけ口にかけられた土器は甕形であり（ＳＮ22)、住居跡内から甑が出土していることから、その甕の上に甑をかけたものと考えられる。かけ口は全てのカマドにおいて一つであった。なお、存在するはずの煙道の確認までには至らなかった。

金光正裕氏・合田幸美氏が蛍池東遺跡竪穴住居の作り付けカマドの復原を試みている（金光・合田1992)。上記を集約すると、甚だ私見に過ぎないが、基本的には同様の構造とみなしてよいものと考える。ただし、本遺跡検出のカマドは不明瞭な部分が多く、蛍池東遺跡で補強に打たれた杭が、本遺跡では明確に認められないことや、支脚の位置が本遺跡のものはやや奥よりになっているため、煙道形態にも差異が生じる可能性が高い。宮崎県内におけるカマドの形態についても、7世紀になって、煙出しの煙道を持つカマドが出現（宮崎市浄土江遺跡）したとされる（宮崎県1997)。こういったことなどから、カマドの構造と変遷の解明については今後の資料増加と検討に期待したい。

【参考文献】

- 群馬県教育委員会・(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・東日本旅客鉄道株式会社1991
  『三ツ寺Ⅱ遺跡』(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第93集
- 金光正裕・合田幸美
  1992「蛍池東遺跡の発掘調査－古墳時代前期の大型掘立柱建物と作り付け竈について－」
  〈『大阪文化財研究－20周年増刊号－』〉
- 宮崎県1993『宮崎県史』資料編　考古2
- 宮崎市教育委員会1993『浄土江遺跡Ⅱ』宮崎市文化財調査報告書
- 小学館1994『世界陶磁全集』2　日本古代
- 増田一裕1995「飛鳥時代須恵器の編年にかかる追試作業」(『土曜考古』19)
- 中村倉司1997「馬鐸と馬鐸装馬形埴輪」(『研究紀要』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団)
- 都城市教育委員会1997『大浦遺跡』都城市文化財調査報告書第37集
- 宮崎県1997『宮崎県史』通史編　考古
- 宮崎市教育委員会1998『大町遺跡』宮崎市文化財調査報告書第33集
- 辻美紀1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」
  (大阪大学考古学研究室『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』)

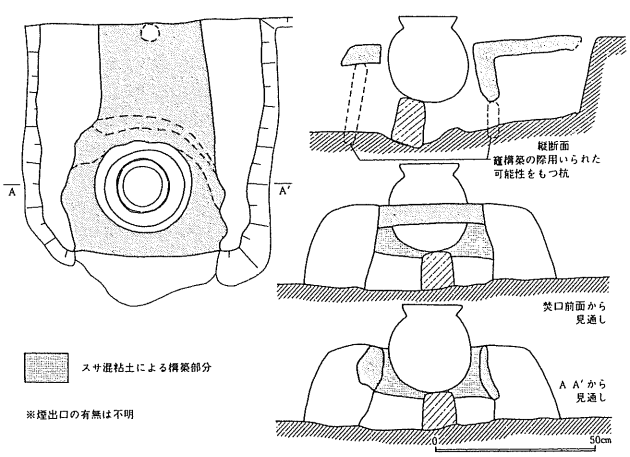
- 杉井健 1999「甑形土器の地域性」
  (大阪大学考古学研究室『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集－』)
- 中摩浩太郎 1999「南部九州古墳時代の竪穴住居類型の変異に関する一考察」
  (『人類史研究』11　人類史研究会)
- 筌瀬明宏 1999「古墳時代中期における墓制の渡来的様相－地下式横穴墓分布域を中心に－」
  (『渡来文化の受容と展開』第 46 回埋蔵文化財研究集会発表要旨)
- 桒畑光博 2000「中溝式系土器の検討－宮崎県における弥生時代中期後半から後期前半にかけての土器編年に向けて－」(九州古文化研究会『古文化談叢』45)
- えびの市教育委員会 2000『佐牛野遺跡』えびの市埋蔵文化財調査報告書第 27 集
- 高岡町教育委員会 2000『高岡町内遺跡Ⅳ』高岡町埋蔵文化財調査報告書第 19 集
- 宮崎市教育委員会 2001『間越遺跡』宮崎市文化財調査報告書第 48 集
- 今塩屋毅行・松永幸寿 2003「日向における古墳時代中～後期の土師器－宮崎平野部を中心として－」
  (九州前方後円墳研究会 2003『古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性－』
  第 5 回九州前方後円墳研究会発表要旨資料)
- 中村直子 2003「薩摩・大隅」
  (九州前方後円墳研究会 2003『古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性－』
  第 5 回九州前方後円墳研究会発表要旨資料)
- 坪根伸也 2003「南九州における土器と様相」
  (九州前方後円墳研究会・鹿児島大学総合博物館・九州国立博物館誘致推進本部 2003
  『前方後円墳築造周縁域における古墳時代社会の多様性』第 6 回九州前方後円墳研究会発表要旨資料)
- 杉井健 2003『朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系譜変動の比較研究』
  平成 12 ～ 14 年度科学研究費報告書



古墳時代竪穴住居類型図

1 老神遺跡 2 号，2 下大原遺跡 24 号，3 小田遺跡特殊遺構 III 号，4 辻堂原遺跡 15 号，5 花牟礼遺跡 1 号，6 辻堂原遺跡 18 号，7 橋牟礼川遺跡 21 号，8 宮之前遺跡 7 号，9 宮之前遺跡 2 号，10 橋牟礼川遺跡 A 号，11 釘田遺跡 1 号，12 下大原遺跡 1 号，13 辻堂原遺跡 47 号

(中摩浩太郎 1999 より)

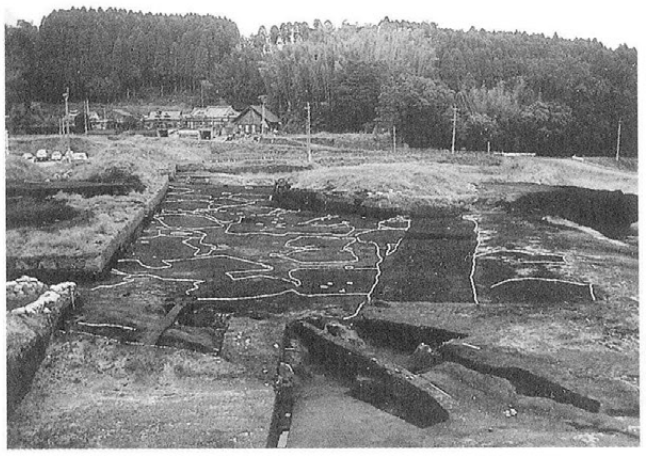


竈復原図

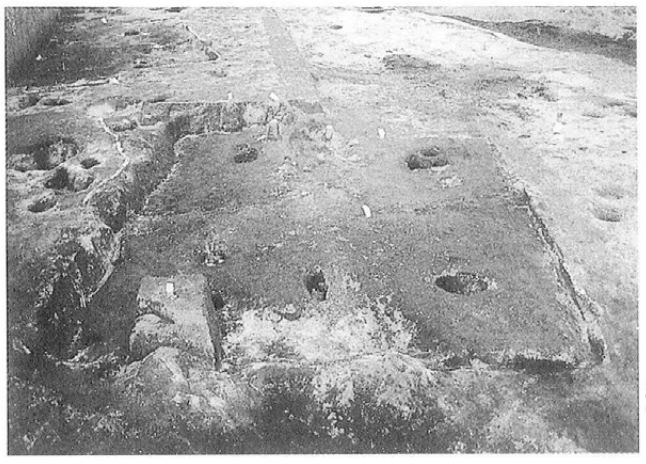
(金光正裕・合田幸美 1992 より)

図　　版

図版１

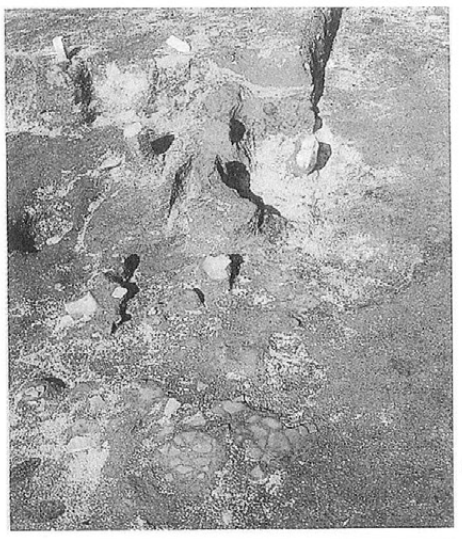


D地区東側
遺構検出状況
（南から）



ＳＡ01
完掘状況
（南から）

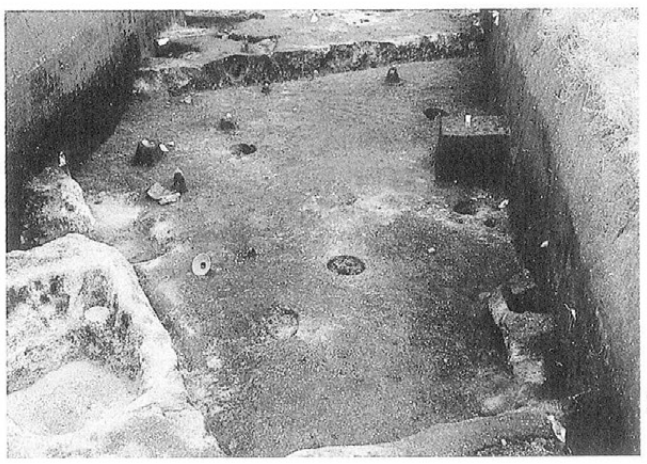
ＳＮ01断面
（東から）



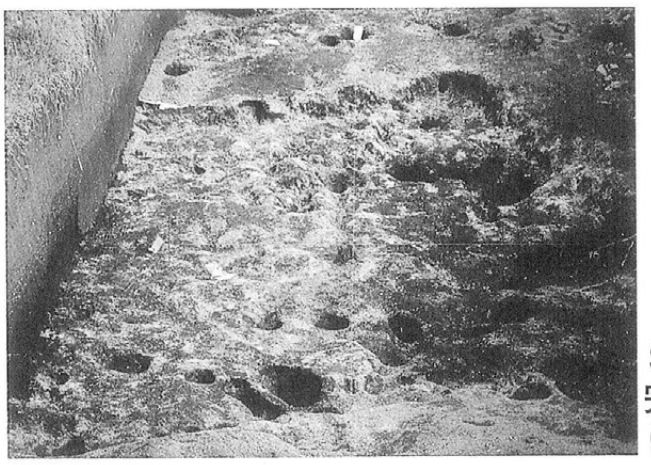
ＳＮ01
検出状況
（南から）

ＳＡ02･03･04
完掘状況
（東から）

ＳＡ06
完掘状況
（北から）

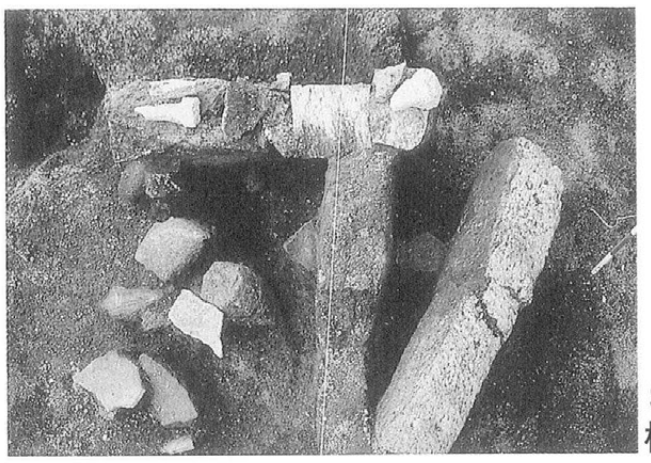


ＳＡ06
完掘状況
（南から）

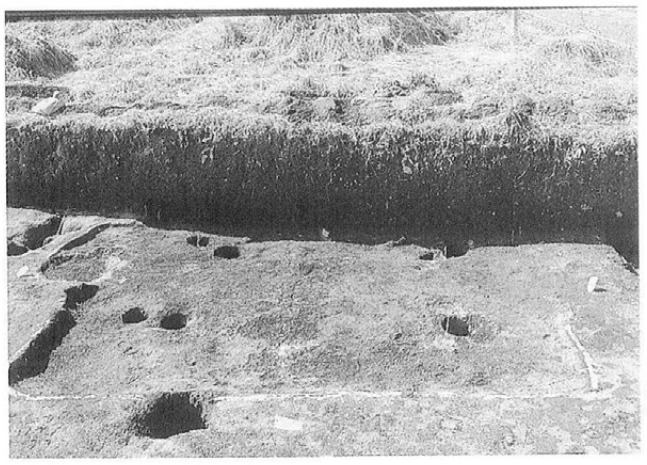


ＳＡ05
完掘状況
（北から）

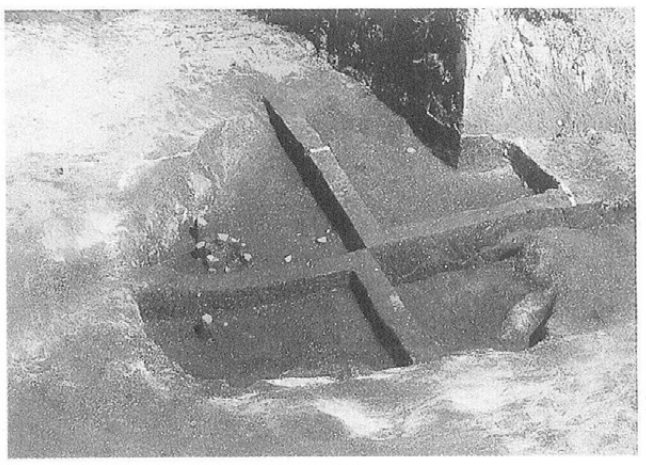
ＳＡ07
完掘状況
（南西から）



ＳＮ07
検出状況

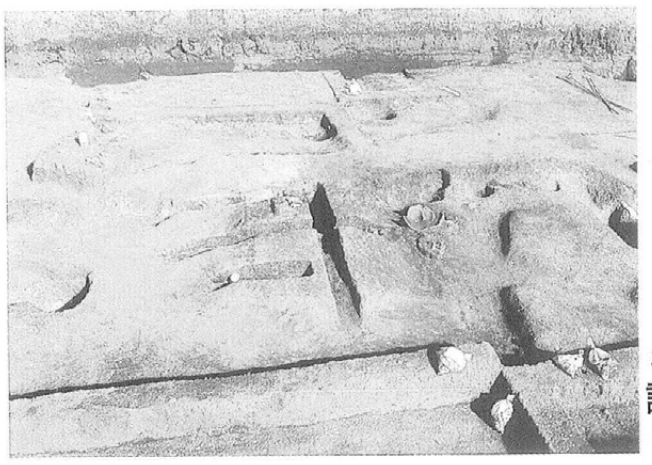


ＳＡ08
完掘状況
（東から）



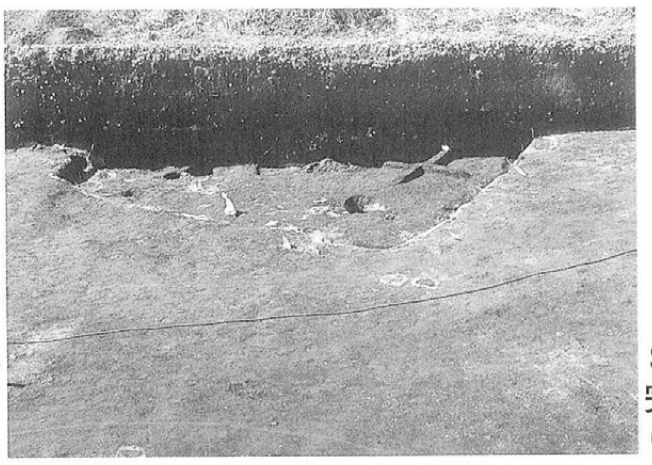
ＳＡ09
完掘状況
（西から）

SA10
完掘状況
（西から）

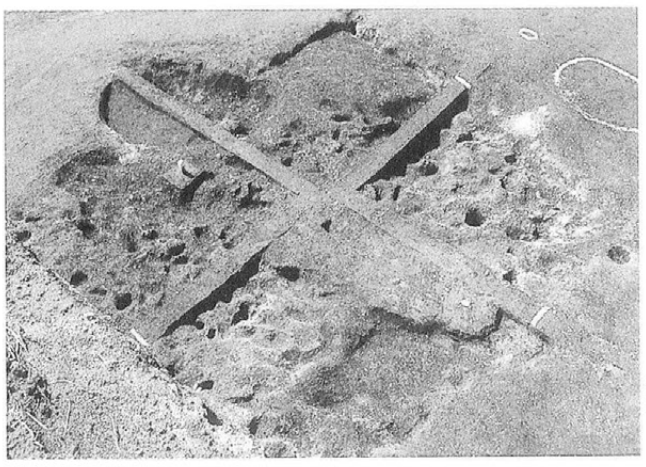


ＳＡ11
調査状況
（南から）

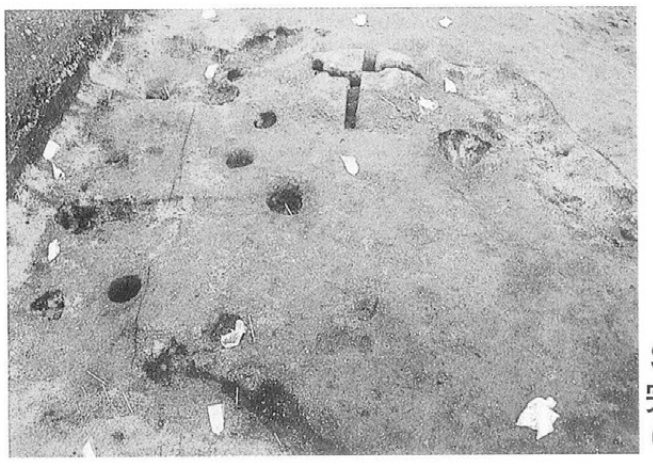
ＳＡ12･13･14
完掘状況
（東から）



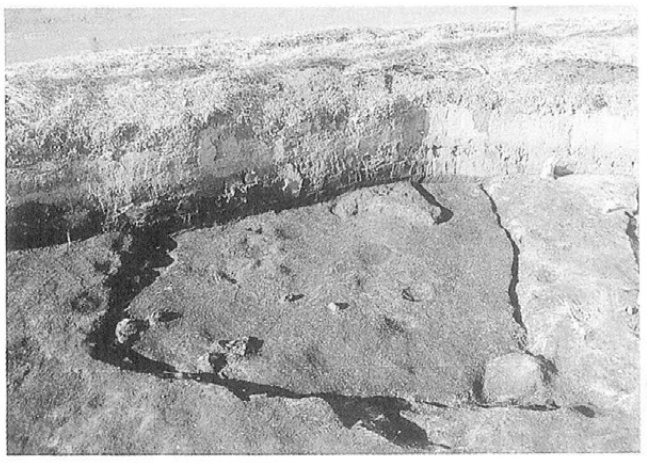
ＳＡ15
完掘状況
（東から）



ＳＡ16
調査状況
（北東から）



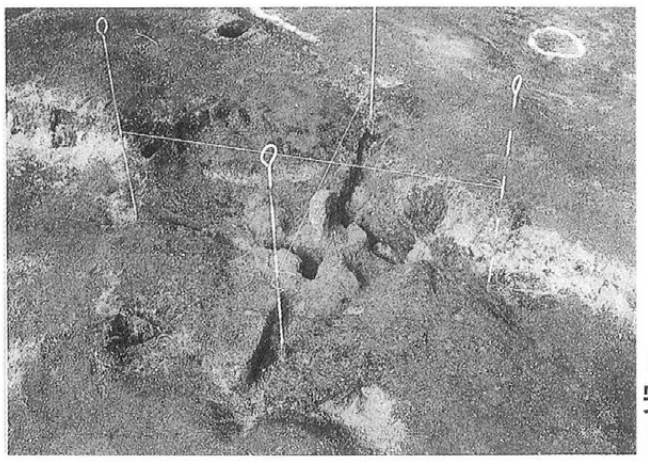
ＳＡ17･18
完掘状況
（南から）



ＳＡ19
調査状況
（南から）

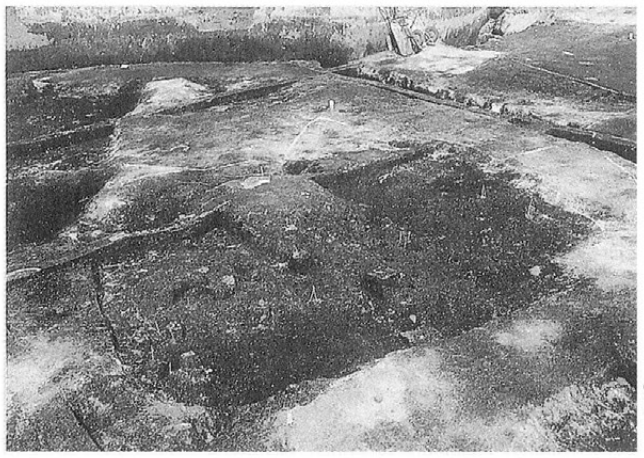
ＳＡ20
完掘状況
（南から）

図版３

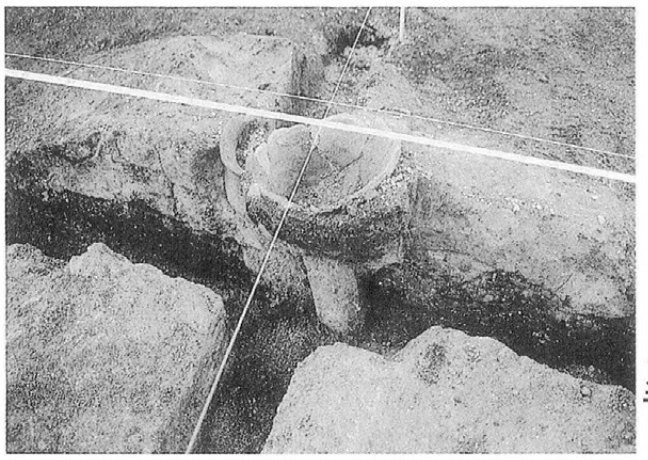


ＳＮ20
完掘状況
（南から）

ＳＡ21
完掘状況
（西から）



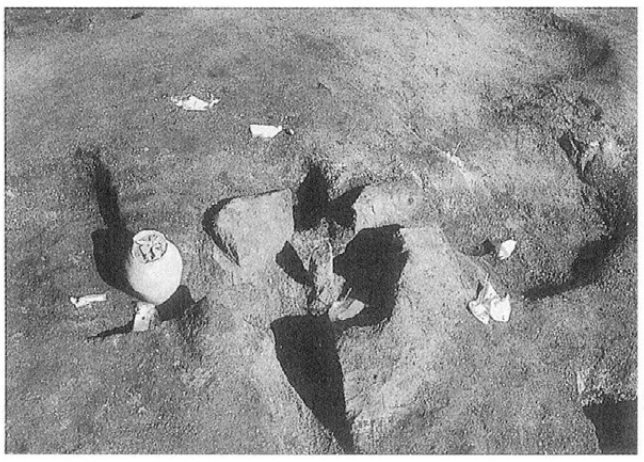
ＳＡ22･23
調査状況
（南から）



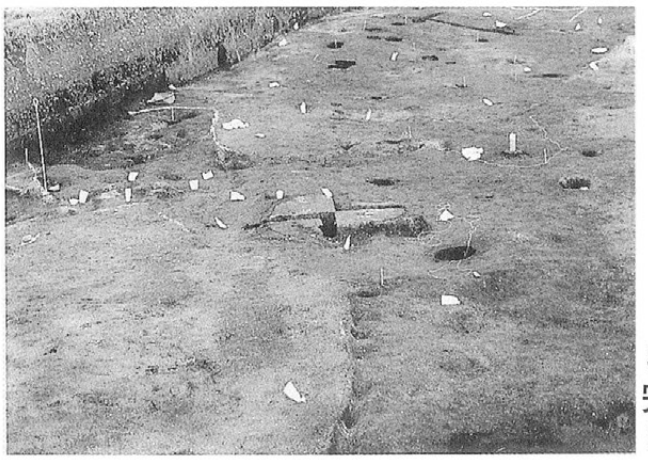
ＳＮ22
半裁状況
（南東から）

ＳＡ24･25
完掘状況
（南から）

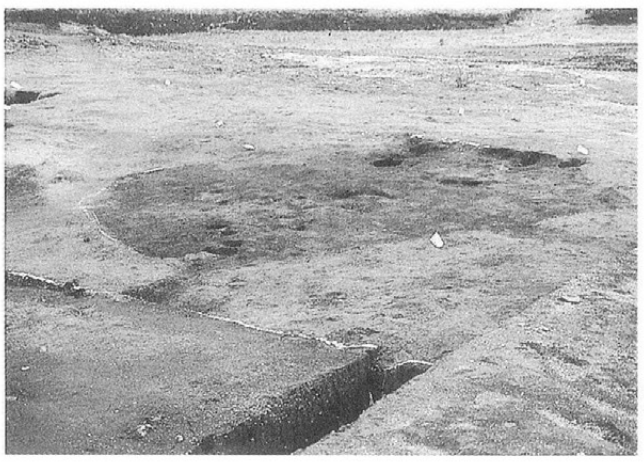
ＳＡ24
完掘状況
（南から）



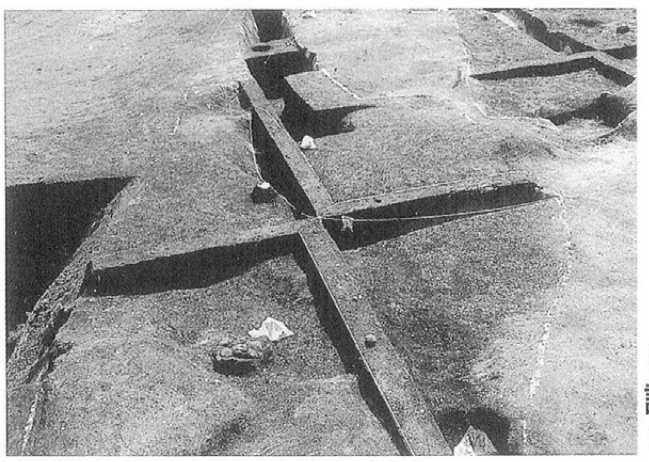
ＳＮ24
完掘状況
（南から）



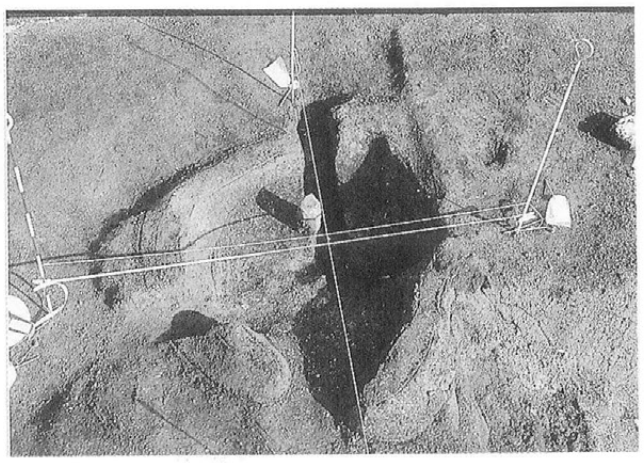
ＳＡ26･34
完掘状況
（南から）



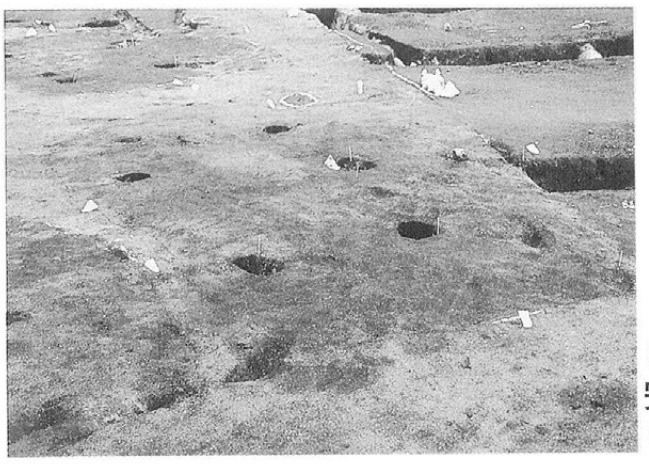
ＳＡ29
完掘状況
（南西から）



ＳＡ30
調査状況
（北から）

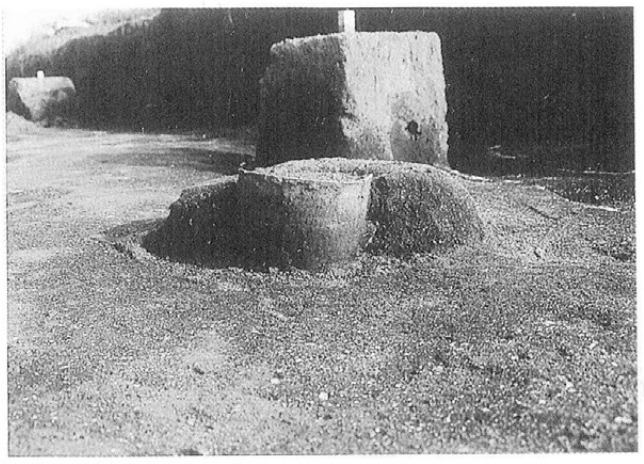


ＳＮ30
完掘状況
（南から）



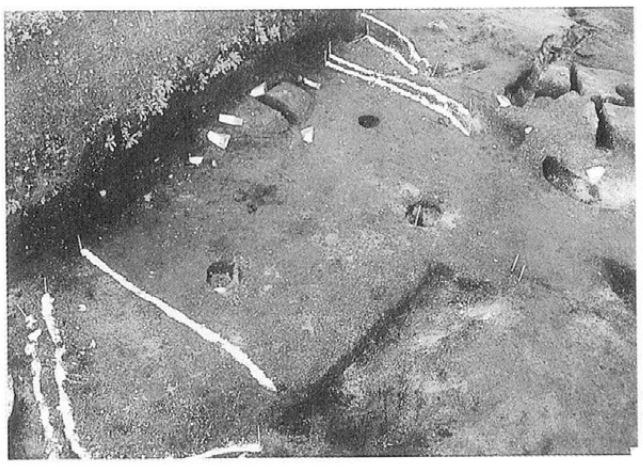
ＳＡ32
完掘状況
（南から）

SA33･34
完掘状況
（南から）



ＳＡ36
甑出土状況
（北西から）

ＳＡ37
馬鐸
出土状況

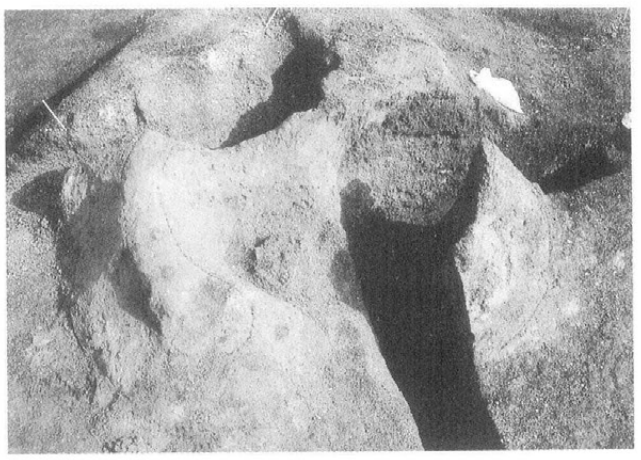


ＳＡ39～44
完掘状況
（南東から）

ＳＡ45～47
完掘状況
（南から）

ＳＡ48～51
完掘状況
（南から）

ＳＡ4
鉄製品
出土状況



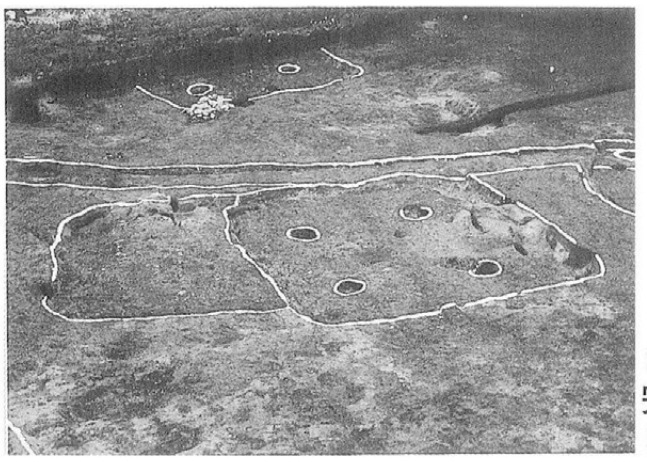
ＳＮ49
完掘状況
（南から）

図版５

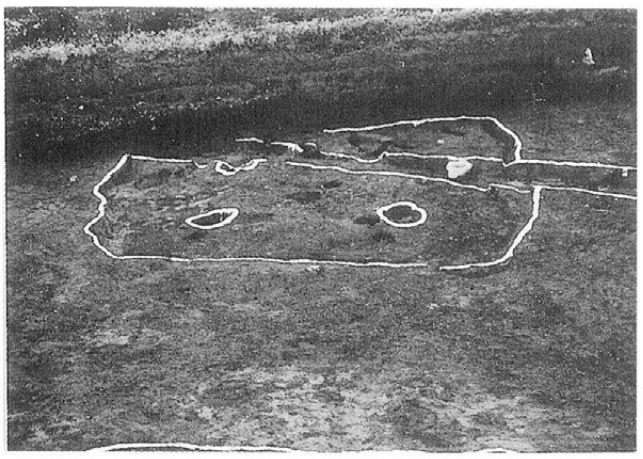
ＳＡ52･53
調査状況
（南から）

ＳＮ52
完掘状況
（南から）

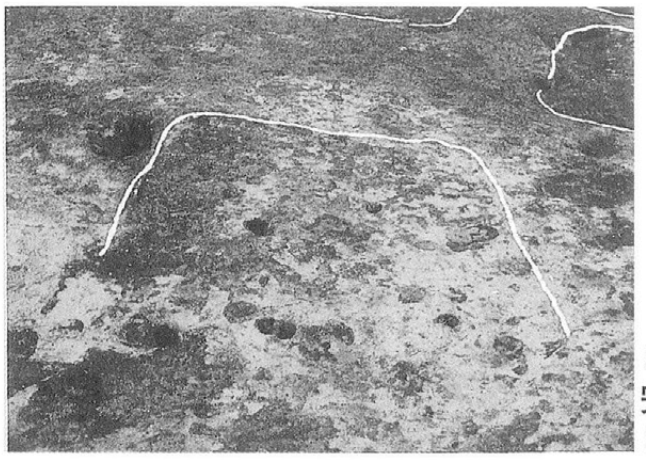
ＳＡ54
完掘状況
（南から）



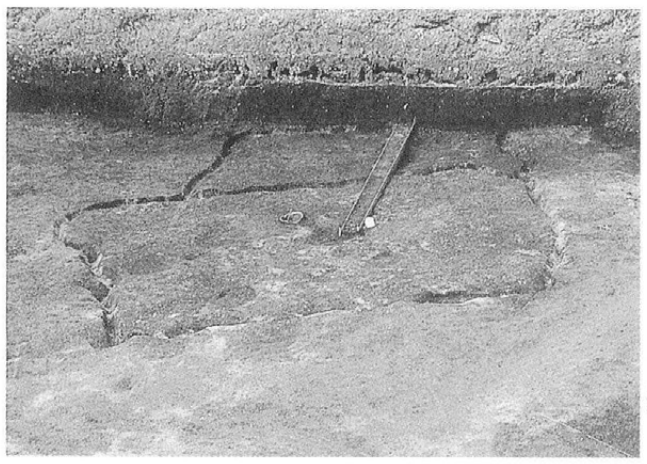
ＳＡ55･56･57
完掘状況
（東から）



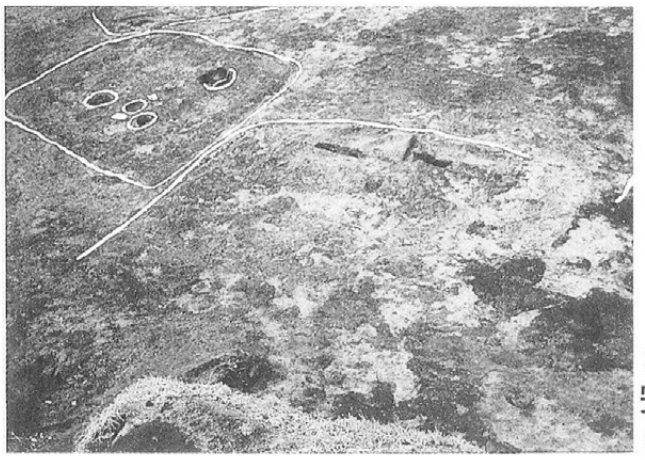
ＳＡ58
完掘状況
（東から）



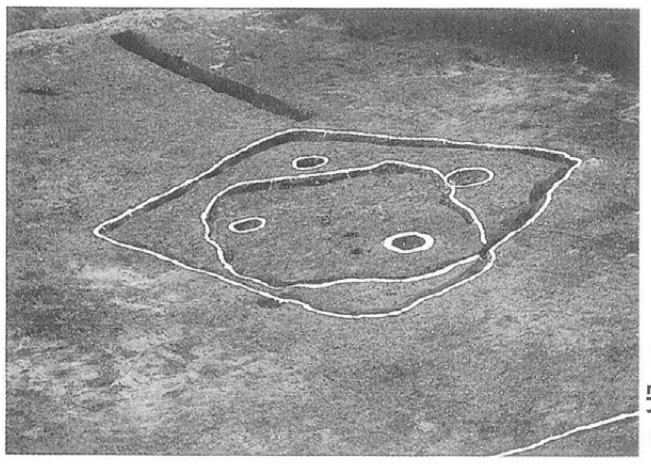
ＳＡ59
完掘状況
（東から）



ＳＡ60･61
完掘状況
（東から）

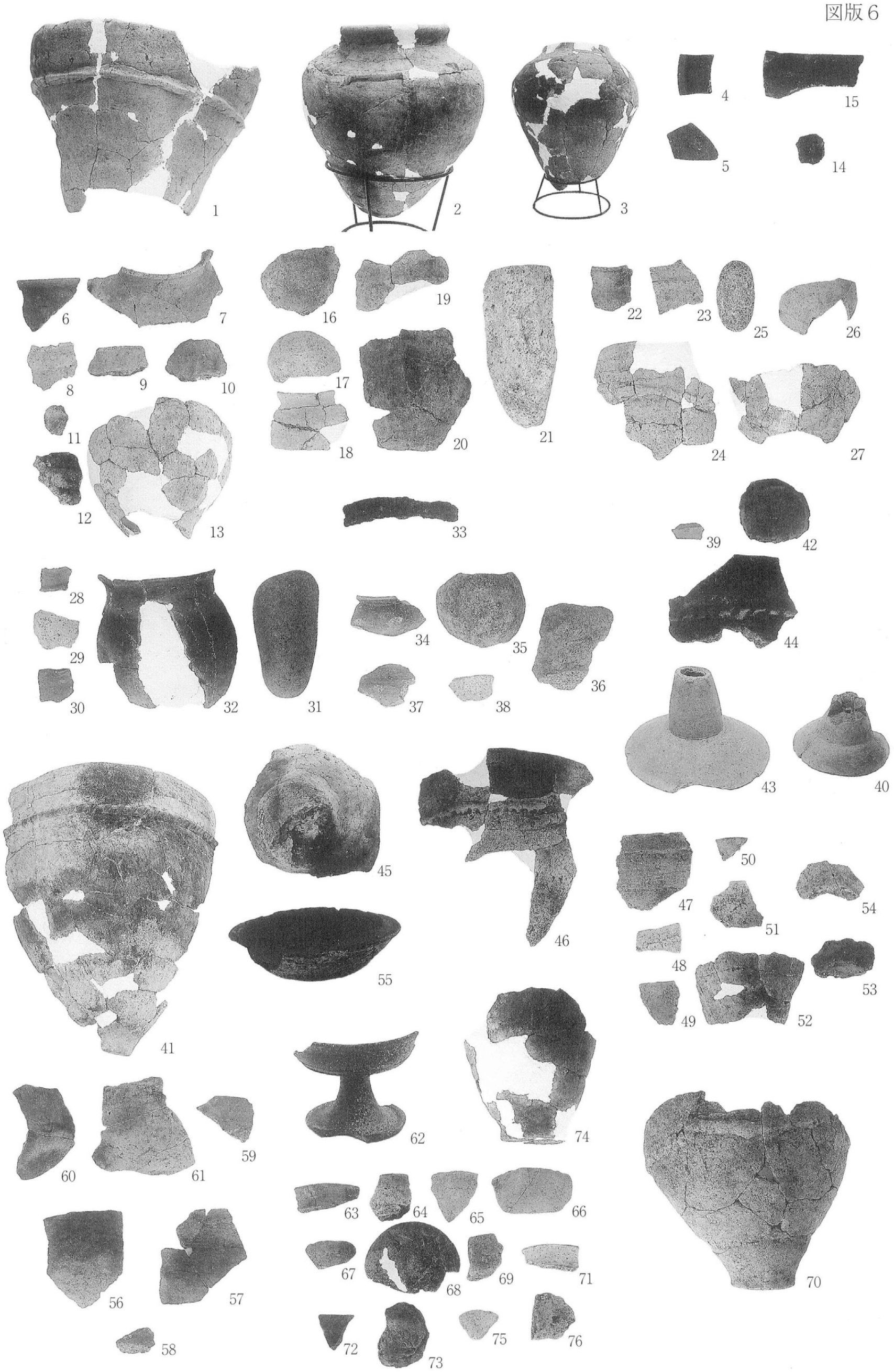


ＳＡ62･63
完掘状況
（北東から）

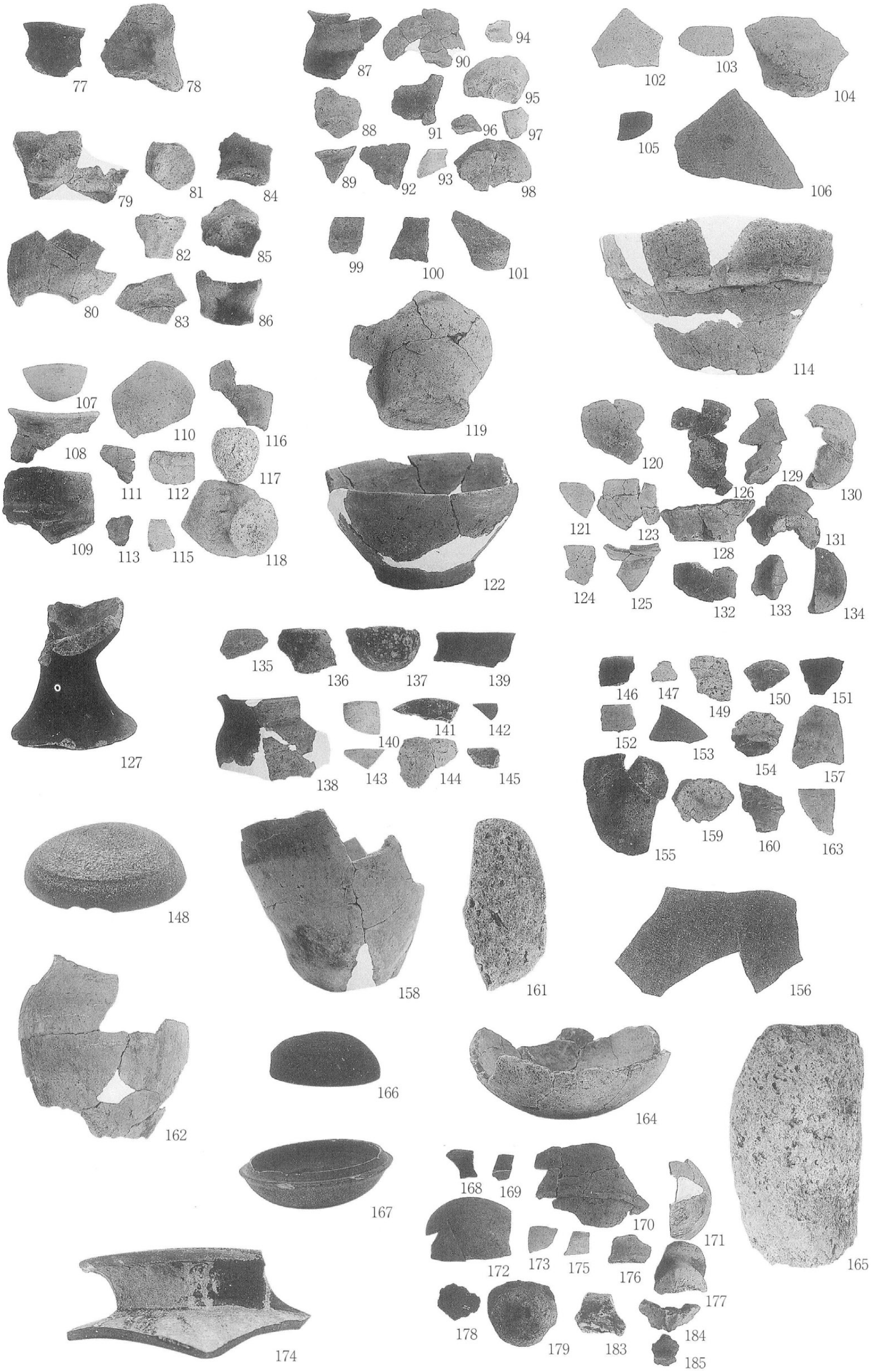


ＳＡ65･66
完掘状況
（北東から）

ＳＡ67
完掘状況
（東から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76

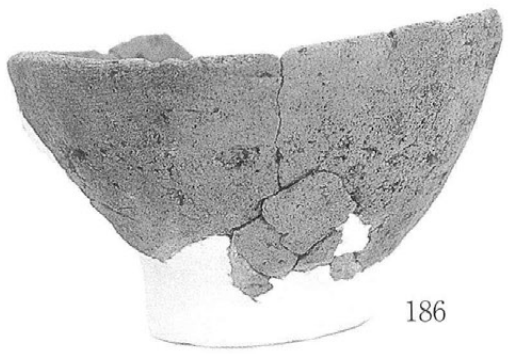
図版７

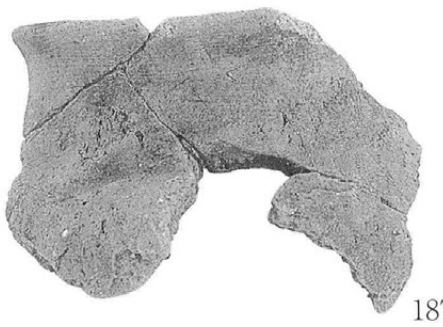

77
78
87
90
94
95
88
91
96
97
89
92
93
98
102
103
104
105
106
79
81
84
82
85
80
83
86
99
100
101
114
107
110
116
108
117
111
112
109
113
115
118
119
120
129
130
121
123
126
128
131
124
125
132
133
134
127
135
136
137
139
138
140
141
142
143
144
145
146
147
149
150
151
152
153
154
157
155
159
160
163
148
158
161
156
162
166
164
165
168
169
170
171
167
172
173
175
176
177
178
179
183
184
185
174

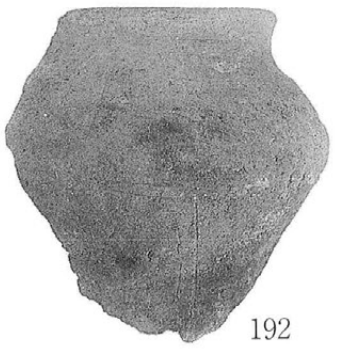
180

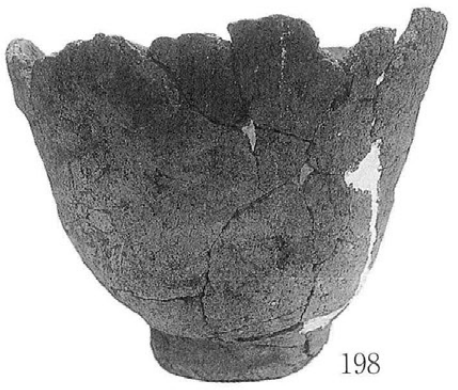
181

182


186

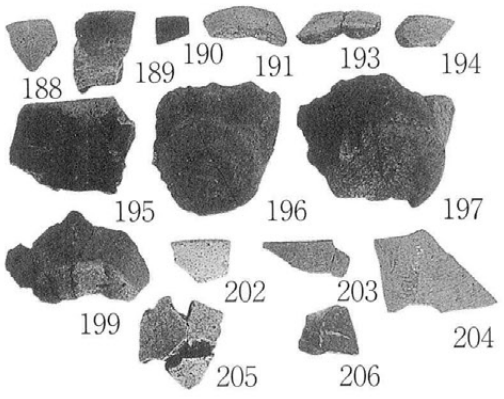

187


192


198

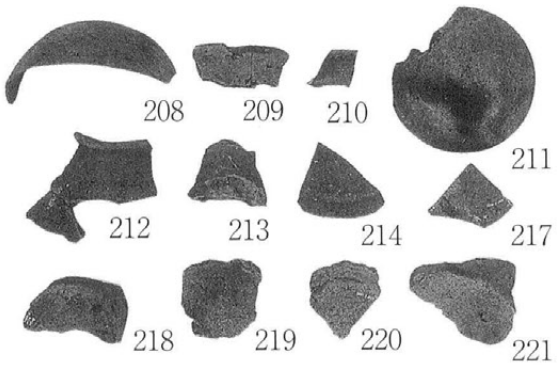
200

201



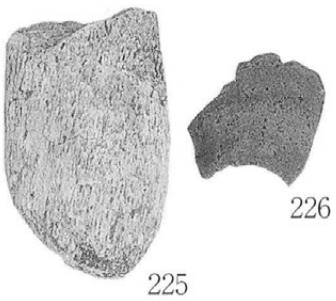
207

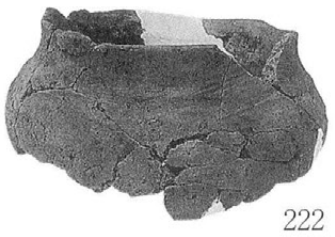
215



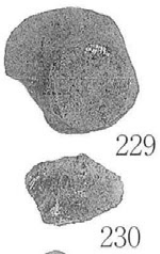
216

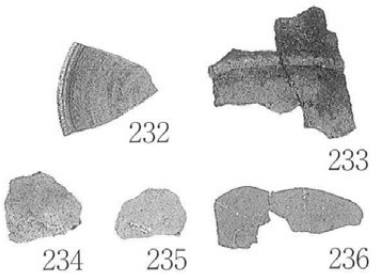
223
224


225
226


222

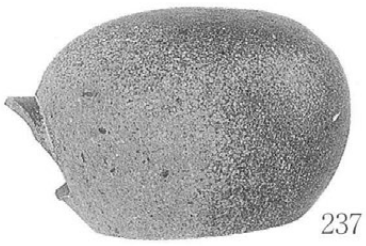
228

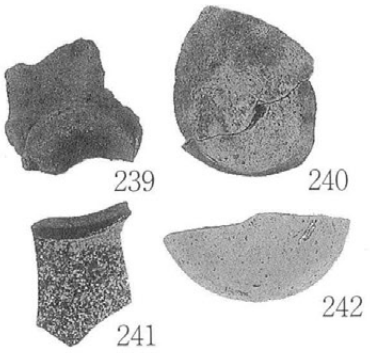

229
230
231


232
233
234
235
236

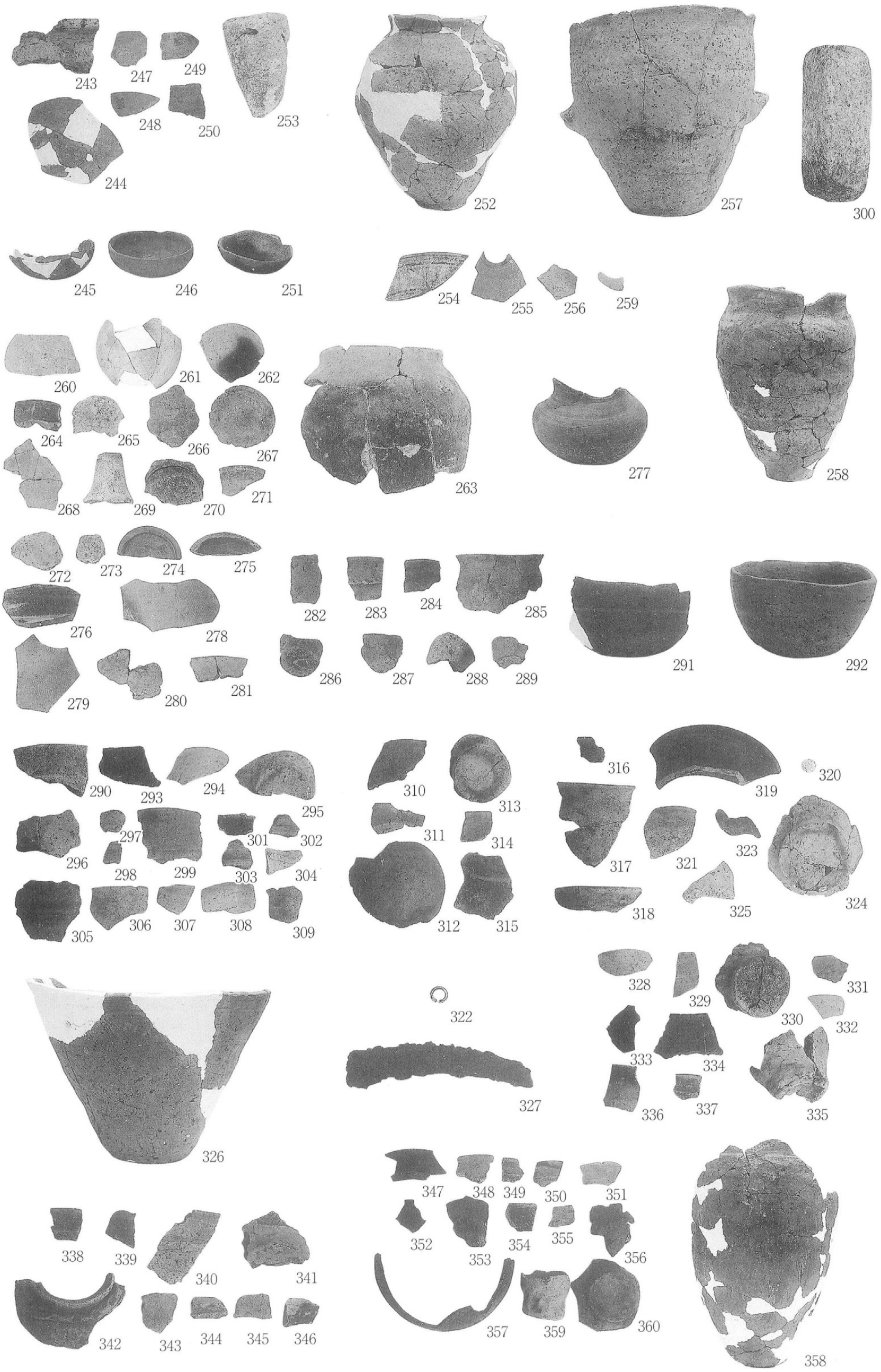
238

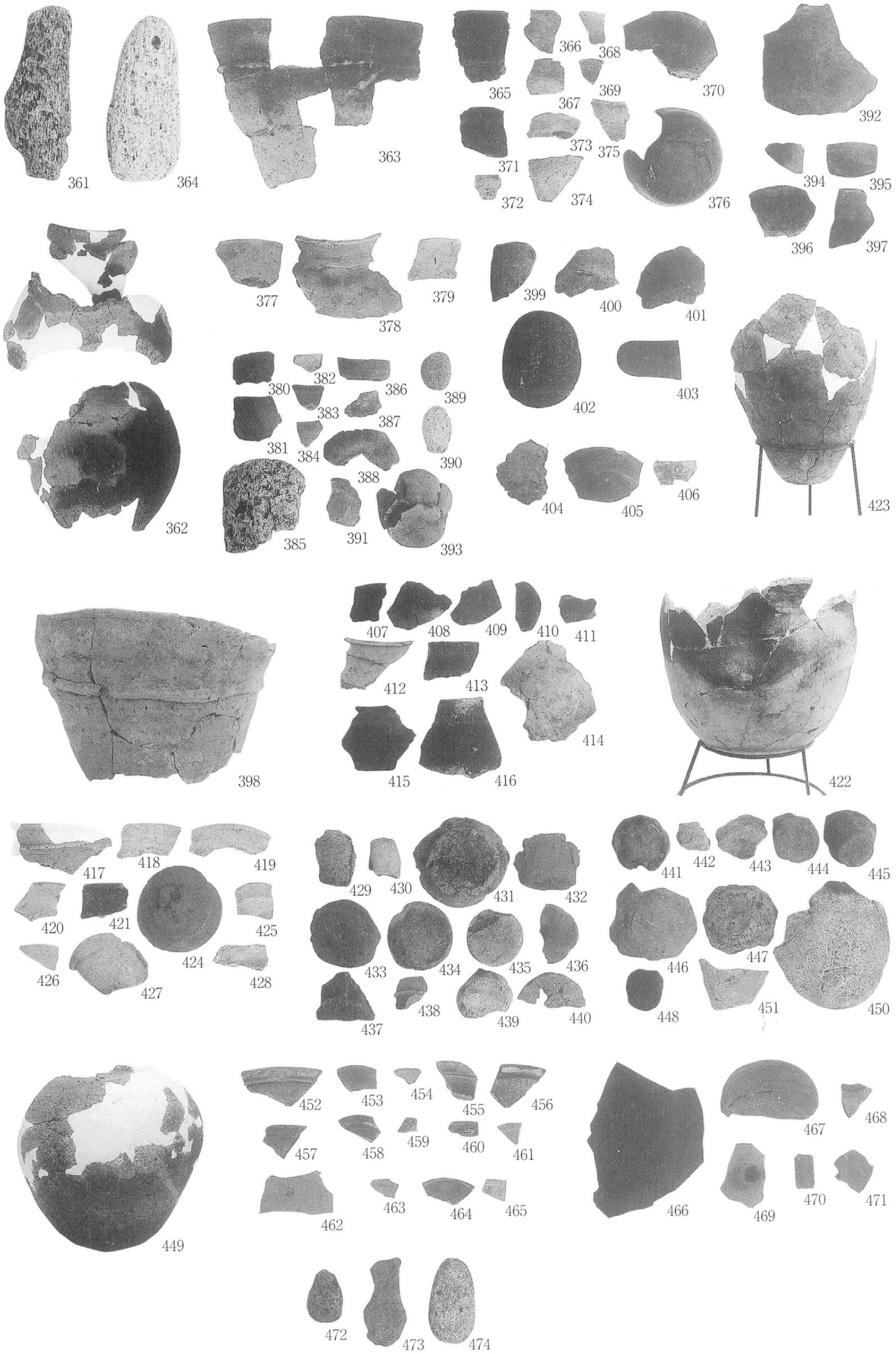
227


237


239
240
241
242

図版９


243
247
249
253
248
250
244
252
257
300
245
246
251
254
255
256
259
260
261
262
264
265
266
267
268
269
270
271
263
277
258
272
273
274
275
276
278
282
283
284
285
291
292
279
280
281
286
287
288
289
290
293
294
295
296
297
298
299
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
313
311
314
312
315
316
319
320
317
321
323
324
318
325
326
322
327
328
329
330
331
332
333
334
336
337
335
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
359
360
358


361
364
363
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
392
394
395
396
397
377
378
379
399
400
401
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
393
402
403
404
405
406
362
423
398
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
422
417
418
419
420
421
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
450
451
449
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474

報告書抄録

フリガナ	ツルハミイセキ（コフンジダイヘン）
書名	鶴喰遺跡（古墳時代編）
副書名	県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第61集
編著者名	米澤英昭　下田代清海
発行機関	都城市教育委員会
所在地	宮崎県都城市姫城町６街区21号
発行年月日	平成16年（２００４）３月31日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鶴喰遺跡（ツルハミイセキ）	宮崎県（みやざきけん）都城市（みやこのじょうし）横市町（よこいちちょう）字表（あざおもて）	31° 44′ 40″ 付近	131° 1′ 20″ 付近	1996年 10月１日 ～ 1997年 11月30日	8,100㎡	県営ほ場整備事業

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古墳集落跡	古墳	竪穴住居跡　68	土師器 軽石製品 鉄製品 銅製品	竪穴住居跡は半数近くがカマド付き。

都城市文化財調査報告書第61集

鶴喰遺跡（古墳時代編）

平成16年(2004) 3月31日

編　集　宮崎県都城市教育委員会
発　行　〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL(0986)23-9547　FAX(0986)24-1989

印　刷　有限会社　都城新生社印刷
〒885-0004 宮崎県都城市都北町7284-1
TEL(0986)38-3500